

釧路市子育て支援に関するニーズ調査 結果報告書

令和6年6月

目次

1	調査の概要	1
1.1	調査の実施概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象者等	1
(3)	回収結果	2
1.2	調査分析の考え方	4
(1)	調査票設計	4
(2)	集計分析	4
(3)	数値等の基本的な取り扱いについて	4
2	調査結果	5
2.1	子どもと家族の状況について	5
(1)	居住地区	5
(2)	あて名の子どもの年齢と子どもの人数	6
(3)	調査票の回答者	7
(4)	回答者の配偶関係	7
(5)	同居の家族	8
(6)	子育てに日常的に関わっている人・施設	9
(7)	世帯年収	10
2.2	子育て環境について	11
(1)	日頃、子どもをみてもらえる親戚・知人の有無	11
(2)	子育てをする上での相談先	12
2.3	保護者の就労状況について	13
(1)	母親の就労状況	13
(2)	父親の就労状況	20
2.4	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	23
(1)	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	23
(2)	利用している（利用したことがある）中での問題・課題	24
(3)	利用していない・利用したことがない理由	25
(4)	「こども誰でも通園制度」の利用希望について	26
(5)	平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用希望	28
(6)	今後の幼稚園の利用希望	36
2.5	休日等の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について	37
(1)	土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	37
(2)	幼稚園利用者の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望	40
2.6	病気などの際の対応について	42
(1)	病気などで教育・保育事業が利用できなかった場合等の対応状況	42
(2)	病児・病後児のための保育施設等の利用希望	44
(3)	病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由	45

(4) お子さんの病気等の際に会社を休むハードル.....	46
2.7 不定期の教育・保育事業の利用について.....	47
(1) 不定期の教育・保育事業の利用有無.....	47
(2) 私用、親の通院・不定期就労等での不定期の教育・保育事業の利用希望.....	48
(3) 子どもを預ける場合の望ましい事業形態.....	50
(4) 泊りがけで家族以外に預けることの希望の有無.....	50
2.8 釧路市の子育て支援事業の利用状況について.....	52
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況.....	52
(2) 「子育て支援センター」の今後の利用希望.....	53
(3) 釧路市の子育て支援に関する事業の満足度と認知度.....	54
(4) 子育てのしやすさについて.....	58
2.9 放課後の過ごし方について.....	59
(1) 放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいか.....	59
(2) 放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望.....	63
(3) 放課後児童クラブの有料化に対する考え方.....	68
2.10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について.....	72
(1) 子どもが生まれたときの育児休業の取得状況.....	72
(2) 育児休業を取得していない理由.....	73
(3) 職場復帰した（職場復帰する）タイミング.....	74
(4) 育児休業の実際の取得期間（予定を含む）、取得したかった（したい）期間.....	75
(5) 職場復帰する際の実際の復帰時期と希望する時期が異なった理由.....	76
(6) 職場復帰時の短時間勤務制度の利用有無.....	77
(7) 短時間勤務制度を利用しなかった（利用しない）理由.....	77
(8) 1歳で必ず利用できる保育事業があった場合の育児休業の取得意向.....	78
2.11 子育てのことやご家庭の経済的状況について.....	79
(1) 理想とする子どもの人数.....	79
(2) 理想とする子どもの人数の実現の見込み.....	79
(3) 理想とする子どもの人数の実現が難しい理由.....	80
(4) 子育てをする中で不安に思っていること、困っていること.....	81
(5) 普段の家計の状況.....	82
(6) 経済的な理由で食料を買えなかった経験の有無.....	83
(7) 経済的な理由で暖房が使えなかった経験の有無.....	83
(8) 子どもを病院等で受診させられなかった経験の有無.....	84
(9) 子どもを受診させられなかった理由.....	85
(10) 子育てに関する不安や悩みを解消するために重要だと思うこと.....	86
(11) 釧路市の地域の環境や子育て支援策として特に期待すること.....	87
2.12 ご意見・ご要望などについて.....	88
3 属性による集計.....	89
3.1 母親の就労状況別集計.....	89
(1) 母親の就労状況の変化.....	89

(2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	91
(3) 平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用希望	94
(4) 平日の定期的な教育・保育事業以外の事業の今後の利用希望	95
3.2 世帯構成別集計	98
(1) 世帯年収	98
(2) 子育てをする中で、不安に思っていること、困っていること	99
(3) 子育てに関する不安や悩みを解消するために重要だと思うこと	100
(4) 日頃、子どもをみてもらえる親戚・知人の有無	101
3.3 世帯年収別集計	102
(1) 理想とする子どもの人数とその実現の見込み	102
(2) 普段の家計の状況	104
(3) 経済的な理由で食料を買えなかった経験等の有無	105
(4) 子どもを病院等で受診させられなかった経験の有無及びその理由	106
3.4 子どもの人数別集計	108
(1) 地域子育て支援拠点事業等の利用状況	108
(2) 「子育て支援センター」の今後の利用希望	108
4 まとめ	109
4.1 子どもと家族の状況や子育て環境	109
4.2 保護者の就労状況、子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	110
4.3 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度	113
4.4 子育てと経済的環境	114

1 調査の概要

1.1 調査の実施概要

(1) 調査目的

本市では、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）に基づく新たな子ども・子育て支援の制度（以下「子ども・子育て支援新制度」といいます。）の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5 年間を一期とする子ども・子育て支援事業計画を作成し、計画的に給付・事業を実施しています。

本調査は、令和 7 年度から開始する新たな「釧路市子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり、市民の教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」及び釧路市における子育て環境や子育てに関する意識と課題などを把握し、教育・保育・子育て支援の「量の見込み」や地域実情を勘案した提供体制など、計画において盛り込むべき事項を審議するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 調査対象者等

調査票の種類	未就学児童	就学児童
調査地域	釧路市全域	
調査対象者	市内に在住の就学前の子ども（0 歳から 5 歳）のいる世帯の保護者	市内に在住の就学児童（6 歳から 11 歳）のいる世帯の保護者
調査件数	2,400 世帯	2,600 世帯
抽出方法	令和 5 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳による層化多段無作為抽出（地区人口比別・年齢別・男女別）	
調査方法	郵送配布・郵送回収、web 回答 ※あて名は児童の名前とし、回答者はその保護者としました。	
調査期間	令和 6 年 3 月 11 日～令和 6 年 3 月 29 日	
調査項目	別添調査票のとおり	

(3) 回収結果

	未就学児童	就学児童	合計
児童数※1	5,629	6,532	12,161
抽出数	2,400	2,600	5,000
送達数	2,369	2,596	4,965
返戻数	31	4	35
有効回収数※2	1,073	1,156	2,229
有効回収率（対抽出数）（%）	44.7	44.5	44.6

※1 児童数については、令和5年12月31日現在の児童数

※2 有効回収数とは、回収数の内、無記入や拒否等の無効票数を除いた数

【地区別回収率】

	未就学児童			就学児童		
	抽出数	有効回収数	有効回収率	抽出数	有効回収数	有効回収率
東部地区	694	293	42.2%	807	328	40.6%
中部地区	855	336	39.3%	882	374	42.4%
西部地区	802	350	43.6%	850	347	40.8%
阿寒本町地区	18	1	5.6%	29	3	10.3%
阿寒湖温泉地区	16	6	37.5%	19	7	36.8%
音別地区	15	7	46.7%	13	8	61.5%
合計	2,400	993	41.4%	2,600	1,067	41.0%

地区についての設問未回答者又は判別不能者（未就学児童 80 名、就学児童 89 名）

（備考）

【東部地区】 橋南地区（米町、南大通、弥生、千歳町、鶴ヶ岱、城山、緑ヶ岡、貝塚など）

春採地区（興津、春採、武佐、桜ヶ岡、白樺台、桂恋など）

【中部地区】 橋北地区（北大通、栄町、旭町、幸町、寿、南浜町など）

鉄北地区（若松町、堀川町、双葉町、共栄大通など）

愛国地区（東川町、中園町、入江町、愛国、芦野、文苑、美原など）

【西部地区】 鳥取地区（鳥取、新富士町、昭和、北園など）

大楽毛地区（大楽毛、星が浦、鶴野、山花、桜田、新野、鶴丘など）

【年齢別回収率】

	抽出数	有効回収数	有効回収率
0 歳	323	169	52.3%
1 歳	337	145	43.0%
2 歳	382	179	46.9%
3 歳	418	195	46.7%
4 歳	455	195	42.9%
5 歳	485	166	34.2%
6 歳	354	158	44.6%
7 歳	425	182	42.8%
8 歳	476	224	47.1%
9 歳	489	228	46.6%
10 歳	415	178	42.9%
11 歳	441	168	38.1%
合計	5,000	2,187	43.7%

あて名の子どもの生年月に関する設問未回答者（未就学児童 24 名、就学児童 18 名）

1.2 調査分析の考え方

(1) 調査票設計

本調査票は、国が示した調査項目に市独自の設問を加え、未就学児童・就学児童の保護者が回答できるよう設計しました。

(2) 集計分析

● 調査結果

未就学児童・就学児童別の状況がわかるように年齢別のクロス集計を行いました。

● 属性による集計

教育・保育事業の利用ニーズや子育てに関する事項等は、回答者の属性によって異なることから、以下のようなクロス集計を行いました。

①母親の就労状況別集計

教育・保育事業の利用状況やニーズは保護者の就労状況に大きく影響を受けることから、母親の就労状況別に分類しました（父親はほぼ 100%が就労しており、分類しない）。

なお、国が示している教育・保育事業については、「幼稚園」「認可保育所」「認定こども園」「地域型保育事業」「その他」「利用していない」に重複を除外して集計し、分類しました。

②世帯構成別集計

本調査結果では、両親とも同居している世帯からの回答がほとんどを占めていますが、ひとり親世帯は、特に子育てにかかる教育・保育に対するニーズが高い可能性があることから、世帯構成別に分類しました。

③世帯年収別集計

本調査では、地域子育て支援拠点事業等の利用者の多くが 0～2 歳児の家庭となっており、市の子育て支援拠点事業の利用状況は、利用ニーズに影響する可能性もあることから 0～2 歳児の子どもの人数別に分類しました。

(3) 数値等の基本的な取り扱いについて

- 本報告書内の図表においては、有効回答数を「n=〇〇〇」と表記しています。
- 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が 100%を上下する場合があります。
- 各比率は n を 100%として算出しています。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0%を超えることがあります。
- 図表中では、スペースの都合で選択肢名などを一部省略している場合があります。
- 年齢算定基準日は、令和 5 年 3 月 31 日としています。

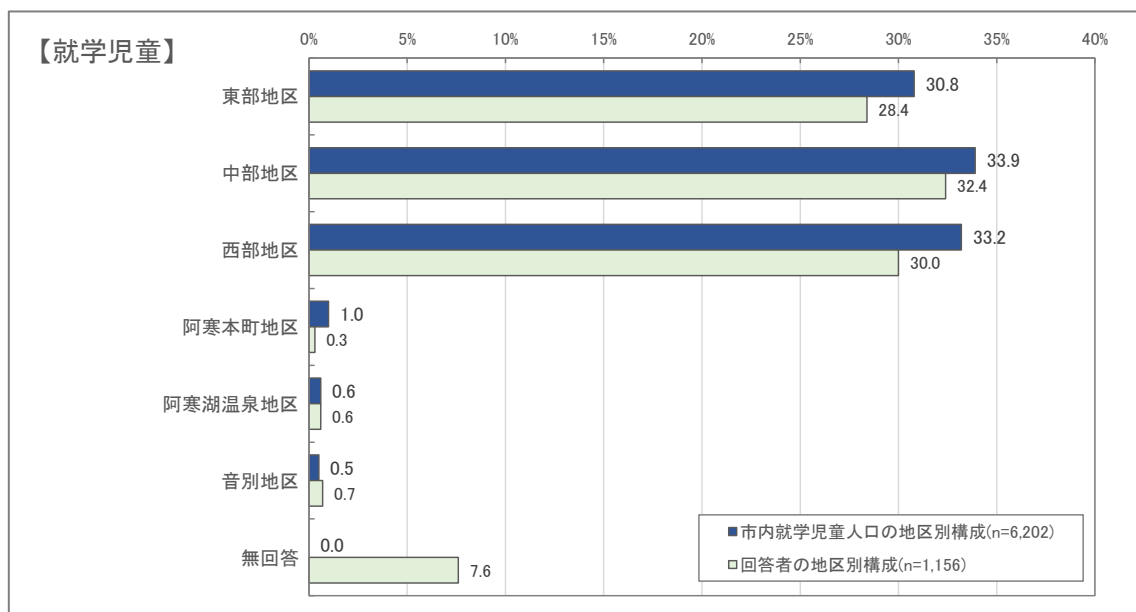
2 調査結果

2.1 子どもと家族の状況について

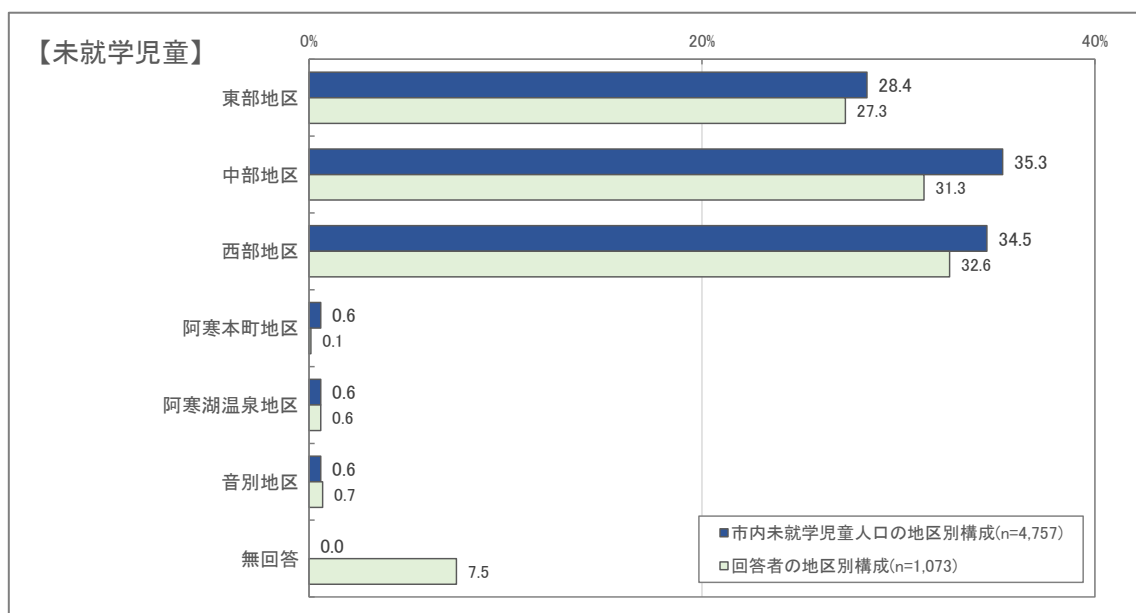
(1) 居住地区

●未就学児童：問1〔就学児童：問1〕
お住まいの地区をご記入ください。

○回答者の地区別構成比は、市内児童人口の地区別構成比とほぼ一致しています。



(注) 市内就学児童については、令和5年12月末現在の児童数



(注) 市内未就学児童については、令和5年12月末現在の児童数

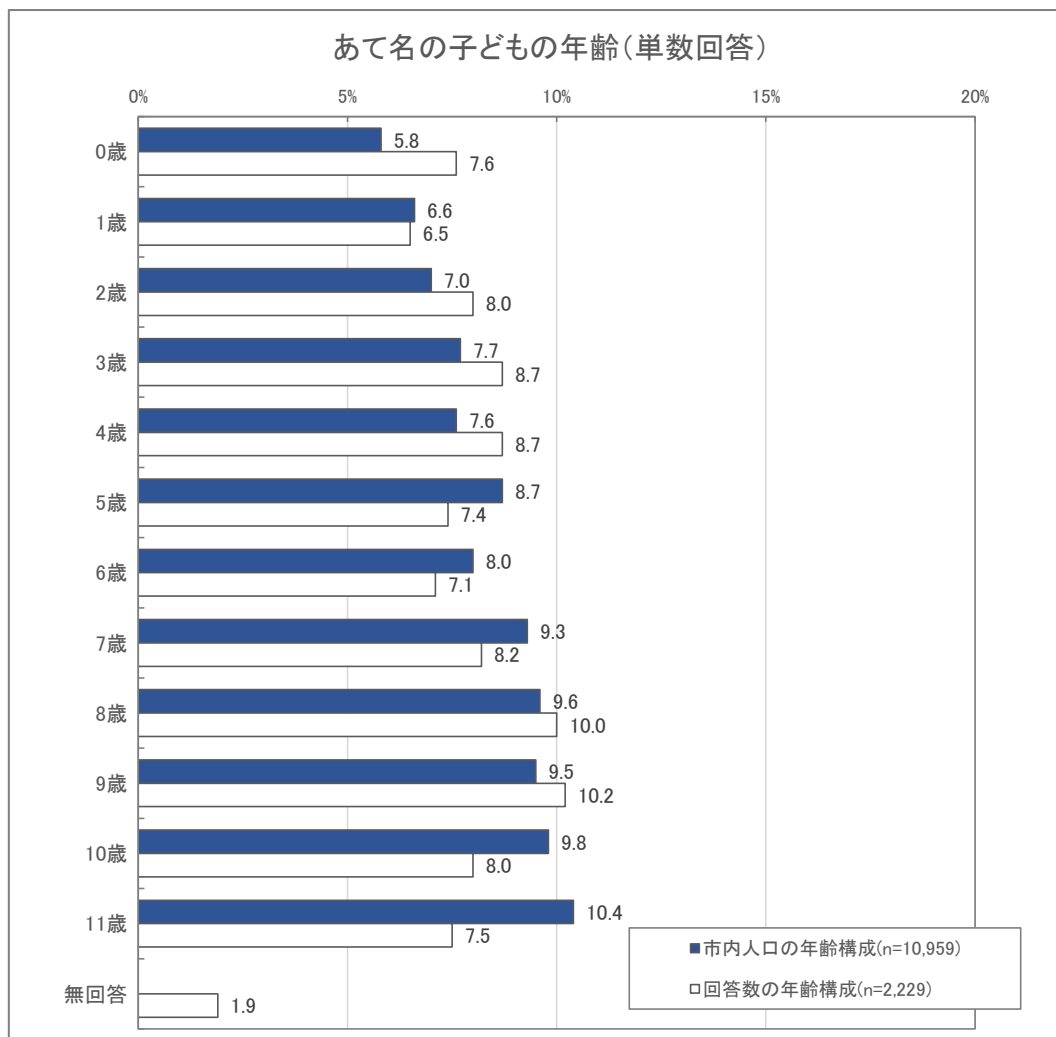
(2) あて名の子どもの年齢と子どもの人数

●未就学児童：問2〔就学児童：問2〕

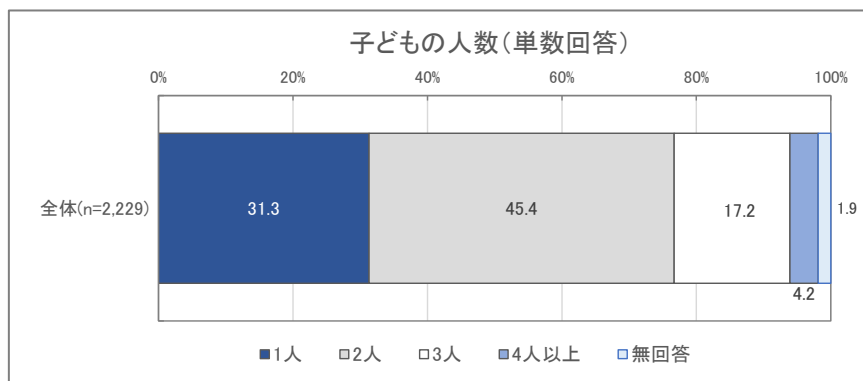
あて名のお子さんの生年月は次のうちどれに該当しますか。[小学校の何年生ですか]（1つに○）
また、あて名のお子さんを含めたお子さんの人数を（ ）内にご記入ください。

○調査票の回収状況は、ほぼ市内児童人口の年齢構成割合どおりの回答となっています。

○子どもの人数は「2人」が4割台半ばで最も多く、次いで「1人」が3割強となっています。



(注) 市内児童人口については、令和5年12月末現在の児童数



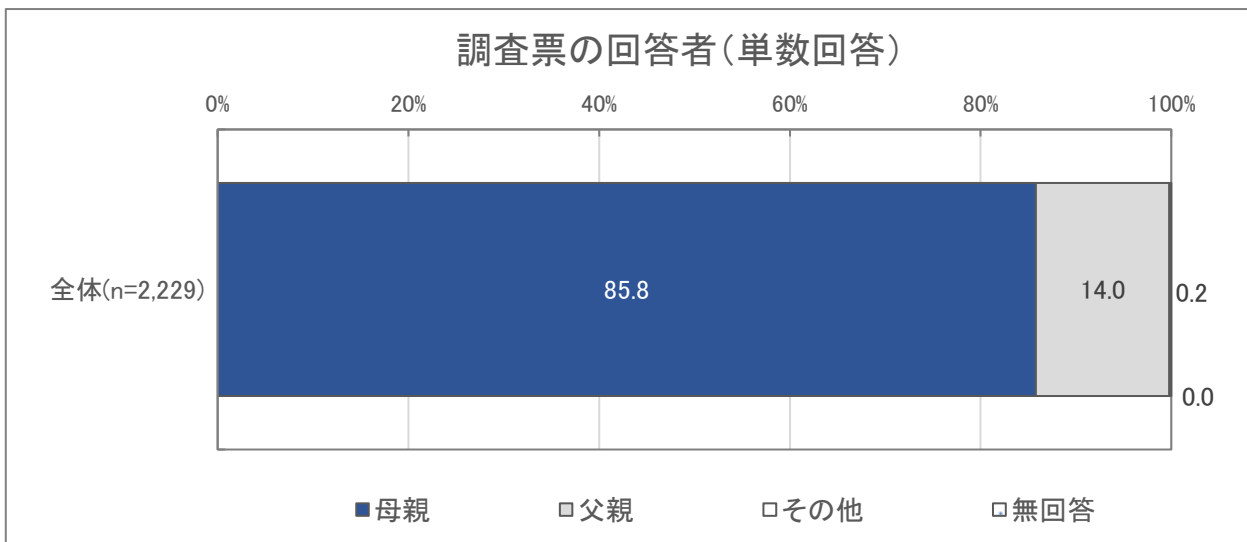
(3) 調査票の回答者

●未就学児童：問3 [就学児童：問3]

この調査票にご回答いただく方をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

続柄はあて名のお子さんからみた関係です。

○調査票の回答者は、「母親」が8割台半ばで多くなっています。



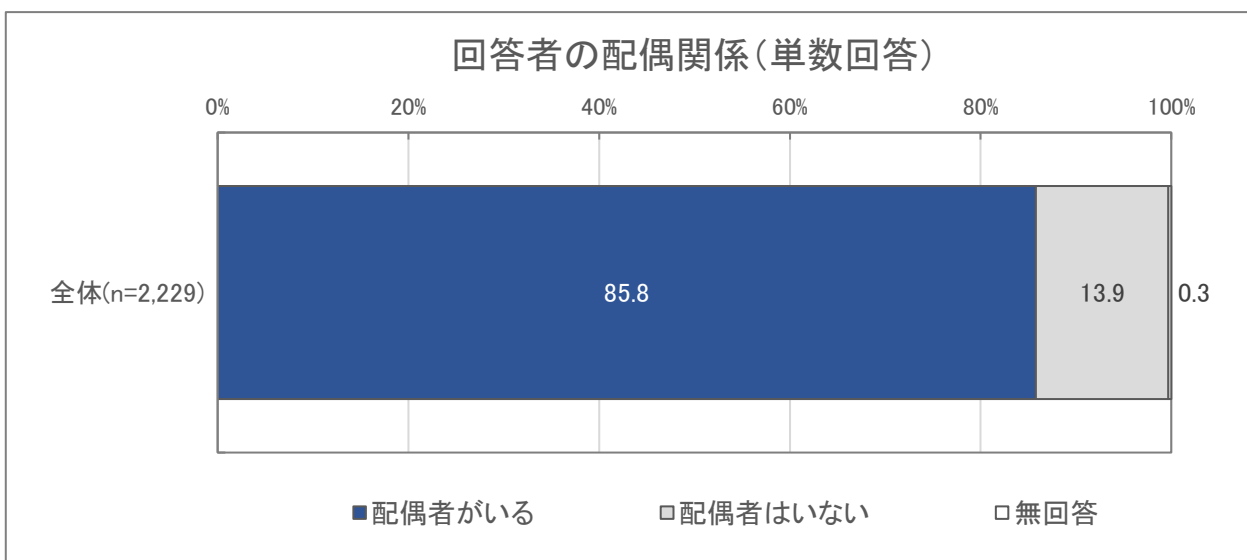
(4) 回答者の配偶関係

●未就学児童：問4 [就学児童：問4]

この調査票に回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

(あてはまる番号1つに○)

○回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が8割台半ばで多くなっています。



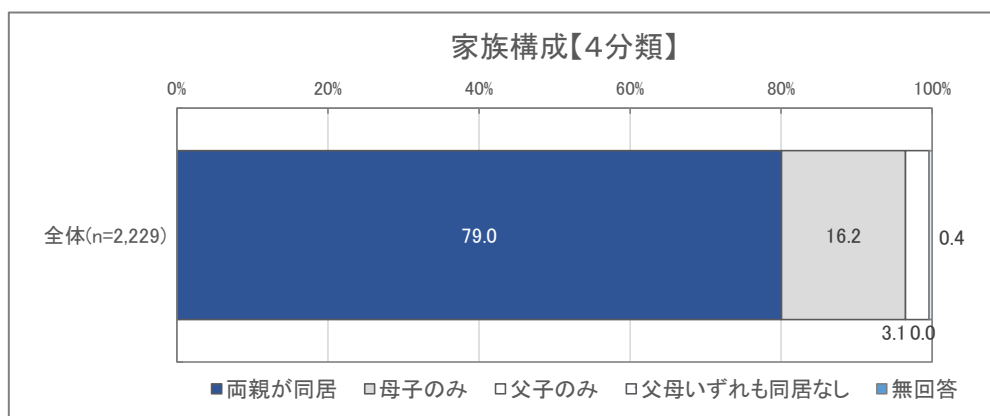
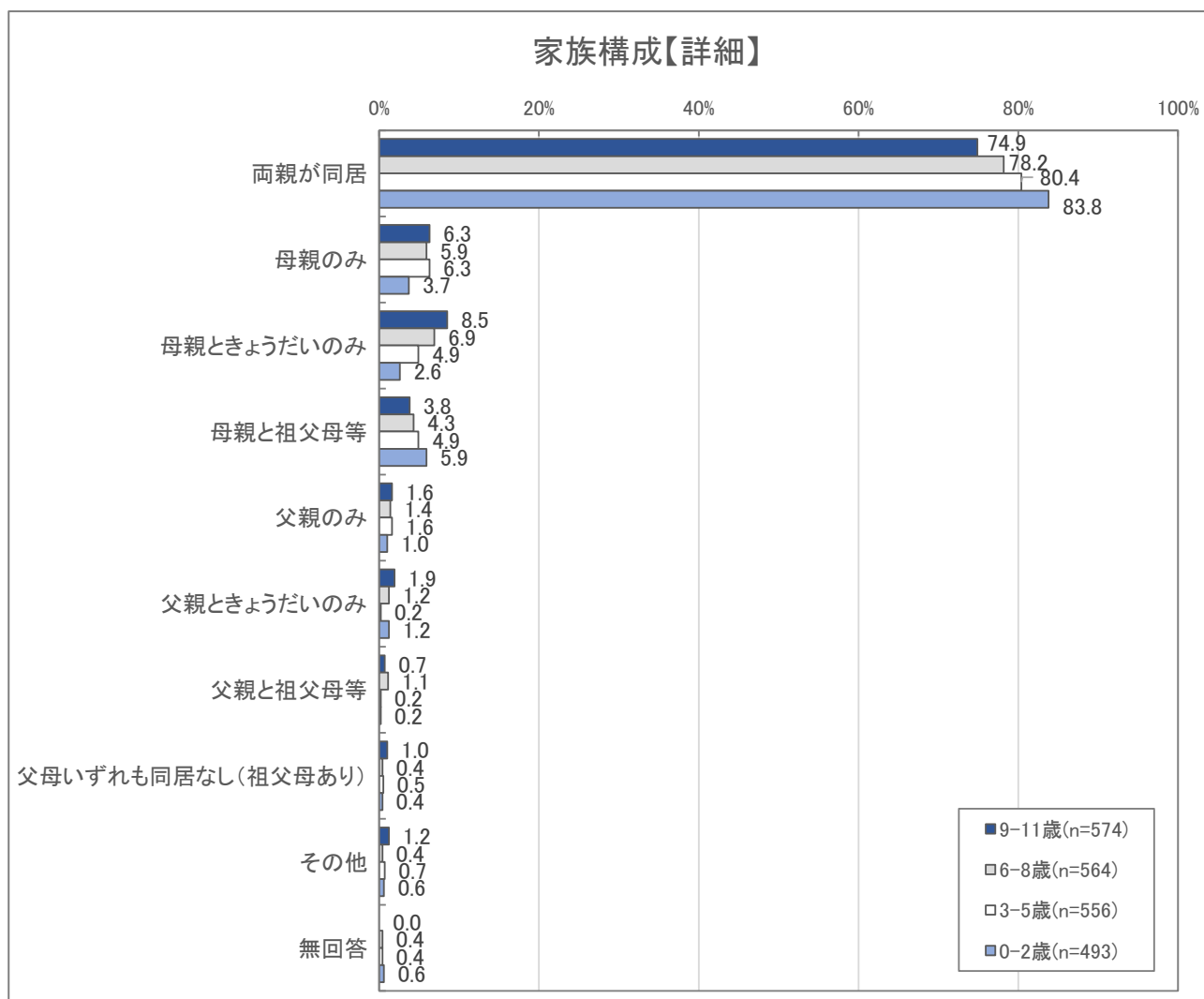
(5) 同居の家族

●未就学児童：問5〔就学児童：問5〕

あて名のお子さんと同居されている方をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

続柄はあて名のお子さんからみた関係です。

○回答から家族構成を集計したところ、両親が同居している家族は7割台半ば～8割台半ばであり、母子のみで構成された家族は1割台半ば、父子のみで構成された家族はごくわずかとなっています。



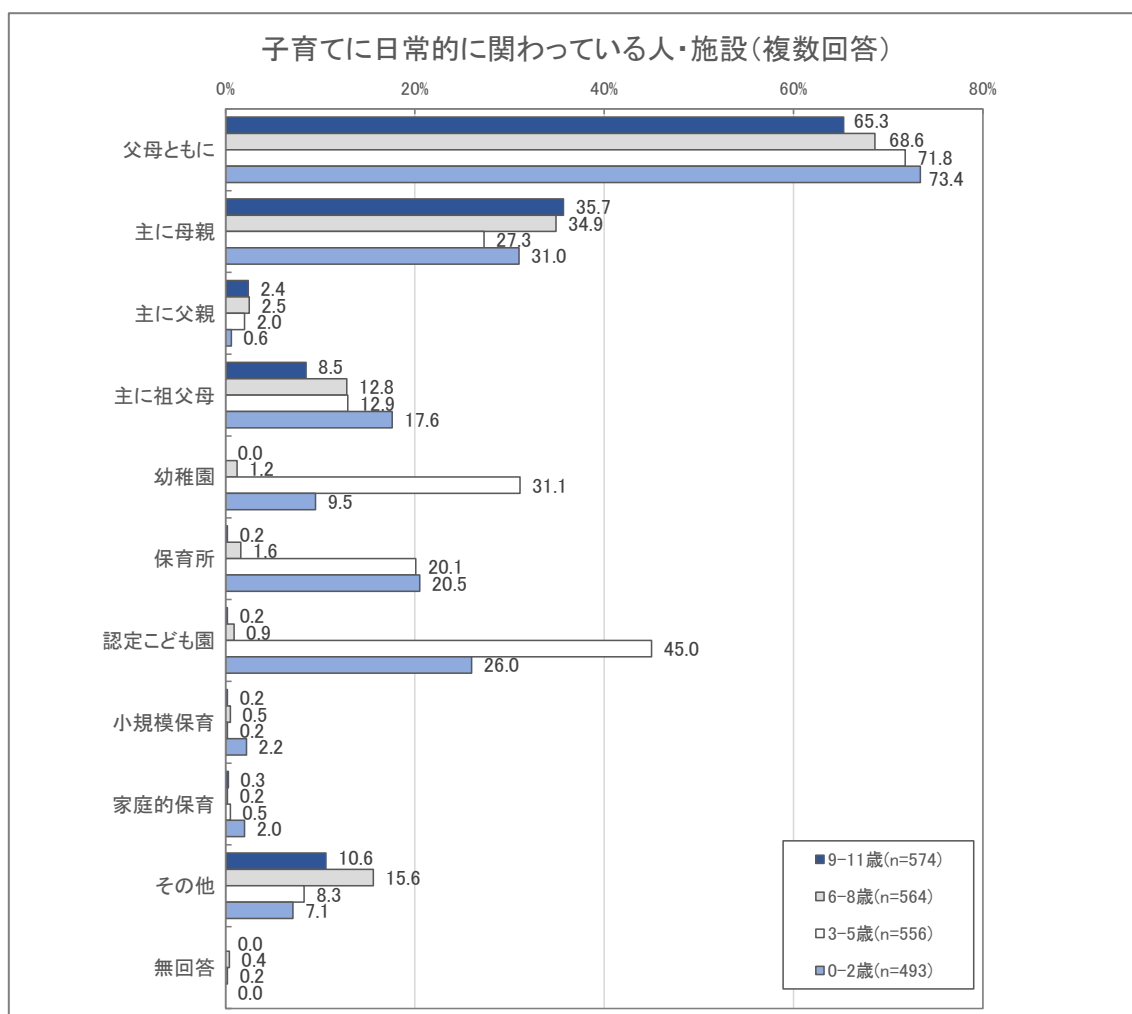
(6) 子育てに日常的に関わっている人・施設

●未就学児童：問6〔就学児童：問6〕

あて名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方・施設をお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

- 「父母ともに」が6割台半ば～7割台半ばで最も多く、次いで「主に母親」が3割弱～3割台半ばとなっています。
- 3～5歳では「認定こども園」が約4割台半ば、「幼稚園」が3割強と「父母ともに」に次いで多くなっています。0～2歳では「父母ともに」「主に母親」に次いで「認定こども園」が2割台半ば、「保育所」が約2割と多くなっています。
- 3～5歳では「保育所」が約2割となっています。
- 「その他」の回答では、5歳以下では「きょうだい」「児童発達支援センター」「叔父・叔母」「療育施設」などがあげられており、6歳以上では「小学校」「放課後等デイサービス」「児童館」「学童保育」「療育施設」などがあげられます。



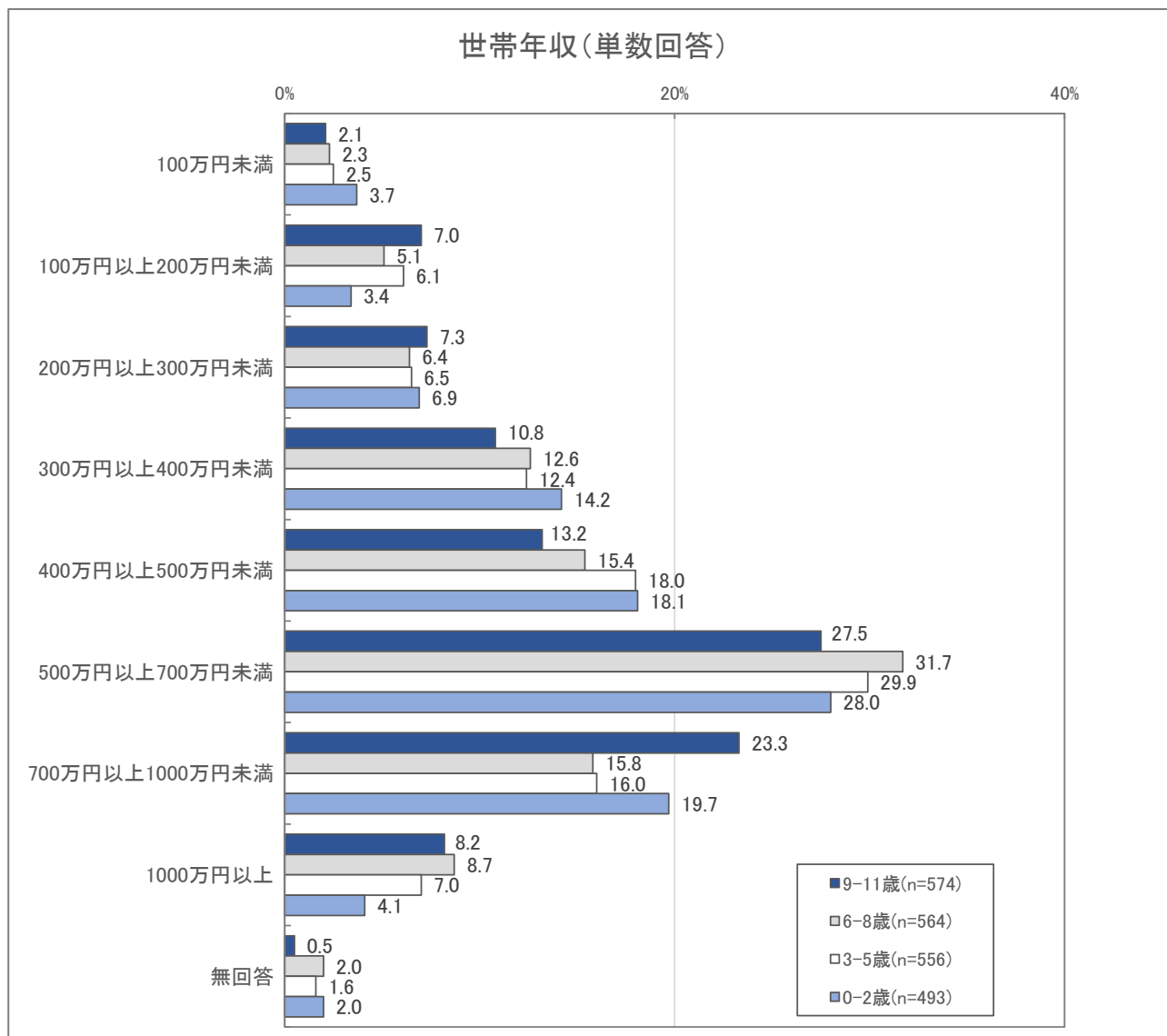
(7) 世帯年収

●未就学児童：問7〔就学児童：問7〕

ご家庭の年間収入はどのくらいですか。世帯全員の合計でお答えください。

(あてはまる番号1つに○)

○「500万円以上700万円未満」が3割弱～3割強で最も多くなっています。



2.2 子育て環境について

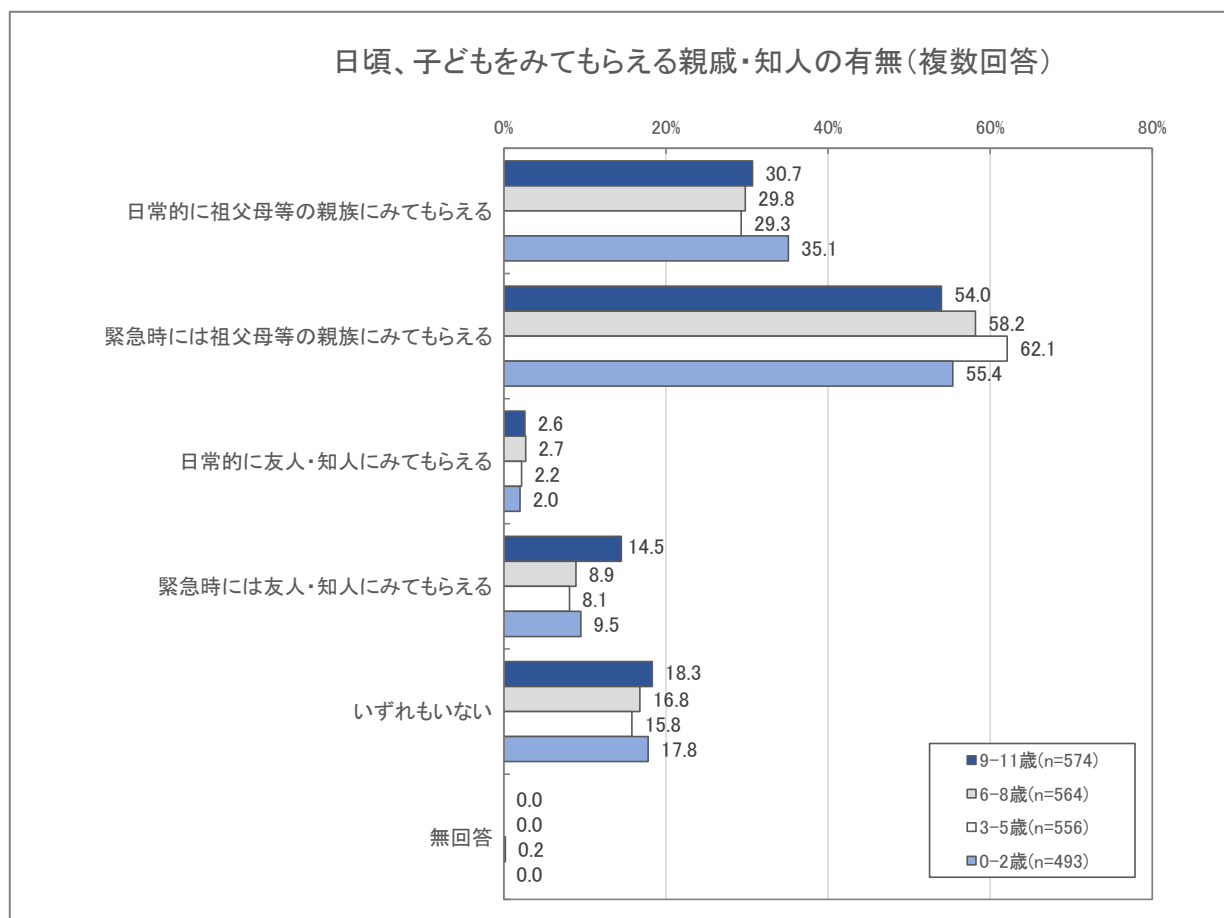
(1) 日頃、子どもをみてもらえる親戚・知人の有無

●未就学児童：問8〔就学児童：問8〕

日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族・知人についてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

○「緊急時には祖父母等の親族にみてもらえる」が5割台半ば～6割強で最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が3割弱～3割台半ばとなっており、多くの家庭で祖父母等の支援が得られている一方で、「いずれもない」は1割台半ば～2割弱となっています。



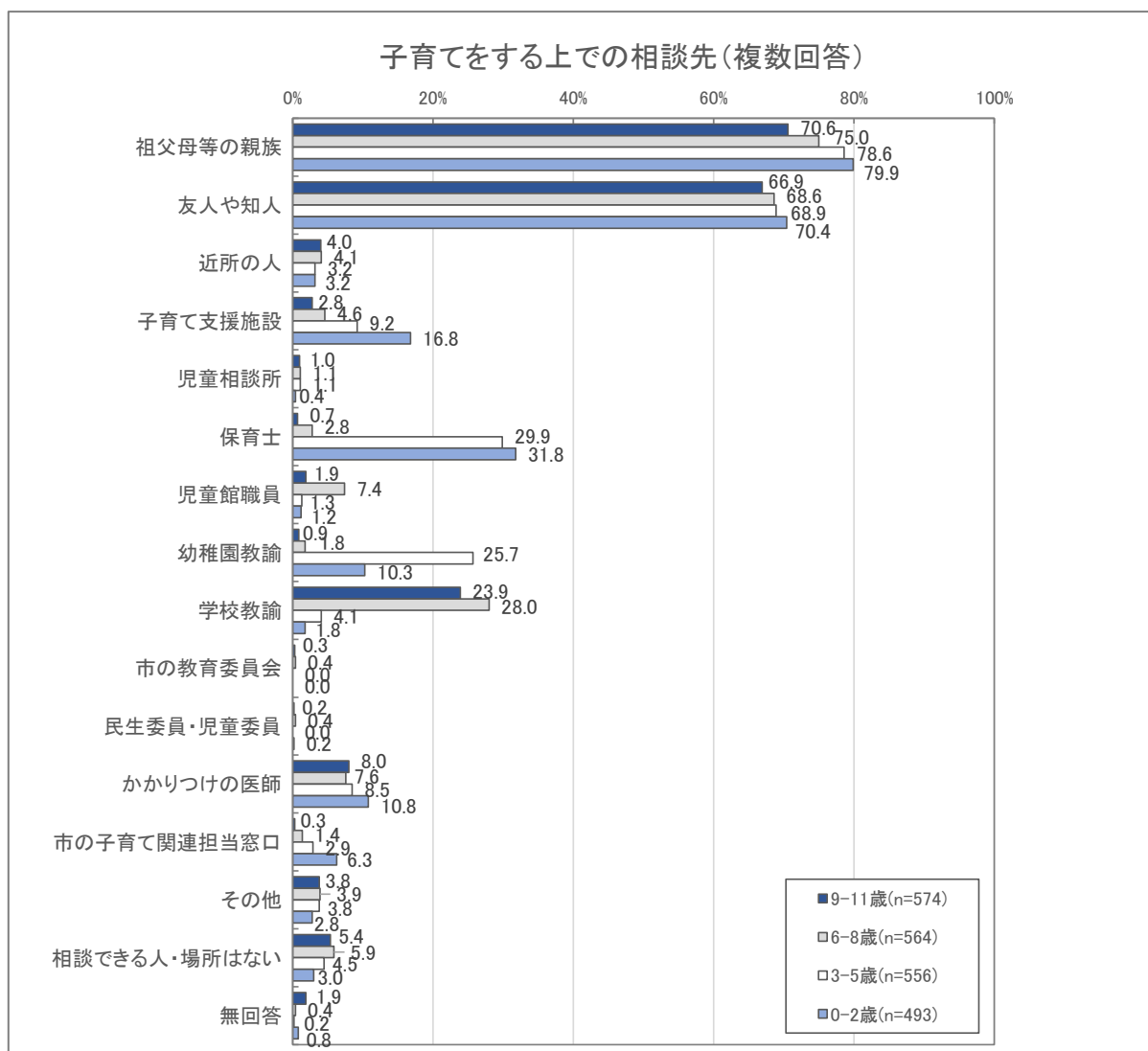
(2) 子育てをする上での相談先

●未就学児童：問9〔就学児童：問9〕

子育てをする上で、気軽に相談できる人・場所についてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

- 「祖父母等の親族」が約7割～約8割、「友人や知人」が6割台半ば～約7割で多くなっています。
- 0～2歳では「保育士」が3割強、「子育て支援施設」が1割台半ば、3～5歳では「幼稚園教諭」が2割台半ば、「保育士」が約3割、6歳以上では、「学校教諭」が2割台半ば～3割弱となっています。
- 「相談できる人・場所はない」との回答は1割未満であり、ほとんどの回答者は、相談できる人、場所があると回答しています。



2.3 保護者の就労状況について

(1) 母親の就労状況

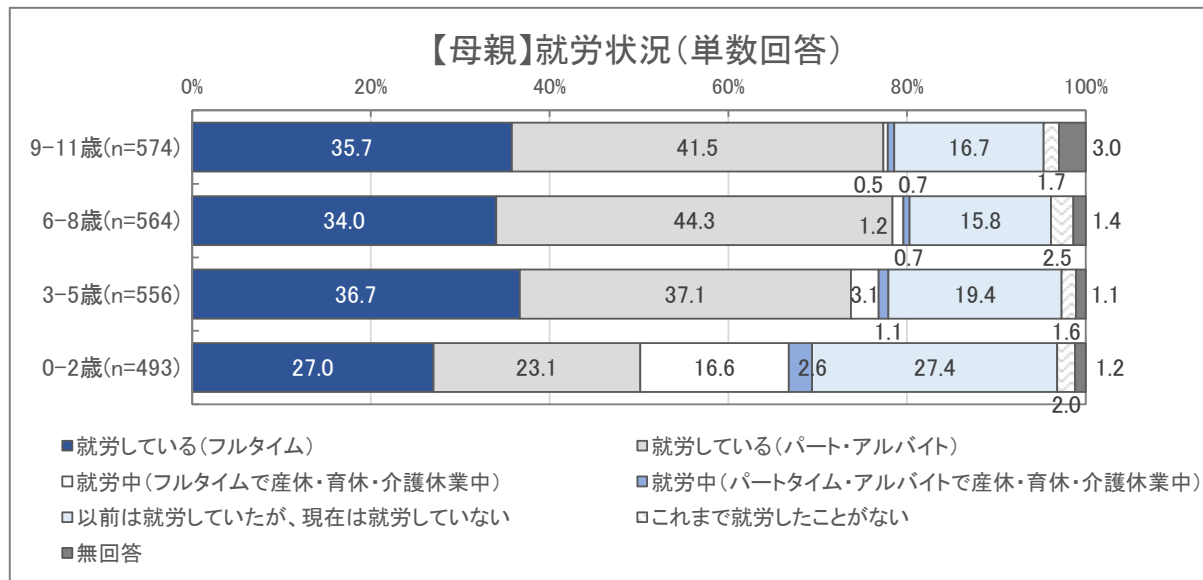
①【母親】就労状況

●未就学児童：問 10（1）[就学児童：問 10（1）]

保護者の就労状況（自営業、家族従事者を含む）についてお答えください。

（あてはまる番号 1 つに○）

- 母親の就労状況について、0～2歳では「就労している（フルタイム）」と「就労している（パート・アルバイト）」を合わせると約5割となっています。
- 3歳以上では「就労している（パート・アルバイト）」が3割台半ば～4割台半ばで最も多く、次いで「就労している（フルタイム）」が3割台半ばとなっており、6歳以上については「就労している（フルタイム）」と「就労している（パート・アルバイト）」を合わせると8割弱となっています。



②【母親】就労日数・就労時間等

●未就学児童：問 11（１）[就学児童：問 11（１）]

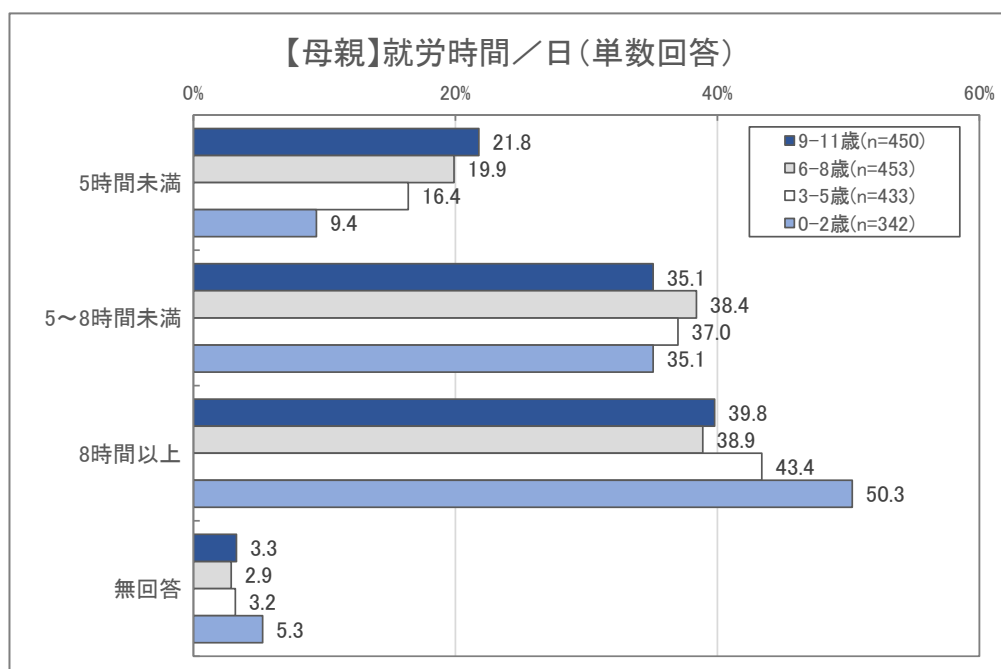
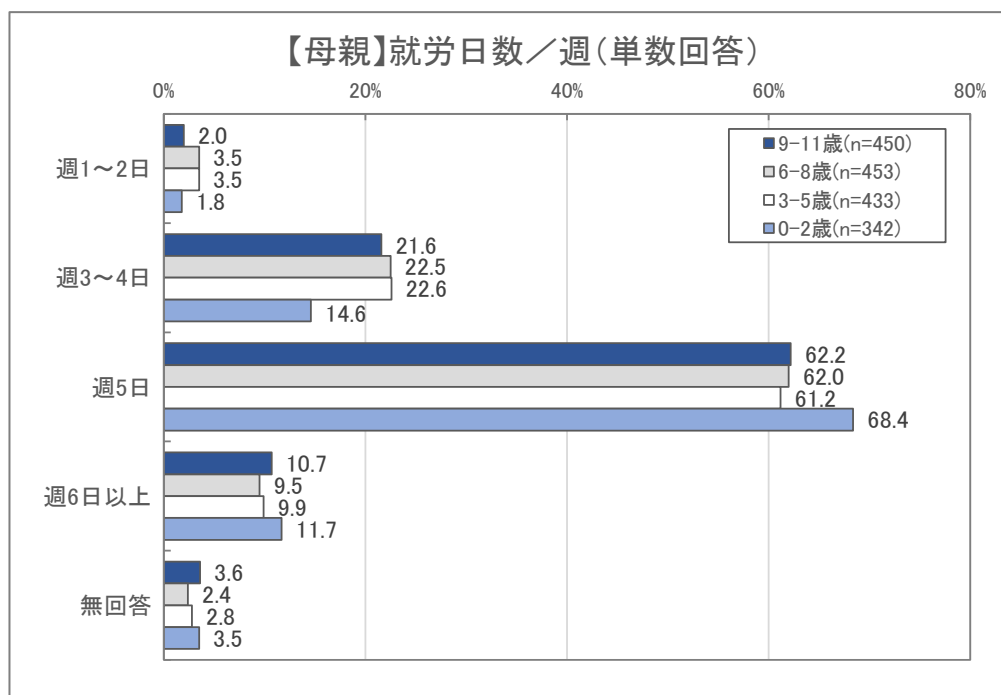
問 10（１）[問 10（１）] で「１．」～「４．」（就労中）と回答した人のみ

就労日数・時間（残業含む）などについてご記入ください。

○就労日数については、「週 5 日」が 6 割強～7 割弱で最も多くなっています。

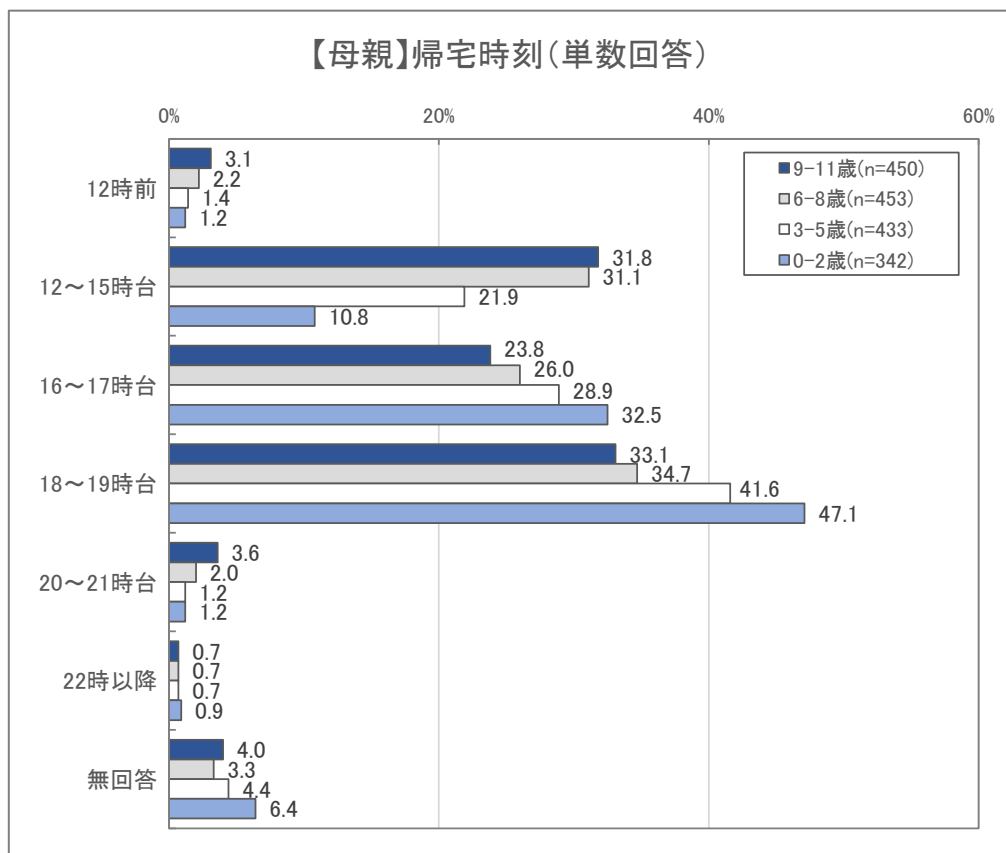
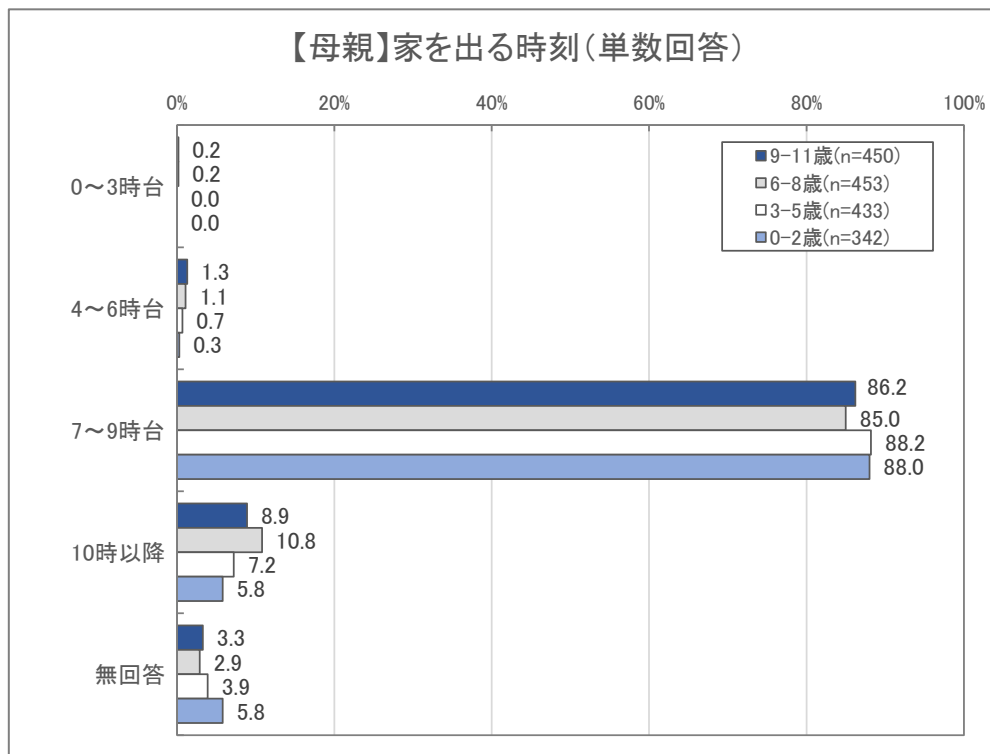
○就労時間については、「8 時間以上」が 3 割強～約 5 割とフルタイムでの就労が多くなっており、次いで「5～8 時間未満」が、3 割台と多くなっています。

○0～2 歳では「8 時間以上」が約 5 割で最も多くなっているほか、「5 時間未満」の割合が他の年齢区分に比べて少なくなっています。



○家を出る時刻については、「7～9時台」が8割台半ば～9割弱で最も多くなっています。

○帰宅時刻については、「18～19時台」が3割強～5割弱で最も多くなっています。



③【母親】パートタイム等からのフルタイムへの転換希望

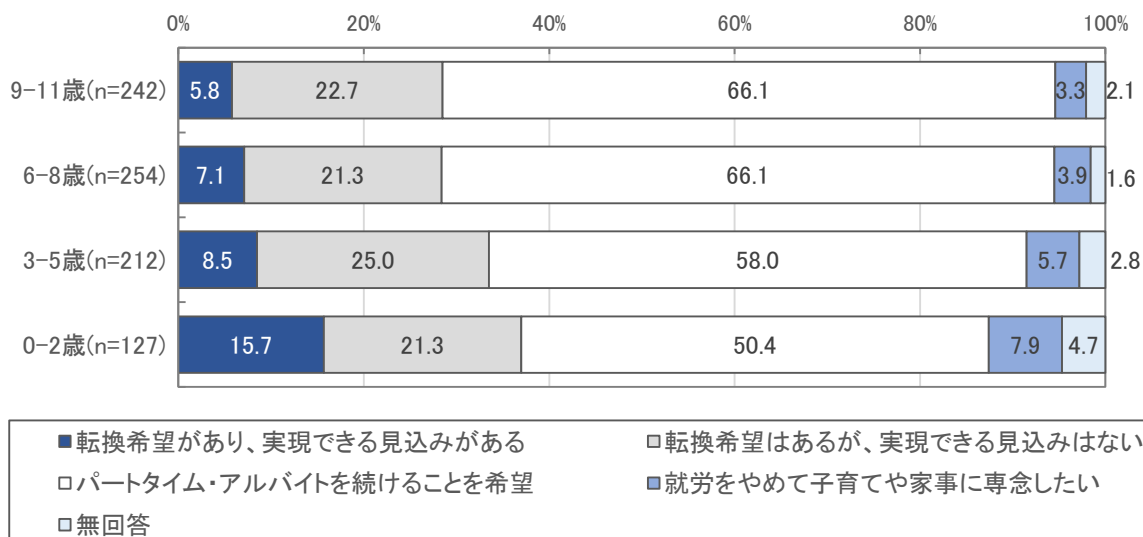
●未就学児童：問 12（１）[就学児童：問 12（１）]

問 10（１）[問 10（１）] で「２.」「４.」のいずれか（パートタイム・アルバイト）と回答した人
のみ

パートタイム・アルバイトからフルタイムへの転換希望についてお答えください。（あてはまる番号１つに○）

- 母親のパートタイム等からのフルタイムへの転換希望については、「パートタイム・アルバイトを続けることを希望」が約５割～６割台半ばで最も多くなっています。
- フルタイム勤務を希望（「転換希望があり、実現できる見込みがある」と「転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の合計）は３割弱～３割台半ばとなっています。

【母親】パートタイム等からのフルタイムへの転換希望（単数回答）



④【母親】現在就労していない人の今後の就労希望

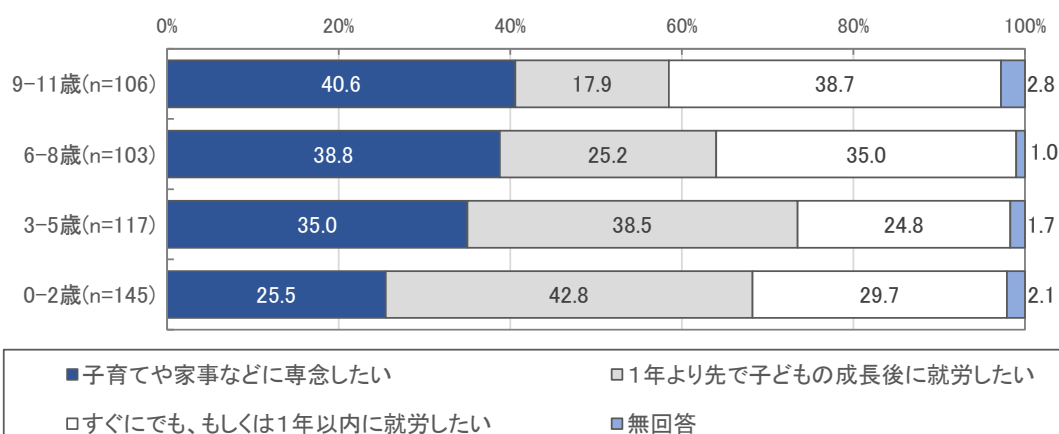
●未就学児童：問 13（１）[就学児童：問 13（１）]

問 10（１）[問 10（１）] で「５．」「６．」のいずれか（現在就労していない）と回答した人のみ就労希望についてお答えください。（あてはまる番号１つに○）

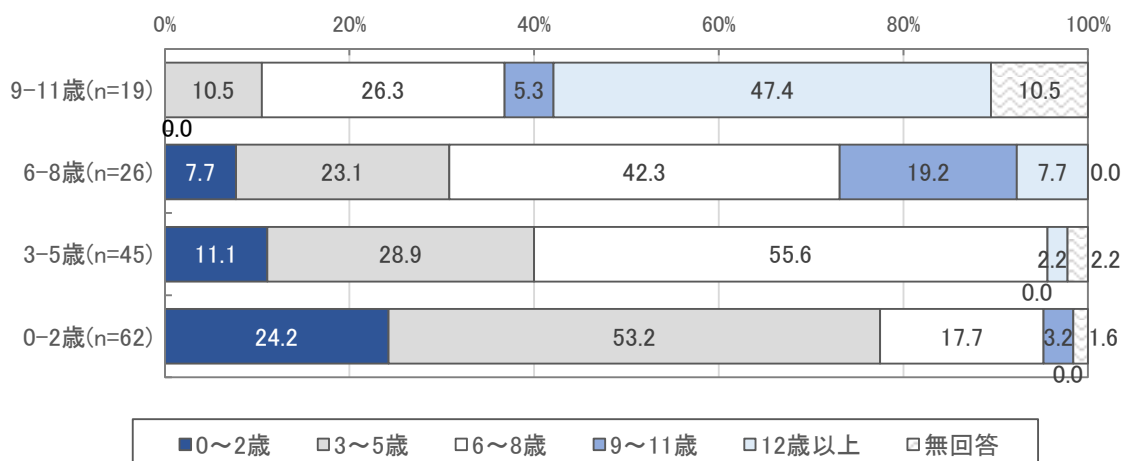
また、下記で「２．」を選んだ方は（ ）内に数字でお答えください。

- ５歳以下では「１年より先で子どもの成長後に就労したい」が４割弱～４割強で最も多くなっています。
- ６歳以上では「子育てや家事などに専念したい」が４割弱～約４割で最も多くなっている一方、５歳以下に比べ、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が多くなっています。
- 「末子は何歳になったら就労したいか」に回答した母親の就労のタイミングについては、０～２歳では「３～５歳」が５割強で最も多く、３～５歳、６～８歳では「６～８歳」が４割強～５割台半ばで最も多く、９～１１歳では「１２歳以上」が４割台半ばと多くなっています。

【母親】現在就労していない人の今後の就労希望（単数回答）



【母親】末子は何歳になったら就労したいか（単数回答）

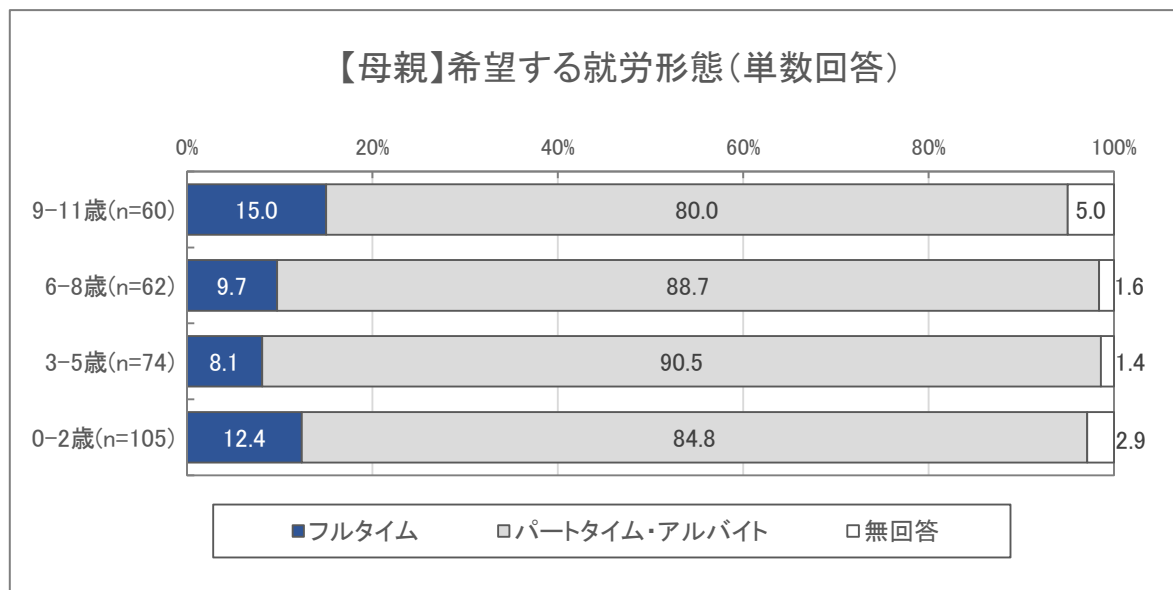


⑤【母親】希望する就労形態

●未就学児童：問 13（１）－１〔就学児童：問 13－１（１）〕

問 13（１）〔問 13（１）〕で「２．」「３．」のいずれか（就労したい）と回答した人のみ希望する就労形態についてお答えください。（あてはまる番号１つに○）

- 就労意向のある母親が希望する就労形態については、「パートタイム・アルバイト」が８割台半ば～約９割で最も多くなっています。
- ３～５歳、６～８歳では、「フルタイム」が１割弱となっており、他の年齢区分に比べて少なくなっています。



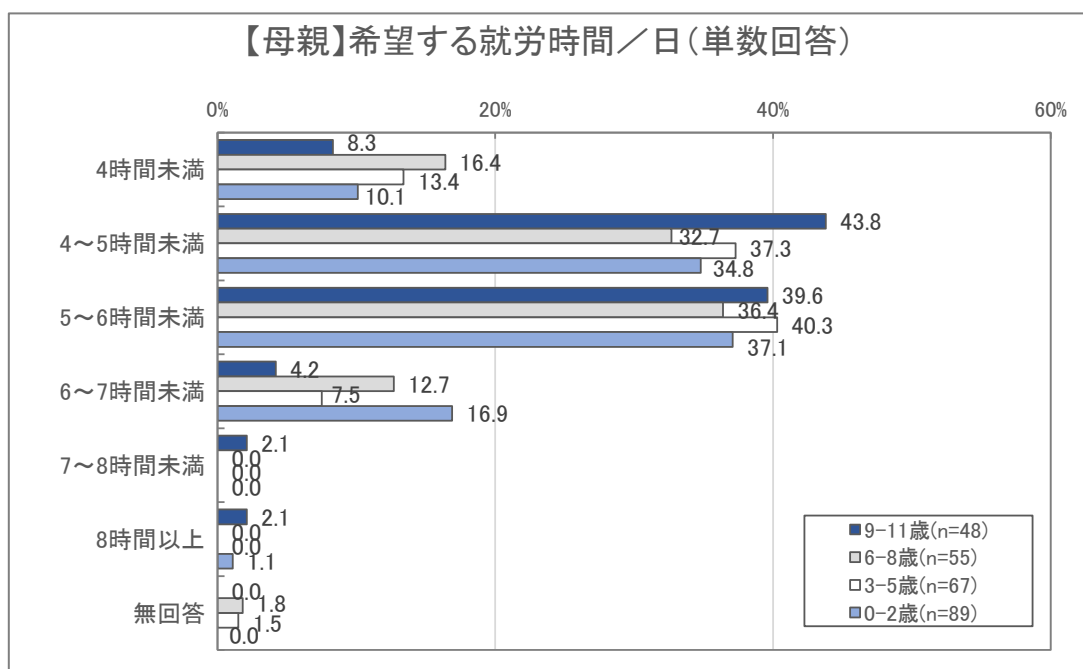
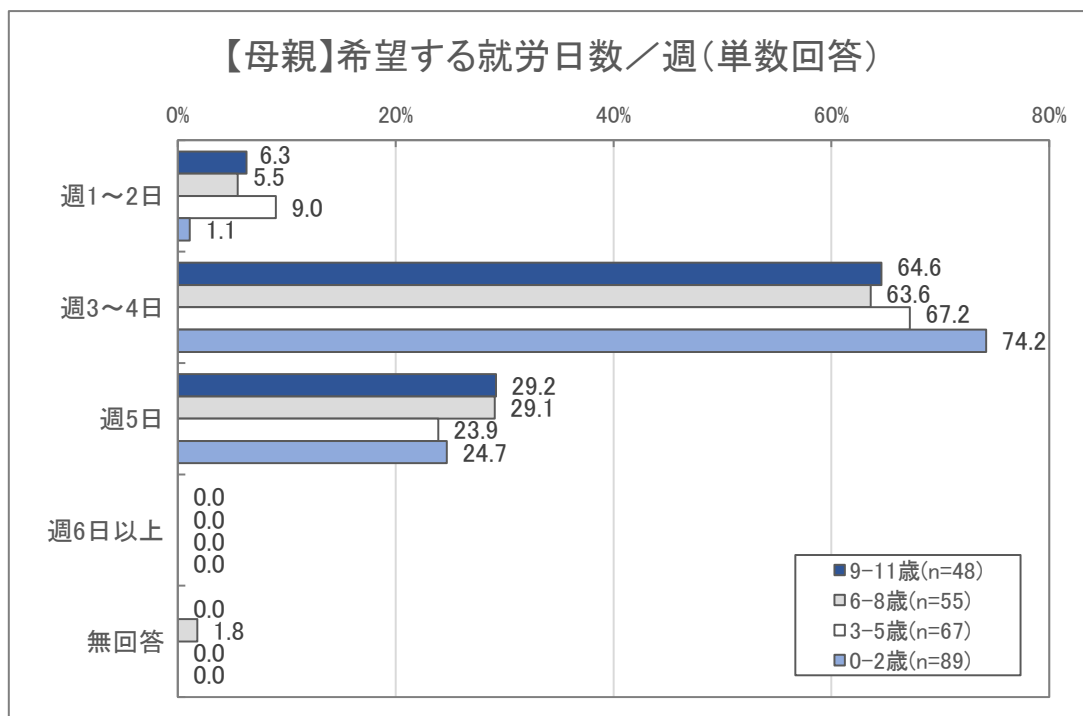
⑥【母親】パートタイム等で希望する就労日数・時間

●未就学児童：問 13-2（1）[就学児童：問 13-2（1）]

問 13-1（1）[問 13-1（1）] で「2.」（パートタイム・アルバイト）と回答した人のみ希望する就労の日数・時間についてご記入ください。

○就労意向のある母親が希望する就労日数は、「週3～4日」が6割台半ば～7割台半ばで最も多くなっており、次いで「週5日」が2割台半ば～3割弱となっています。

○就労時間については、「4～5時間未満」と「5～6時間未満」が3割強～4割台半ばで多くなっています。



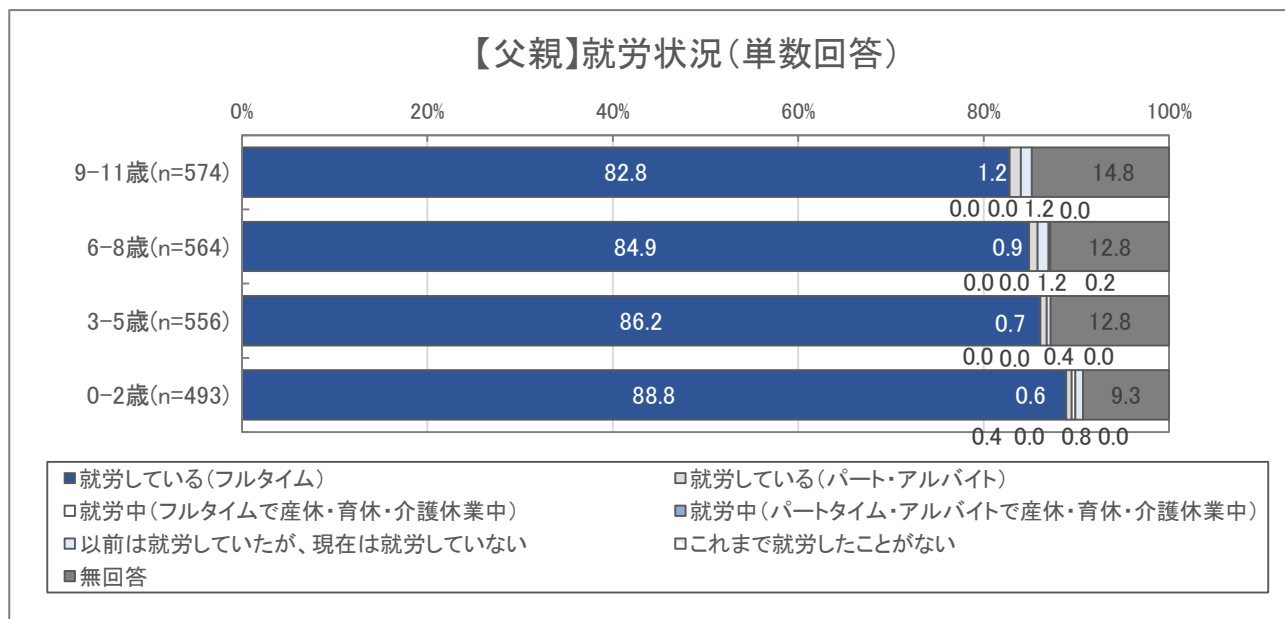
（２）父親の就労状況

①【父親】就労状況

●未就学児童：問 10（２）[就学児童：問 10（２）]

保護者の就労状況（自営業、家族従事者を含む）についてお答えください。（あてはまる番号１つに○）

○父親の就労状況については、「就労中している（フルタイム）」が８割台で最も多く、その他の選択肢については、ごくわずかとなっています。



※以下の設問については、サンプル数が十分ではなかったため分類しない。

- ・パートタイム等からのフルタイムの転換希望【父親】
- ・現在就労していない人の今後の就労希望【父親】
- ・希望する就労形態【父親】
- ・パートタイム等で希望する就労日数・時間【父親】

②【父親】就労日数・就労時間等

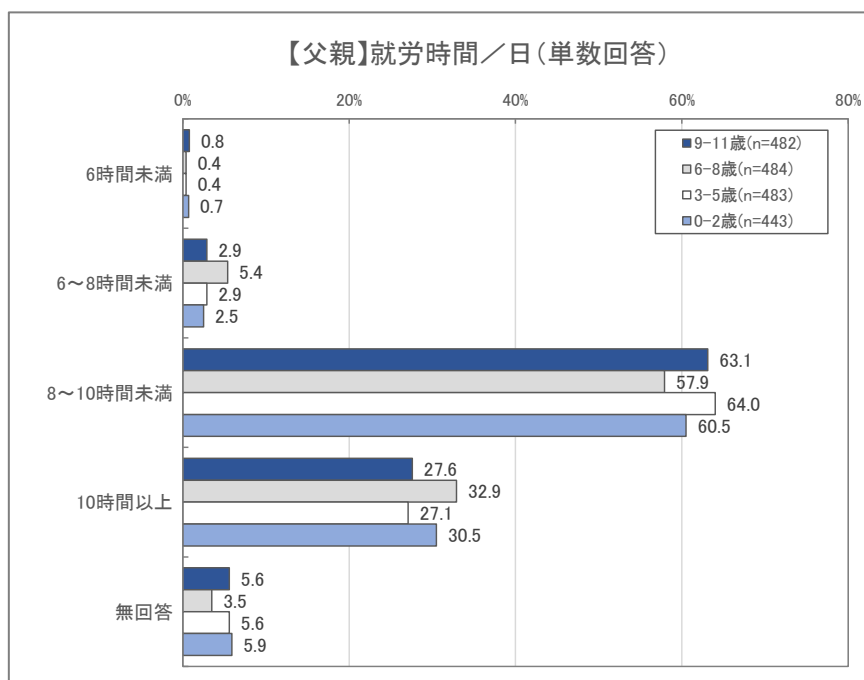
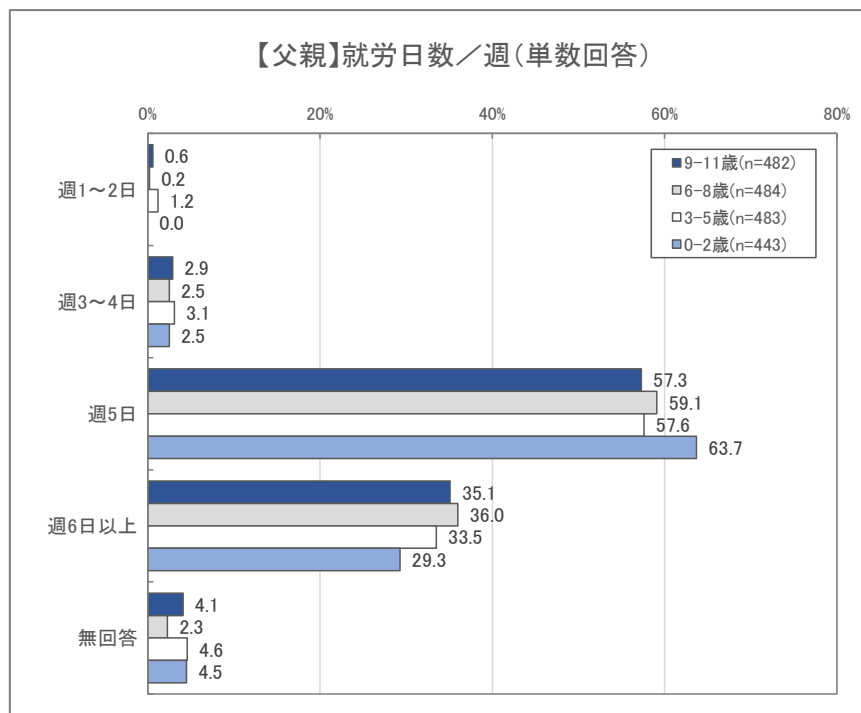
●未就学児童：問 11（2）[就学児童：問 11（2）]

問 10（2）[問 10（2）] で「1.」～「4.」（就労中）と回答した人のみ

就労日数・時間（残業含む）などについてご記入ください。

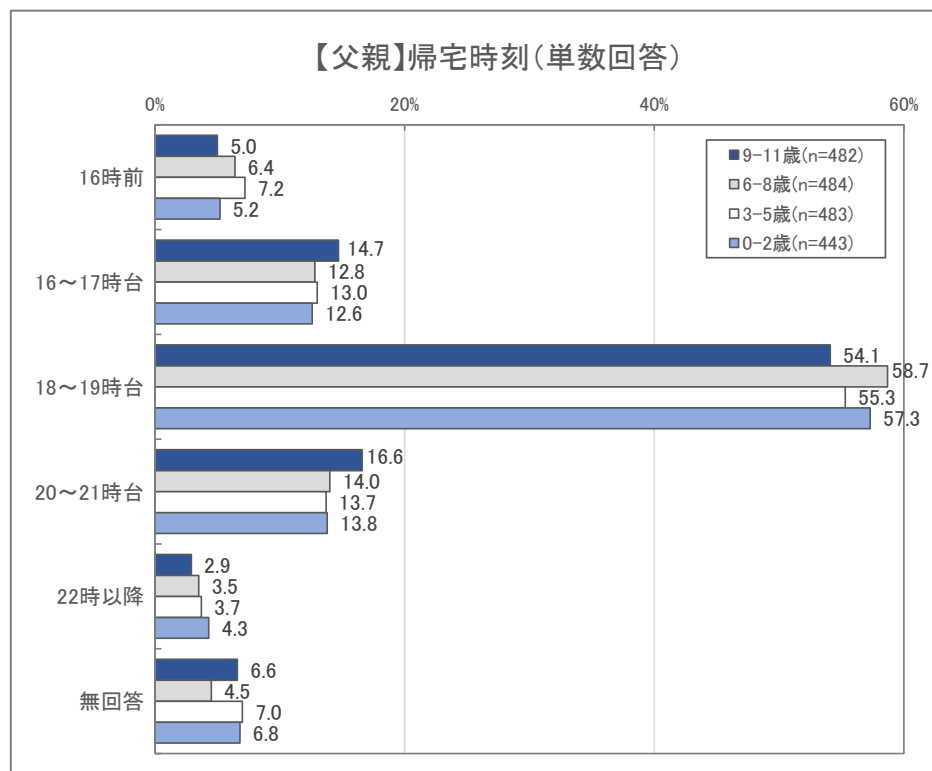
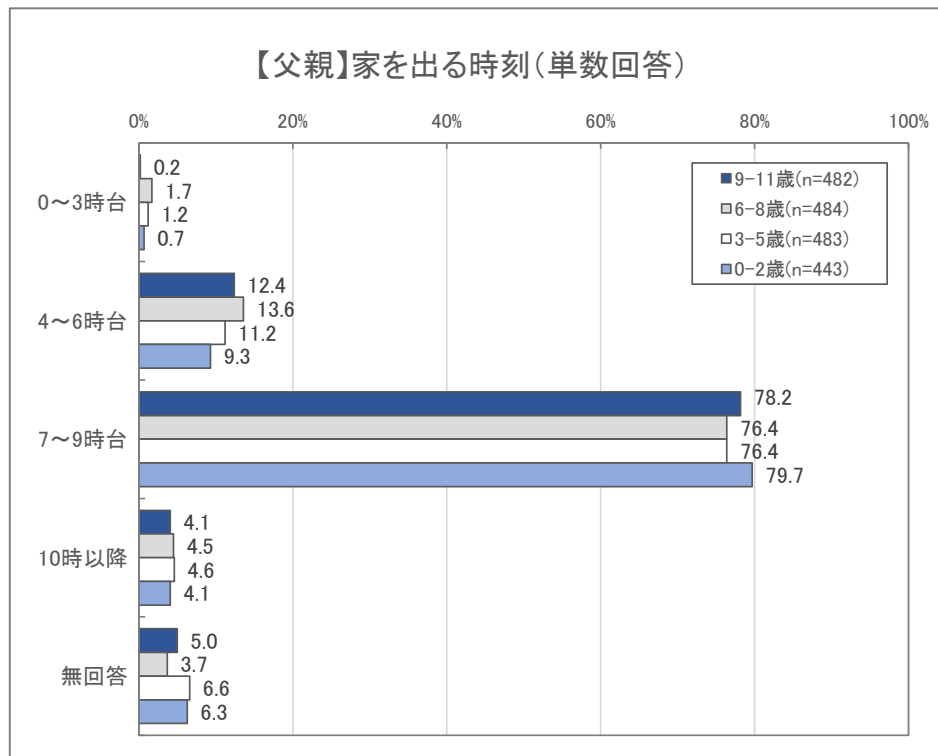
○就労日数については、「週 5 日」が 6 割弱～6 割台半ばと最も多く、次いで「週 6 日以上」が 3 割弱～3 割台半ばで多くなっています。

○就労時間については、「8～10 時間未満」が 6 割弱～6 割台半ばで最も多く、次いで「10 時間以上」が 3 割弱～3 割強となっています。



○家を出る時刻については、「7～9時台」が7割台半ば～約8割で最も多くなっています。

○帰宅時刻については、「18～19時台」が5割台半ば～6割弱で最も多くなっています。



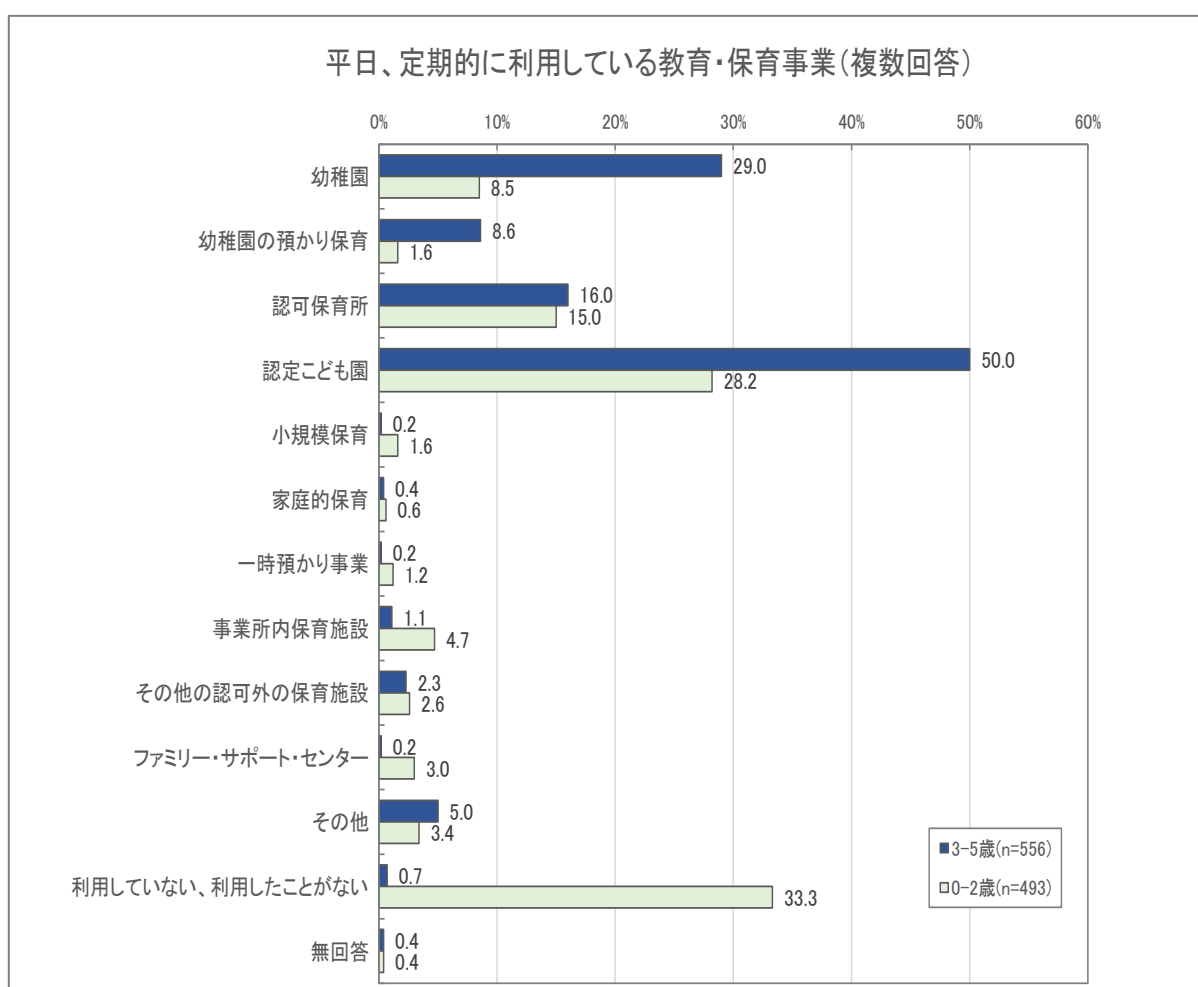
2.4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

●未就学児童：問 14

あて名のお子さんの、平日、定期的な教育・保育事業の利用状況について、あてはまる番号すべてに○をつけ、利用日数・時間・時間帯をご記入ください。下記で、「12. 利用していない・利用したことはない」とお答えした方は問 15 へお進みください。

- 3～5 歳では、「認定こども園」が 5 割で最も多く、次いで「幼稚園」が約 3 割、「認可保育所」が 1 割台半ばとなっています。
- 0～2 歳では「利用していない、利用したことがない」が 3 割強で最も多くなっており、次いで「認定こども園」が 3 割弱、「認可保育所」が 1 割台半ばとなっています。



(2) 利用している（利用したことがある）中での問題・課題

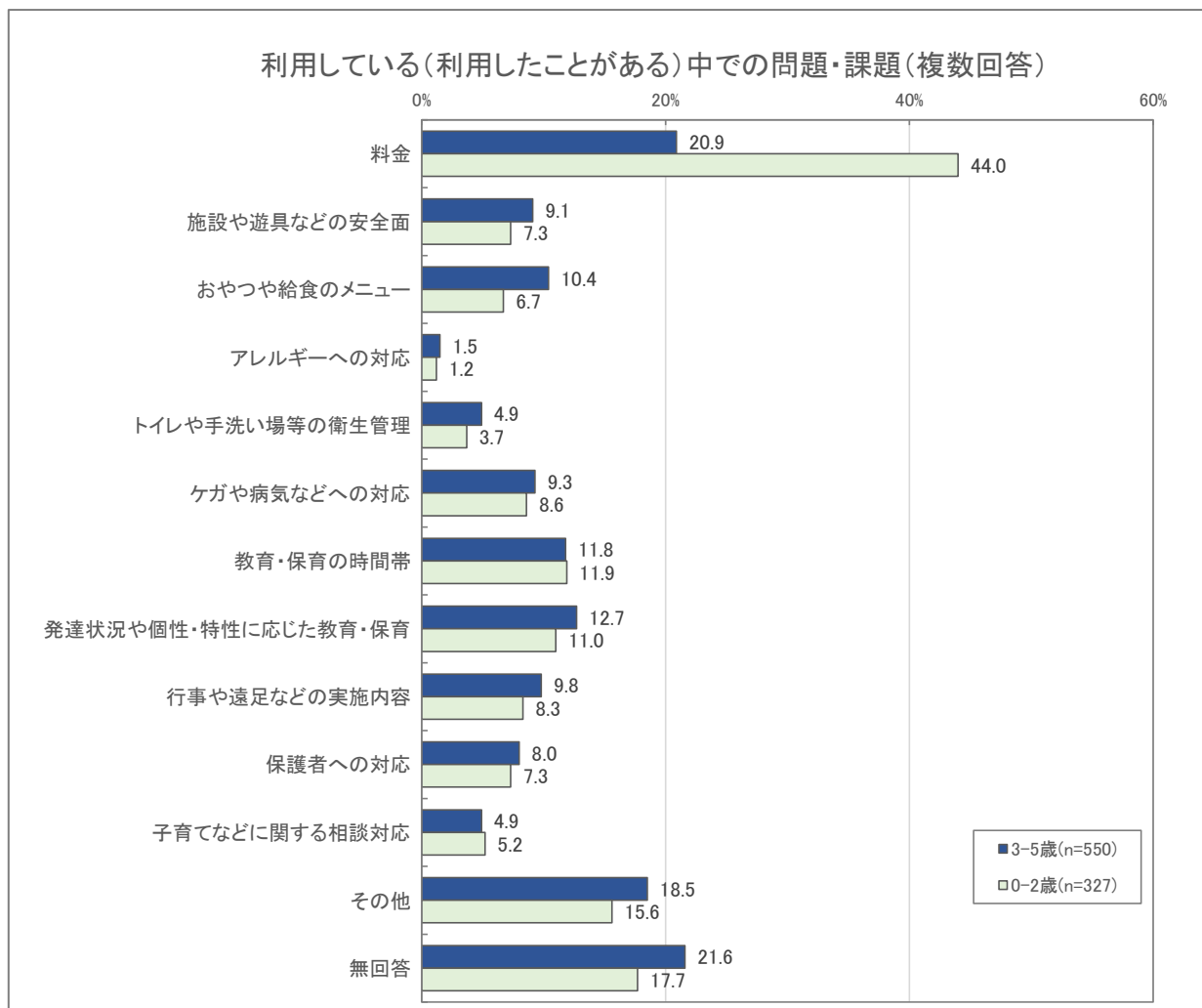
●未就学児童：問 14-1

問 14 で利用している（利用したことがある）中での問題・課題についてお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

○「料金」が約 2 割～4 割台半ばで最も多くなっています。

○「その他」の回答では、「園の対応」「施設の老朽化」などがあげられています。



(3) 利用していない・利用したことがない理由

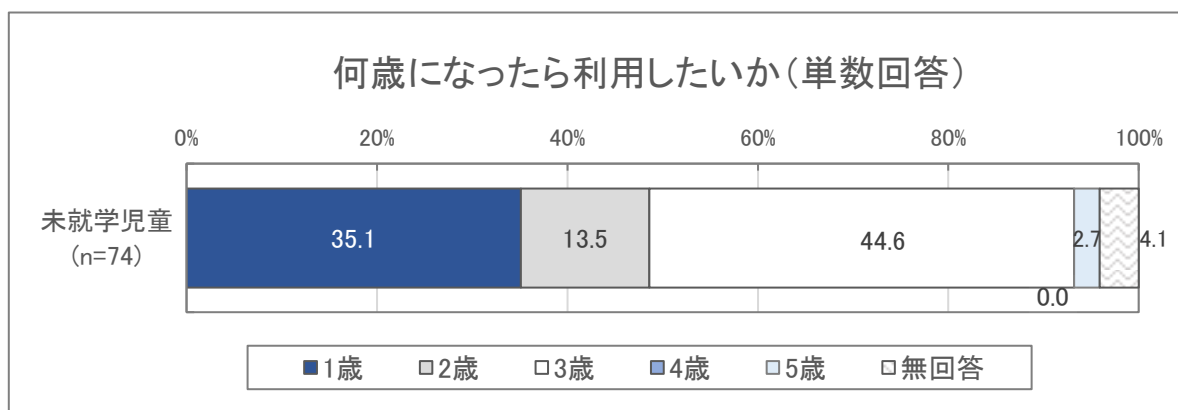
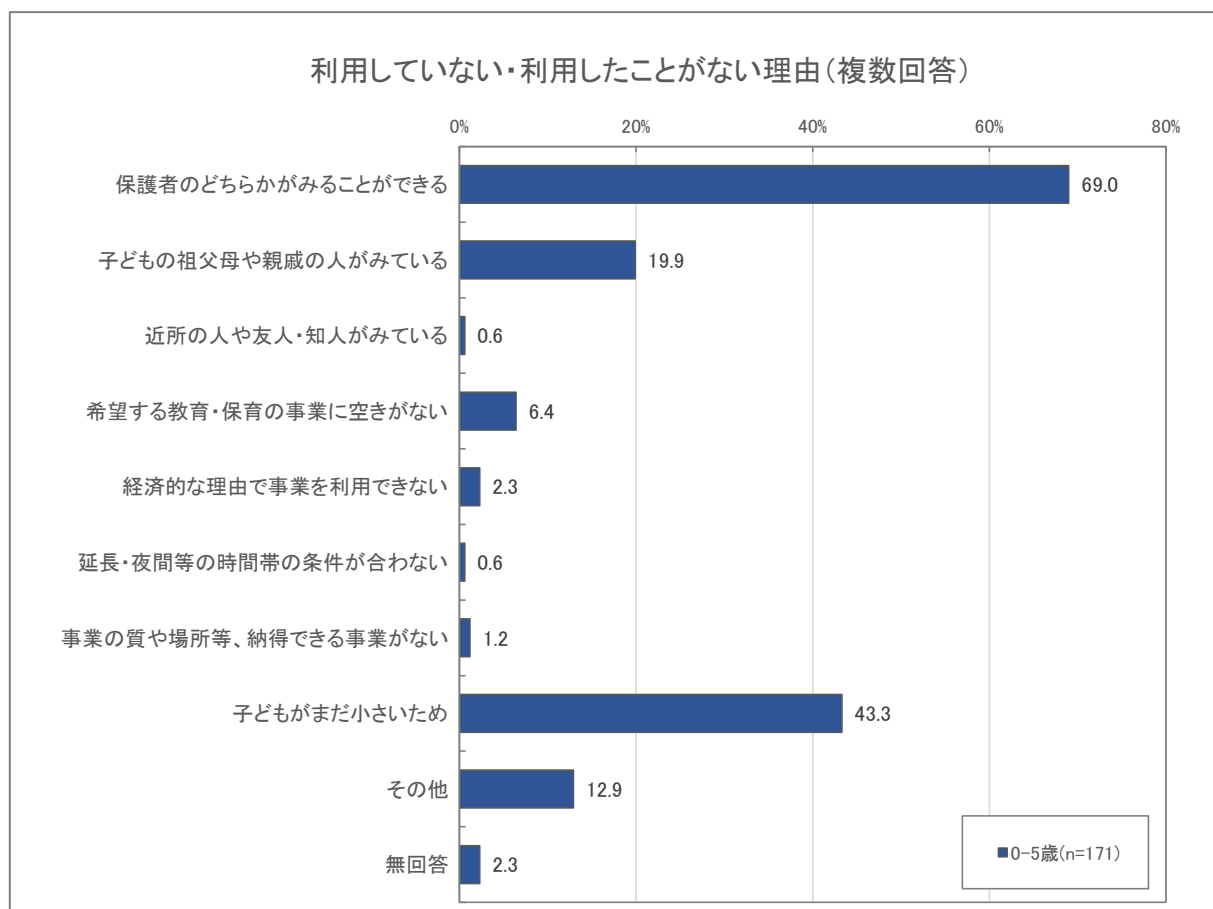
●未就学児童：問 15

問 14 で「12. 利用していない・利用したことはない」と回答した人のみ

その理由についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

また、下記で「8.」を選んだ方は() 内に数字でお答えください。

- 「保護者のどちらかがみることができる」が7割弱で最も多く、次いで、「子どもがまだ小さいため」が4割強となっています。
- 「子どもがまだ小さいため」と回答した人については、子どもが「3歳」になったら利用したいという回答が4割台半ばで最も多くなっており、次いで「1歳」になったら利用したいという回答が3割台半ばとなっています。



(4)「こども誰でも通園制度」の利用希望について

●未就学児童：問 15-1

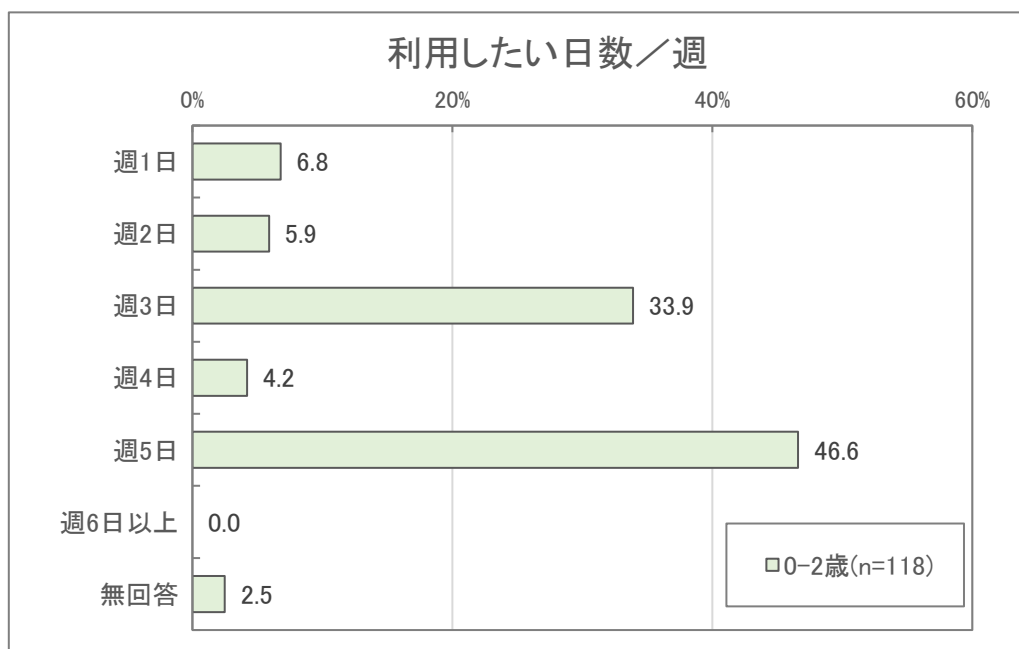
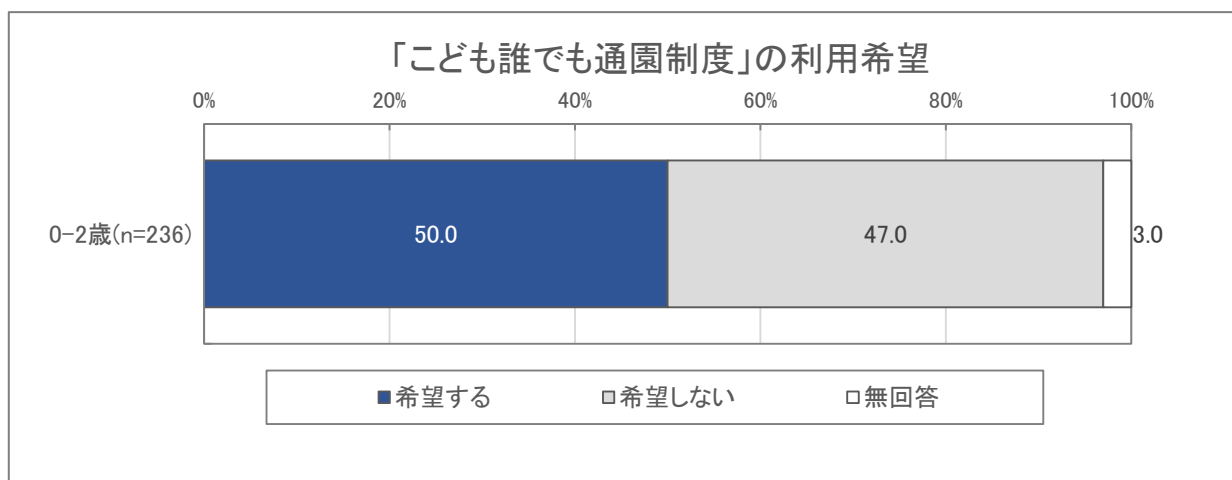
「こども誰でも通園制度」が創設された場合、利用を希望しますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけ、利用したい日数・時間帯を () 内に数字でご記入ください)

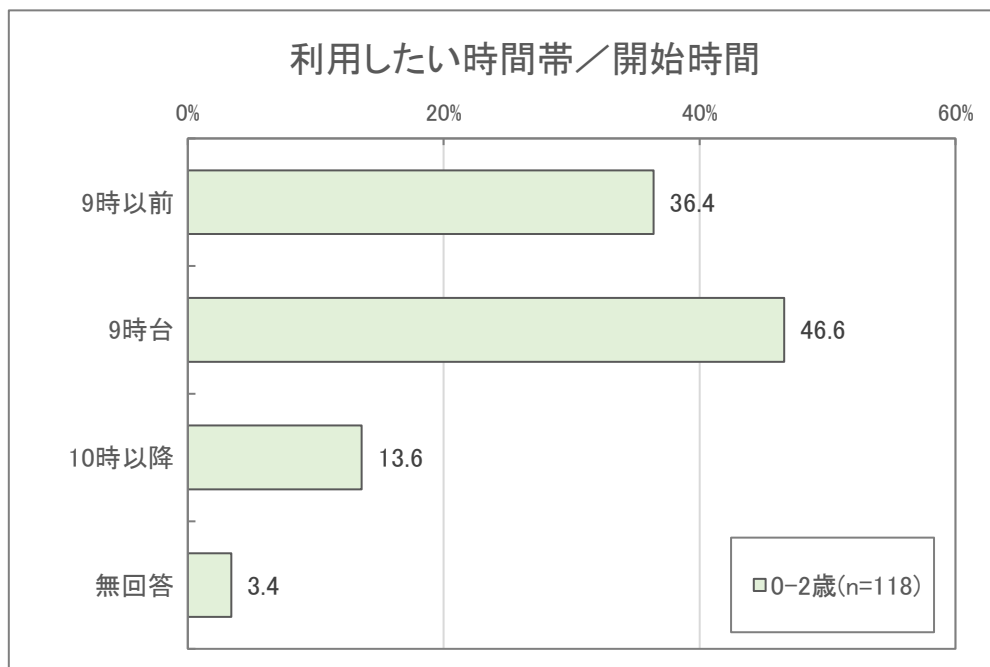
○「希望する」が 5 割となっています。

○利用したい日数は、「週 5 日」が 4 割台半ばとなっています。

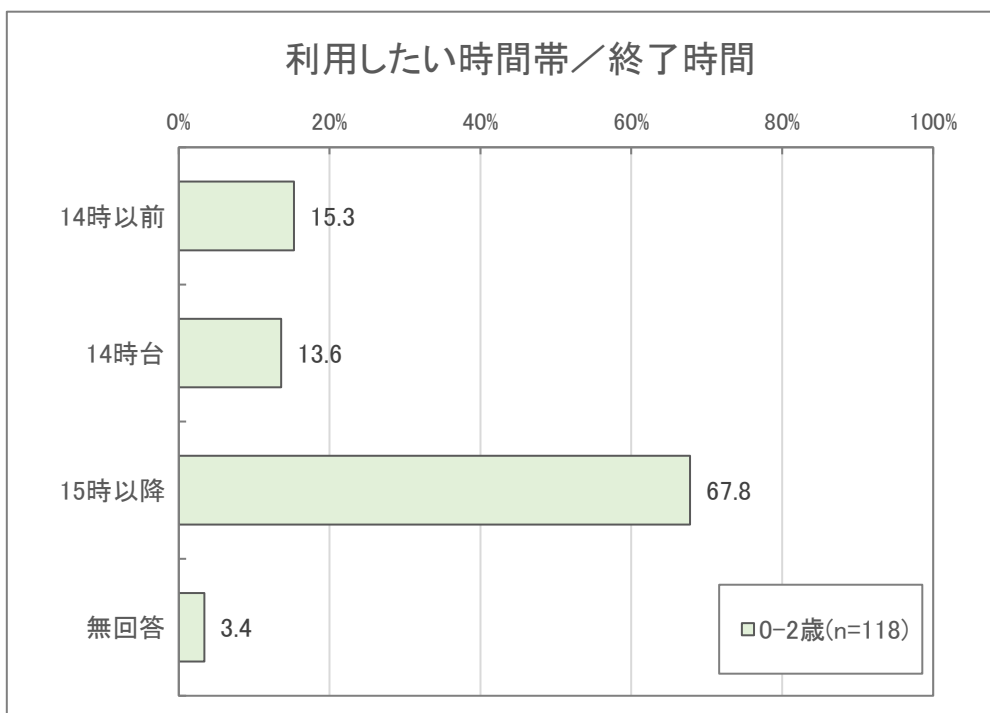
※誰でも通園制度は、現在、国において、幼稚園、認定こども園、保育所、小規模保育、家庭的保育に通っていない 0 歳 6 か月～3 歳未満の児童を対象として想定していることから、該当する児童のみを集計。(0 歳～2 歳)



○利用開始時間は、「9時台」が4割台と最も多く、次いで「9時以前」が3割台半ばとなっています。



○利用終了時間は、「15時以降」が7割弱と最も多くなっています。



(5) 平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用希望

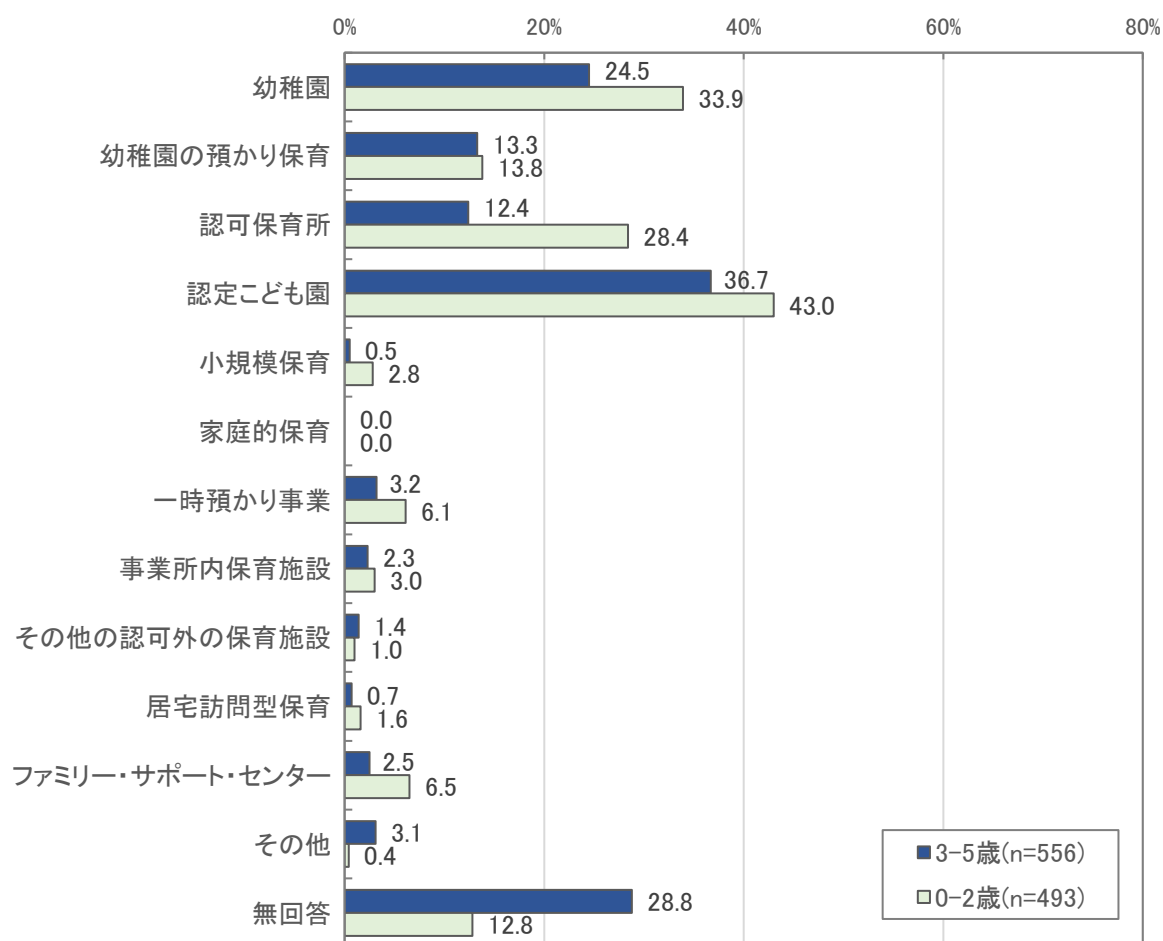
●未就学児童：問 16

現在、利用している、利用していないに関わらず、今後、平日、定期的に利用したいものについて、あてはまる番号すべてに○をつけ、希望する利用日数・時間・時間帯を（例）9時～18時のように24時間制でご記入ください。また、利用したい地区もご記入ください。

○3～5歳では「認定こども園」が3割台半ばで最も多く、次いで「幼稚園」が2割台半ばとなっています。

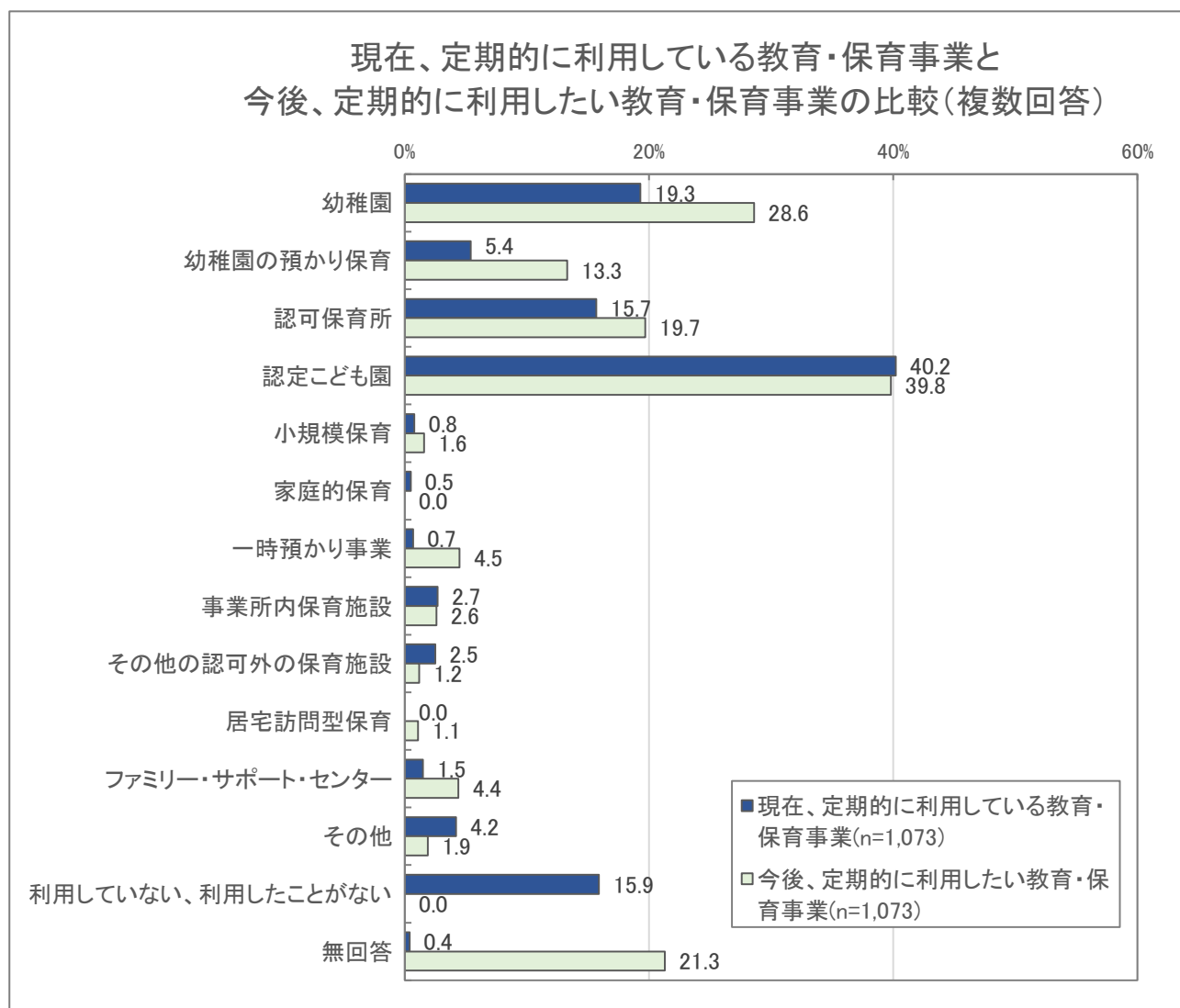
○0～2歳では「認定こども園」が4割強で最も多く、次いで「幼稚園」が3割台半ば、「認可保育所」が3割弱、「幼稚園の預かり保育」が1割台半ばとなっています。

平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用希望（複数回答）



※「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「認可保育所」「認定こども園」以外の事業については、サンプル数が十分ではなかったため、現在及び今後の利用日数などの分類はしない。

○未就学児童：問 14 で訪ねた現在、定期的に利用している教育・保育事業と、未就学児童：問 16 の今後、定期的に利用したい教育・保育事業の比較では、現在、今後とも「認定こども園」が約 4 割と最も多く、今後では「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「認可保育所」「一時預かり事業」で割合が増加しています。



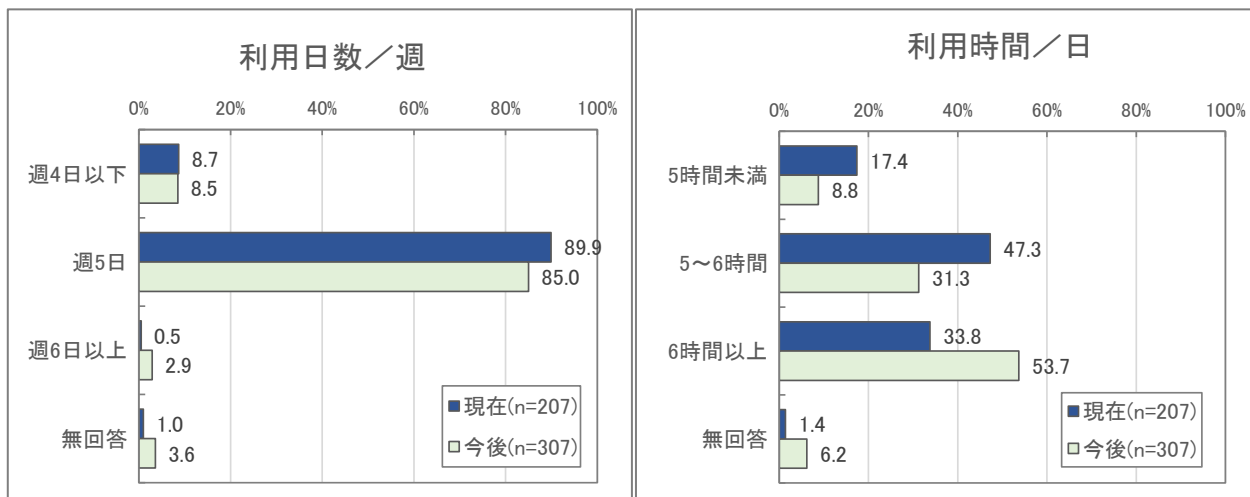
(注) 未就学児童：問 14 現在、定期的に利用している教育・保育事業と未就学児童：問 16 今後、定期的に利用したい教育・保育事業を比較して掲載

※「利用していない、利用したことがない」については、現在、定期的に利用している教育・保育事業のみ、
「居宅訪問型保育」については、今後、定期的に利用したい教育・保育事業のみ

①幼稚園の現在及び今後の利用日数など

- 幼稚園の利用日数は、現在、今後とも「週5日」が8割台半ば～約9割で最も多くなっています。
- 利用時間は、現在では「5～6時間」が約5割弱で最も多くなっていますが、今後では「6時間以上」が5割強で最も多くなっています。

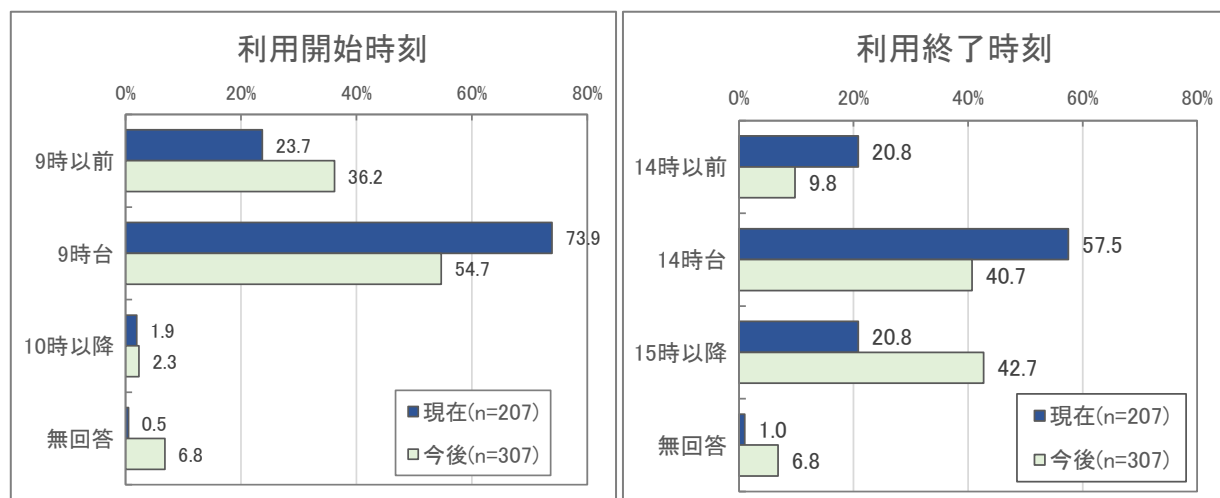
【未就学児童】現在及び今後の利用日数と利用時間【幼稚園】（単数回答）



※未就学児童：問 14 現在、定期的に利用している教育・保育事業と未就学児童：問 16 今後、定期的に利用したい教育・保育事業を比較して掲載

- 幼稚園の利用開始時刻は、現在、今後とも「9時台」が5割台半ば～7割強で最も多くなっています。
- 利用終了時刻については、現在では「14時台」が6割弱で最も多くなっていますが、今後では「14時台」「15時以降」も約4割～4割強と多くなっています。

【未就学児童】現在及び今後の利用開始時刻と利用終了時刻【幼稚園】（単数回答）



※未就学児童：問 14 現在、定期的に利用している教育・保育事業と未就学児童：問 16 今後、定期的に利用したい教育・保育事業を比較して掲載

○今後利用したい地区は、各地区とも居住地区と同一地区での利用希望が最も多くなっています。

利用したい地区			東部地区	中部地区	西部地区	阿寒本町地区	阿寒湖温泉地区	音別地区
全体	未就学児童	n=160	21.9%	33.8%	43.8%	0.0%	0.6%	0.0%
居住地区	東部地区	n=35	97.1%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中部地区	n=56	1.8%	91.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	西部地区	n=68	0.0%	2.9%	97.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒本町地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒湖温泉地区	n=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	音別地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

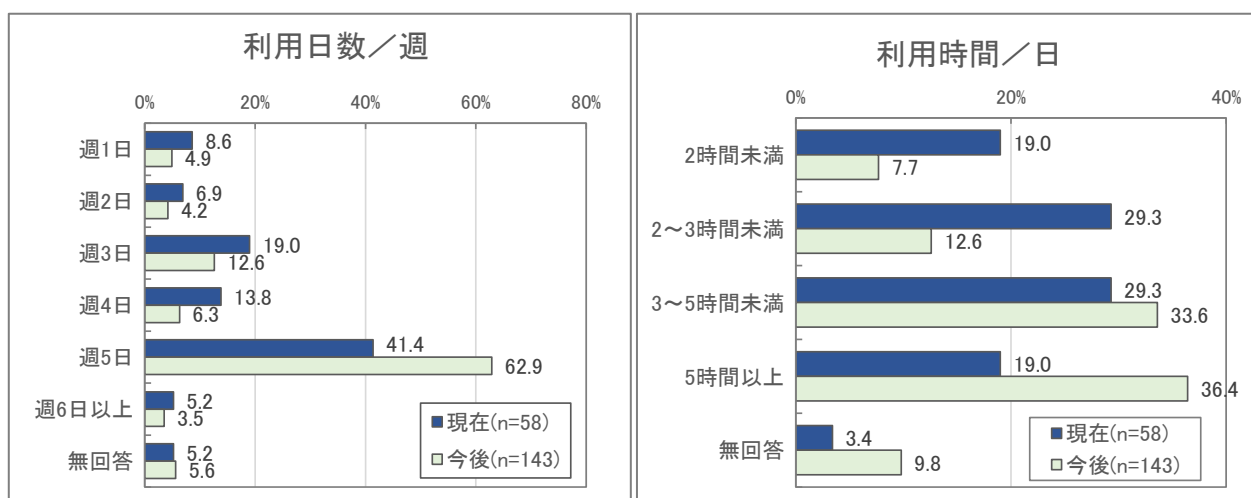
※居住地区および利用したい地区の回答が無回答、不明なものについては、集計に含めず掲載

②幼稚園の預かり保育の現在及び今後の利用日数など

○幼稚園の預かり保育の利用日数は、現在、今後とも「週5日」が4割強～6割強で最も多くなっています。

○利用時間は、現在では「2～3時間未満」「3～5時間未満」が約3割で最も多くなっていますが、今後では「5時間以上」「3～5時間未満」が3割台半ばで最も多くなっており、現在よりも利用日数を増やし、利用時間を増やしたいとの希望がみられます。

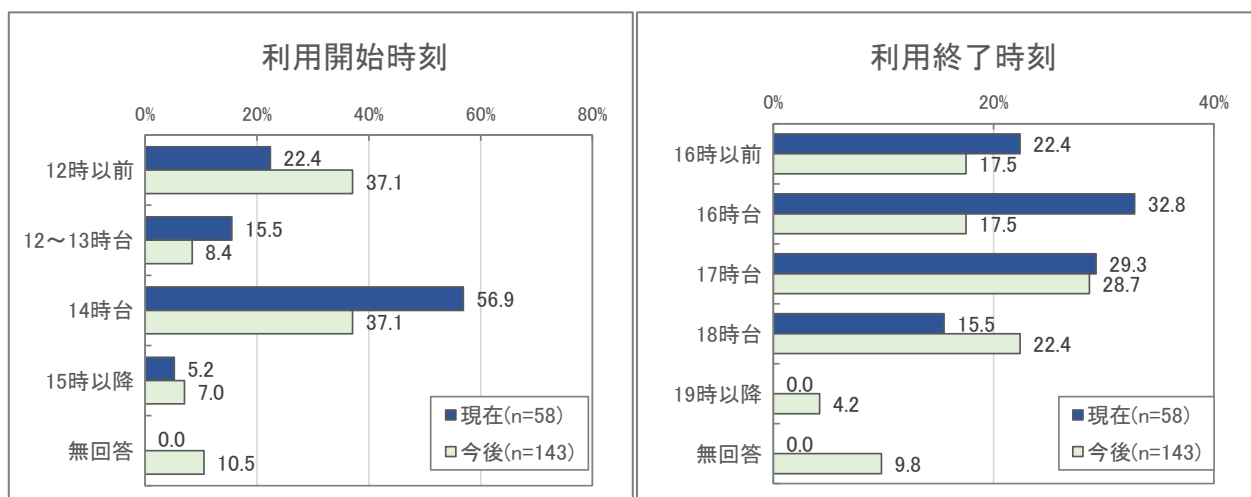
【未就学児童】現在及び今後の利用日数と利用時間【幼稚園の預かり保育】（単数回答）



○幼稚園の預かり保育の利用開始時刻は、現在、今後とも「14 時台」が 3 割台半ば～5 割台半ばで最も多くなっています。

○利用終了時刻については、現在では「16 時台」が 3 割強で最も多くなっていますが、今後については「17 時台」が 3 割弱で最も多くなっています。

【未就学児童】現在及び今後の利用開始時刻と利用終了時刻【幼稚園の預かり保育】（単数回答）



※未就学児童：問 14 現在、定期的に利用している教育・保育事業と未就学児童：問 16 今後、定期的に利用したい教育・保育事業を比較して掲載

○今後利用したい地区は、各地区とも居住地区と同一地区での利用希望が最も多くなっています。

利用したい地区			東部地区	中部地区	西部地区	阿寒本町地区	阿寒湖温泉地区	音別地区
全体	未就学児童	n=74	24.3%	29.7%	45.9%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	東部地区	n=17	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中部地区	n=21	4.8%	95.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	西部地区	n=36	0.0%	5.6%	94.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒本町地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒湖温泉地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	音別地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

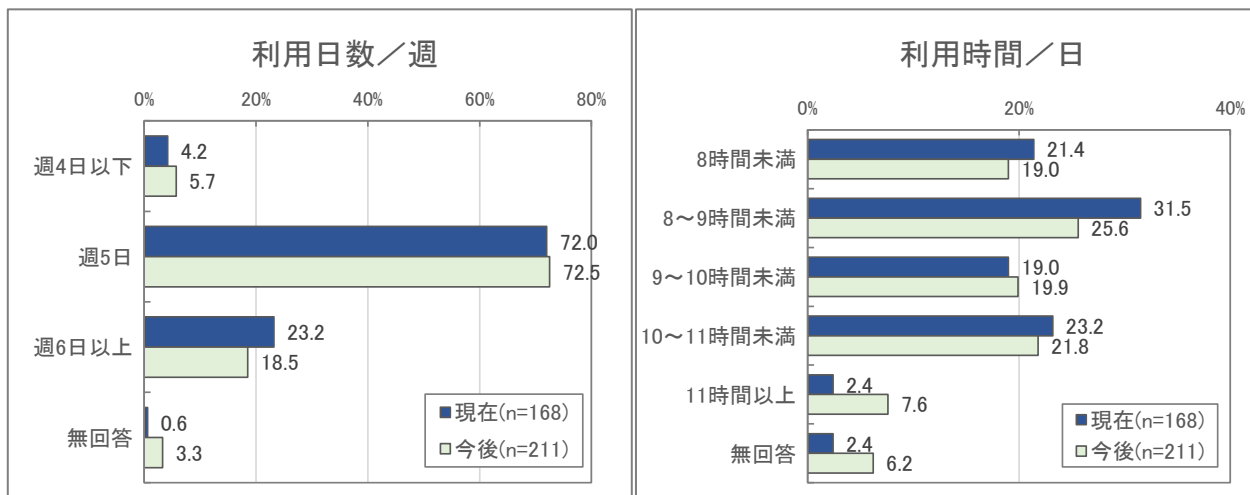
※居住地区および利用したい地区の回答が無回答、不明なものについては、集計に含めず掲載

③認可保育所の現在及び今後の利用日数など

○認可保育所の利用日数は、現在、今後とも「週5日」が7割強で最も多くなっています。

○利用時間は、現在、今後とも「8～9時間未満」が2割台半ば～3割強と最も多くなっています。

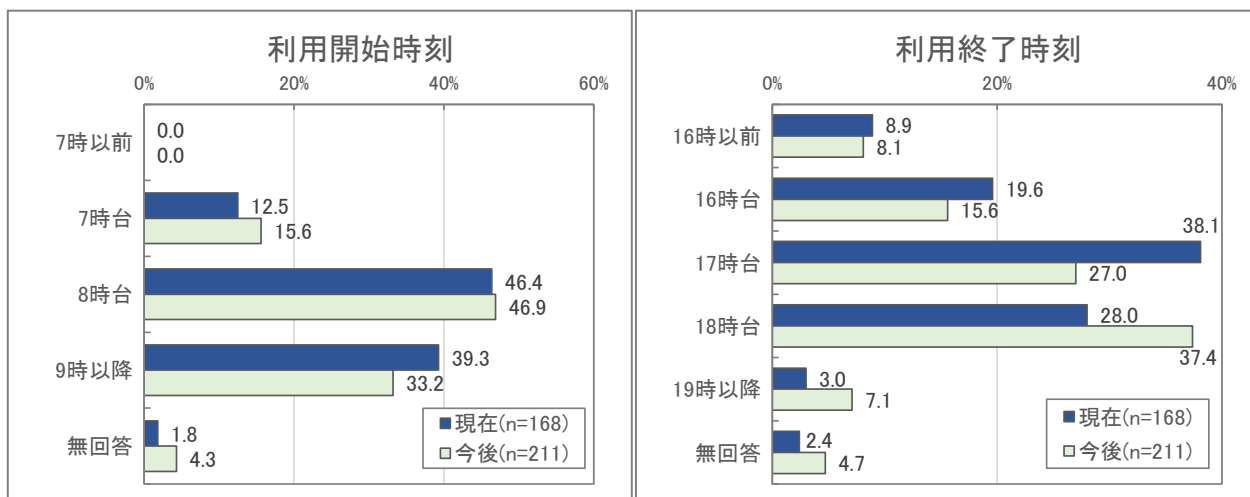
【未就学児童】現在及び今後の利用日数と利用時間【認可保育所】（単数回答）



○認可保育所の利用開始時刻は、現在、今後とも「8時台」が4割台半ばで最も多くなっています。

○利用終了時刻については、現在では「17時台」が4割弱で最も多く、次いで「18時台」が3割弱となっていますが、今後では、「18時台」が4割弱で最も多く、次いで「17時台」が3割弱となっています。

【未就学児童】現在及び今後の利用開始時刻と利用終了時刻【認可保育所】（単数回答）



※未就学児童：問14 現在、定期的に利用している教育・保育事業と未就学児童：問16 今後、定期的に利用したい教育・保育事業を比較して掲載

○今後利用したい地区は、各地区とも居住地区と同一地区での利用希望が最も多くなっています。

利用したい地区			東部地区	中部地区	西部地区	阿寒本町地区	阿寒湖温泉地区	音別地区
居住地区	未就学児童	n=115	20.0%	34.8%	45.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	東部地区	n=26	88.5%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中部地区	n=35	0.0%	91.4%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	西部地区	n=54	0.0%	9.3%	90.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒本町地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒湖温泉地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	音別地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

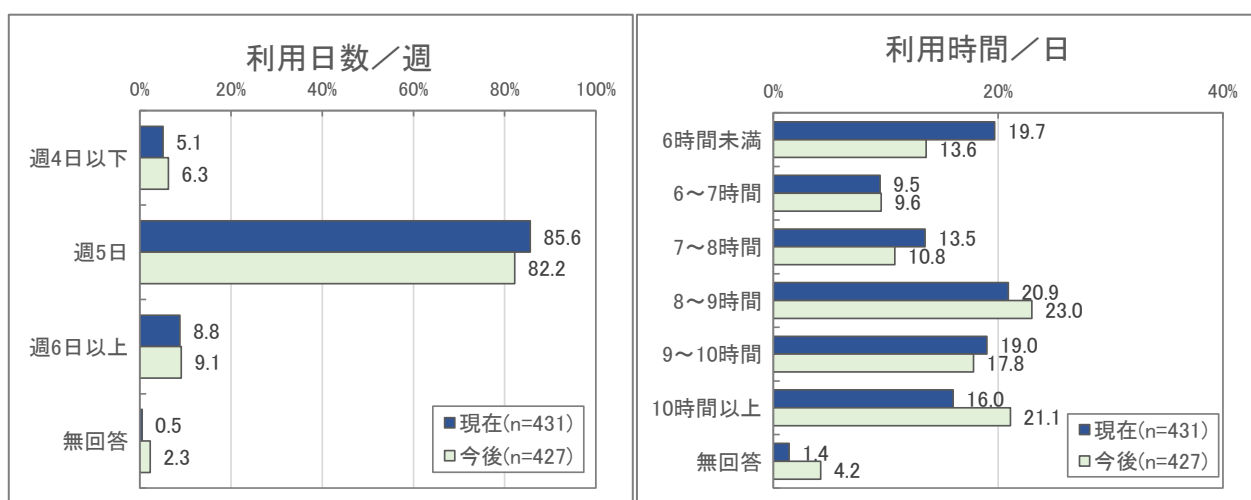
※居住地区および利用したい地区の回答が無回答、不明なものについては、集計に含めず掲載

④認定こども園の現在及び今後の利用日数など

○認定こども園の利用日数は、現在、今後とも「週5日」が8割台で最も多くなっています。

○利用時間は、現在、今後とも「8～9時間」が2割台で最も多くなっていますが、今後では、次いで「10時間以上」が2割強で多くなっています。

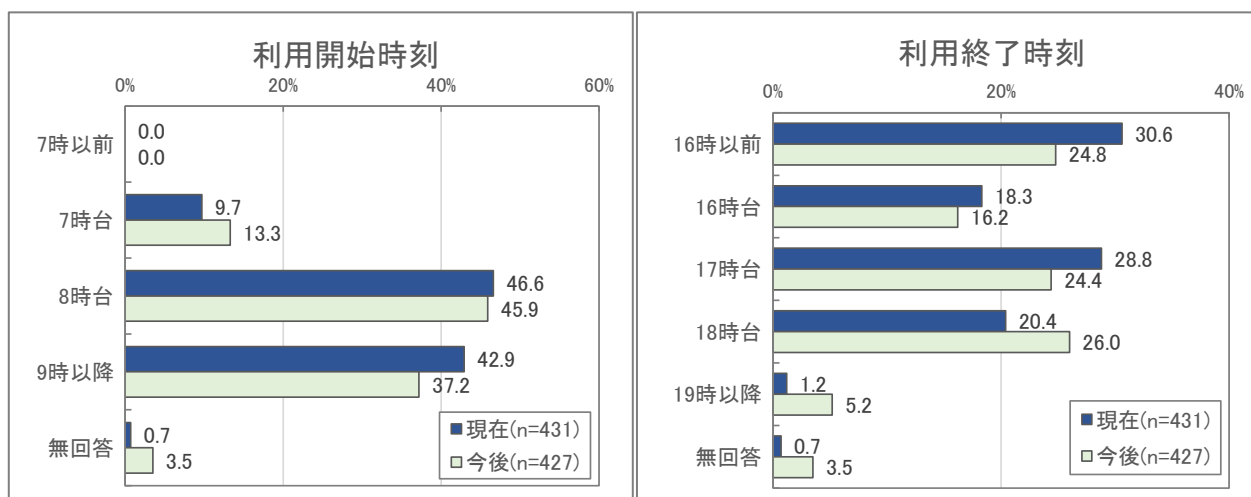
【未就学児童】現在及び今後の利用日数と利用時間【認定こども園】（単数回答）



※未就学児童：問 14 現在、定期的に利用している教育・保育事業と未就学児童：問 16 今後、定期的に利用したい教育・保育事業を比較して掲載

- 認定こども園の利用開始時刻は、現在では「8時台」「9時以降」が4割台と多くなっていますが、今後では「8時台」が4割台半ばで最も多くなっています。
- 利用終了時刻については、現在では「16時以前」が約3割で最も多くなっていますが、今後では「18時台」「16時以前」「17時台」がいずれも2割台半ばとなっています。

【未就学児童】現在及び今後の利用開始時刻と利用終了時刻【認定こども園】（単数回答）



※未就学児童：問 14 現在、定期的に利用している教育・保育事業と未就学児童：問 16 今後、定期的に利用したい教育・保育事業を比較して掲載

- 今後利用したい地区は、各地区とも居住地区と同一地区での利用希望が最も多くなっています。

利用したい地区			東部地区	中部地区	西部地区	阿寒本町地区	阿寒湖温泉地区	音別地区
居住地区	未就学児童	n=222	29.7%	33.8%	34.2%	0.0%	0.0%	1.2%
	東部地区	n=70	88.6%	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中部地区	n=67	6.0%	89.6%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	西部地区	n=80	0.0%	8.8%	91.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒本町地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	阿寒湖温泉地区	n=0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	音別地区	n=4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※居住地区および利用したい地区の回答が無回答、不明なものについては、集計に含めず掲載

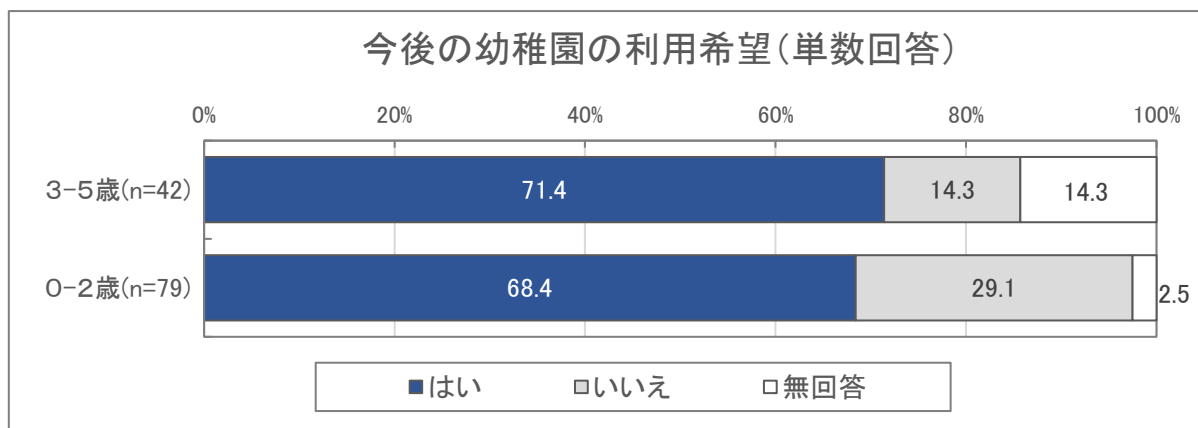
(6) 今後の幼稚園の利用希望

●未就学児童：問 16-1

問 16 で「1. 幼稚園」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつ「3.」～「11.」にも○をつけた人のみ

特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（あてはまる番号 1 つに○）

○ 3～5 歳、0～2 歳とも「はい」が 7 割前後と多くなっています。



2.5 休日等の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

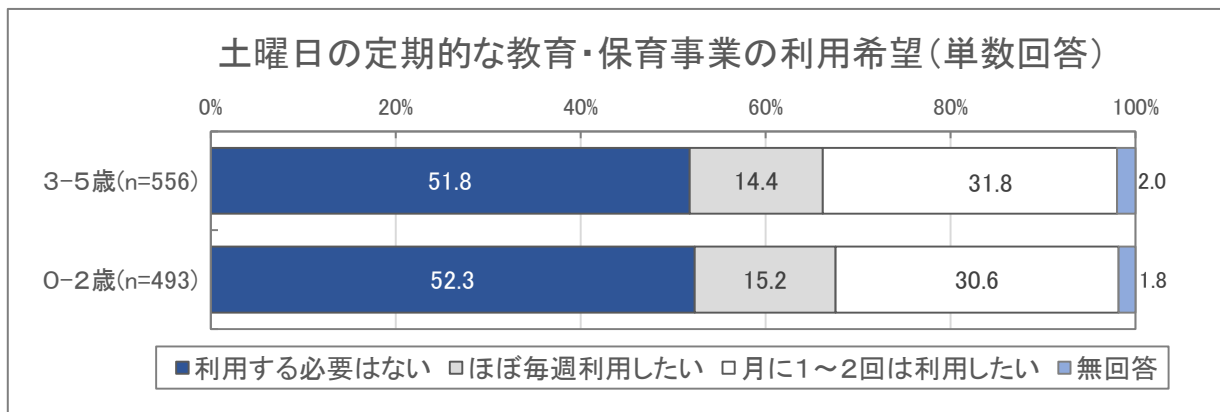
(1) 土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

●未就学児童：問 17

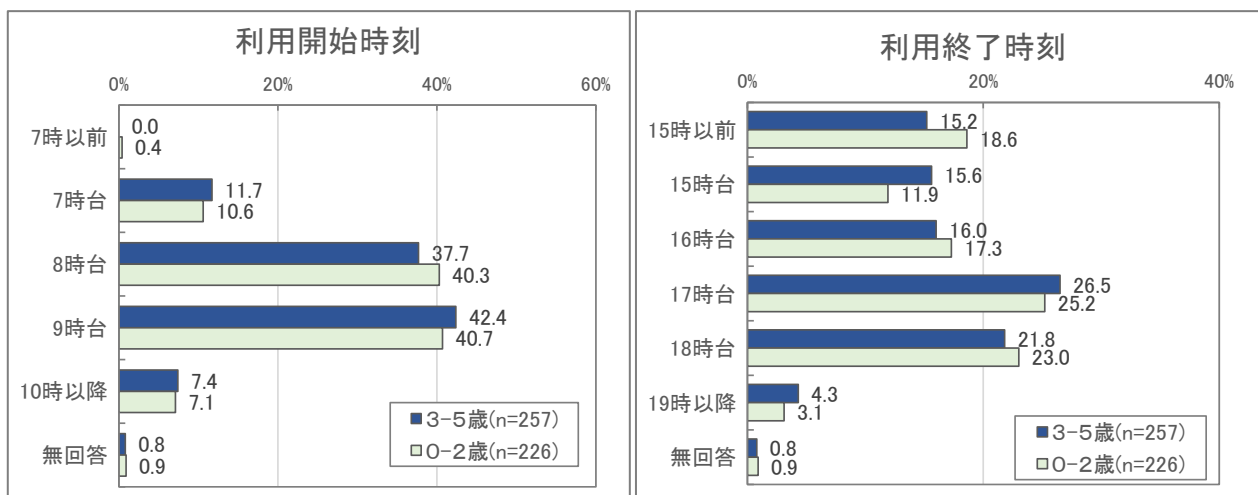
あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日の、定期的な教育・保育事業の利用希望について、あてはまる番号1つに○をつけ、利用希望がある場合は、利用したい時間帯を例：9時～18時のように24時間制でご記入ください。

①土曜日

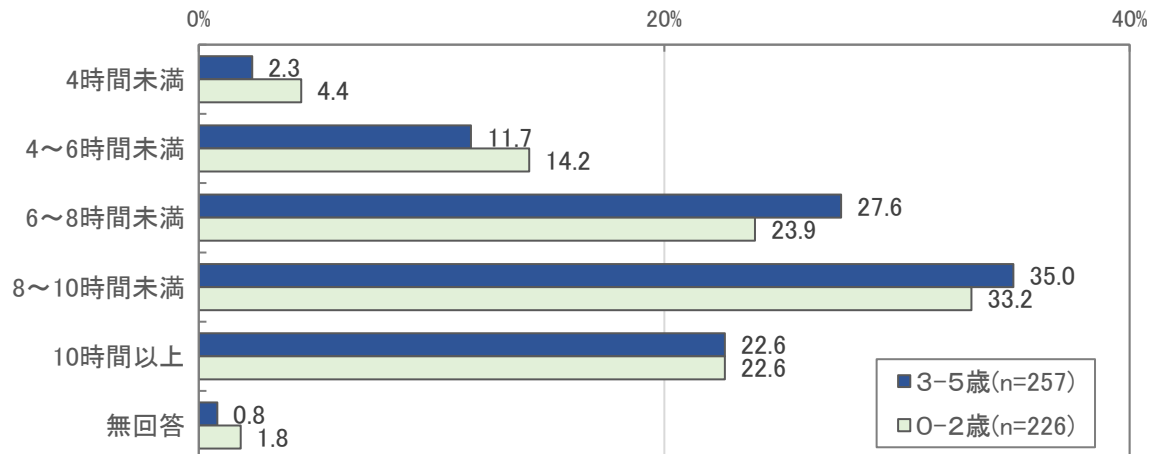
- 土曜日は、3～5歳、0～2歳とも「利用する必要はない」が5割強で最も多くなっていますが、“利用したい”（「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合計）も4割台半ばとなっています。
- 希望する利用開始時刻は「9時台」が4割台で最も多く、次いで「8時台」が3割台～約4割となっています。
- 希望する利用終了時刻は「17時台」が2割台半ばと最も多く、次いで「18時台」が2割強で多くなっています。
- 利用希望時間は「8～10時間未満」が3割台で最も多くなっています。



利用したい時間帯【土曜日の定期的な教育・保育事業】（単数回答）



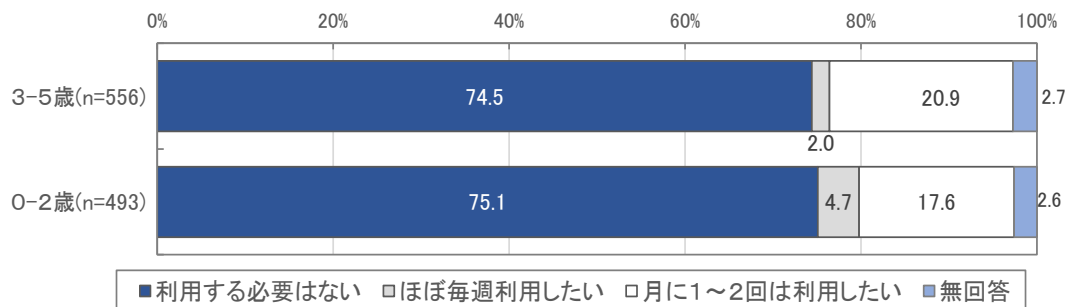
利用希望時間【土曜日の定期的な教育・保育事業】(単数回答)



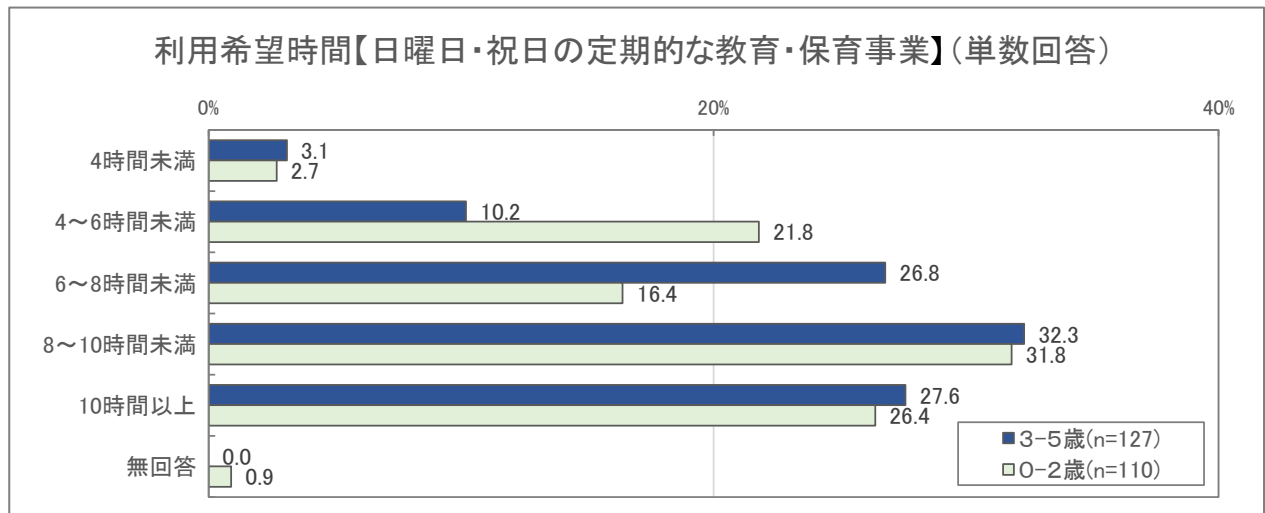
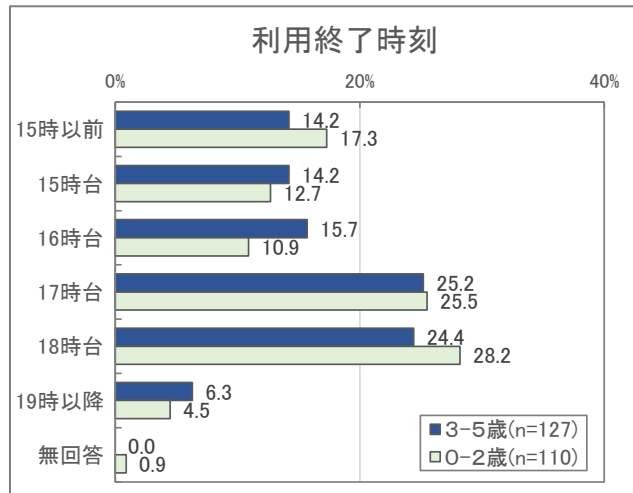
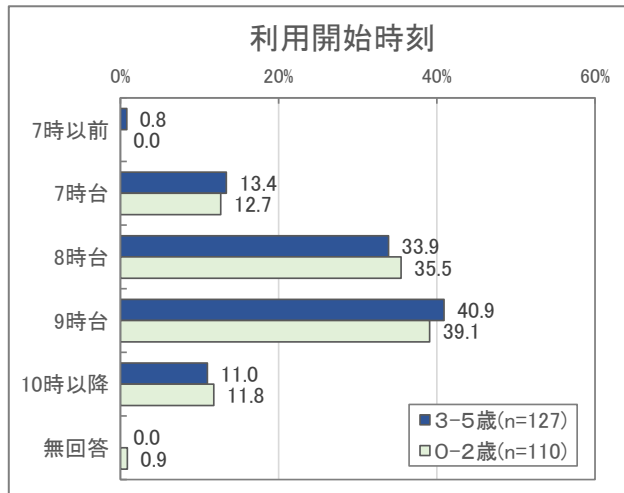
②日曜日・祝日

- 日曜日・祝日は、「利用する必要はない」が7割台半ばで最も多くなっています。
- 「月に1～2回は利用したい」は1割台半ば～約2割、「ほぼ毎週利用したい」はわずかと、土曜日に比べて利用希望は少ない結果となっています。
- 希望する利用開始時刻は「9時台」が約4割、「8時台」が3割台半ばで多くなっています。
- 希望する利用終了時刻は「17時台」「18時台」が2割台半ば～3割弱で多くなっています。
- 利用希望時間は「8～10時間未満」が3割強で最も多く、次いで「10時間以上」が2割台半ばで多くなっています。

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望(単数回答)



利用したい時間帯【日曜児・祝日の定期的な教育・保育事業】（単数回答）



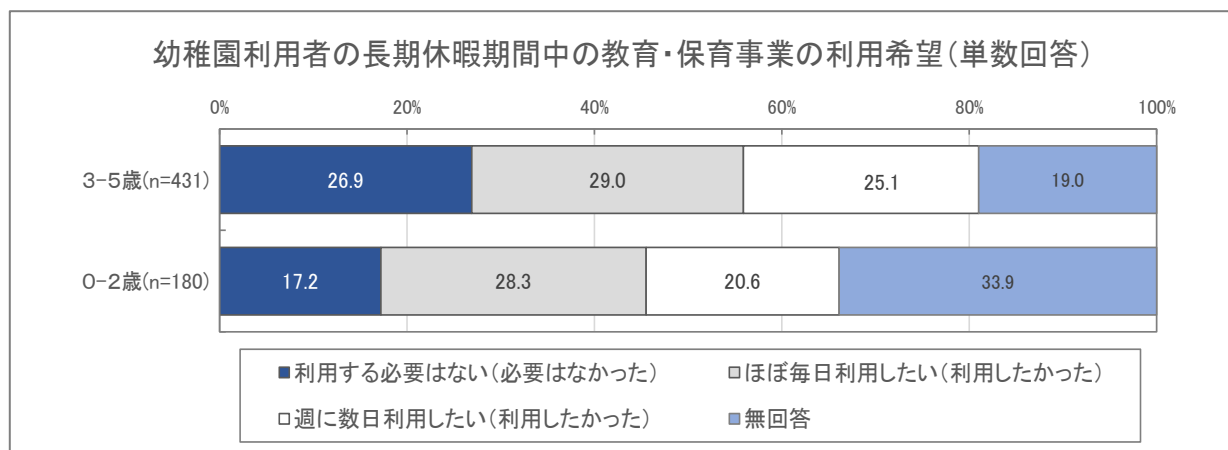
(2) 幼稚園利用者の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

●未就学児童：問 18

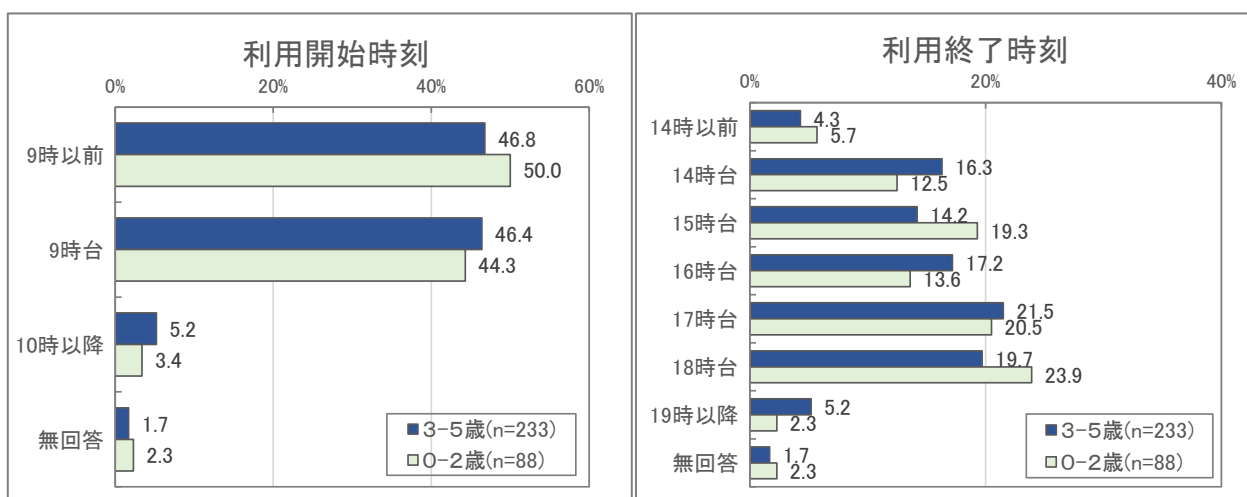
「幼稚園（認定こども園の教育部分を含む）」を利用されている方のみ

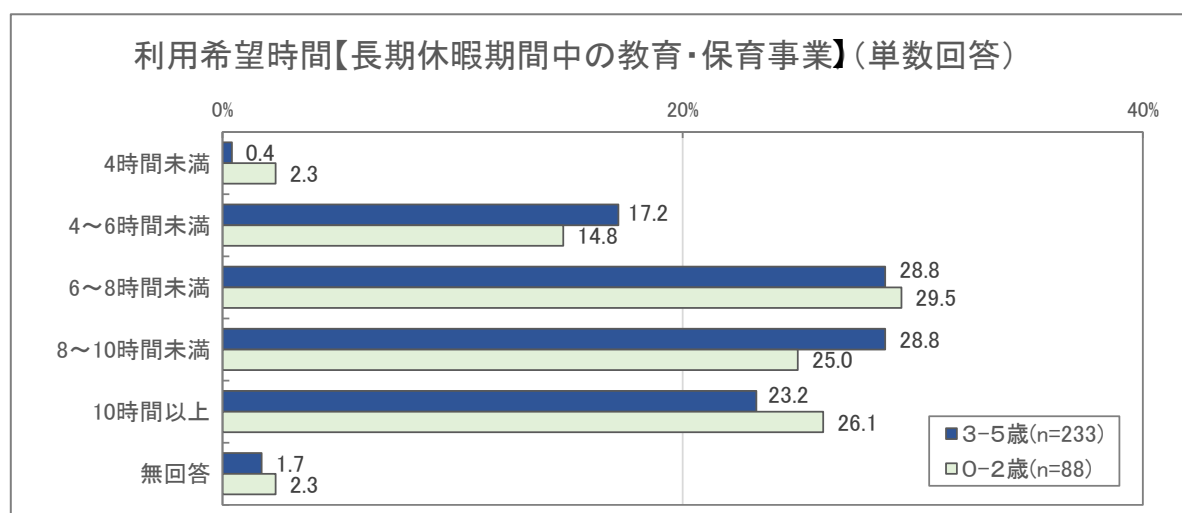
夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望について、あてはまる番号 1 つに○をつけ、利用希望がある場合は、利用したい時間帯を例：9 時～18 時のように 24 時間制でご記入ください。

- 3～5 歳、0～2 歳とも無回答を除いて「ほぼ毎日利用したい（利用したかった）」が 2 割台半ば～約 3 割で多くっており、「利用したい」（「ほぼ毎日利用したい（利用したかった）」と「週に数日利用したい（利用したかった）」の合計）は 5 割弱～5 割台半ばを占めています。
- 希望する利用開始時刻は、「9 時以前」と「9 時台」が 4 割台半ば～約 5 割で多くなっています。
- 希望する利用終了時刻は、3～5 歳では「17 時台」、0～2 歳では「18 時台」がそれぞれ 2 割台で最も多くなっています。
- 利用希望時間は 3～5 歳では「6～8 時間未満」「8～10 時間未満」が 3 割弱で最も多く、0～2 歳では「6～8 時間未満」「10 時間以上」「8～10 時間未満」が 2 割台で多くなっています。



利用したい時間帯【長期休暇期間中の教育・保育事業】(単数回答)





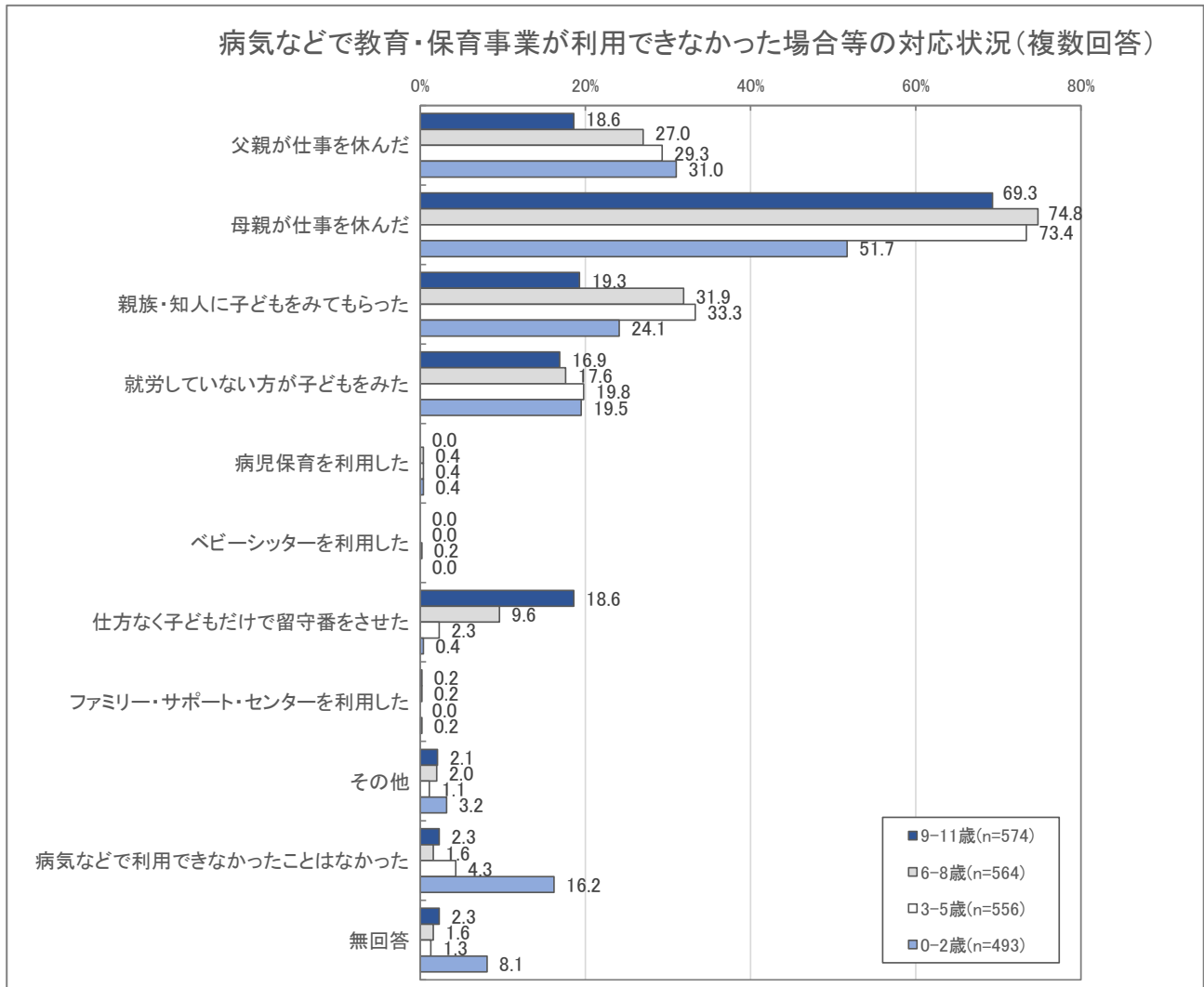
2.6 病気などの際の対応について

(1) 病気などで教育・保育事業が利用できなかった場合等の対応状況

●未就学児童：問 19 [就学児童：問 14]

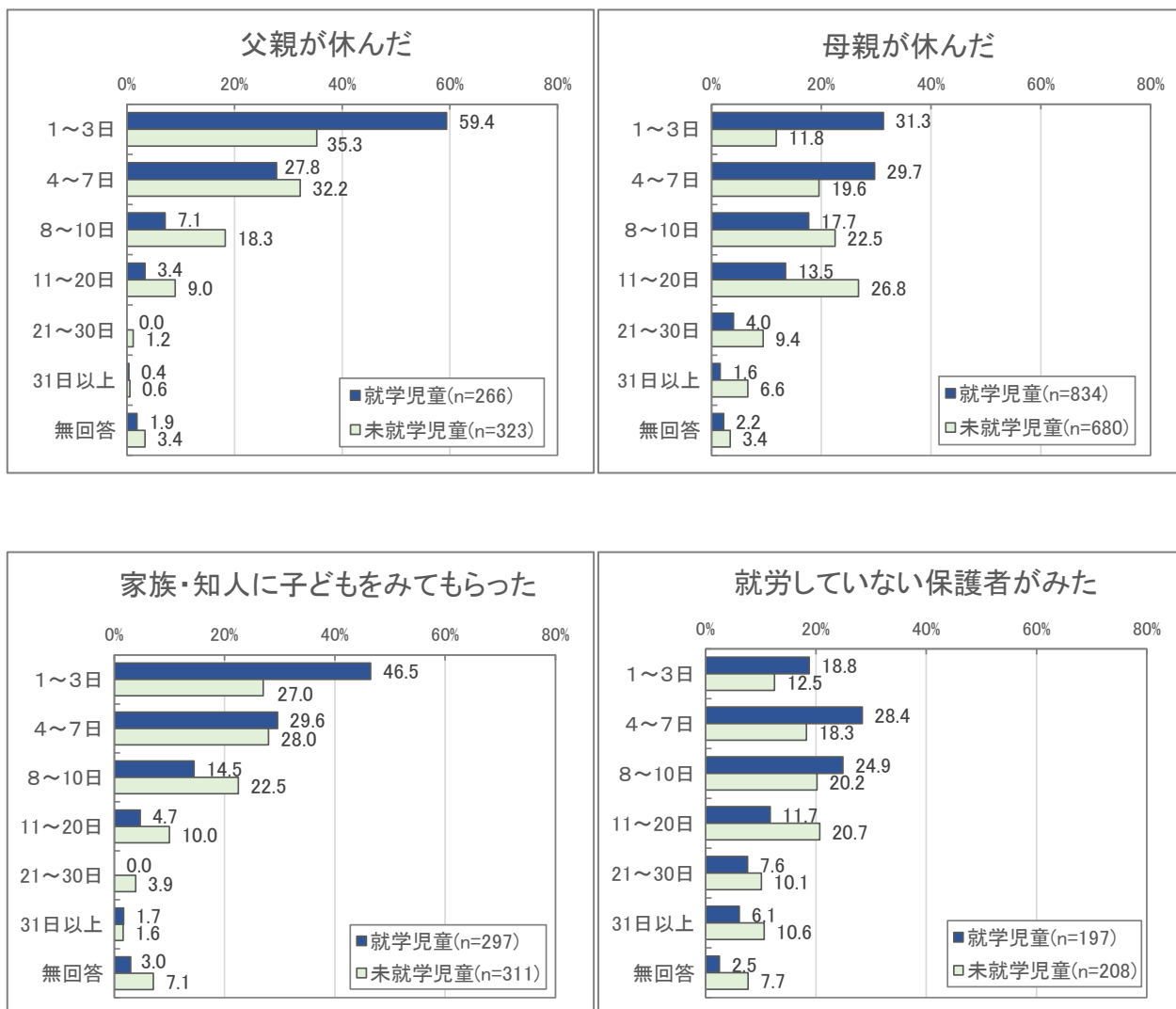
この1年間に、あて名のお子さんが病気などで普段利用している教育・保育事業が利用できなかった際〔学校を休んだ際〕の対処方法として、あてはまる番号すべてに○をつけ、() 内にそれぞれの日数をご記入ください。

- 「母親が仕事を休んだ」が5割強～7割台半ば、「親族・知人に子どもをみてもらった」「父親が仕事を休んだ」が2割弱～3割強で多くなっています。また、9～11歳では「仕方なく子どもだけで留守番させた」が2割弱と他の年齢区分に比べて多くなっています。
- 0～2歳では「病気などで利用できなかったことはなかった」が1割台半ばと他の年齢区分に比べて多くなっています。



○対処方法別の年間の日数については、全体的な傾向として10日以内が多いものの、「母親が休んだ」「家族・知人に子どもをみてもらった」「就労していない保護者がみた」では「11～20日」やそれ以上という回答も一定数みられ、特に「就労していない保護者がみた」では長期的に対処できている傾向がみられます。

病気などで教育・保育事業が利用できなかった場合等の各対処日数／年（単数回答）



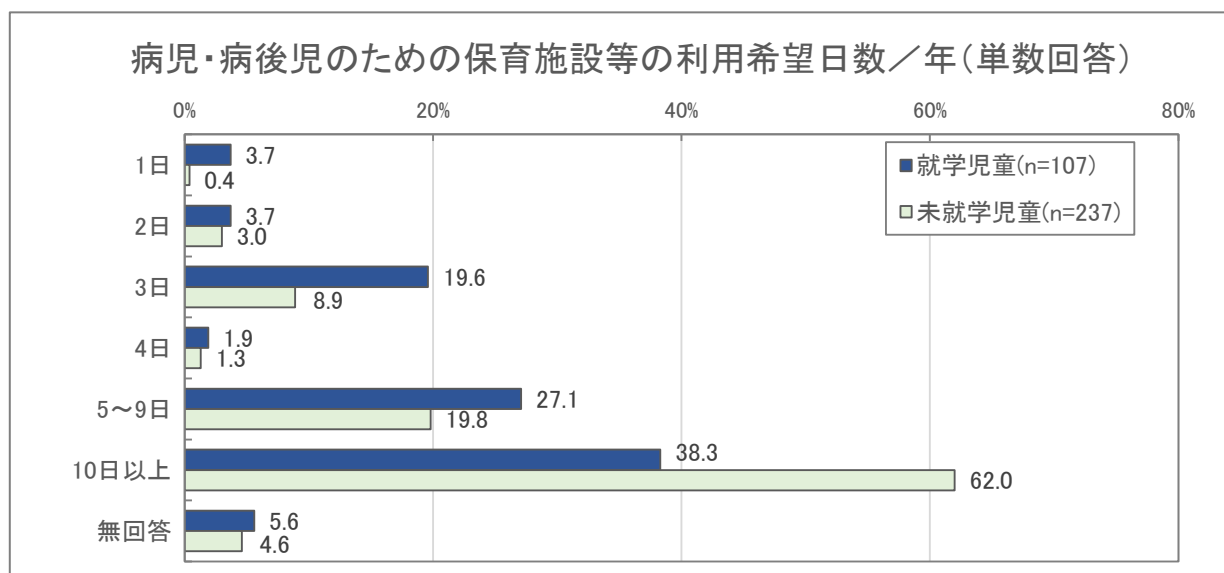
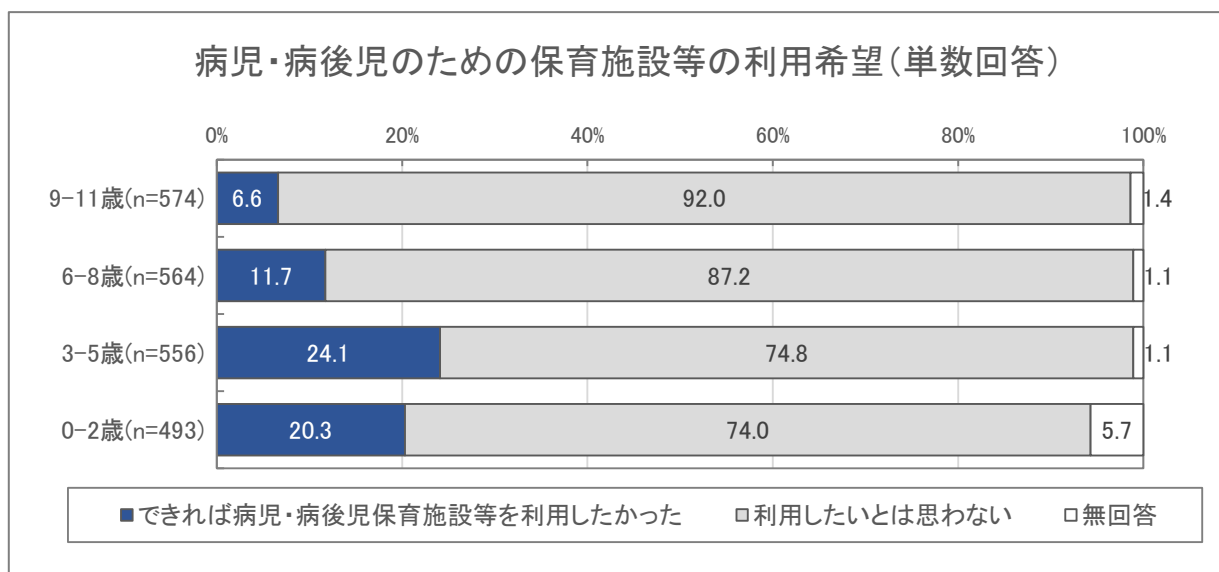
※「父親が休んだ」「母親が休んだ」「親族・知人に子どもをみてもらった」「就労していない保護者がみた」以外については、サンプル数が十分ではなかったため分類しない。

(2) 病児・病後児のための保育施設等の利用希望

●未就学児童：問 20 [就学児童：問 15]

あて名のお子さんが、病気などで普段利用している教育・保育事業が利用できなかった際[病気などで学校を休んだりした際]、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。あてはまる番号1つに○をつけ、利用しなかった日数についてご記入ください。

- 「利用したいとは思わない」が7割台半ば～9割強と多くなっているものの、5歳以下では「できれば病児・病後児保育施設等を利用したかった」が2割台となっているなど、一定数の利用希望がみられます。
- 希望する年間利用日数については、未就学児童では「10日以上」が6割強、就学児童では4割弱と最も多くなっており、次いで、「5～9日」が約2割～3割弱となっています。



(3) 病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由

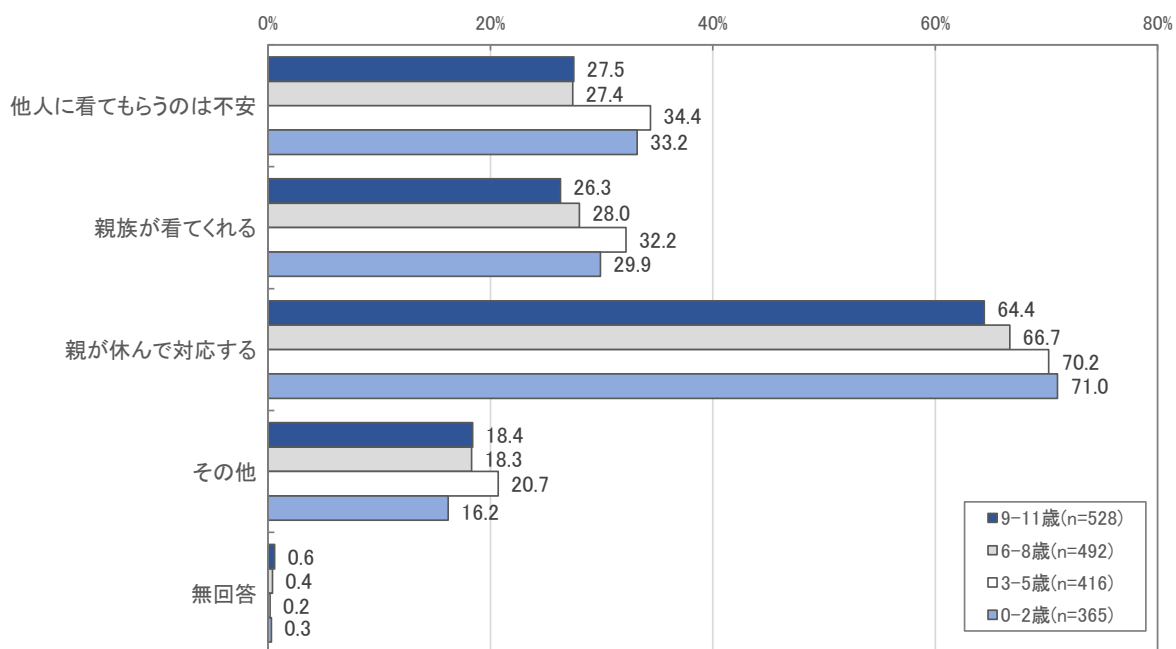
●未就学児童：問 20-1 [就学児童：問 15-1]

問 20 [問 15] で「2.」(利用したいとは思わない) と回答した人のみ

その理由についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

○「親が休んで対応する」が6割台半ば～約7割、「親族が看てくれる」が2割台半ば～3割強となっています。

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由(複数回答)



(4) お子さんの病気等の際に会社を休むハードル

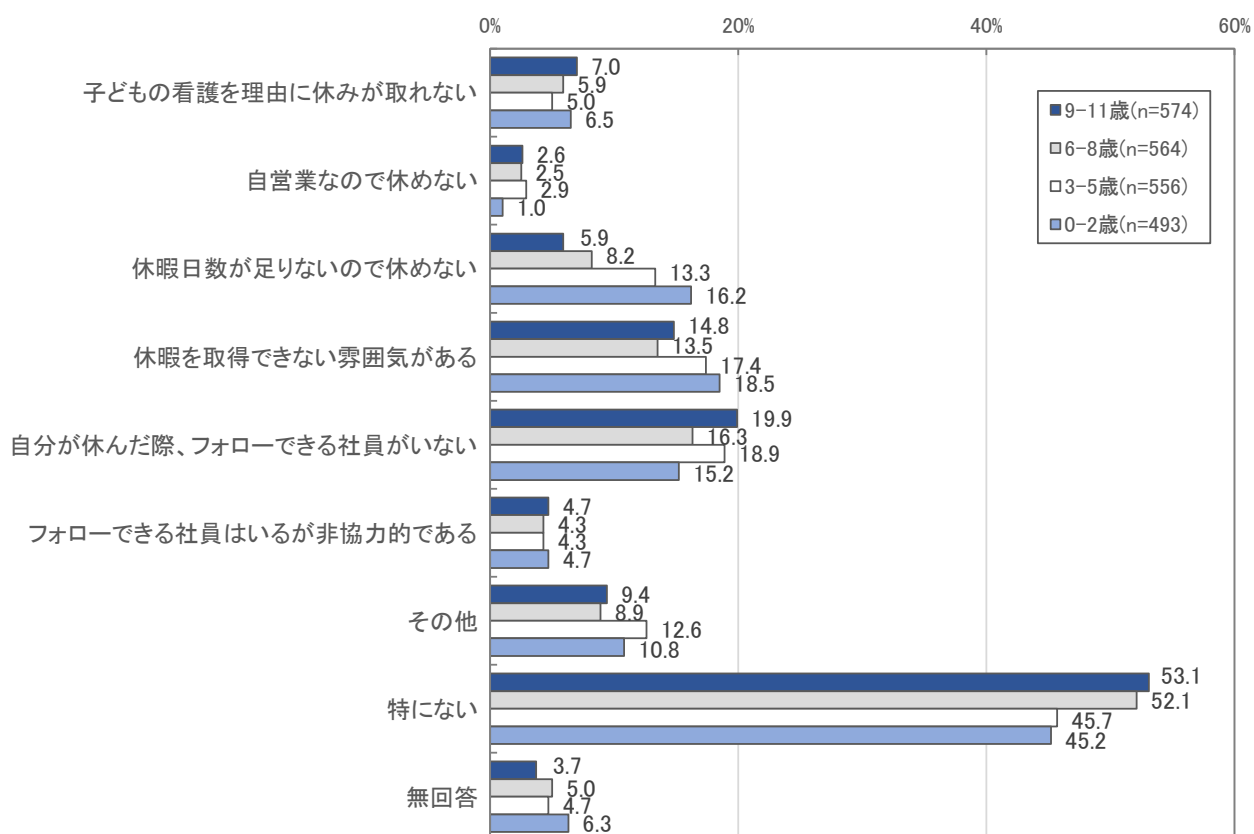
●未就学児童：問 21 [就学児童：問 16]

お子さんが病気などになったときの、会社を休む際のハードルについてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

- 「休暇を取得できない雰囲気がある」と「自分が休んだ際、フォローできる社員がいない」が1割台半ば～約2割で多くなっています。
- 「その他」の内容としては、「有休が無く給与が減ってしまう」「職場に迷惑がかかり申し訳ない」「連日だと言出しにくい」「就労していない」などがあげられています。

お子さんの病気等の際に会社を休むハードル(複数回答)



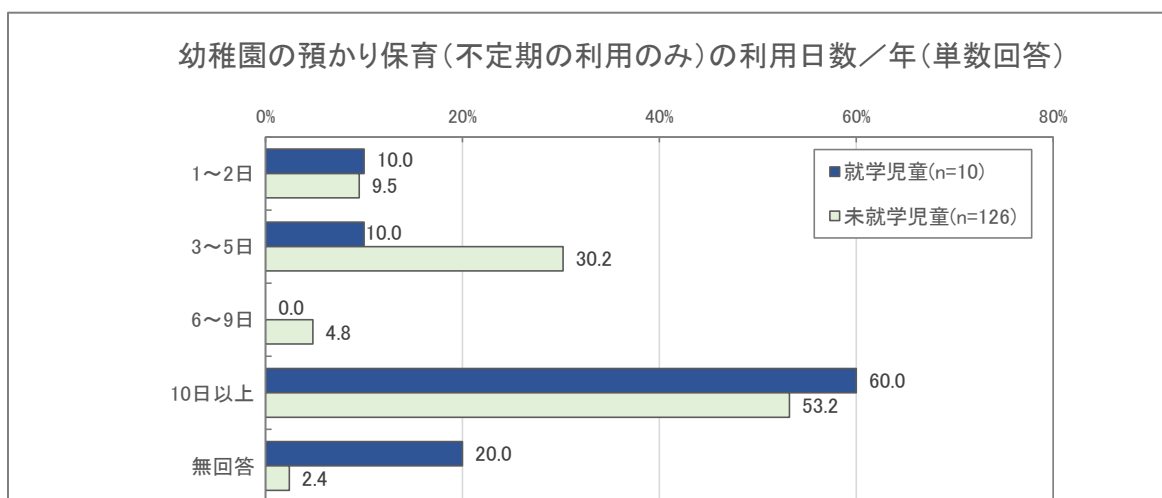
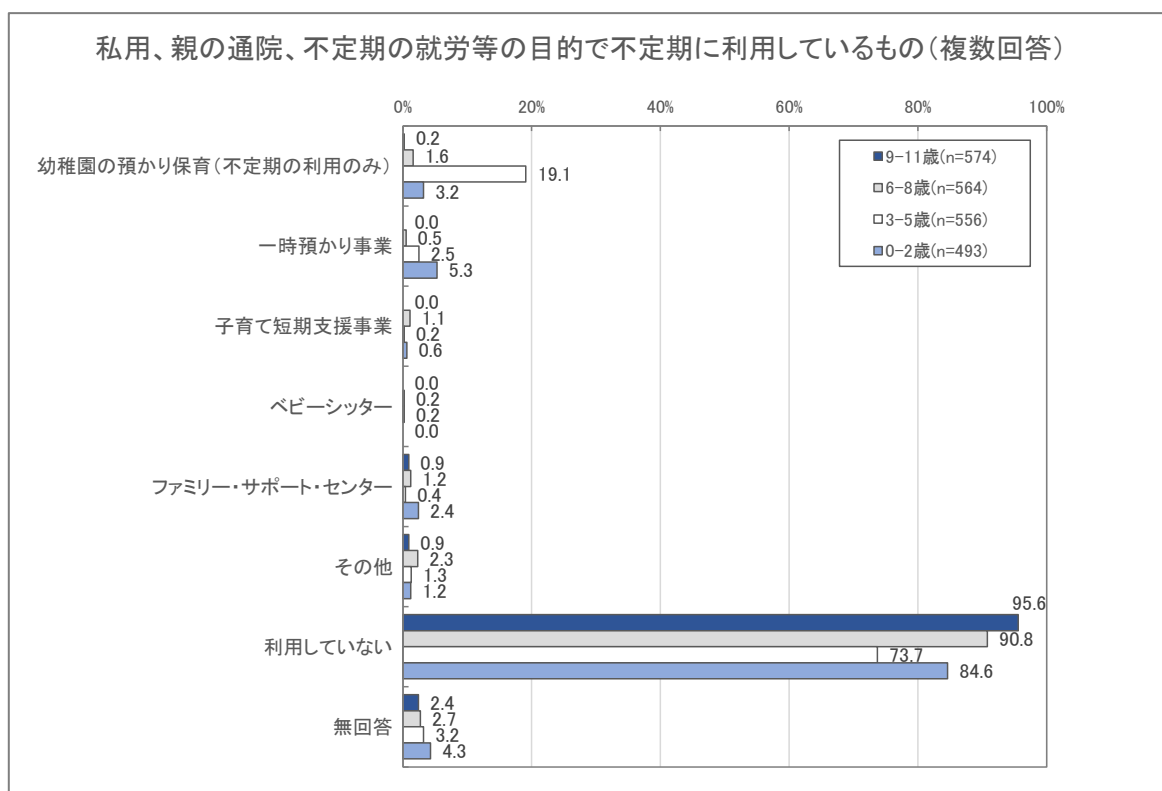
2.7 不特定の教育・保育事業の利用について

(1) 不特定の教育・保育事業の利用有無

●未就学児童：問 22〔就学児童：問 17〕

あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用しているものについてお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）をご記入ください。

- 「利用していない」が7割台半ば～9割台半ばで最も多くなっていますが、3～5歳については、「幼稚園の預かり保育（不特定の利用のみ）」について約2割の利用があります。
- 「幼稚園の預かり保育（不特定の利用のみ）」の年間の利用日数については、未就学児童で「10日以上」が5割強、就学児童では6割と最も多くなっています。



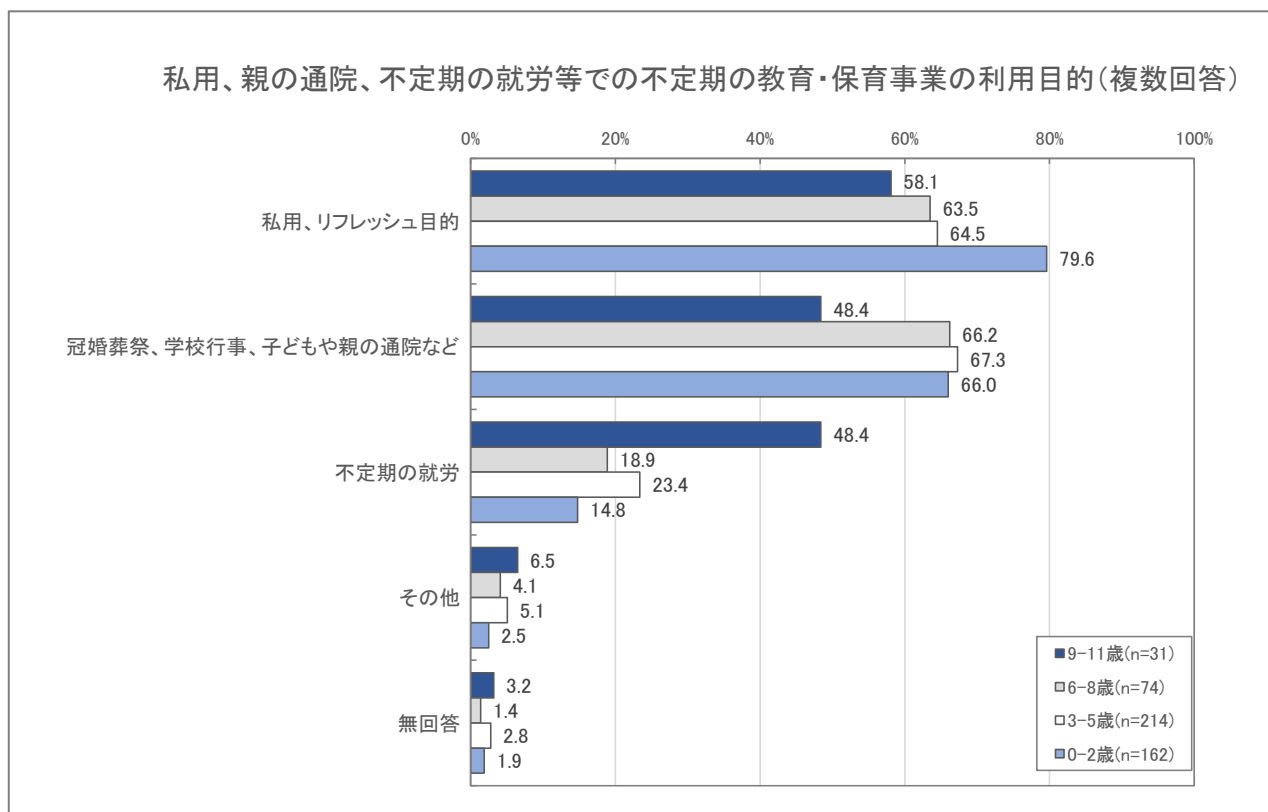
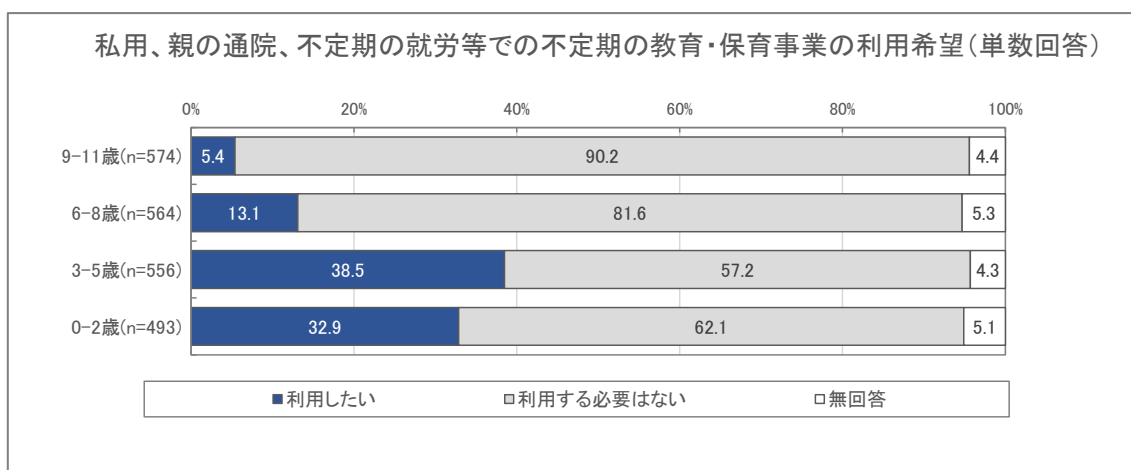
※「幼稚園の預かり保育（不特定の利用のみ）」以外については、サンプル数が十分でないため分類しない。

(2) 私用、親の通院・不定期就労等での不定期の教育・保育事業の利用希望

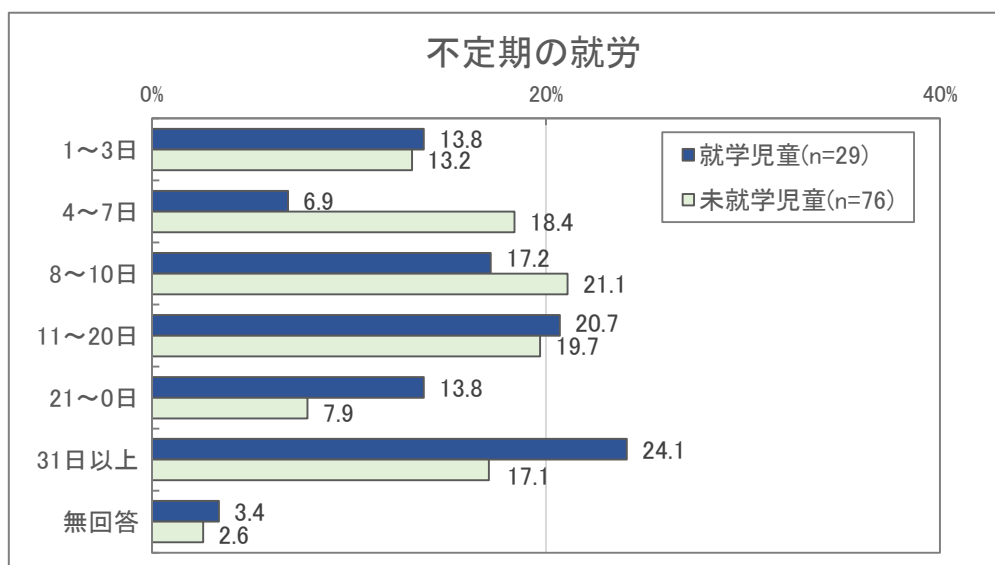
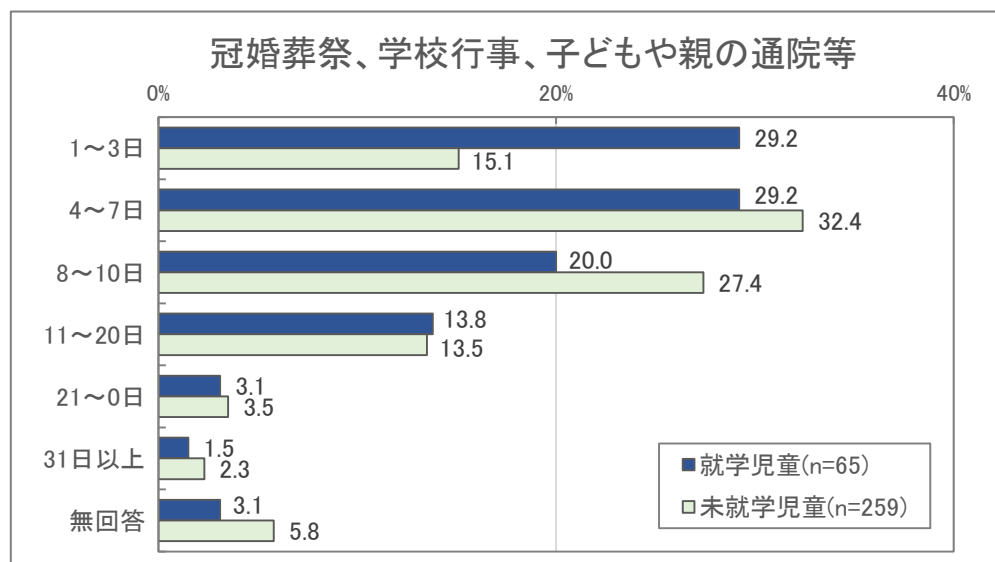
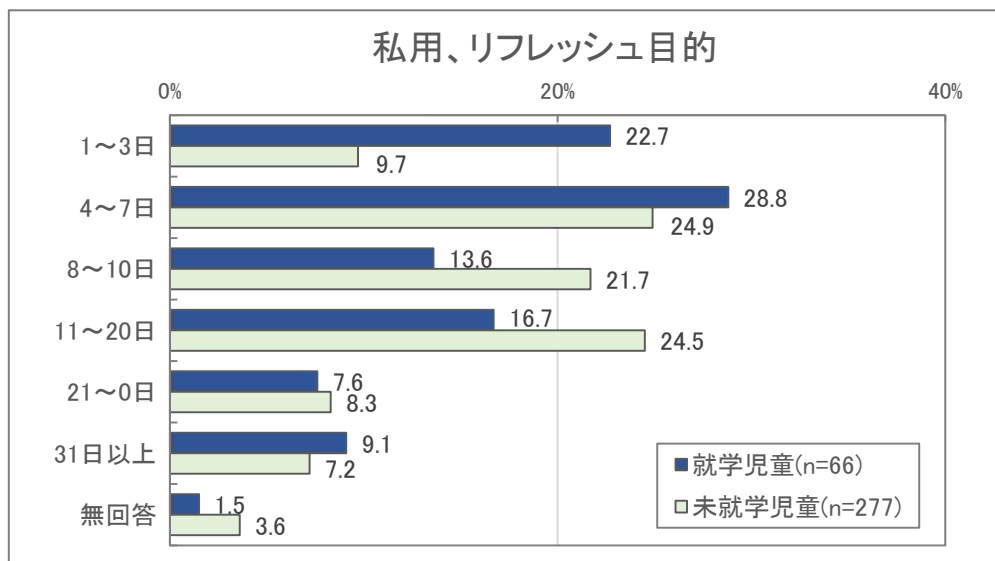
●未就学児童：問 23 [就学児童：問 18]

あて名のお子さんについて、私用、親の通院・不定期の就労等で、年間何日くらい問 22 [問 17]の事業を利用する必要があるかお答えください。あてはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください。

- 「利用する必要はない」が多くなっていますが、3～5歳は4割弱、0～2歳は3割強が「利用したい」と回答しています。
- 「利用したい」と回答した人の利用目的については、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」が5割弱～7割弱、「私用、リフレッシュ目的」が6割弱～約8割で多くなっています。



不定期の教育・保育事業の利用目的別の利用希望日数／年（単数回答）



※「その他」については、サンプル数が十分ではなかったため分類しない。

(3) 子どもを預ける場合の望ましい事業形態

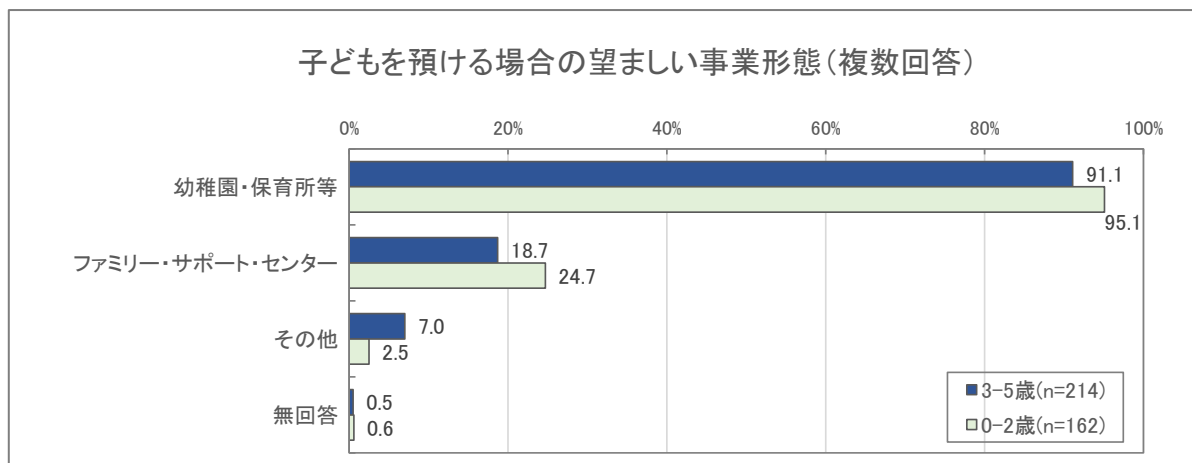
●未就学児童：問 23-1

問 23 で「1.」(利用したい) と回答した人のみ

お子さんを預ける場合の望ましい事業形態について、お答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

○「幼稚園・保育所等」が9割台で最も多くなっています。



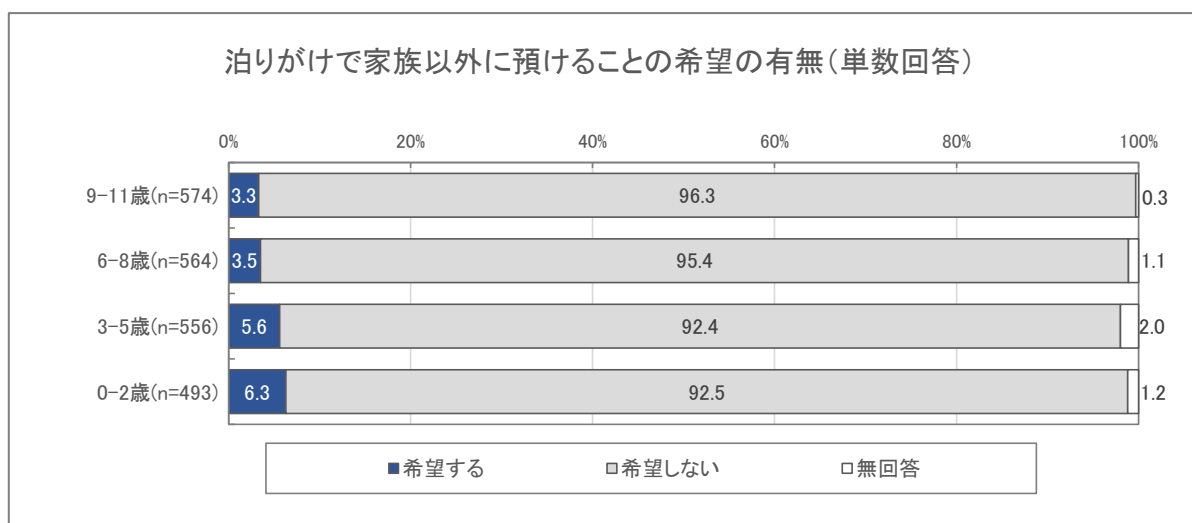
(4) 泊りがけで家族以外に預けることの希望の有無

●未就学児童：問 24 [就学児童：問 19]

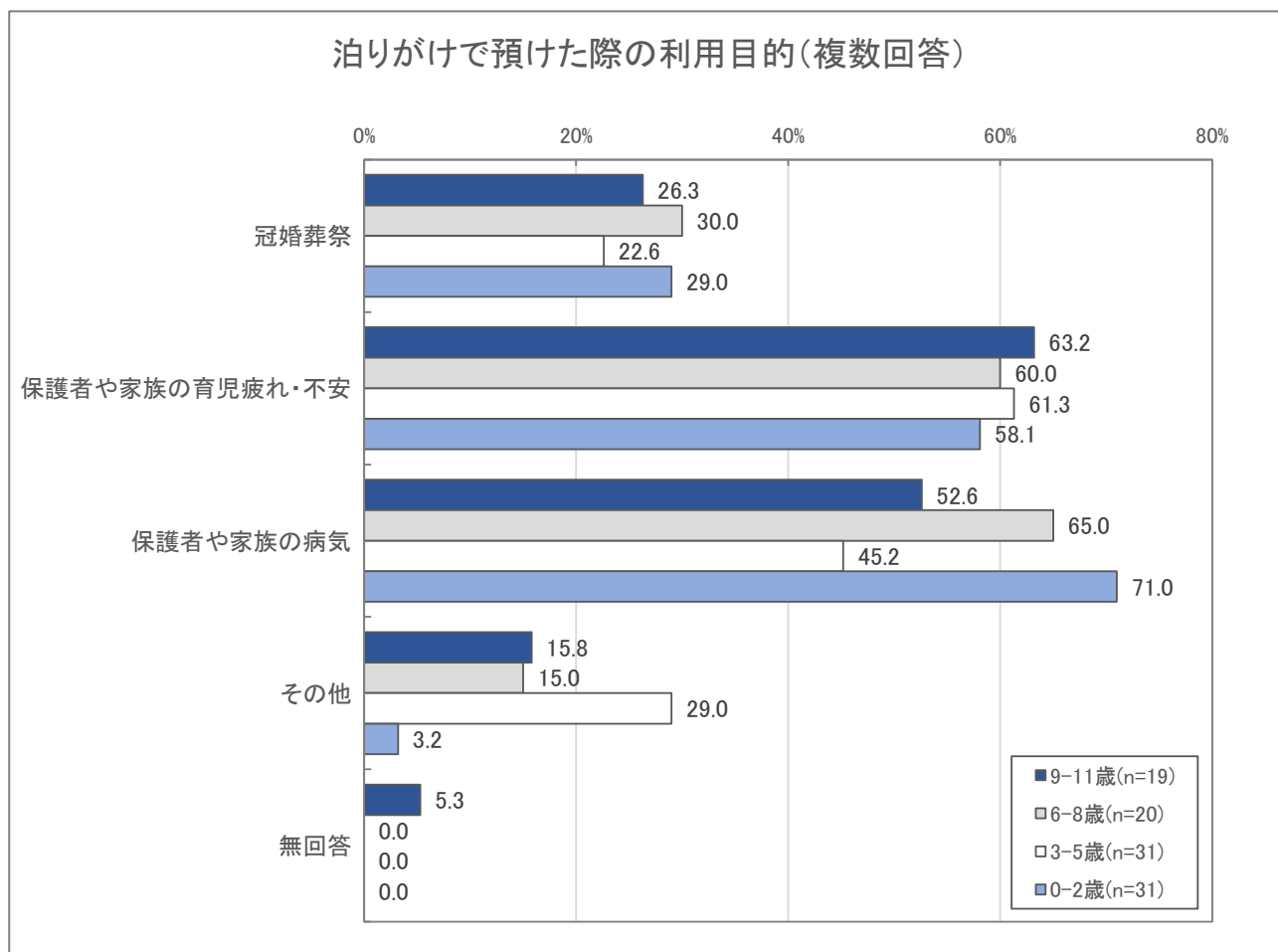
あて名のお子さんを泊りがけで家族以外(子育て短期支援事業(ショートステイ):児童養護施設等で一時的に子どもを預かる事業)に預けることを希望しますか。

希望する場合は、年間何日くらい希望があるのかあてはまる番号に○をつけ、それぞれの泊数をご記入ください。

○「希望しない」が9割台で最も多くなっていますが、年齢の低下とともに、「希望する」割合が増えている傾向がみられます。



○泊りがけで預けることを希望する場合の利用目的については、0～2歳では「保護者や家族の病気」が約7割と最も多く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」が6割弱となっています。3～5歳では「保護者や家族の育児疲れ・不安」が6割台と最も多く、次いで「保護者や家族の病気」が4割台半ばとなっています。就学児童の年代では、「保護者や家族の病気」「保護者や家族の育児疲れ・不安」がいずれも5割強から6割台半ばとなっています



※それぞれの日数についてはサンプル数が十分ではないため分類しない。

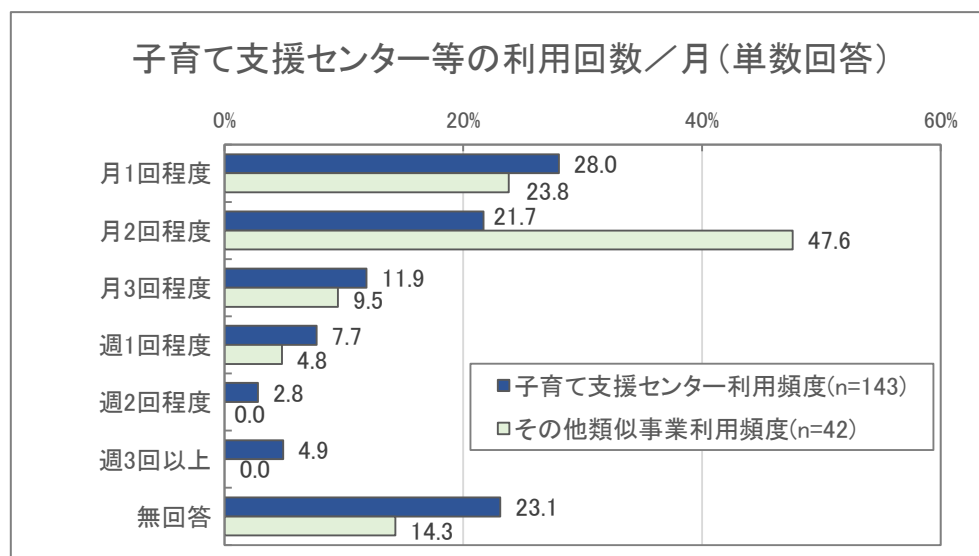
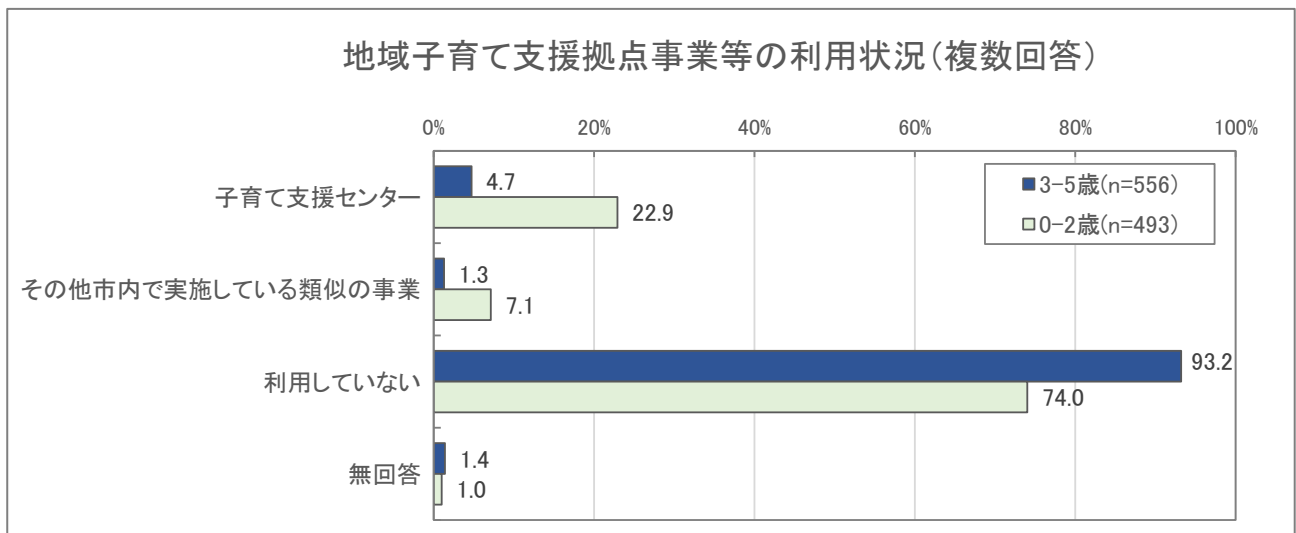
2.8 釧路市の子育て支援事業の利用状況について

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

●未就学児童：問 25

あて名のお子さんの、現在の「子育て支援センター」（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場）の利用状況についてお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけ、おおよその利用回数（頻度）をご記入ください。

- 「利用していない」が7割台半ば～9割強で最も多くなっていますが、0～2歳では、「子育て支援センター」が2割強、「その他市内で実施している類似の事業」が1割弱となっています。
- 利用している人の月当たりの利用回数については、子育て支援センターでは「月に1回程度」が3割弱で最も多く、次いで「月に2回程度」が2割強となっています。
- その他市内で実施している類似の事業では、「月に2回程度」が5割弱で最も多く、次いで「月に1回程度」が2割台半ば、「月に3回程度」が約1割となっています。
- なお、その他市内で実施している類似の事業の具体的内容としては、「こども遊学館」「子育てサークル」「おもちゃライブラリー」「児童館」「湿原の風アリーナ」などがありました。

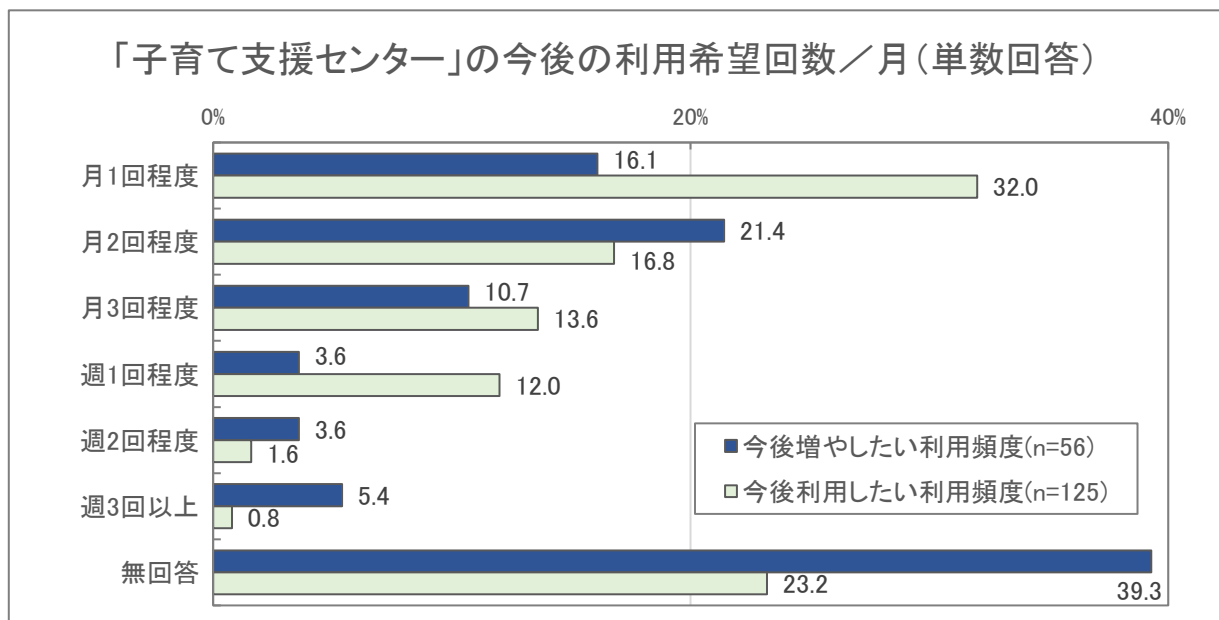
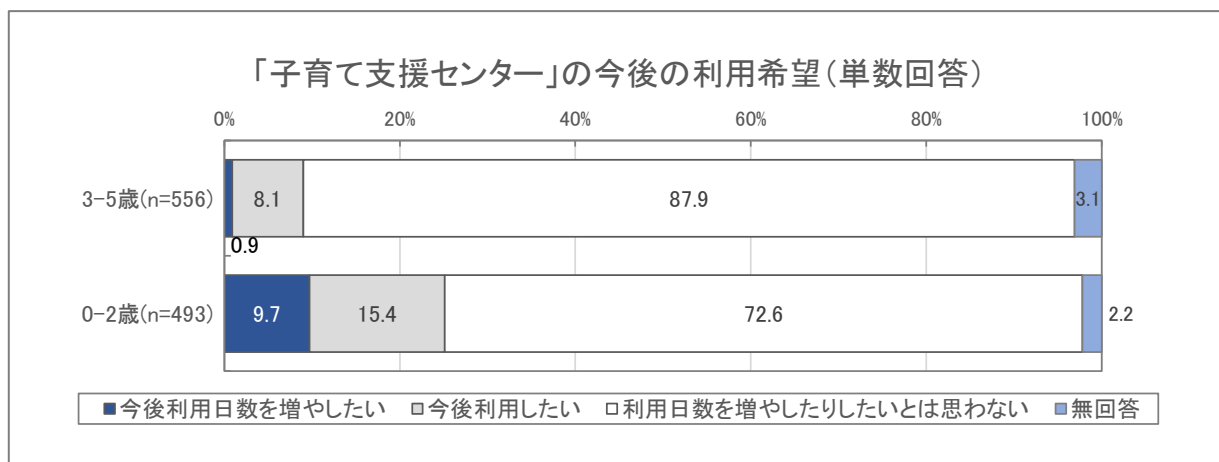


(2)「子育て支援センター」の今後の利用希望

●未就学児童：問 26

「子育て支援センター」の今後の利用希望についてお答えください。あてはまる番号1つに○をつけ、おおよその利用回数（頻度）を数字でご記入ください。

- 「利用日数を増やしたりしたいとは思わない」が7割強～9割弱と最も多くなっていますが、0～2歳は「今後利用したい」が1割台半ば、「今後利用日数を増やしたい」が約1割と、3～5歳に比べて多くなっています。
- 利用希望回数については、既に利用している人が望む利用頻度は「月2回程度」が2割強で最も多く、利用していない人が今後利用したいと望む利用頻度は「月に1回程度」が3割強、「月2回程度」が1割台半ばとなっています。



(3) 釧路市の子育て支援に関する事業の満足度と認知度

●未就学児童：問 27 [就学児童：問 20]

釧路市の子育て支援に関する事業の満足度についてお答えください。(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

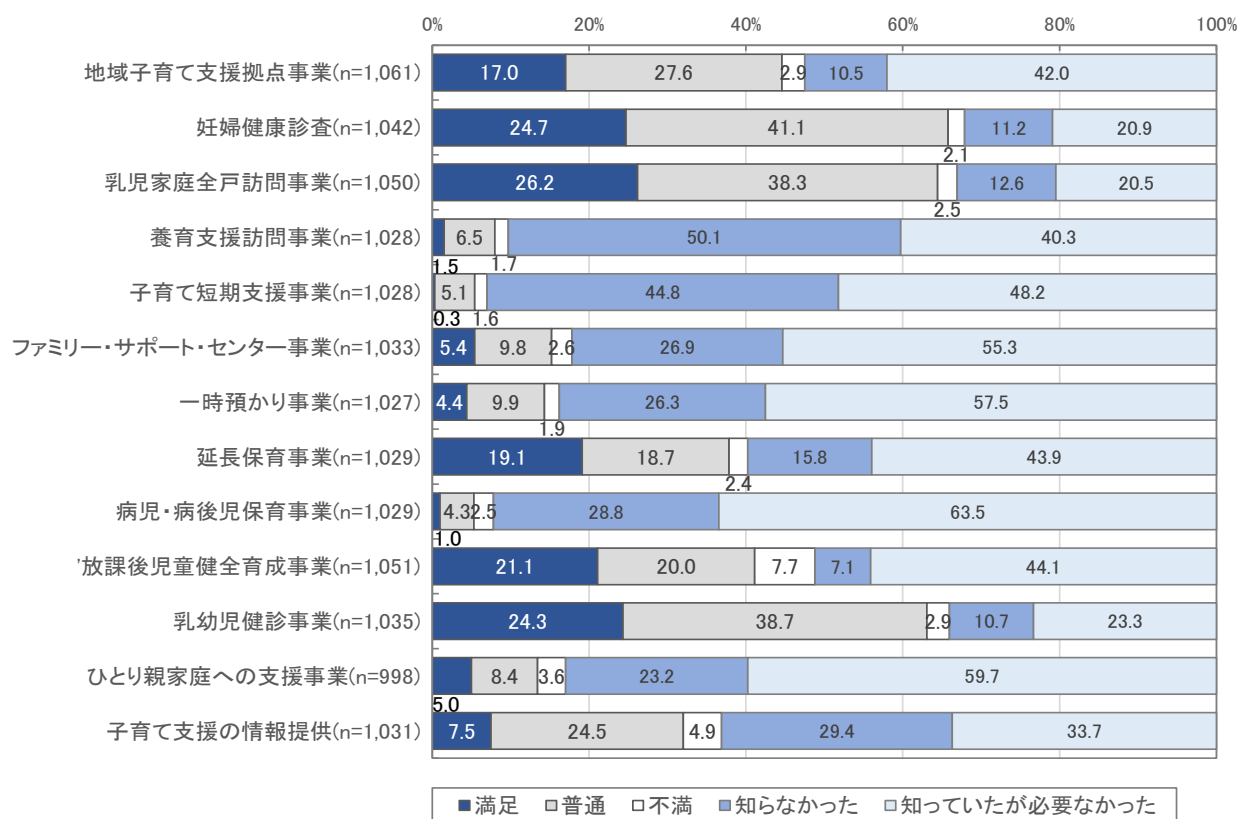
①利用した人の満足度と認知度

○「満足」との回答は、6～11 歳では「乳児家庭全戸訪問事業」「妊婦健康診査」「乳幼児健診事業」が 2 割台半ば、3～5 歳では「乳児家庭全戸訪問事業」が約 3 割、0～2 歳では「乳児家庭全戸訪問事業」が 4 割弱と多くなっています。

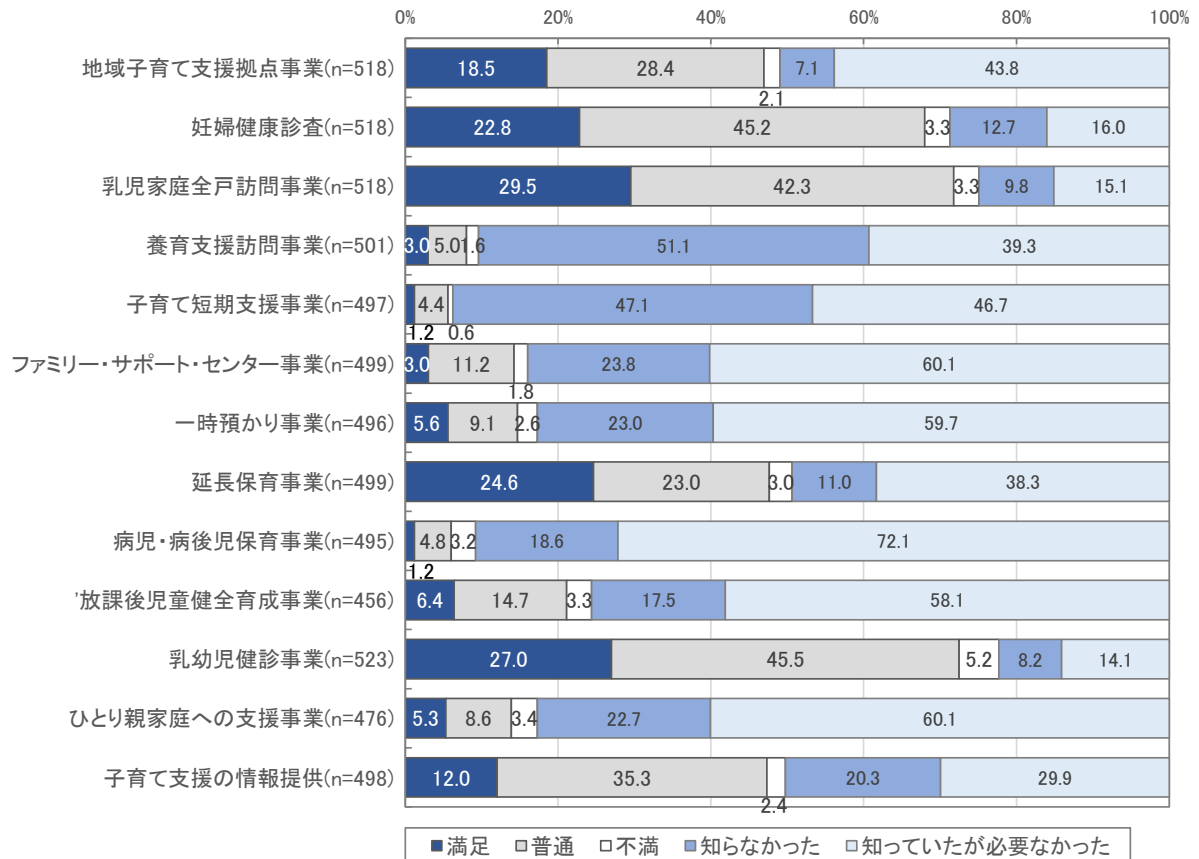
○利用していない人（「知らなかった」「知っていたが必要なかった」）の各事業の認知度については、「養育支援訪問事業」「子育て短期支援事業」で「知らなかった」の割合が特に多くなっています。

【釧路市の子育て支援に関する事業の満足度と認知度】

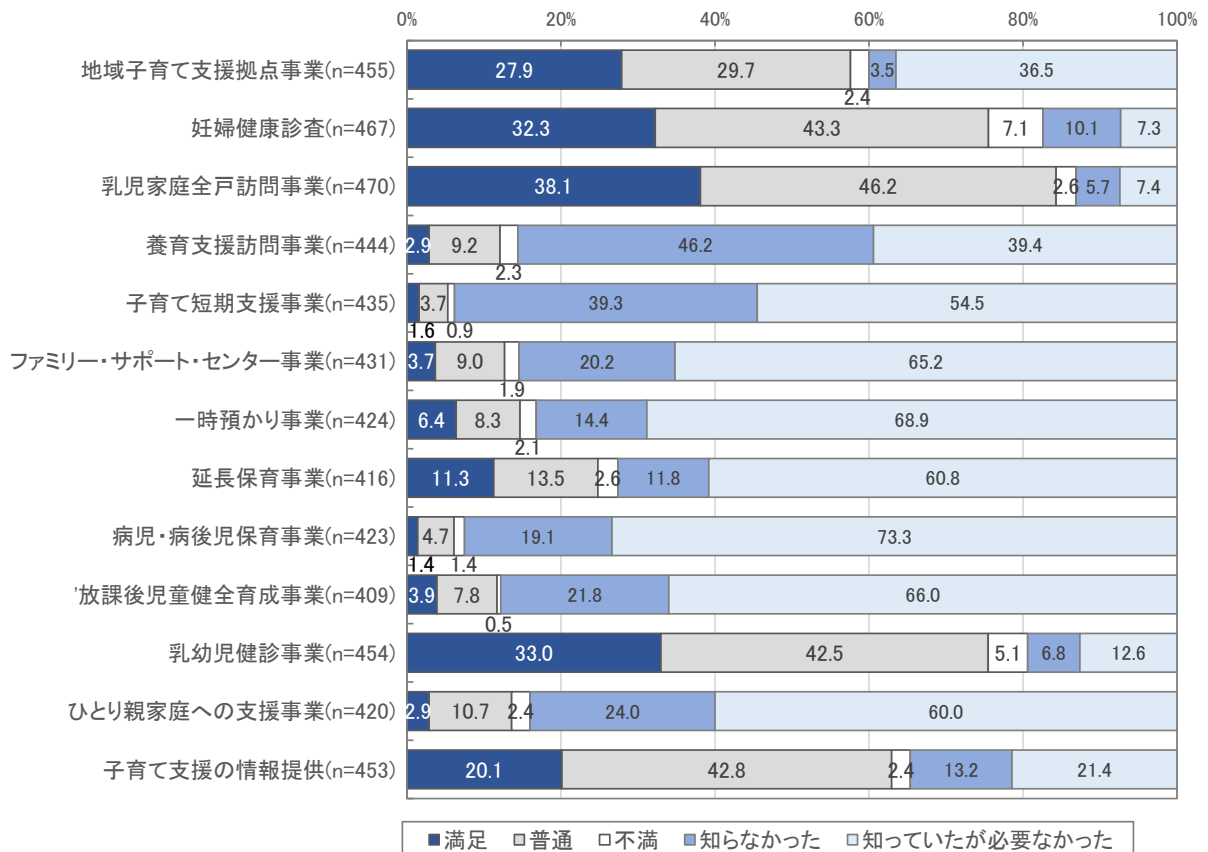
【6-11 歳】



【3-5歳】



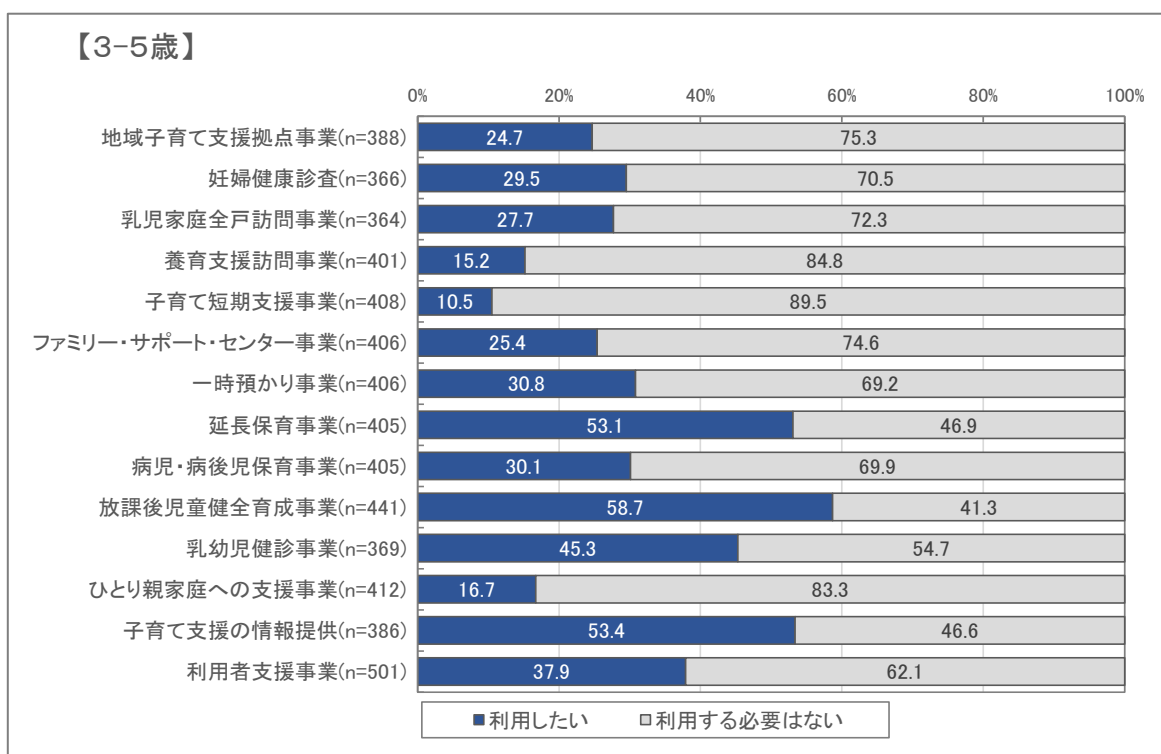
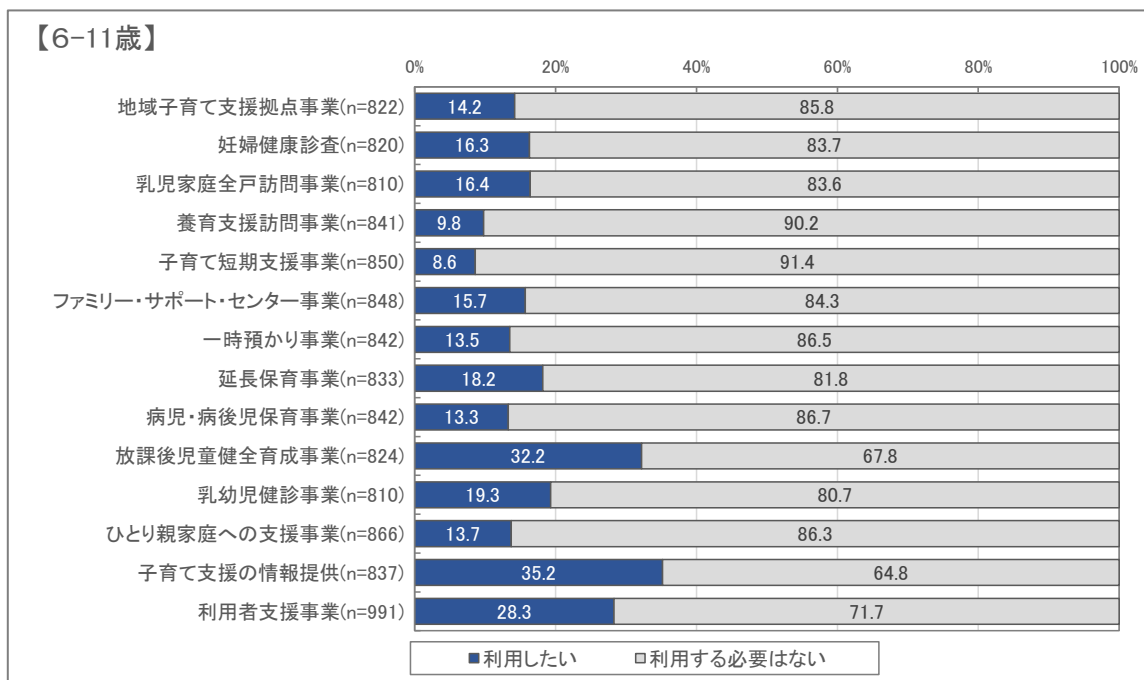
【0-2歳】



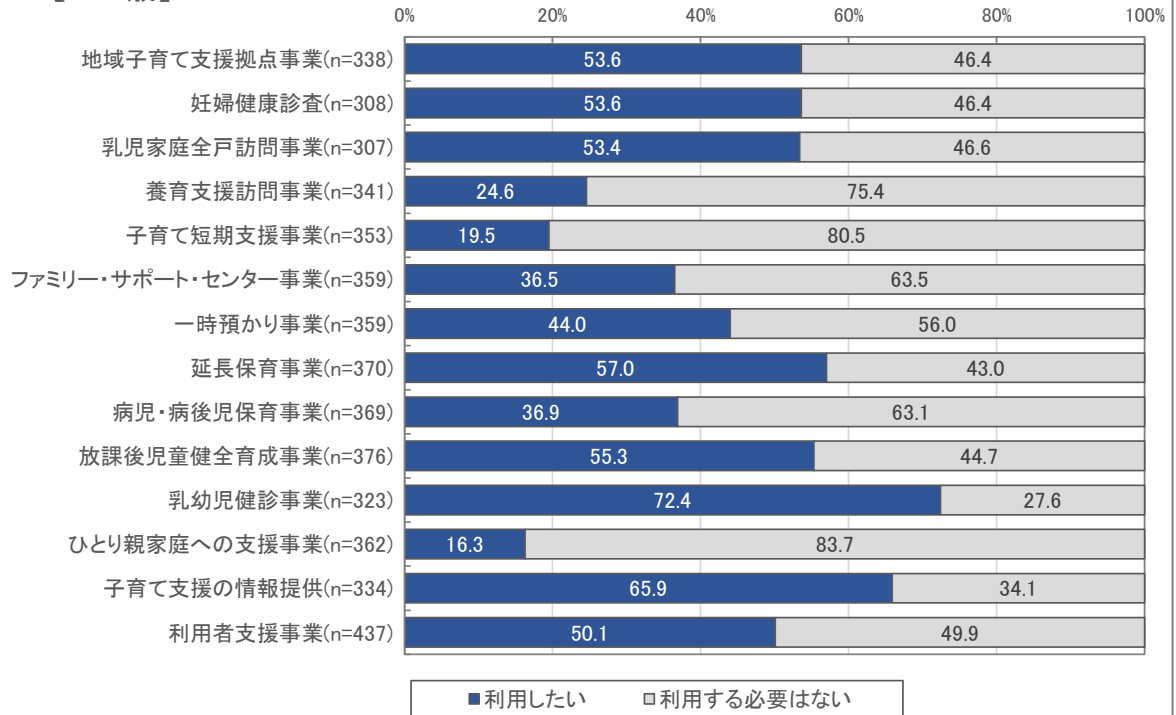
②今後の希望

○今後の希望については、6～11歳では、「子育て支援の情報提供」「放課後児童健全育成事業」「利用者支援事業」が3割弱～3割台半ばで多くっており、3～5歳では、「放課後児童健全育成事業」「子育て支援の情報提供」「延長保育事業」が5割強～6割弱、0～2歳では、「乳幼児健診事業」「子育て支援の情報提供」「延長保育事業」が6割弱～7割強と割合が多くなっています。

○就学前である年齢層で「利用したい」の割合が多くなる傾向がみられ、0～2歳で「地域子育て支援拠点事業」「妊婦健康診査」「乳児家庭全戸訪問事業」等、14項目中8項目で「利用したい」が5割を超えています。



【0-2歳】

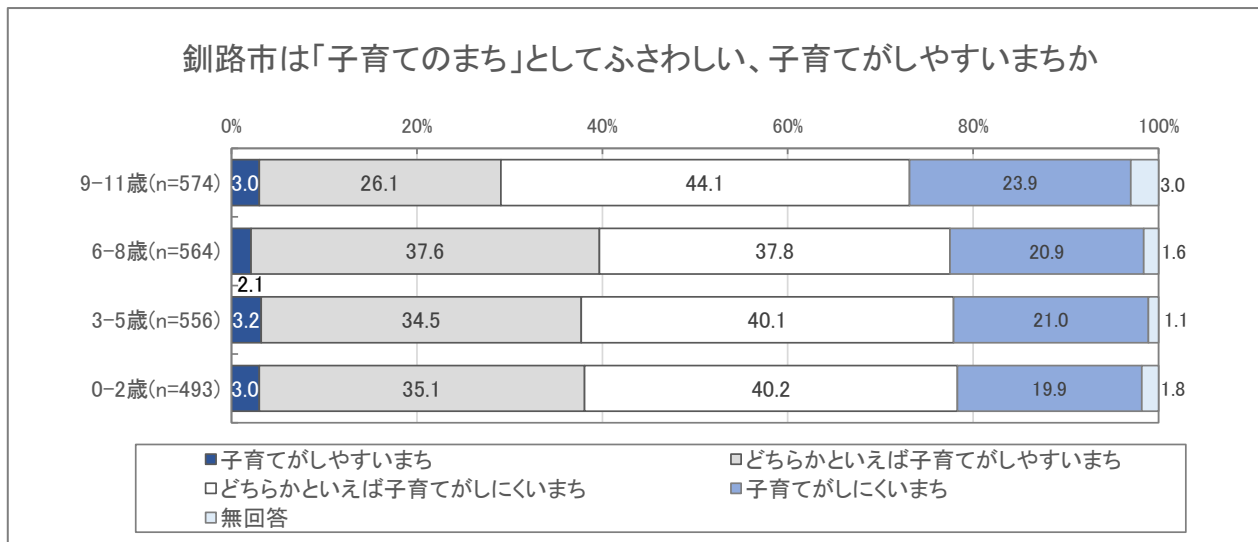


(4) 子育てのしやすさについて

●未就学児童：問 27-1 [就学児童：問 20-1]

釧路市は「子育てのまち」としてふさわしい、子育てがしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

○「どちらかといえば子育てがしにくいまち」が4割前後と最も多くなっており、次いで「どちらかといえば子育てがしやすいまち」が2割台半ば～4割弱となっています。



2.9 放課後の過ごし方について

(1) 放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいか

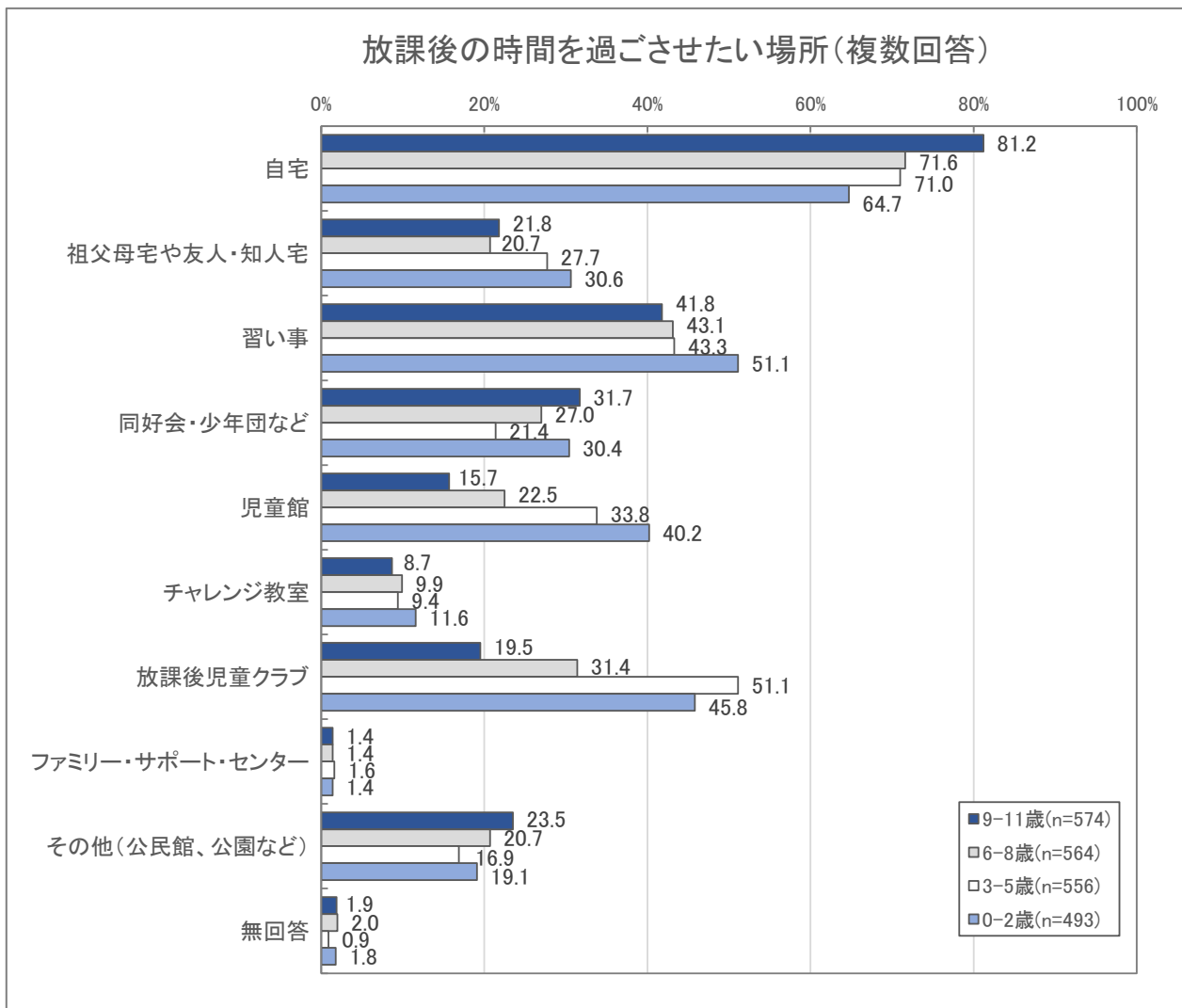
●未就学児童：問 28

あて名のお子さんが、小学生になったとき、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけ、（ ）内にそれぞれ必要とする週当たりの日数をご記入ください。

〔就学児童：問 21〕

あて名のお子さんが、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかお答えください。あてはまる番号すべてに○をつけ、（ ）内にそれぞれ必要とする週当たりの日数をご記入ください。

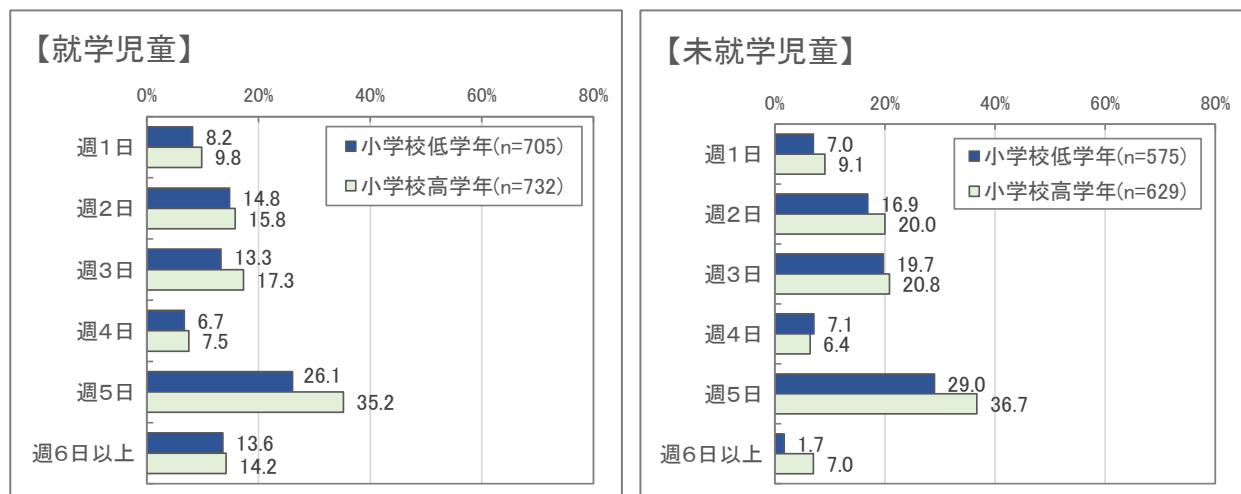
- 3歳以上では、「自宅」が約7割～8割強で最も多く、次いで「習い事」が4割強となっています。
- 0～2歳では、「自宅」が6割台半ばで最も多く、次いで「習い事」「放課後児童クラブ」が4割台半ば～5割強となっています。



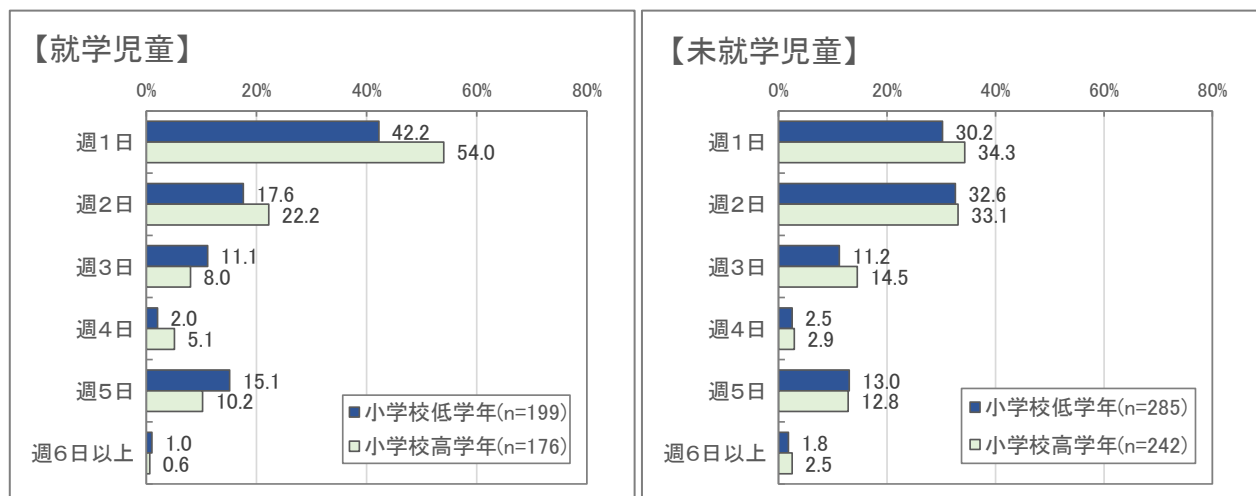
○放課後の時間を過ごさせたい場所別の希望日数については、就学児童、未就学児童とも同様の傾向がみられます。「同好会・少年団など」では小学校低学年に比べ、小学校高学年の方が利用日数が増加する傾向がみられます。

放課後の時間を過ごさせたい場所別の希望日数／週（単数回答）

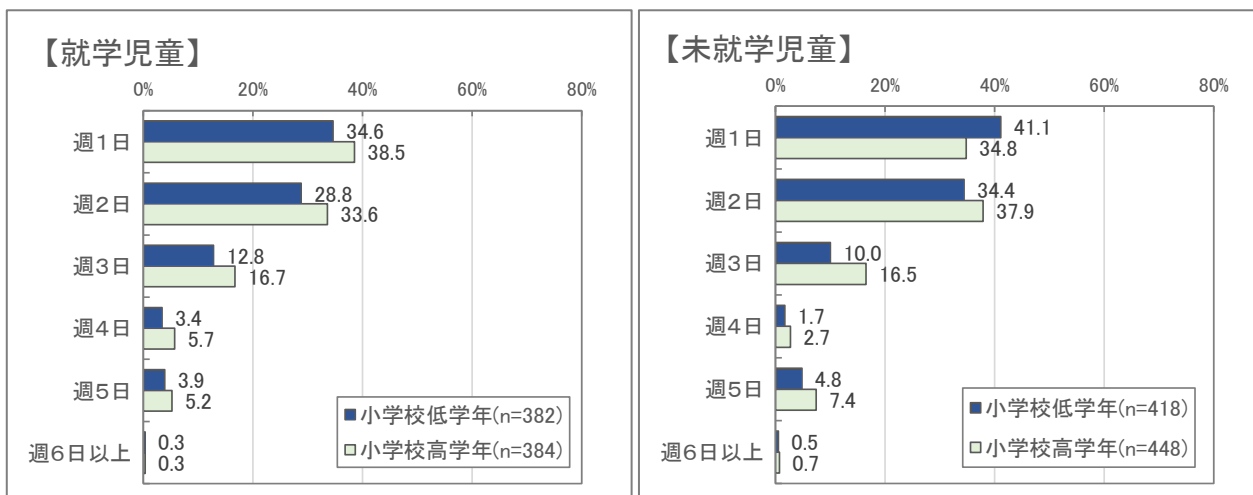
【自宅】



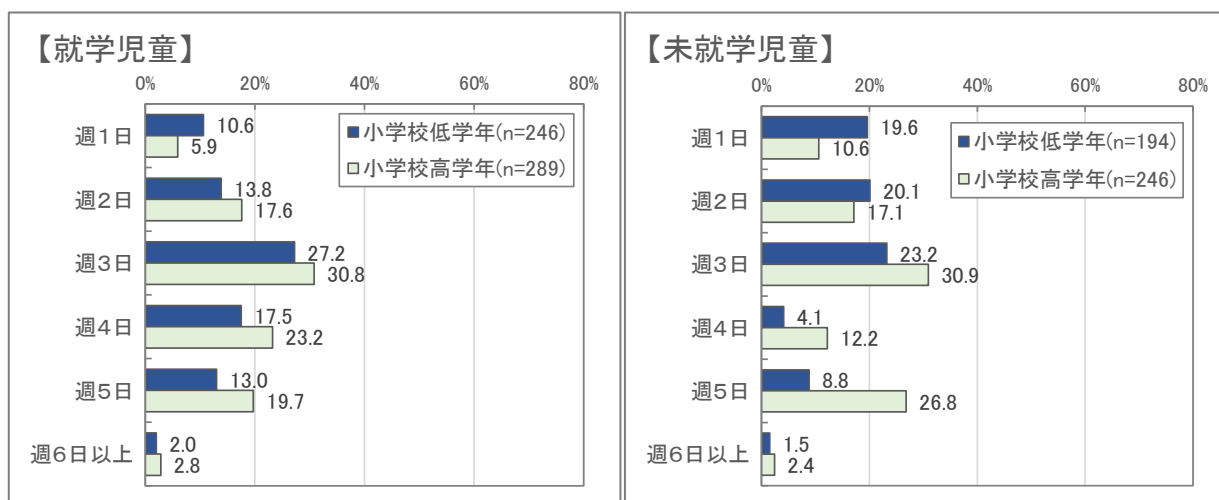
【祖父母宅や友人・知人宅】



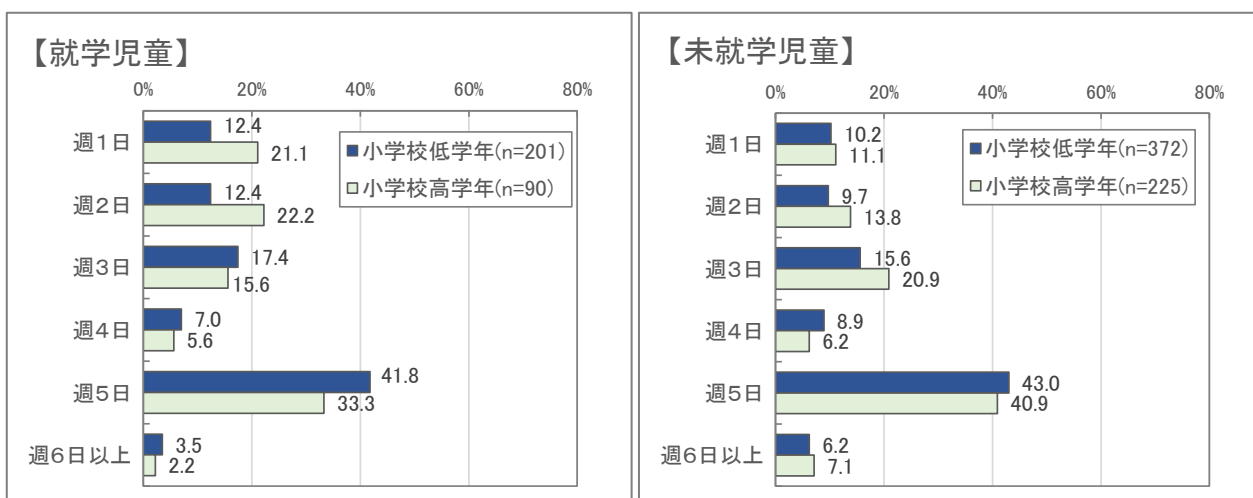
【習い事（ピアノ・学習塾など）】



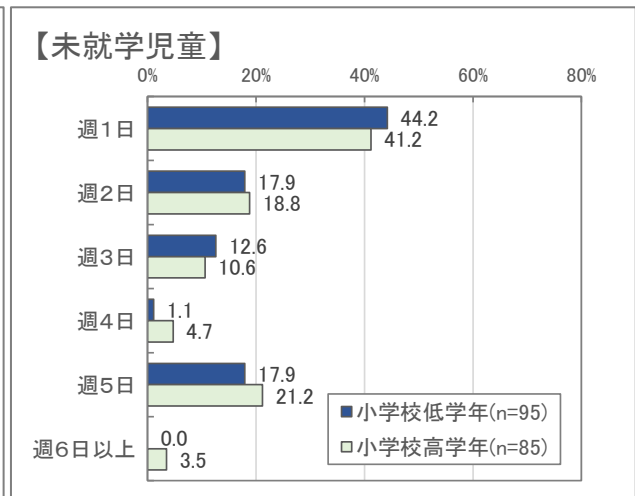
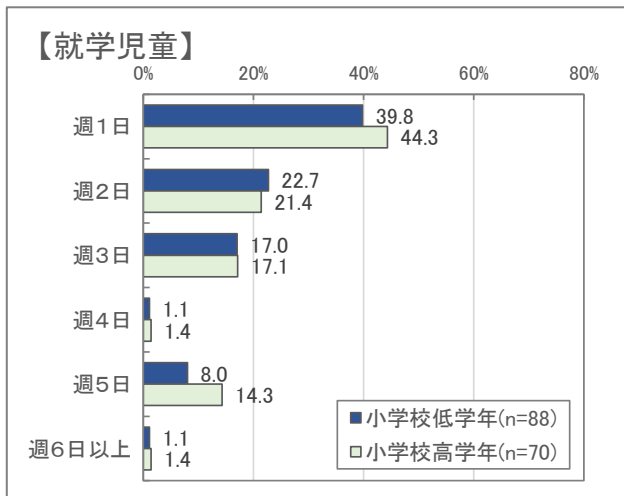
【同好会・少年団など】



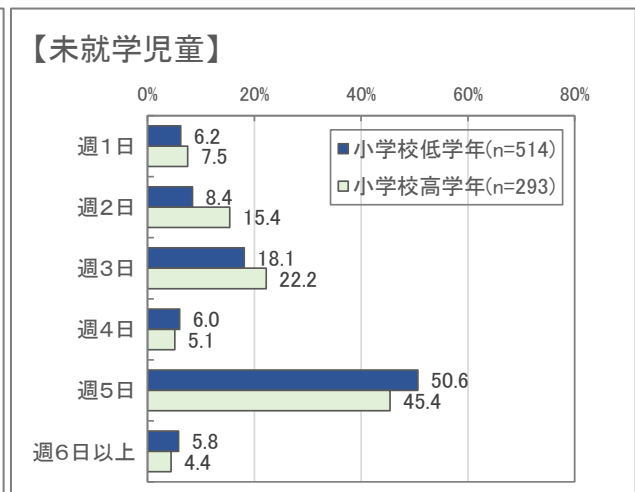
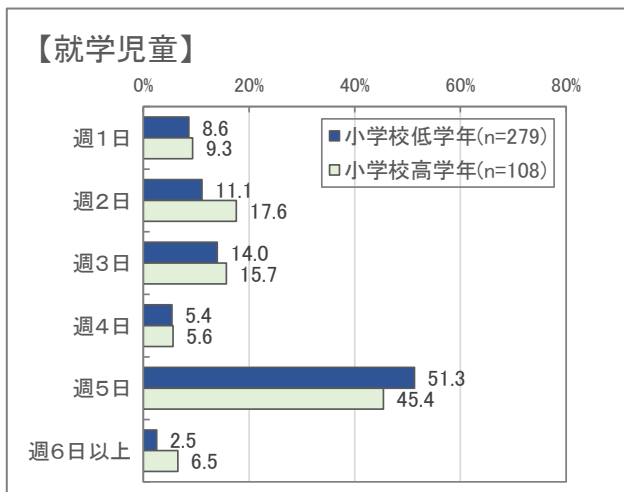
【児童館】



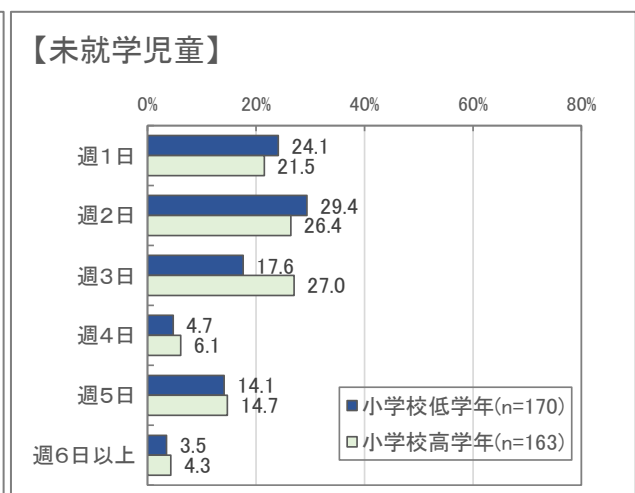
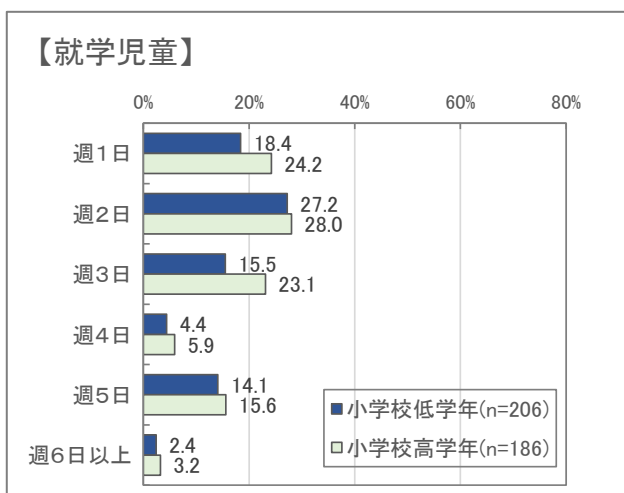
【チャレンジ教室】



【放課後児童クラブ（学童保育）】



【その他（公民館、公園など）】



(2) 放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望

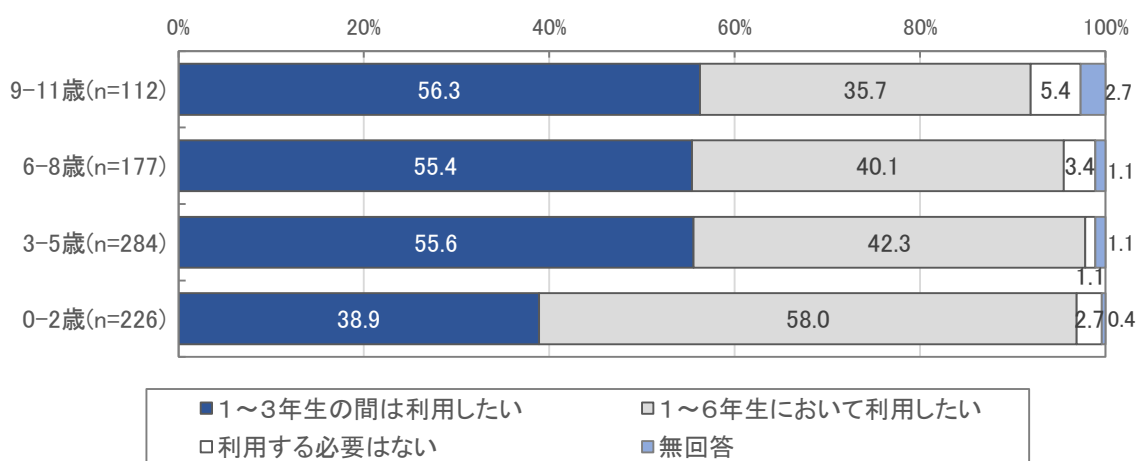
●未就学児童：問 29 [就学児童：問 22]

問 28 [問 21] で「7.」(放課後児童クラブ(学童保育))と回答した人のみ
利用希望についてお答えください。(それぞれあてはまる番号 1 つに○)
また、利用したい時間帯についてもご記入ください。

①平日

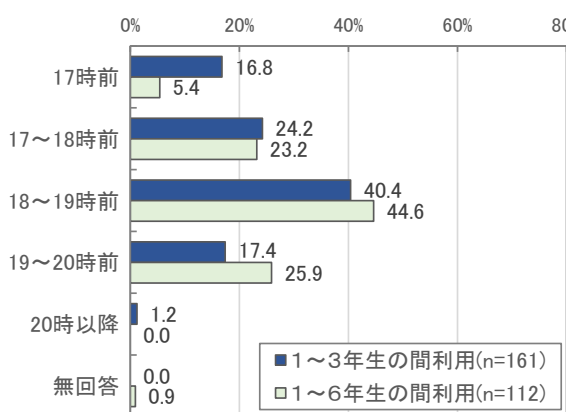
- 0～2歳以外では「1～3年生の間は利用したい」が5割台半ばと多くなっています。
- 0～2歳では「1～6年生において利用したい」が6割弱で多く、他の年代と比較して6年間利用したいと検討している傾向がみられます。
- 利用希望終了時刻については、就学児童、未就学児童ともに1～3年生の間利用、1～6年生の間利用のいずれの場合も、下校時から「18～19時前」が約4割～5割台半ばと最も多くなっています。

平日の放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望(単数回答)

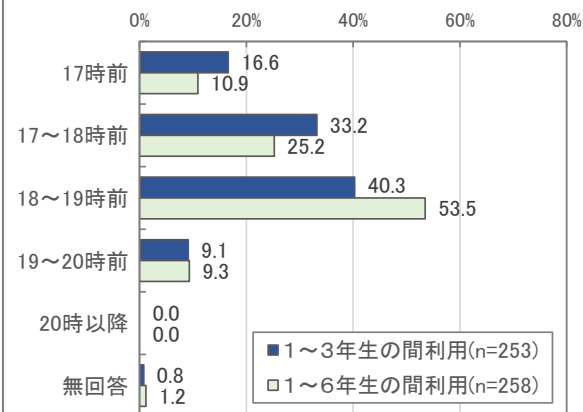


平日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望終了時刻（単数回答）

【就学児童】



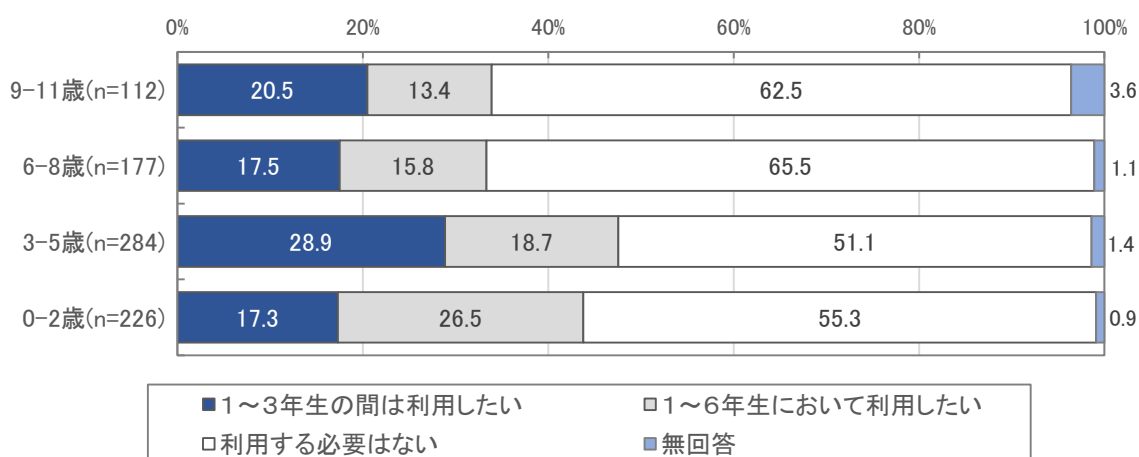
【未就学児童】



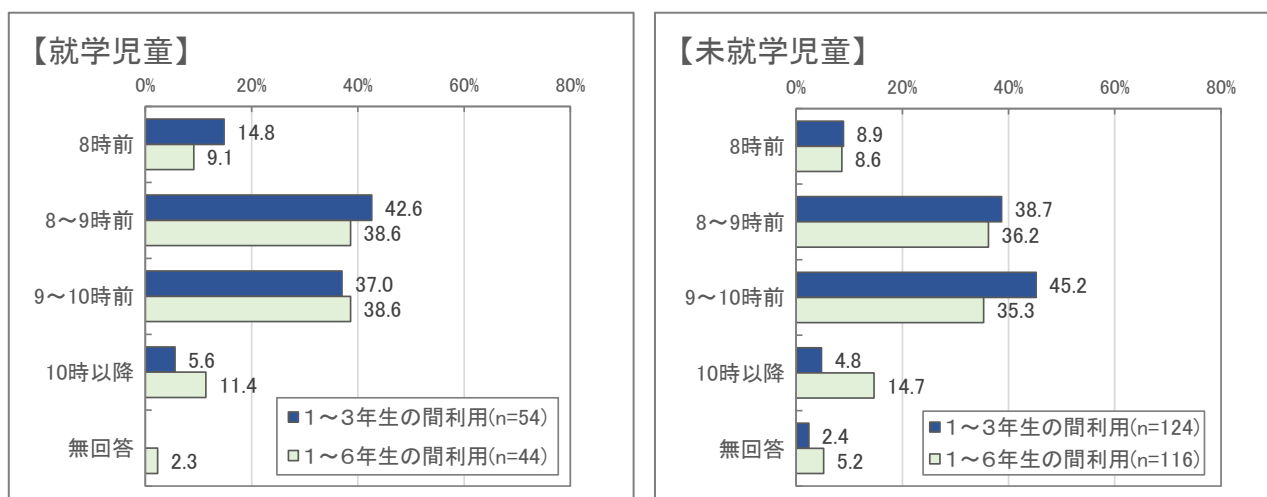
②土曜日

- 土曜日については、すべての年齢区分において「利用する必要はない」が最も多いものの、3～5歳については「1～3年生の間は利用したい」が3割弱、0～2歳については「1～6年生において利用したい」が2割台半ばで、6歳以上に比べて多くなっています。
- 希望する利用開始時刻は、就学児童は「8～9時前」が4割弱～4割強と最も多く、未就学児童は1～3年生の間利用で「9～10時前」が4割台半ば、1～6年生の間利用で「8～9時前」が3割台半ばと多くなっています。
- 希望する利用終了時刻は、就学児童、未就学児童ともに「18～19時前」が4割弱～4割台半ばで最も多くなっています。

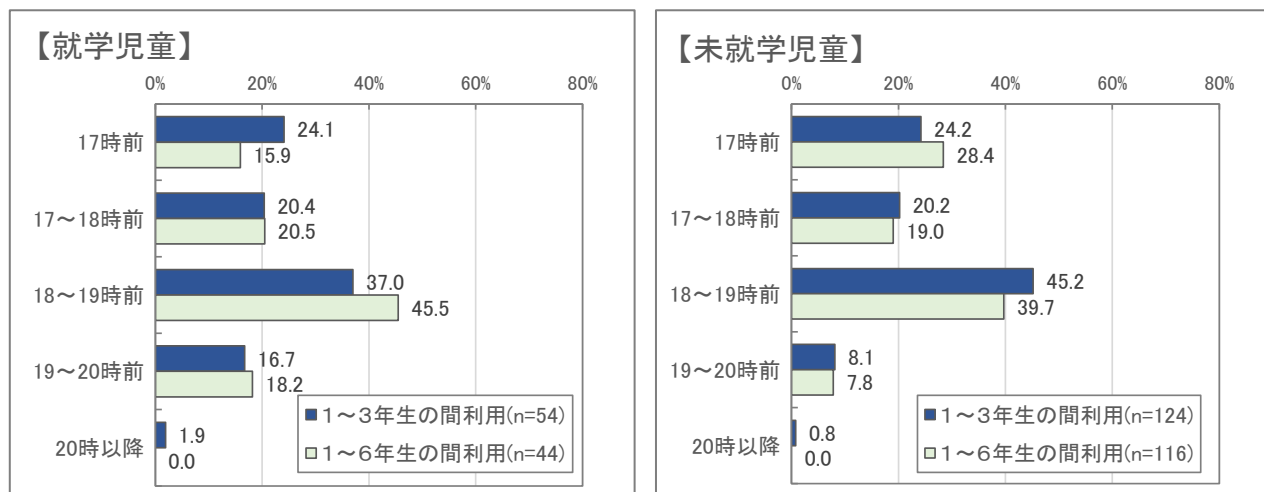
土曜日の放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望(単数回答)



土曜日の放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望開始時刻(単数回答)

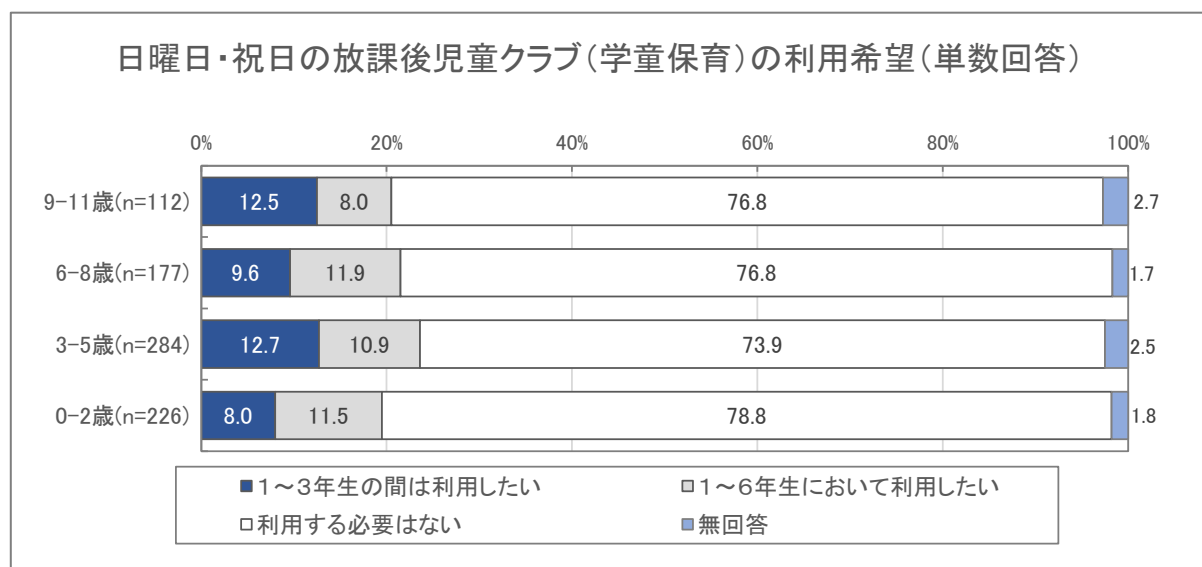


土曜日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望終了時刻（単数回答）

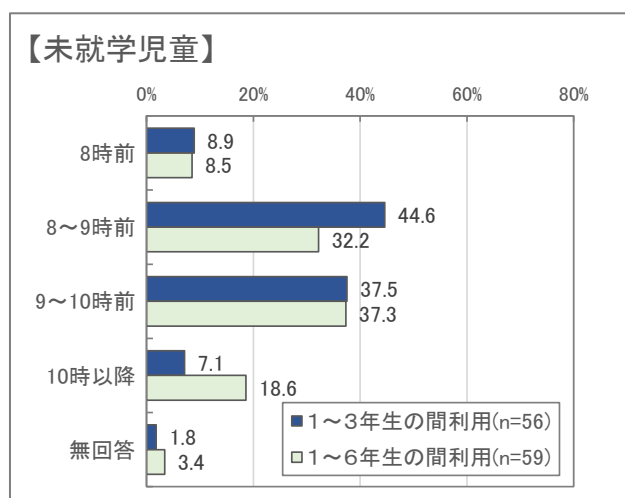
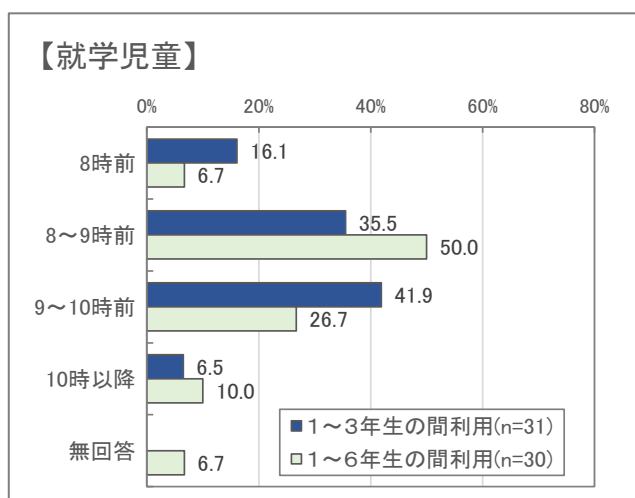


③日曜日・祝日

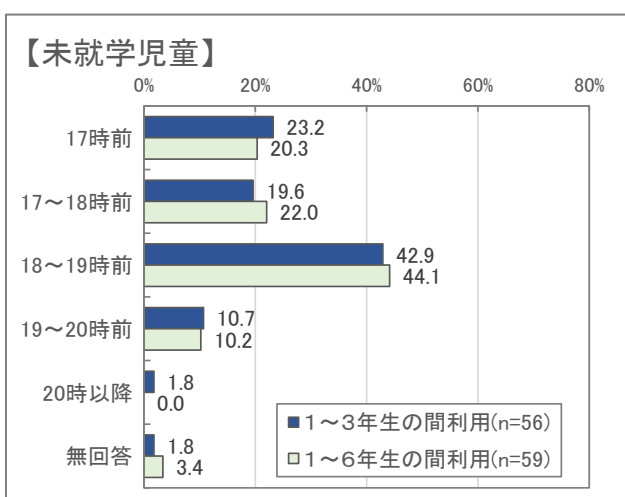
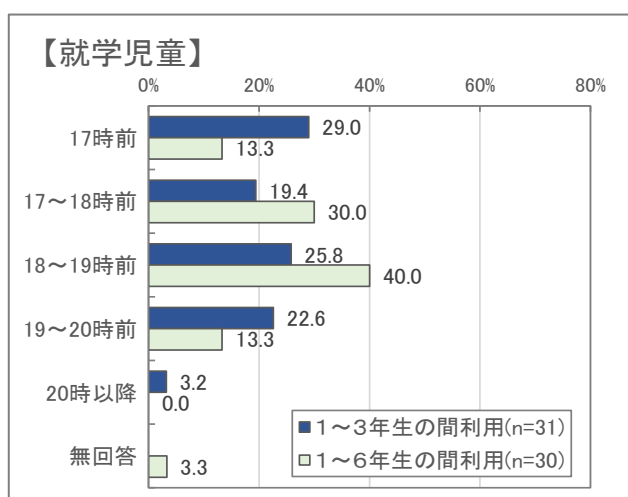
- 利用希望については、すべての年齢区分において土曜日より「利用する必要はない」との回答が多くなっています。
- 希望する利用開始時刻は、就学児童では「8～9時前」と「9～10時前」が2割台半ば～5割で多く、未就学児童も同様に「8～9時前」と「9～10時前」が3割強～約4割台半ばで多くなっています。
- 希望する利用終了時刻は、就学児童では1～3年生の間利用は「17時前」が約3割、1～6年生の間利用は「18～19時前」が4割、未就学児童では同様に「18～19時前」が4割台で最も多くなっています。



日曜日・祝日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望開始時刻（単数回答）

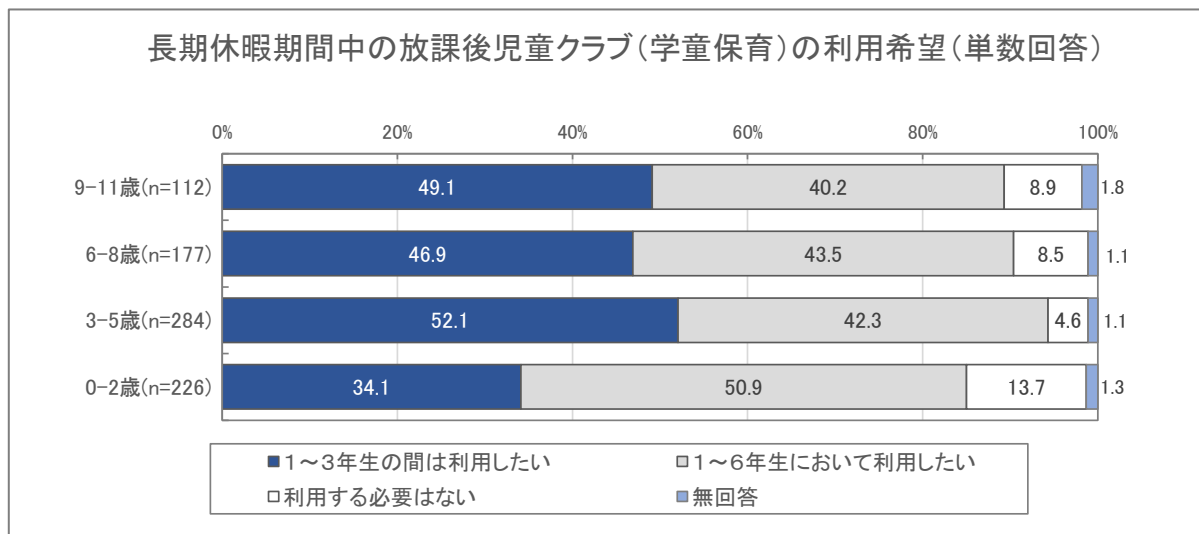


日曜日・祝日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望終了時刻（単数回答）

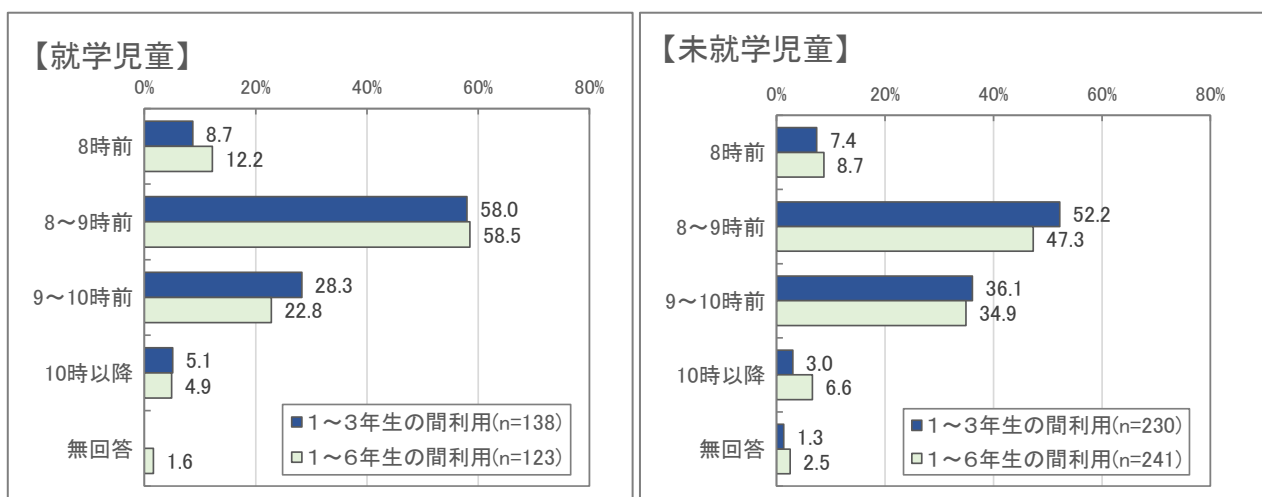


④夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中

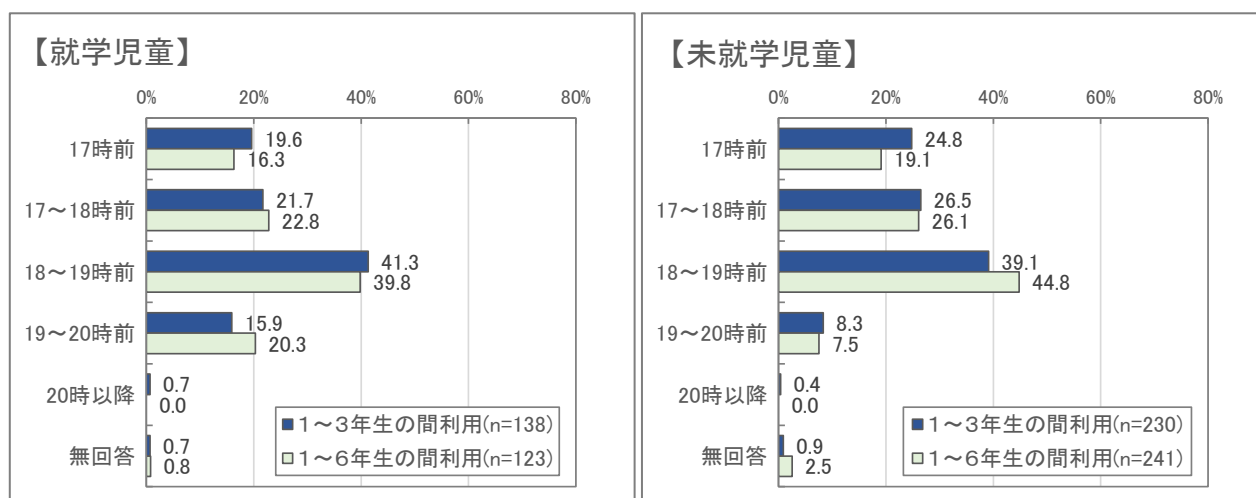
- 平日と同様に利用希望は多く、0～2歳以外では「1～3年生の間は利用したい」と「1～6年生において利用したい」を合わせて約9割～9割台半ばと多くなっています。
- 0～2歳では「1～6年生において利用したい」が約5割で最も多いものの、「利用する必要はない」も1割強と他の年齢区分に比べて多くなっています。
- 希望する利用開始時刻は、就学児童、未就学児童とも「8～9時前」が5割弱～6割弱で最も多くなっていますが、未就学児童は「9～10時前」も3割台半ばと多くなっています。
- 希望する利用終了時刻は、就学児童、未就学児童とも「18～19時前」が4割弱～4割台半ばで最も多くなっています。



長期休暇期間中の放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望開始時刻(単数回答)



長期休暇期間中の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望終了時刻（単数回答）



(3) 放課後児童クラブの有料化に対する考え方

●未就学児童：問 29-1 [就学児童：問 22-1]

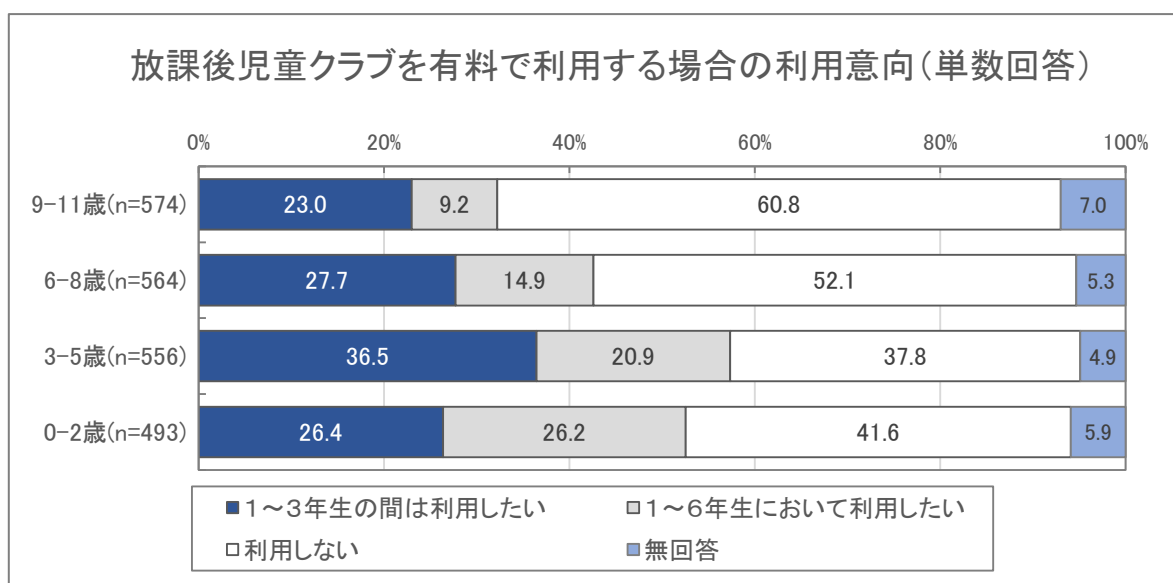
釧路市では現在、放課後児童クラブは無料（父母会費は別途徴収）で利用できますが、今後、放課後児童クラブの有料化に対する考え方についてご記入ください。

①放課後児童クラブを有料で利用する場合

放課後児童クラブの有料で利用する場合の利用意向について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。また、利用したい場合、月額として支払える目安を（ ）内にご記入ください。

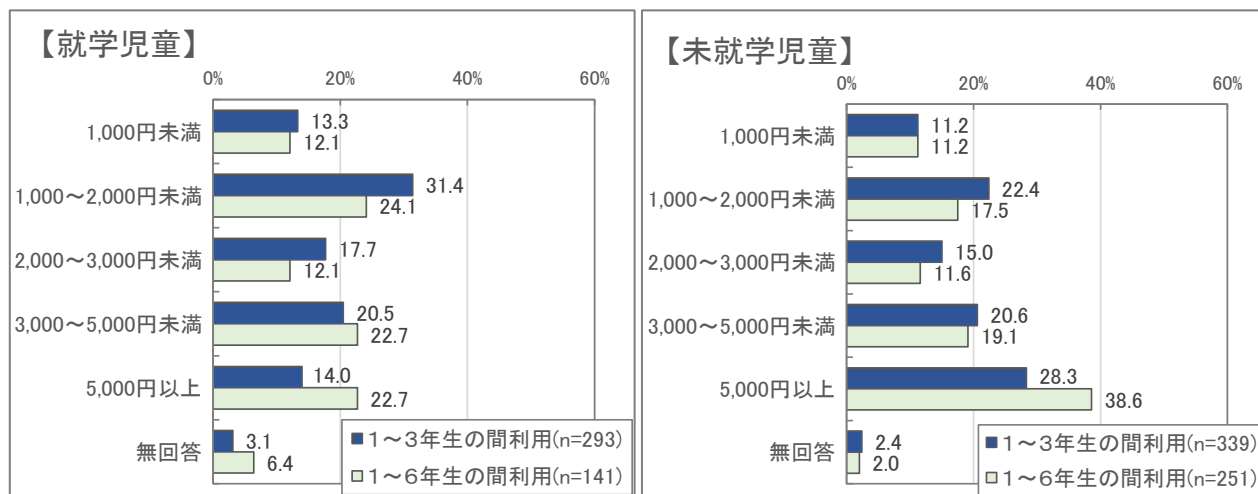
○3～5歳以外では「利用しない」が4割強～約6割で多くなっています。

○3～5歳では「1～3年生の間は利用したい」が3割台半ばで最も多くなっています。



- 放課後児童クラブを有料で利用する場合に月額として払える料金の目安については、就学児童では「1,000～2,000 円未満」が2割台半ば～3割台で最も多くなっています。
- 未就学児童では、「5,000 円以上」が3割弱～4割弱で最も多くなっています。

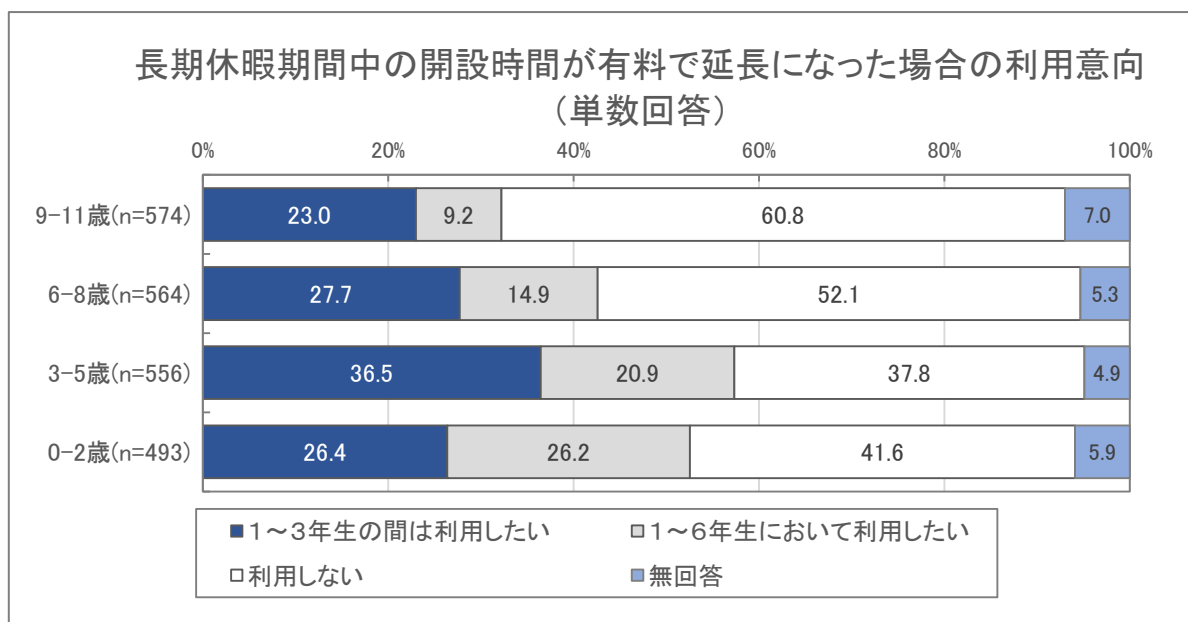
放課後児童クラブを有料で利用する場合に月額として払える料金の目安（単数回答）



②平日、土曜日、夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の開設時間が有料で延長になった場合

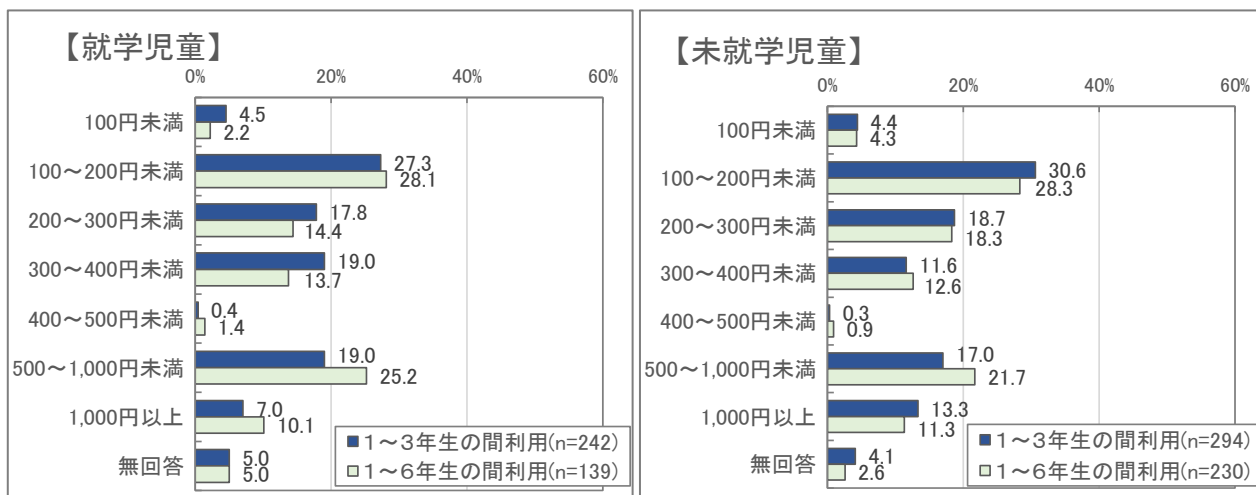
平日、土曜日、夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の開設時間が有料で延長になった場合の利用意向について、あてはまる番号1つに○をつけてください。また、利用したい場合、延長1時間として支払える目安を（ ）内にご記入ください。

○「利用しない」が4割台半ば～6割台半ばで最も多くなっているものの、0～2歳では「1～6年生において利用したい」が2割台半ば、3～5歳では「1～3年生の間は利用したい」が3割強となっています。



○開設時間が有料で延長になった場合の延長1時間あたりに払える料金の目安については、就学児童、未就学児童とも「100～200円未満」が3割弱～約3割で最も多くなっています。

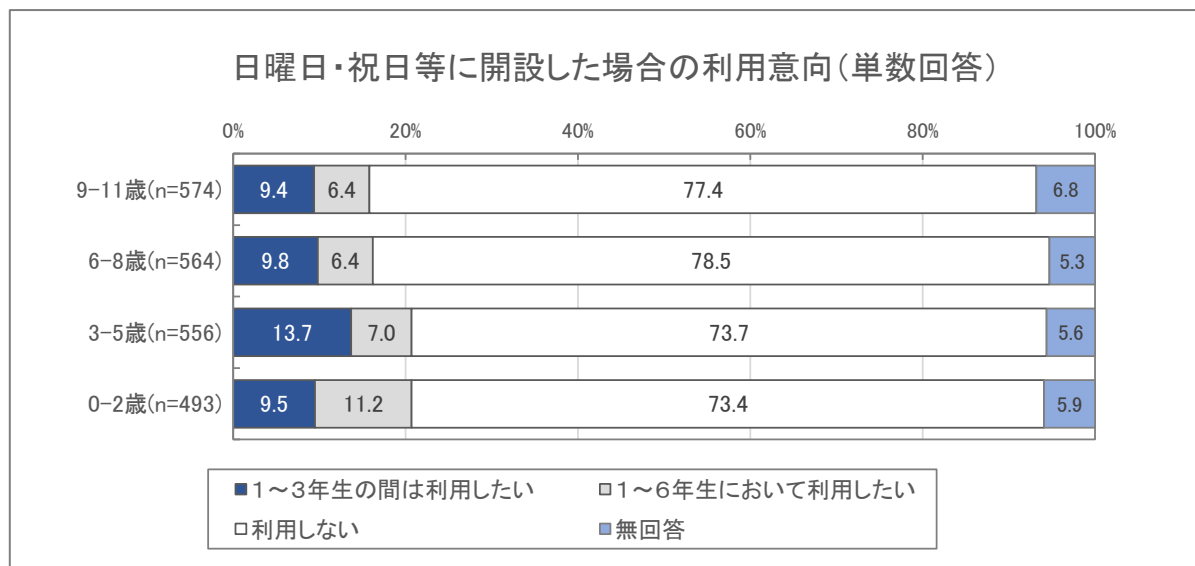
開設時間が有料で延長になった場合の延長1時間あたりに払える料金の目安(単数回答)



③日曜日・祝日等に開設した場合

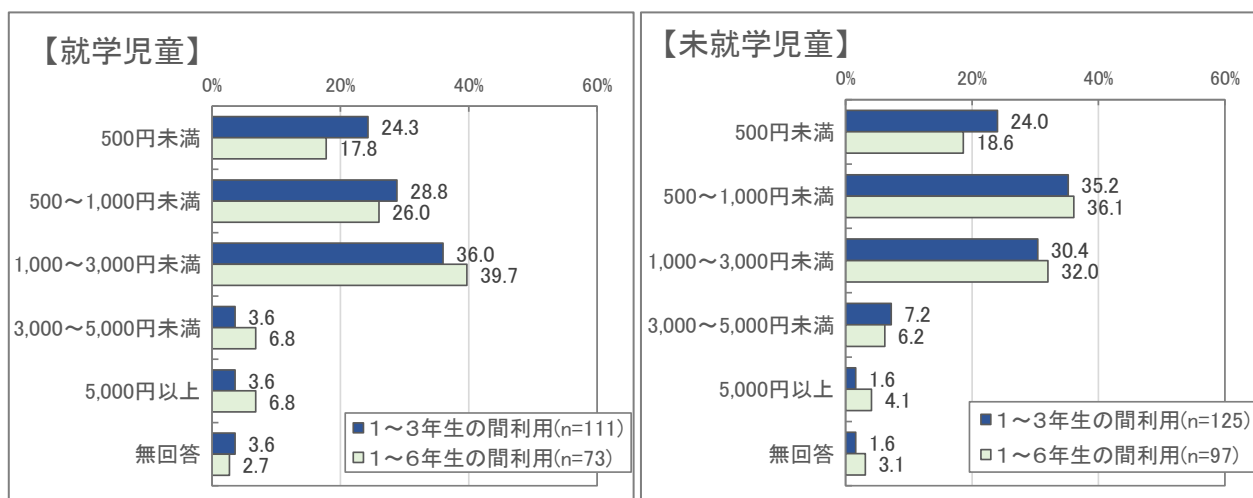
日曜日・祝日等に開設した場合の利用意向について、あてはまる番号1つに○をつけてください。
また、利用したい場合、延長1時間として支払える目安を（ ）内にご記入ください。

○「利用しない」が7割台半ば～8割弱で最も多く、平日、土曜日、長期休暇期間中の開設時間が有料で延長になった場合に比べて利用意向は低くなっています。



○日曜日・祝日等に開設した場合の日額として払える料金の目安については、就学児童では、「1,000～3,000円未満」が3割台半ば～約4割と最も多く、未就学児童は「500～1,000円未満」が3割台半ばで最も多くなっています。

日曜日・祝日等に開設した場合の日額として払える料金の目安(単数回答)



2.10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

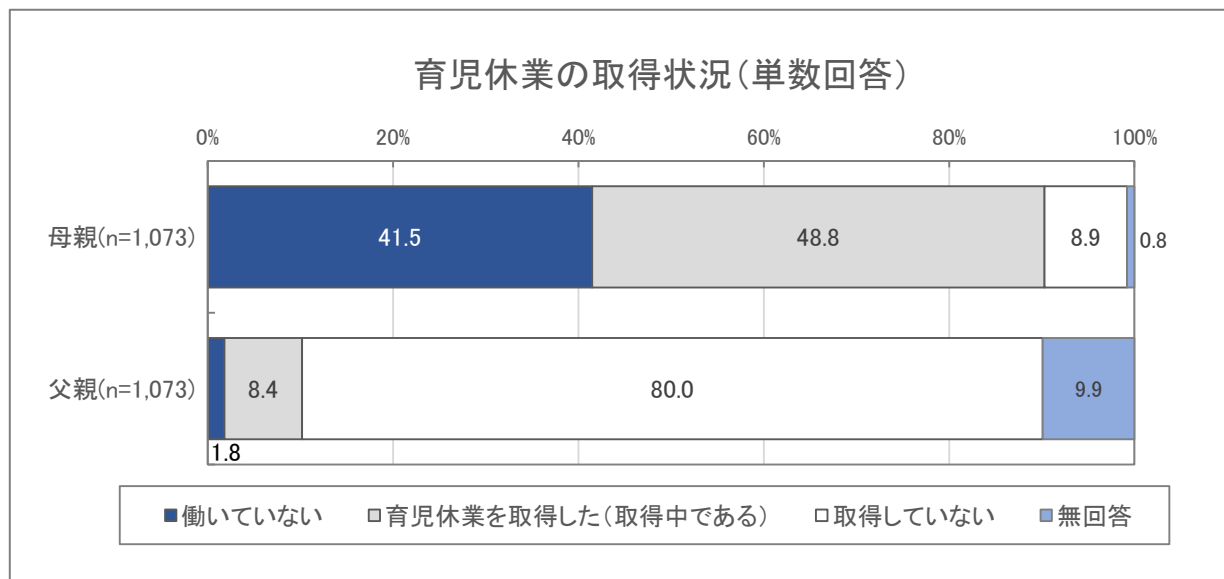
(1) 子どもが生まれたときの育児休業の取得状況

●未就学児童：問 30

あて名のお子さんが生まれた時の育児休業の取得状況をお答えください。

(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

○母親では「取得した(取得中である)」が5割弱であるのに対し、父親では「取得していない」が8割を占め、父親のほとんどは育児休業を取得していない結果となっています。



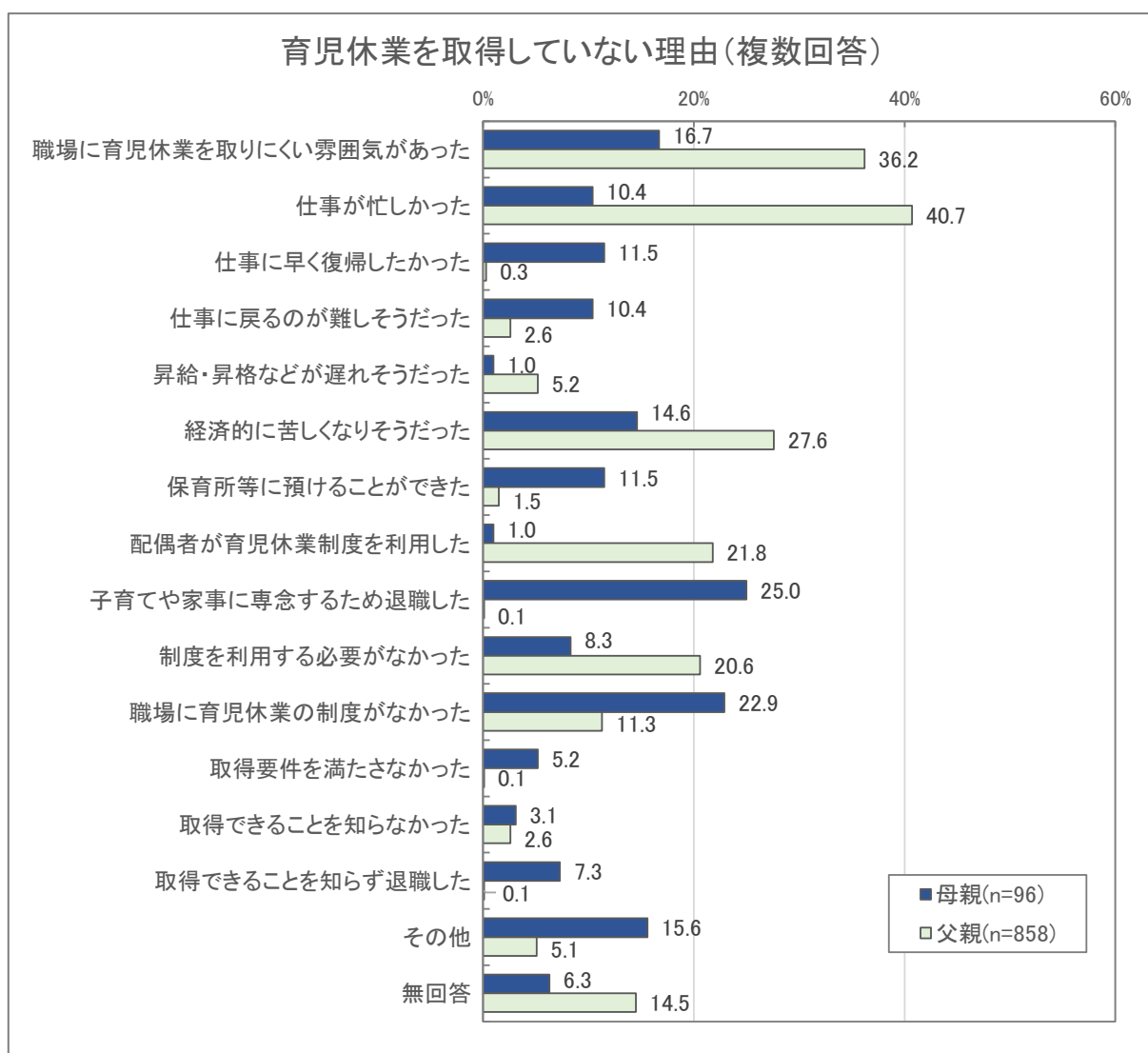
(2) 育児休業を取得していない理由

●未就学児童：問 30-1

問 30 で「3.」（取得していない）と回答した人のみ

その理由についてお答えください。（それぞれあてはまる番号すべてに○）

- 母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が2割台半ばで最も多く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」が2割強となっています。
- 父親では「仕事が忙しかった」が約4割で最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が3割台半ば、「経済的に苦しくなりそうだった」が3割弱となっており、母親の理由との違いがみられます。



(3) 職場復帰した（職場復帰する）タイミング

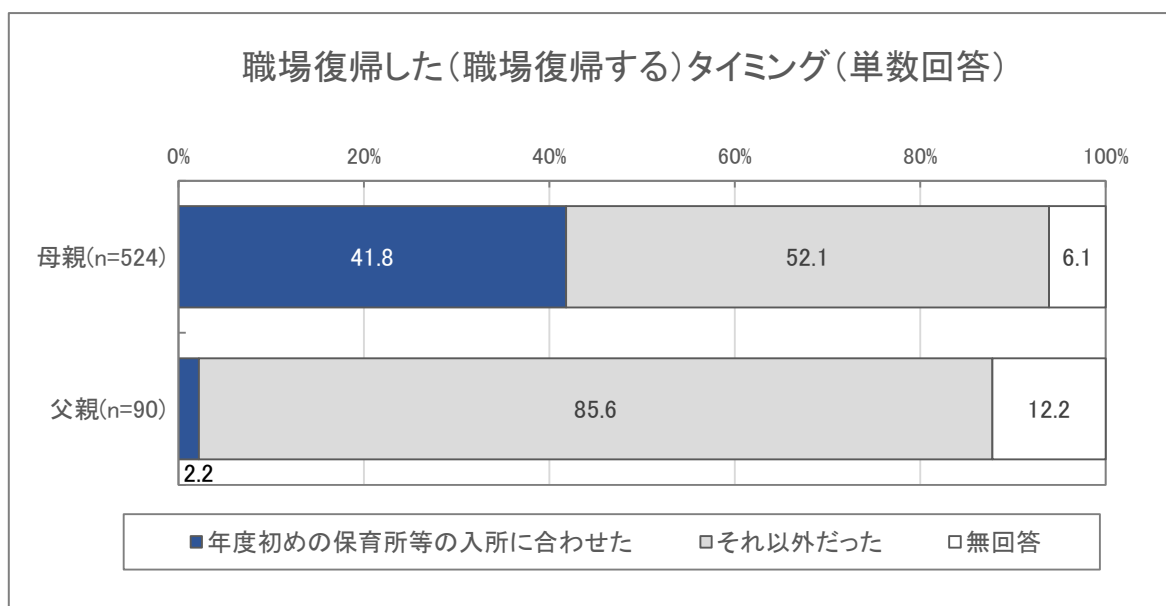
●未就学児童：問 31

問 30 で「2.」（育児休業を取得した（取得中である））と回答した人のみ

職場復帰した（職場復帰する）タイミングについてお答えください。

（それぞれあてはまる番号 1 つに○）

○母親では「年度初めの保育所等の入所に合わせた」は 4 割強となっており、「それ以外だった」が 5 割強となっています。



※「育児休業を取得した（取得中）」の父親はサンプル数が少ないため、以降の問については分類しない。

(4) 育児休業の実際の取得期間（予定を含む）、取得しなかった（したい）期間

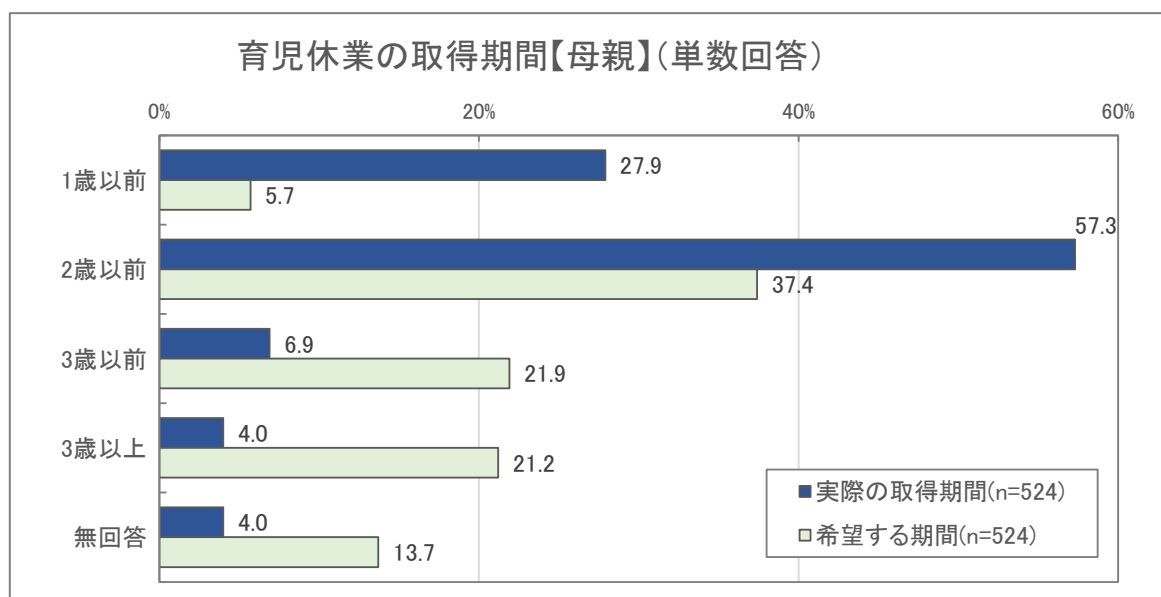
●未就学児童：問 31-1

問 30 で「2.」（育児休業を取得した（取得中である））と回答した人のみ

育児休業の実際の取得期間（予定を含む）、取得しなかった（したい）希望の期間について、それぞれ、あて名のお子さんの年齢でご記入ください。

○母親の育児休業から職場復帰した際の実際の取得期間と希望する取得期間については、実際、希望とも「子どもが2歳になる前まで」が4割弱～6割弱で最も多くなっています。

○希望取得期間と、実際の取得期間のクロス集計を行うと、「子どもが2歳になる前まで」を希望しており、実際に実現した割合は5割台半ば、同じく「子どもが3歳になる前まで」は1割台、「子どもが3歳以上」は1割台半ばとなっており、希望取得期間が長い場合、実際に取得できる人の割合は少なくなっています。



育児休業の取得期間（実際と希望のかい離について）【母親】

希望 \ 実際	子どもが1歳 になる前まで	子どもが2歳 になる前まで	子どもが3歳 になる前まで	子どもが3歳 以上	無回答
子どもが1歳になる前まで(n=30)	86.7	13.3	-	-	-
子どもが2歳になる前まで(n=196)	43.9	54.6	1.0	-	0.5
子どもが3歳になる前まで(n=115)	17.4	68.7	11.3	0.9	1.7
子どもが3歳以上(n=111)	3.6	67.6	12.6	15.3	0.9

（５）職場復帰する際の実際の復帰時期と希望する時期が異なった理由

①希望より早く復帰した（復帰する予定）理由

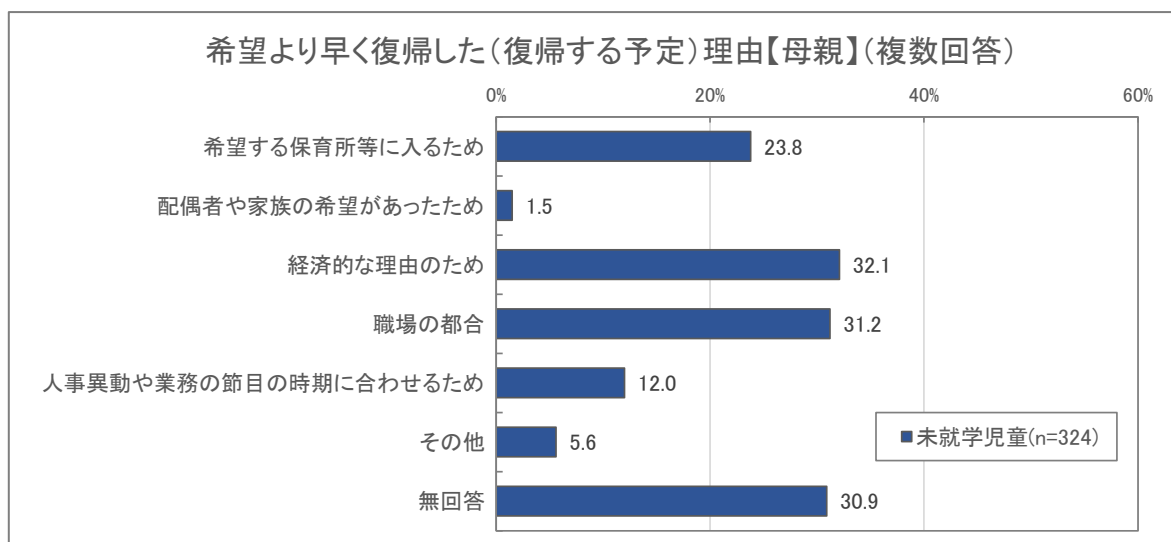
●未就学児童：問 31-2

問 31-1 で、実際の復帰と希望が異なる人のみ

「希望より早く復帰した（復帰する予定）方」はその理由についてお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

○育児休業から職場復帰した際の実際と希望が異なる母親の、希望より早く職場復帰した理由については「経済的な理由のため」「職場の都合」が３割強となっています。



②希望より遅く復帰した（復帰する予定）理由

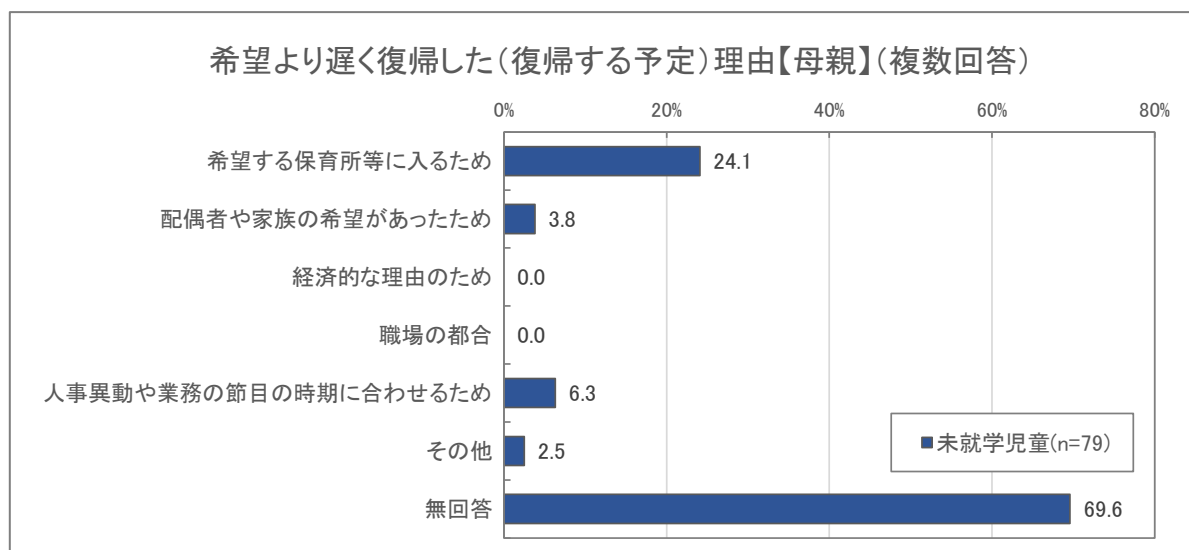
●未就学児童：問 31-3

問 31-1 で、実際の復帰と希望が異なる人のみ

「希望より遅く復帰した（復帰する予定）方」はその理由についてお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

○母親の希望より遅く復帰した理由については、無回答が多かったものの、「希望する保育所等に入るため」が２割台半ばで最も多くなっています。



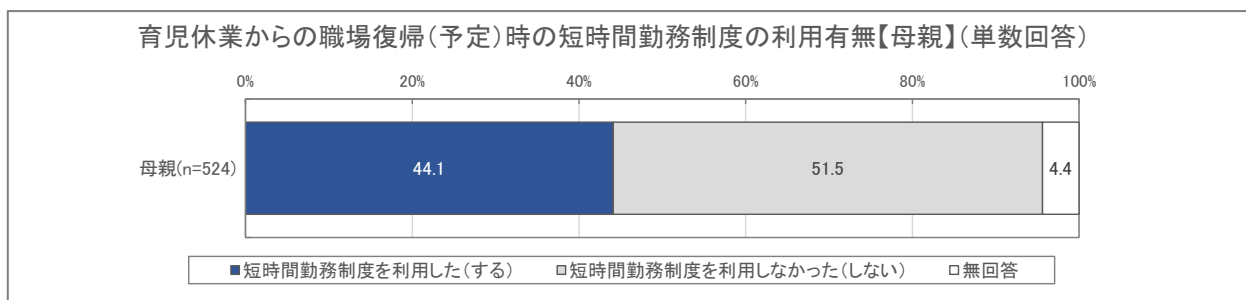
（６）職場復帰時の短時間勤務制度の利用有無

●未就学児童：問 31-4

問 30 で、「２．」（育児休業を取得した（取得中である））と回答した人のみ

育児休業からの職場復帰（復帰する予定）時に、短時間勤務制度を利用したか（利用するか）についてお答えください。（あてはまる番号１つに○）

○育児休業を取得した（取得中である）母親の短時間勤務制度の利用有無については、「短時間勤務制度を利用しなかった（しない）」が５割強を占め、「短時間勤務制度を利用した（する）」は４割台半ばとなっています。



（７）短時間勤務制度を利用しなかった（利用しない）理由

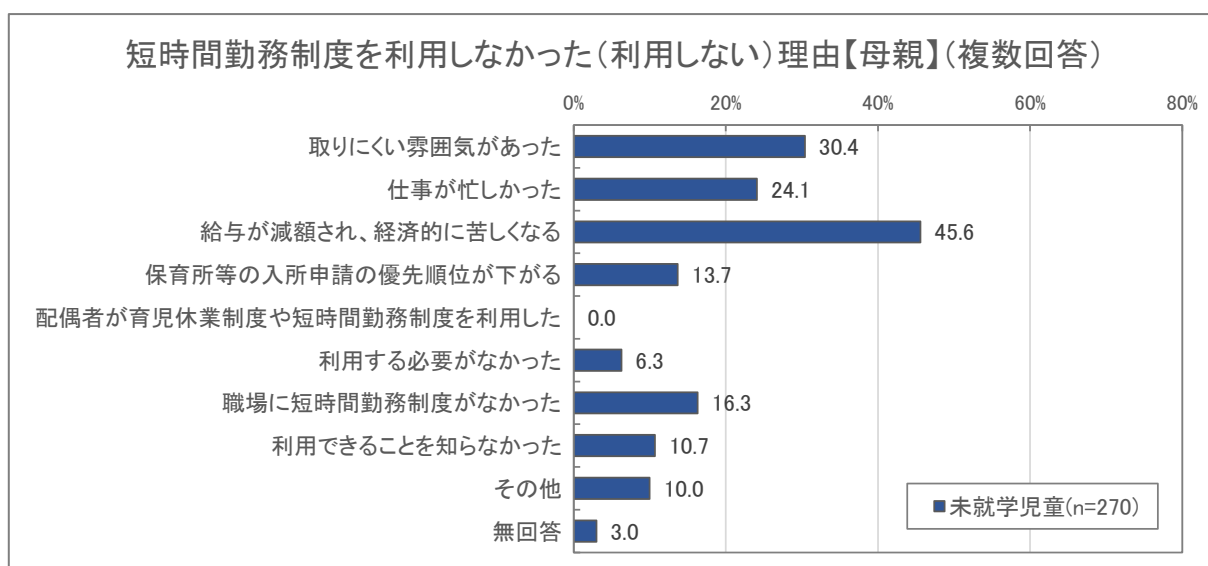
●未就学児童：問 31-5

問 31-4 で、「２．」（短時間勤務制度を利用しなかった（利用しない））と回答した人のみ

短時間勤務制度を利用しなかった（利用しない）理由についてお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

○「給与が減額され経済的に苦しくなる」が４割台半ばで最も多く、次いで「取りにくい雰囲気があった」が約３割、「仕事が忙しかった」が２割台半ばとなっており、経済的理由と職場の子育て支援環境によるものが多くなっています。



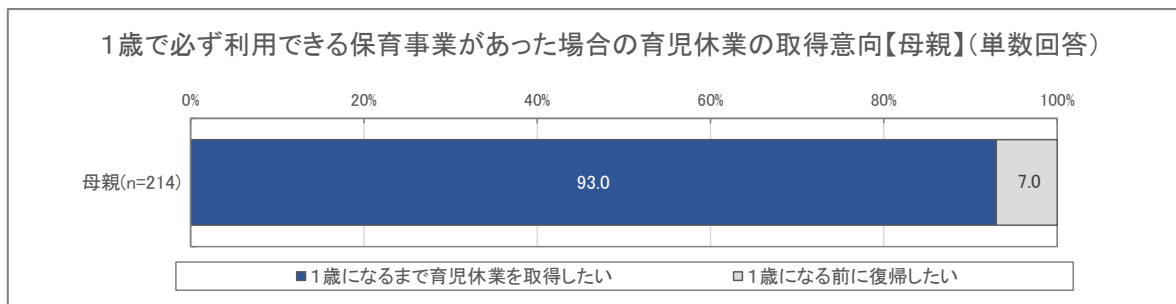
(8) 1歳で必ず利用できる保育事業があった場合の育児休業の取得意向

●未就学児童：問 31-6

現在、育児休業中の人のみ

お子さんが1歳になったときに必ず利用できる保育事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかについてお答えください。(あてはまる番号1つに○)

○「1歳になるまで育児休業を取得したい」が9割強となっています。



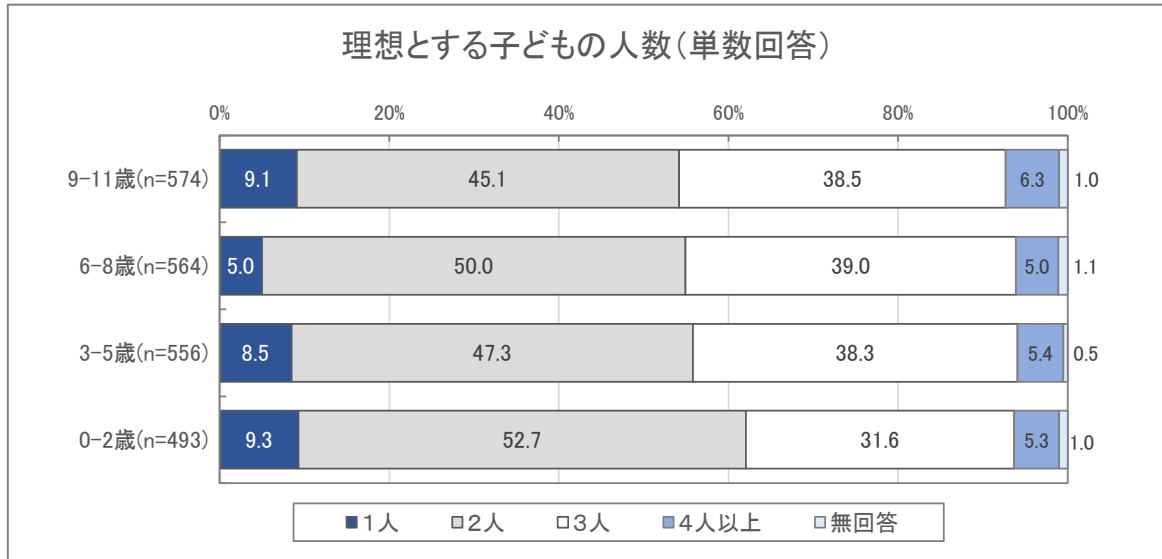
2.11 子育てのことやご家庭の経済的状況について

(1) 理想とする子どもの人数

●未就学児童：問 32 [就学児童：問 23]

理想とする子どもの人数をご記入ください。

○「2人」が4割台半ば～5割強、「3人」が3割強～4割弱と多くなっています。



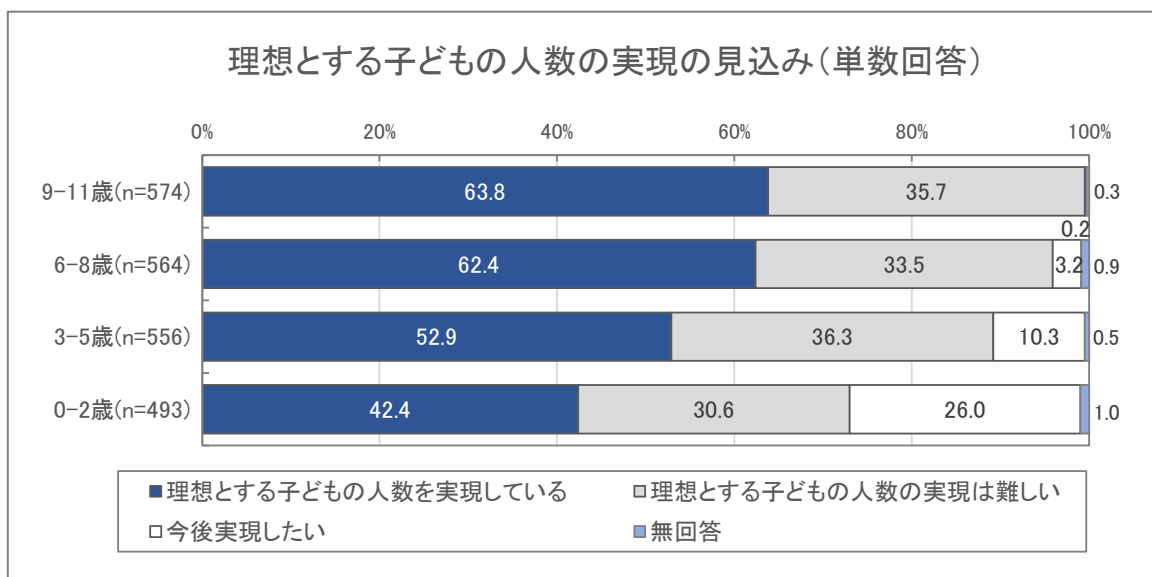
(2) 理想とする子どもの人数の実現の見込み

●未就学児童：問 33 [就学児童：問 24]

理想とする子どもの人数の実現の見込みについてお答えください。(あてはまる番号1つに○)

○「理想とする子どもの人数を実現している」が4割強～6割台半ばと最も多くなっております。

○0～2歳では「今後実現したい」が約2割台半ばと他の年齢区分に比べて多くなっています。



(3) 理想とする子どもの人数の実現が難しい理由

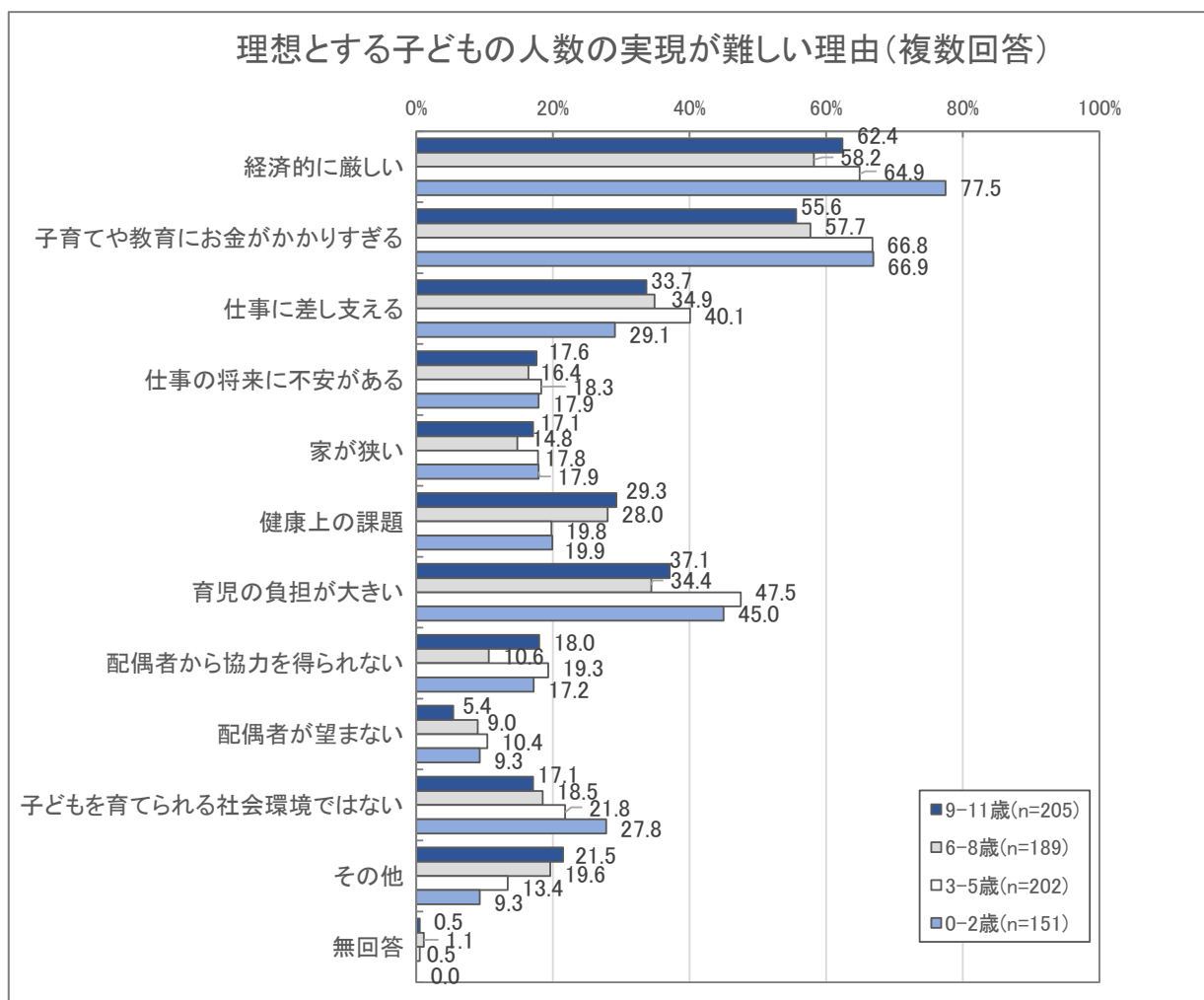
●未就学児童：問 33-1 [就学児童：問 24-1]

問 33 で「2.」(理想とする子どもの人数の実現は難しい) と回答した人のみ

理想とする子どもの人数の実現が難しい理由についてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

- 「経済的に厳しい」が6割弱～8割弱、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が5割台半ば～6割台半ばと多くなっています。
- 「育児の負担が大きい」については、特に5歳以下で4割を超えて多くなっています。
- 「その他」の内容としては、「年齢的な問題」「不妊治療が大変」のほか、離婚や死別などにより「配偶者がいない」という回答がありました。



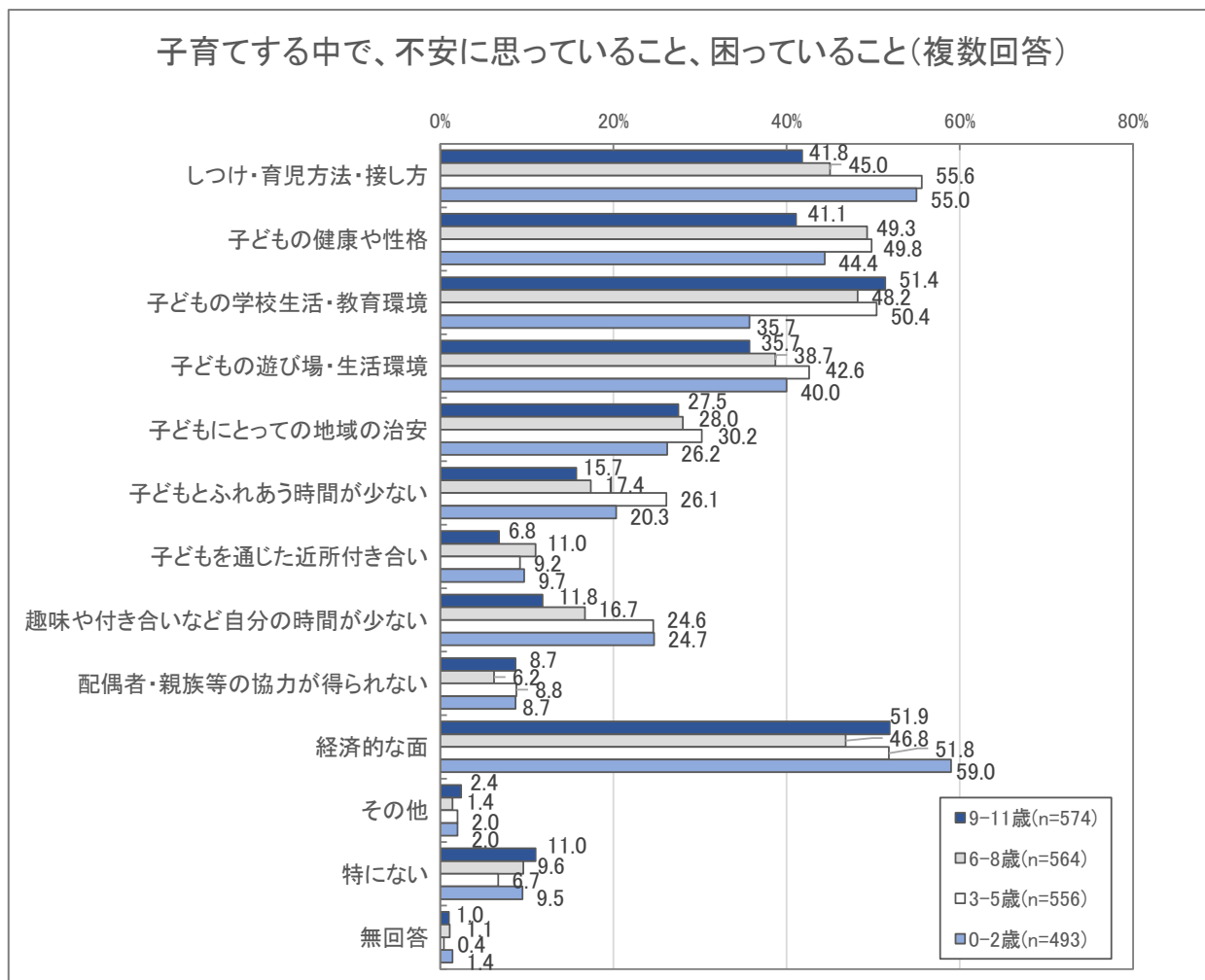
(4) 子育てをする中で不安に思っていること、困っていること

●未就学児童：問 34 [就学児童：問 25]

子育てをする中で、不安に思っていること、困っていることについてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

- 「経済的な面」が4割台半ば～約6割、「しつけ・育児方法・接し方」が4割強～5割台半ば、次いで「子どもの健康や性格」が4割強～約5割、「子どもの学校生活・教育環境」が3割台半ば～5割強などとなっています。

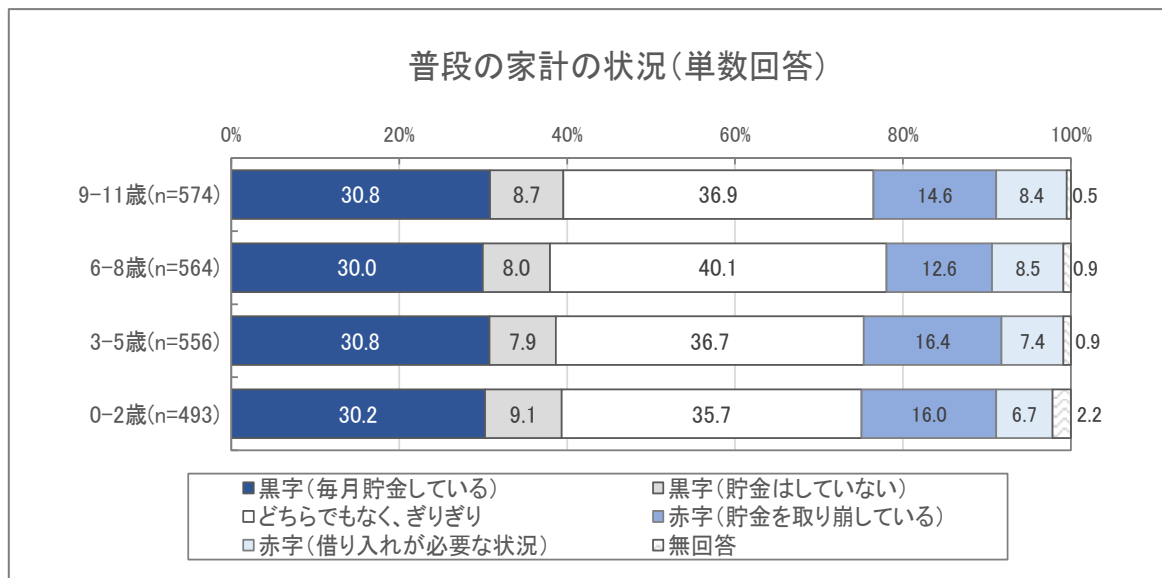


(5) 普段の家計の状況

●未就学児童：問 35 [就学児童：問 26]

普段の家計の状況について、もっとも近い状況をお答えください。(あてはまる番号 1 つに○)

○普段の家計の状況については、「どちらでもなく、ぎりぎり」が3割台半ば～約4割で最も多く、次いで“黒字”（「黒字（毎月貯金している）」と「黒字（貯金はしていない）」の合計）は4割弱～約4割、“赤字”（「赤字（貯金を取り崩している）」と「赤字（借り入れが必要な状況）」の合計）は2割台となっています。

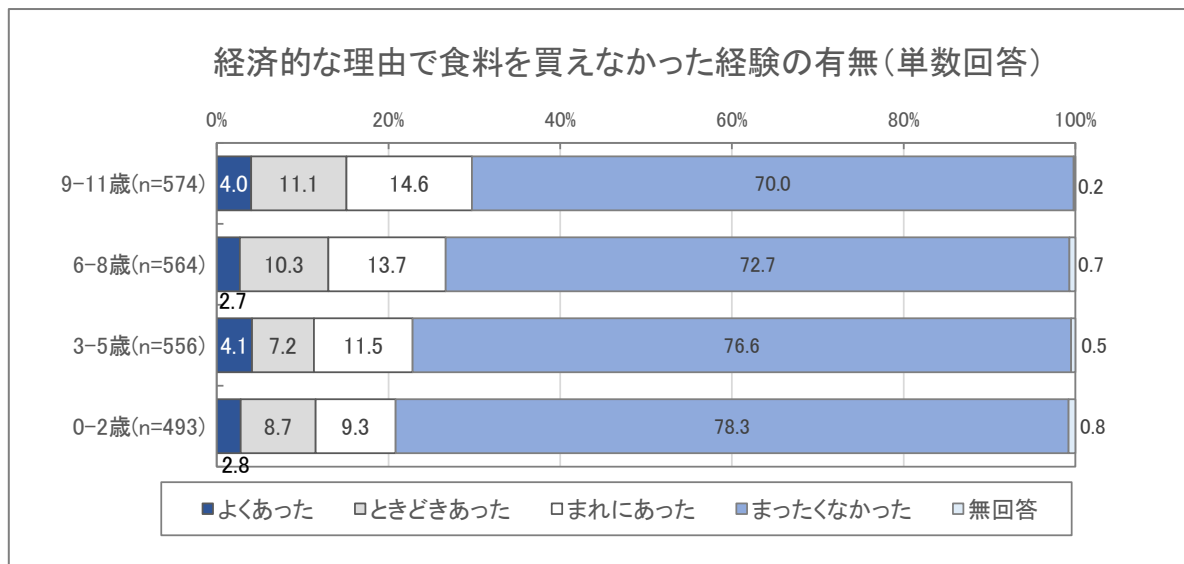


（６）経済的な理由で食料を買えなかった経験の有無

●未就学児童：問 36 [就学児童：問 27]

経済的な理由で食料を買えなかった経験はありますか。（あてはまる番号 1 つに○）

○「まったくなかった」が 7 割～8 割弱となっており、“あった”（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）という回答は約 2 割～3 割弱となっています。

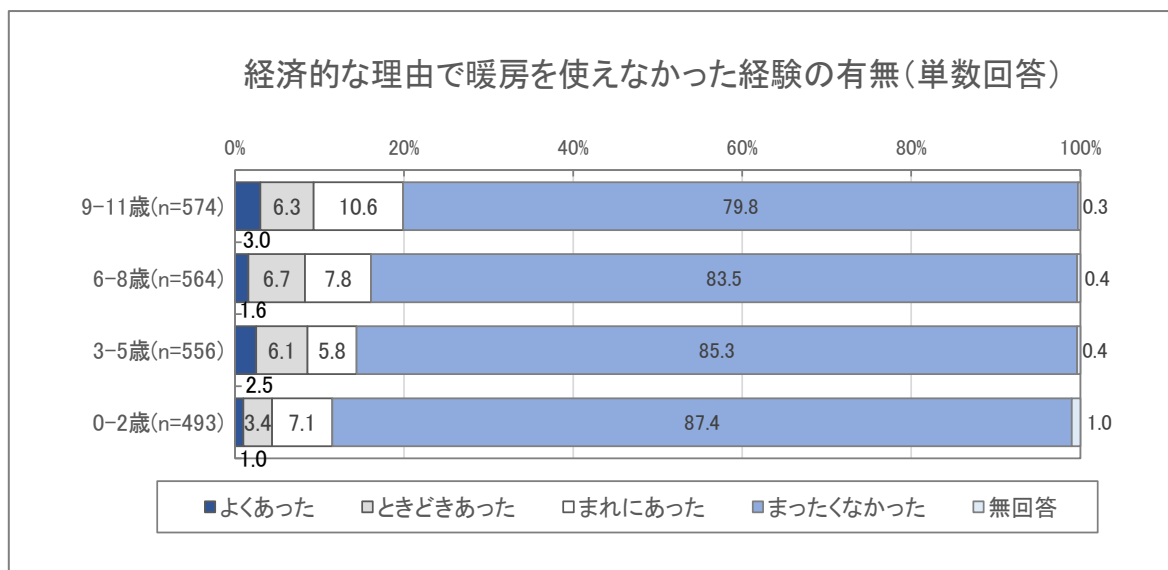


（７）経済的な理由で暖房が使えなかった経験の有無

●未就学児童：問 37 [就学児童：問 28]

経済的な理由で暖房が使えなかった経験はありますか。（あてはまる番号 1 つに○）

○「まったくなかった」が約 8 割～9 割弱となっており、“あった”（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）という回答は 1 割強～約 2 割となっています。



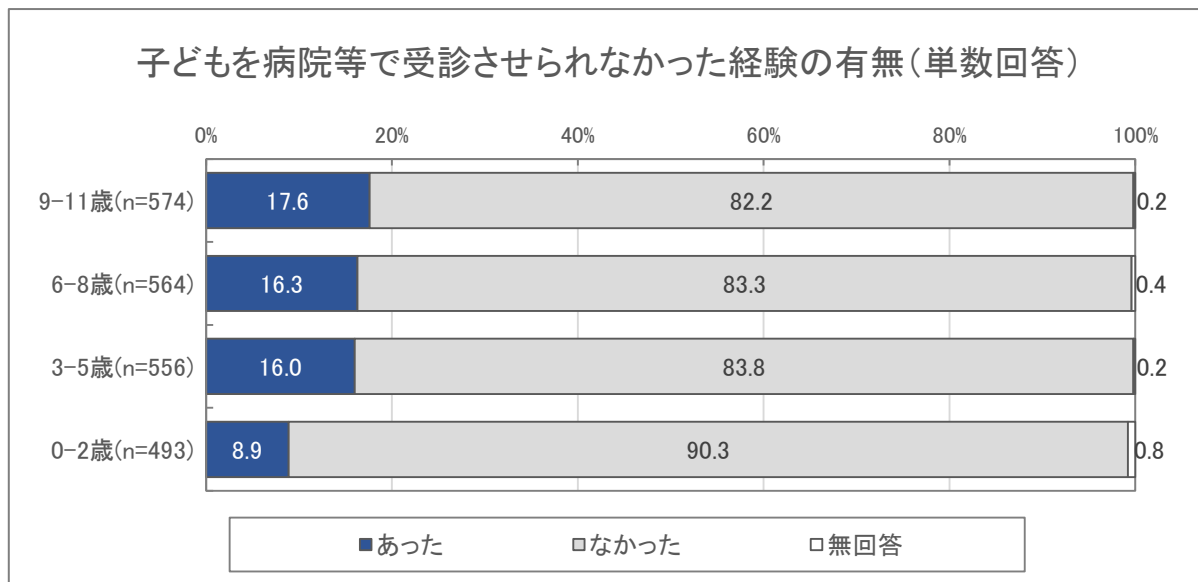
（８）子どもを病院等で受診させられなかった経験の有無

●未就学児童：問 38 [就学児童：問 29]

子どもが病院等を受診した方が良かったが、受診させられなかった経験はありますか。

（あてはまる番号 1 つに○）

○「なかった」が 8 割台～約 9 割となっており、「あった」という回答も 0～2 歳を除いて 1 割台半ばとなっています。



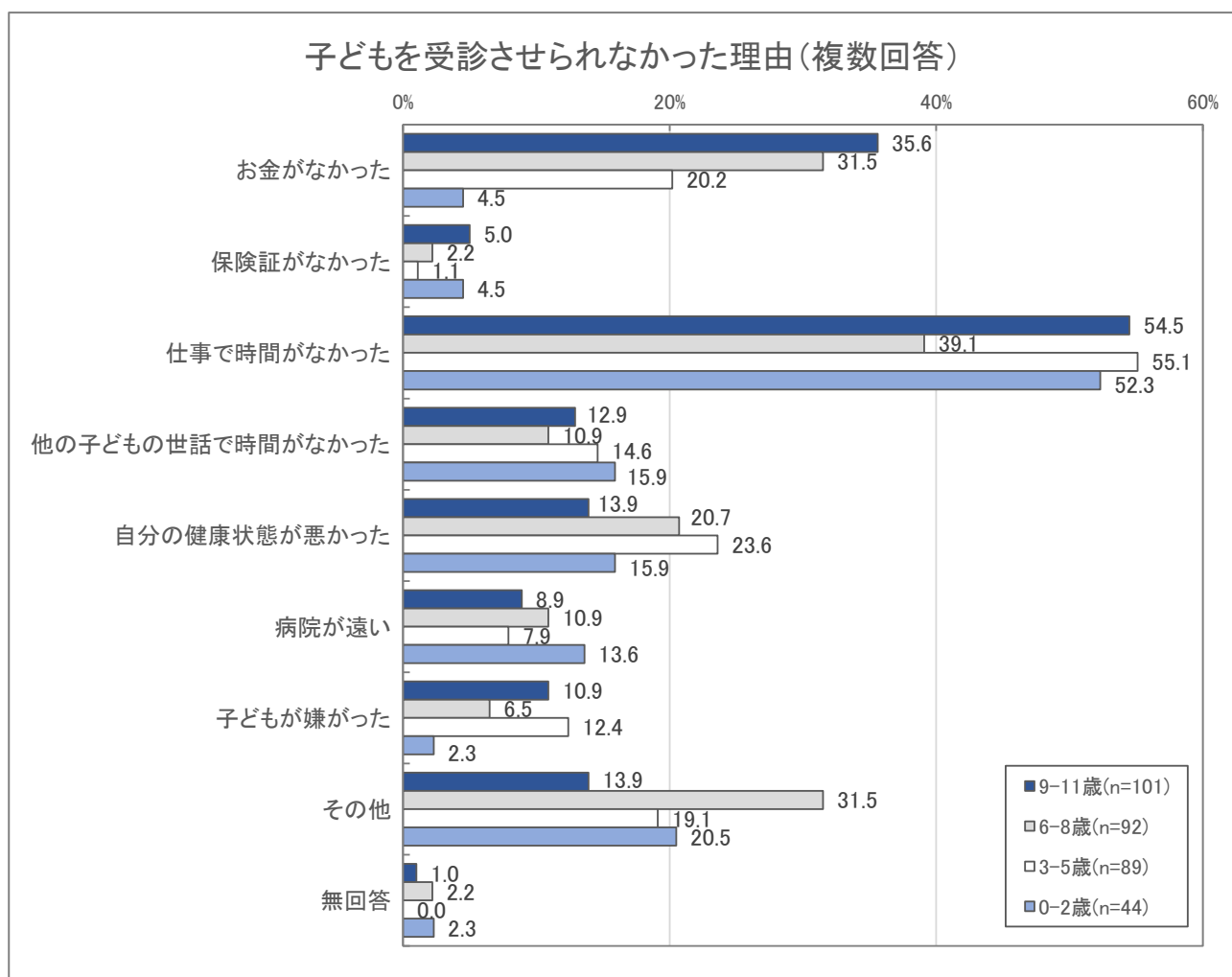
(9) 子どもを受診させられなかった理由

●未就学児童：問 38-1 [就学児童：問 29-1]

問 38 [問 29] で「1.」(あった)と回答した人のみ

子どもを受診させられなかった理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 子どもを受診させられなかった理由については、「仕事で時間がなかった」が約4割～5割台半ばで最も多くなっています。次いで0～2歳では「他の子どもの世話で時間がなかった」「自分の健康状態が悪かった」が1割台半ばとなっており、それ以外の年代では、「お金がなかった」が約2割～3割台半ばで多くなっています。
- 6～8歳では、「その他」が3割台となっており、内容としては「小児科が少ない。待ち時間が長い。」「交通の便が悪い」「予約がとれない」「診察時間があわない」などがあげられました。



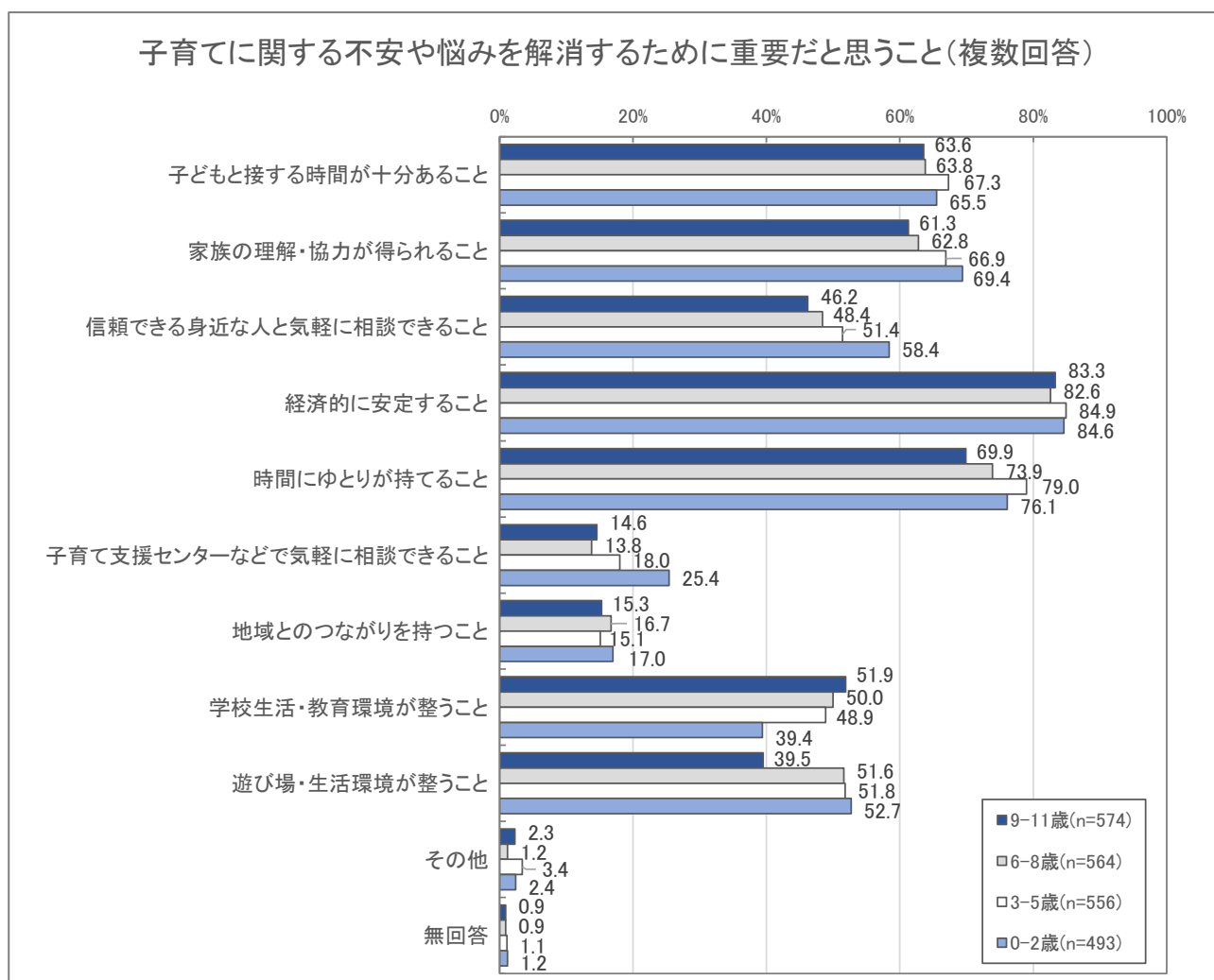
(10) 子育てに関する不安や悩みを解消するために重要だと思うこと

●未就学児童：問 39 [就学児童：問 30]

子育てに関する不安や悩みを解消するために重要だと思うことについてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

○「経済的に安定すること」が8割強～8割台半ば、「時間にゆとりが持てること」が約7割～約8割、「子どもと接する時間が十分あること」が6割台半ば～7割弱、「家族の理解・協力が得られること」が6割強～約7割と多くなっています。

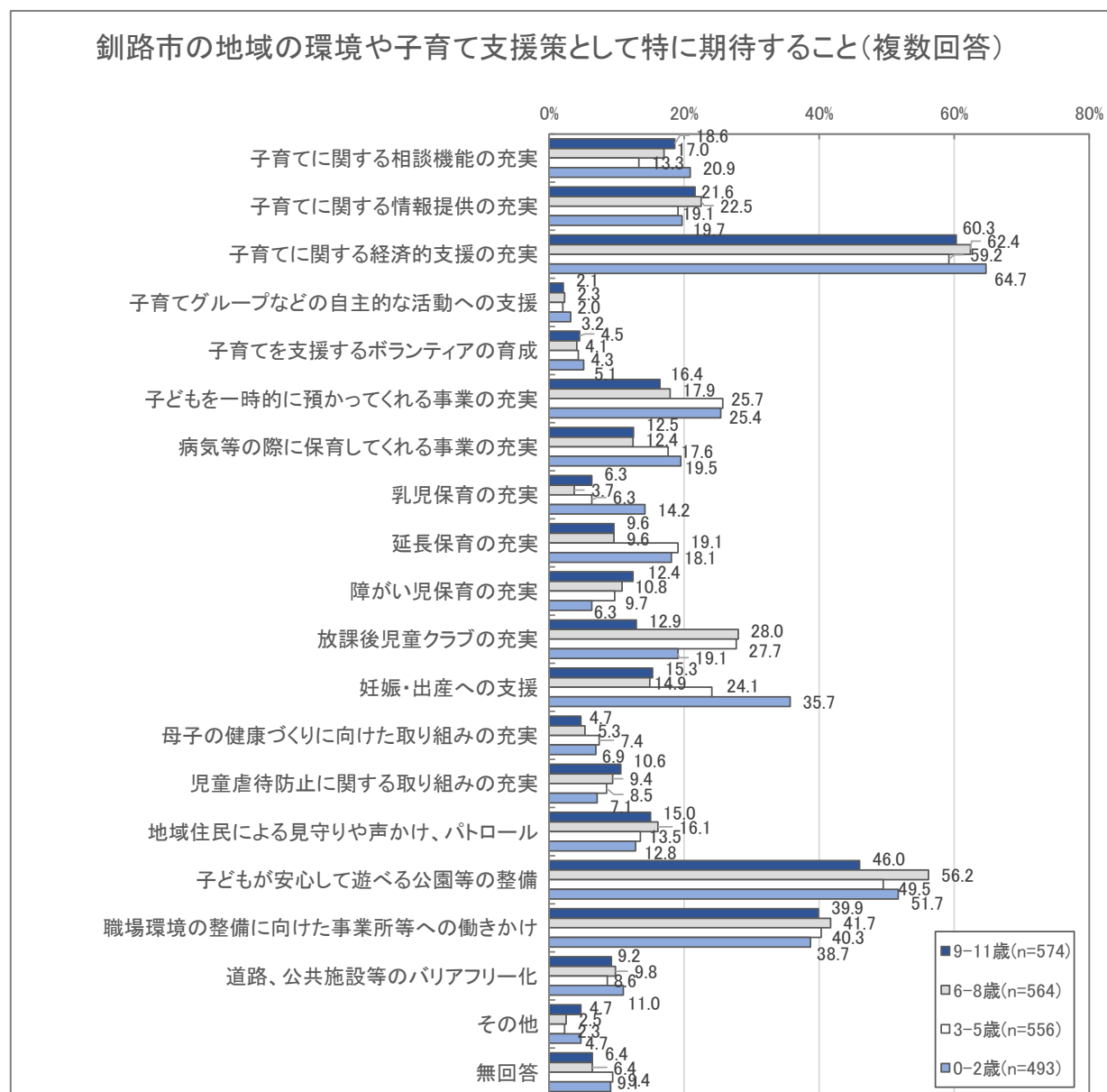


(11) 釧路市の地域の環境や子育て支援策として特に期待すること

●未就学児童：問 40〔就学児童：問 31〕

釧路市の地域の環境や子育て支援策として、あなたが特に期待すること、重要だと思うことは何ですか。（あてはまる番号5つまで○）

○「子育てに関する経済的支援の充実」が約6割～6割台半ば、「子どもが安心して遊べる公園等の整備」が4割台半ば～5割台半ば、「職場環境の整備に向けた事業所等への働きかけ」が4割弱～4割強で多くなっています。

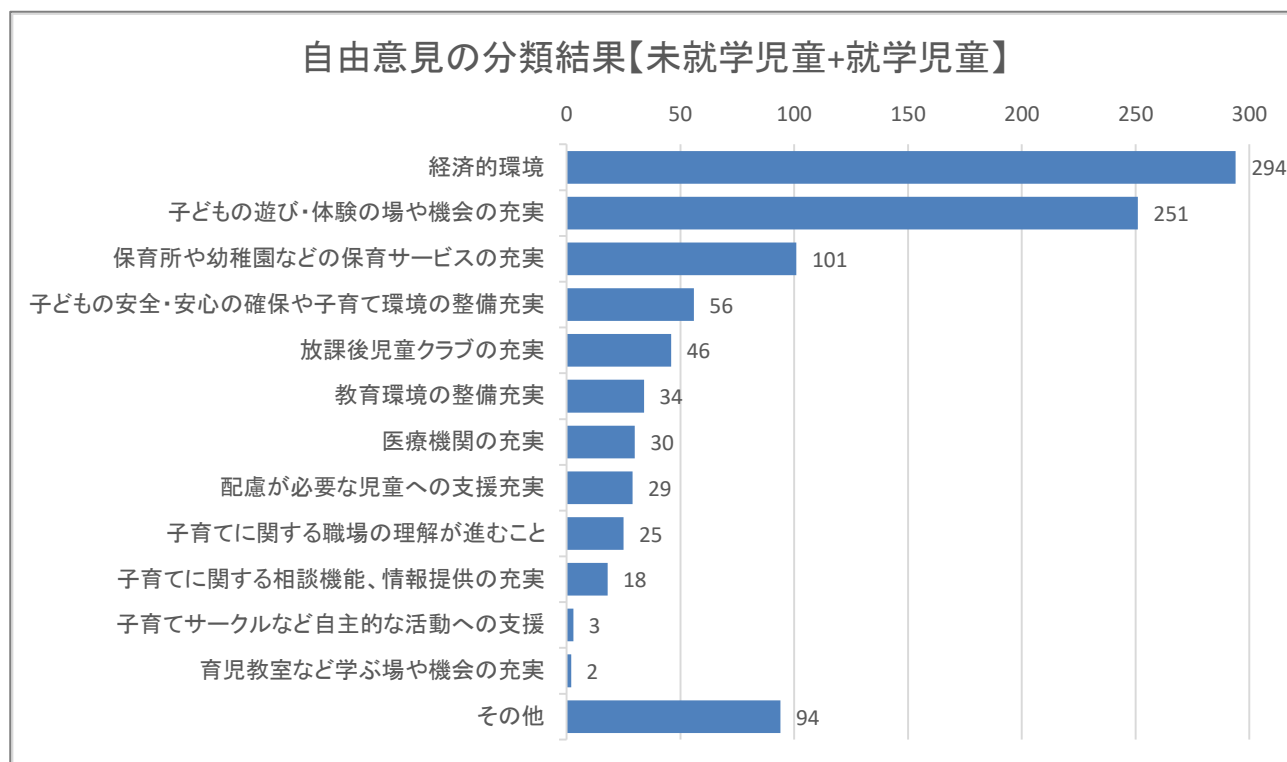


2.12 ご意見・ご要望などについて

●未就学児童：問 41【就学児童：問 32】

最後に、子育ての環境や支援、教育・保育環境の拡充などに関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

○781 名から回答があり、「経済的環境」「子どもの遊び・体験の場や機会の充実」「保育所や幼稚園などの保育サービスの充実」「子どもの安全・安心の確保や子育て環境の整備充実」に対する意見・要望が多くなっています。



【経済的環境について】

○「医療費の無料化」「学校給食の無料又は補助」「保育料金の無償化」「教材費や給食費など、養育にかかる負担」に関する意見が特になくなっています。

【子どもの遊び・体験の場や機会の充実】

○「子供が遊べる公園、屋内施設」「子供に色々な体験をさせるための施設」に関する意見が特になくなっています。

【保育所や幼稚園などの保育サービスの充実】

○「日曜日や長期休暇時の保育」「教育・保育サービスの時間帯」「病児保育の数等の受け入れ態勢」に関する意見が多くなっています。

【子どもの安全・安心の確保や子育て環境の整備充実】

○「公園の治安・衛生環境」「通学路の道路整備、除雪」「公園の遊具等老朽化している箇所」に関する意見が多くなっています。

3 属性による集計

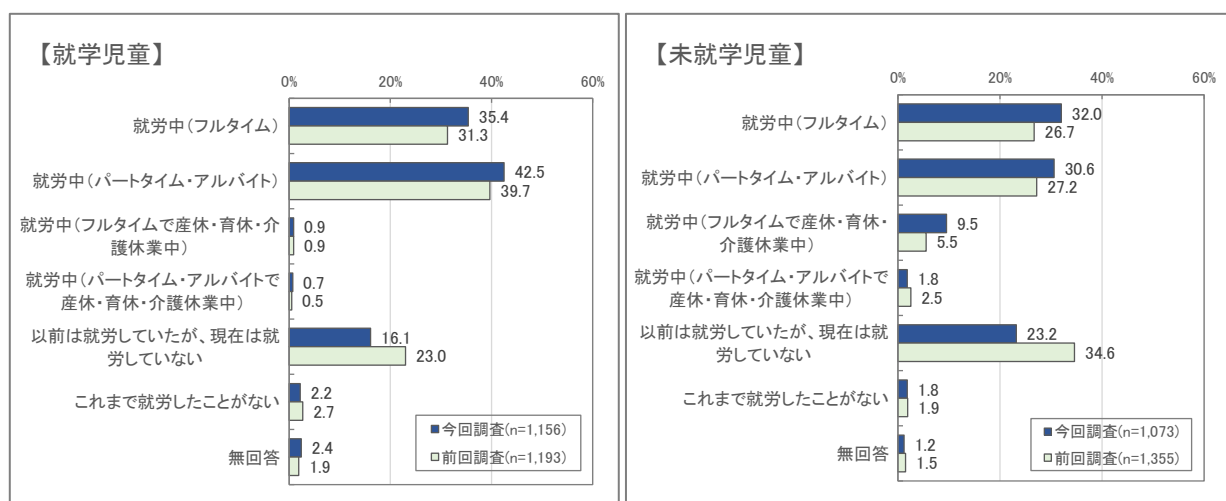
3.1 母親の就労状況別集計

(1) 母親の就労状況の変化

○就労している母親（フルタイム、パートタイム、アルバイトの合計（産休・育休・介護休業中含む））の割合は6割強～8割弱となっています。

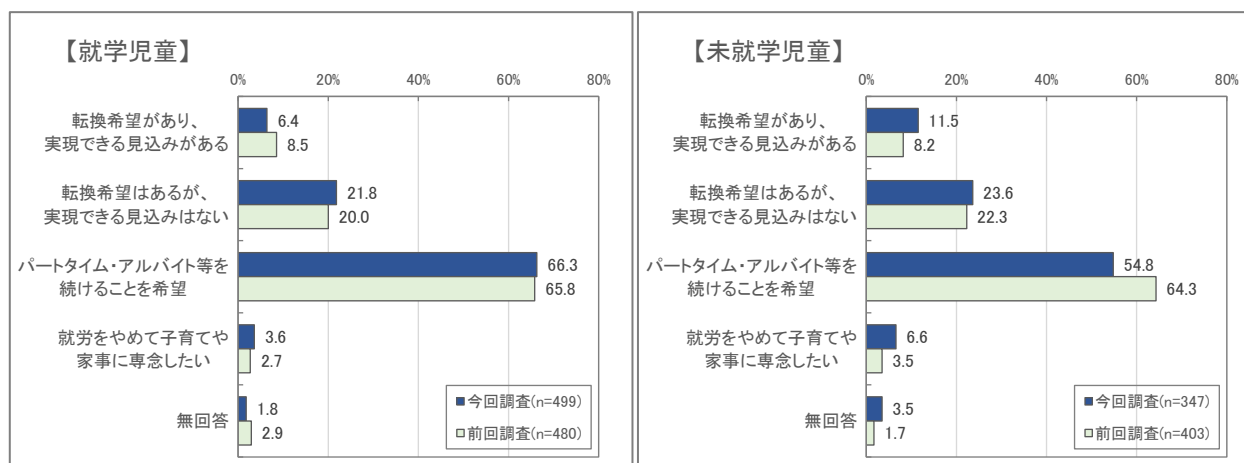
○母親の就労状況を5年前の調査結果と比較すると、就学児童、未就学児童とも大きな違いはみられないものの、全体的に“就労中”の割合が増加しています。

母親の就労状況の前回調査結果との比較（単数回答）



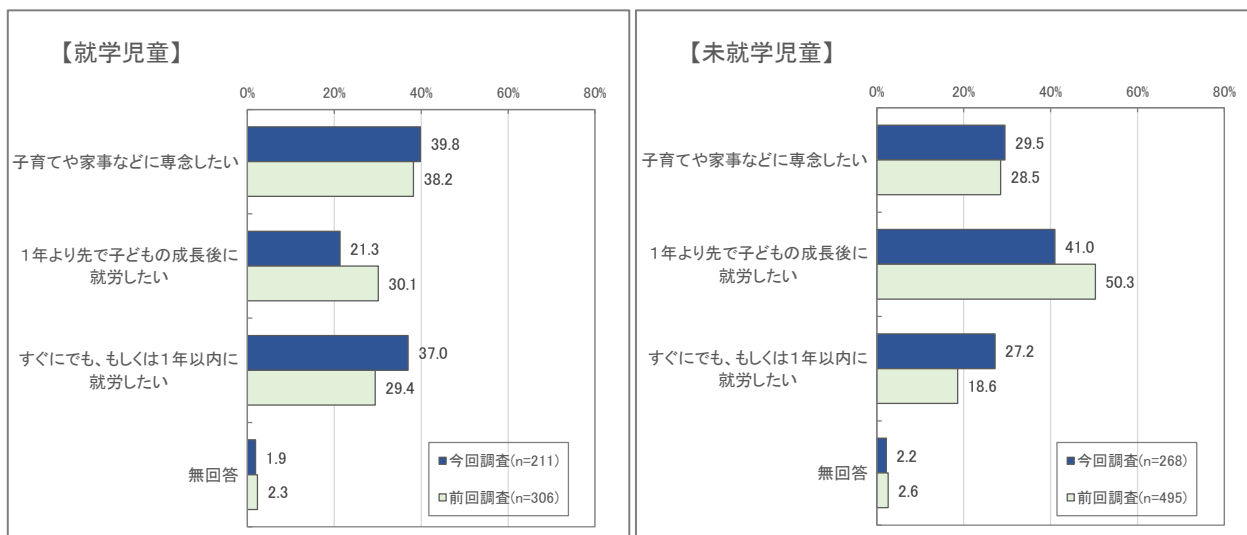
○母親のパートタイム等からのフルタイムへの転換希望についても、5年前の調査結果と大きな違いはみられないものの、未就学児童において、「パートタイム・アルバイト等を続けることを希望」が減少し、「家事に専念したい」と「転換希望があり、実現できる見込みがある」がそれぞれ増加しています。

母親のパートタイム等からのフルタイムへの転換希望の前回調査結果との比較（単数回答）



○現在就労していない母親の今後の就労希望を5年前の調査結果と比較すると、就学児童、未就学児童とも「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が増加しています。

現在就労していない母親の今後の就労希望の前回調査結果との比較（単数回答）



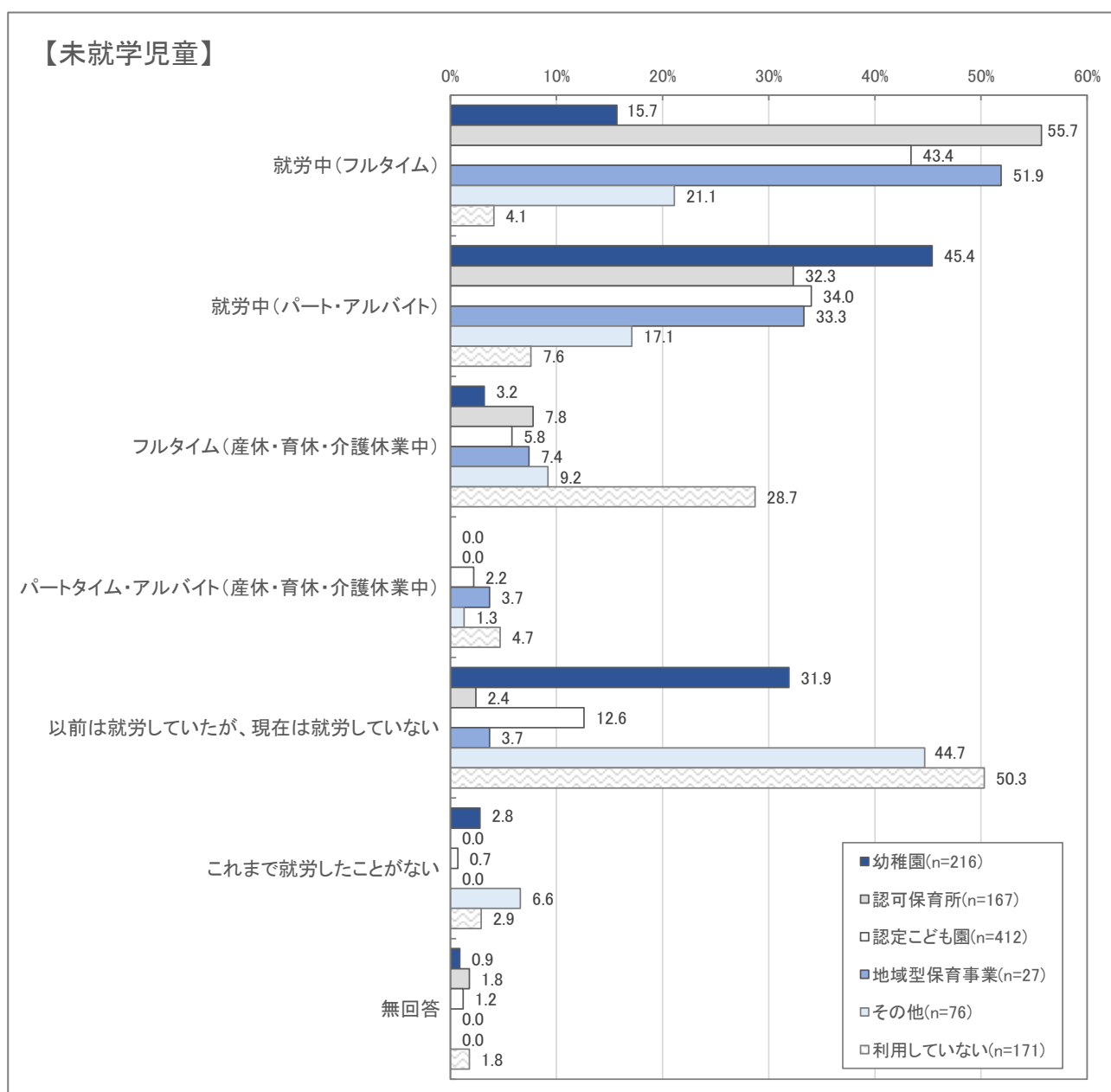
(2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

○母親の就労状況別に平日の定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、幼稚園については、就労していない母親（「以前は就労していたが現在はしていない」と「これまでに就労したことがない」の合計）が3割台半ばで多いものの、就労している母親（「就労中（フルタイム）」と「就労中（パート・アルバイト）」の合計）も6割台半ばとなっています。

○認可保育所については、「就労中（フルタイム）」が5割台半ばとなっています。

○認定こども園については、「就労中（フルタイム）」と「就労中（パート・アルバイト）」が3割台半ば～4割台半ばとなっています。

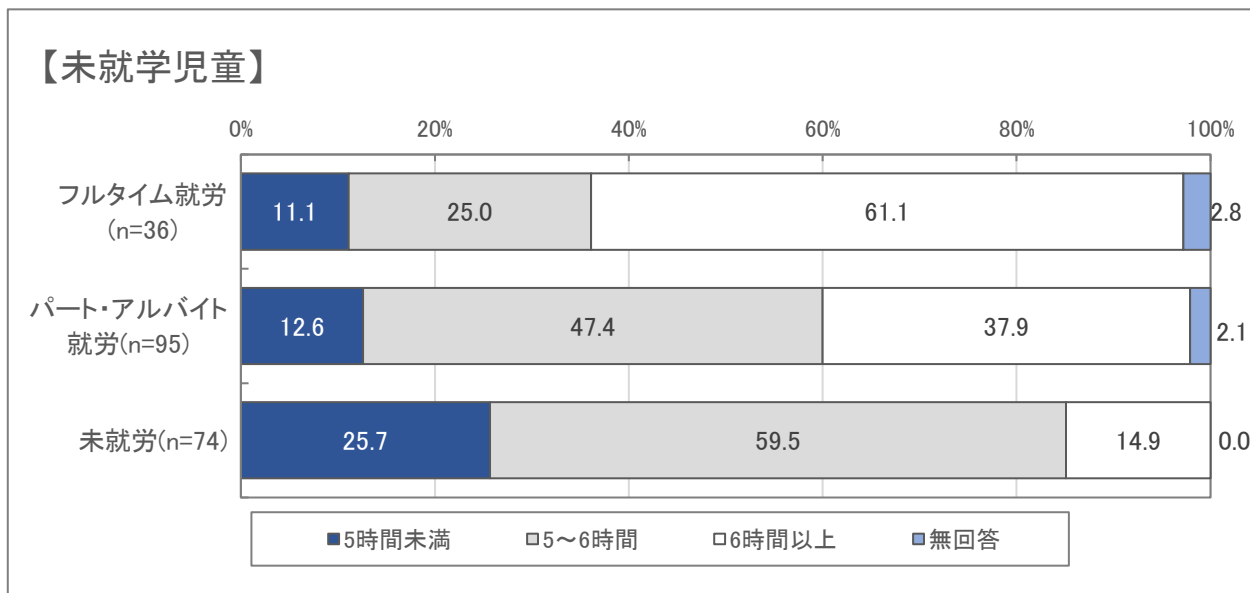
母親の就労状況別、平日の教育・保育事業の利用状況（単数回答）



①幼稚園

○母親の就労状況別の幼稚園の利用時間は、フルタイム就労では「6時間以上」が約6割強で最も多く、未就労では「5～6時間」が約6割で最も多くなっています。

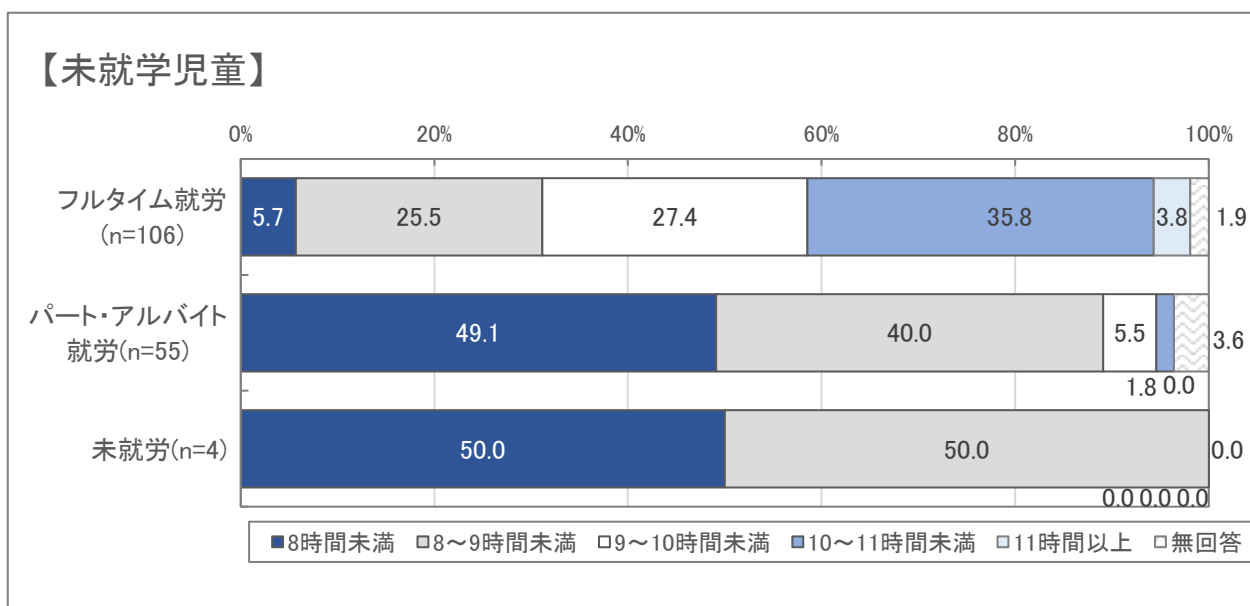
母親の就労状況別、幼稚園の利用時間（単数回答）



②認可保育所

○母親の就労状況別の認可保育所の利用時間は、フルタイム就労では「10～11時間未満」が3割台半ばで最も多く、パート・アルバイト就労では「8時間未満」が5割弱、「8～9時間未満」が4割と多くなっています。

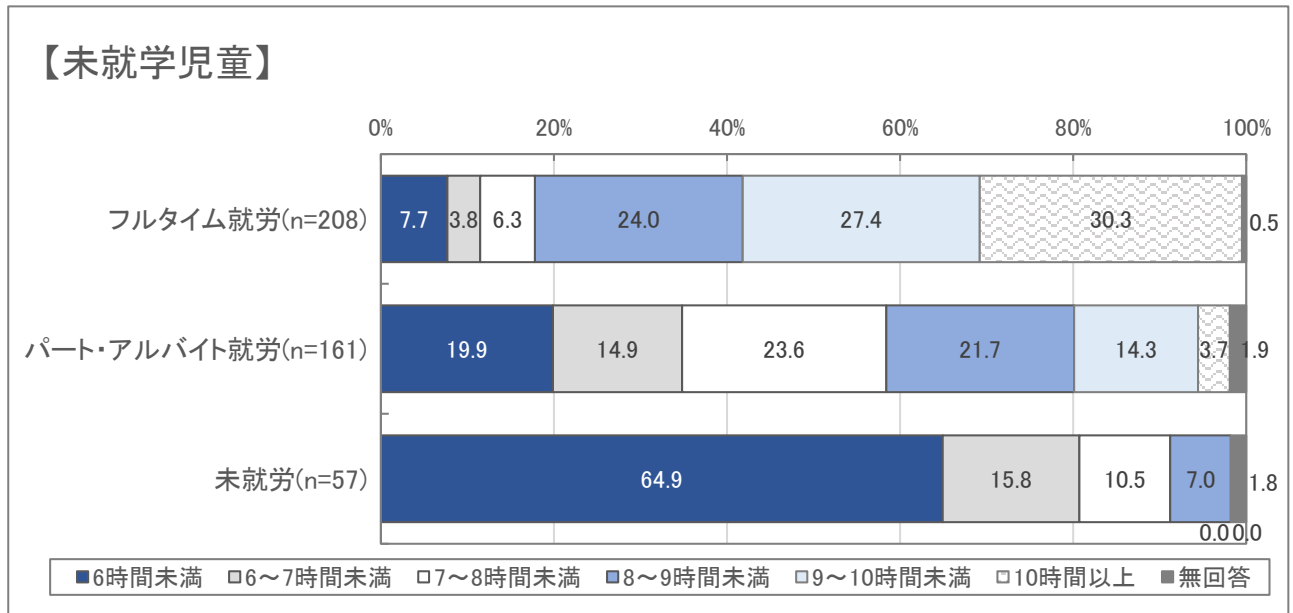
母親の就労状況別、認可保育所の利用時間（単数回答）



③認定こども園

○母親の就労状況別の認定こども園の利用時間は、フルタイム就労では「10 時間以上」が約 3 割で最も多く、パート・アルバイト就労では「7～8 時間未満」が 2 割台、未就労では「6 時間未満」が 6 割台半ばで最も多くなっています。

母親の就労状況別、認定こども園の利用時間（単数回答）



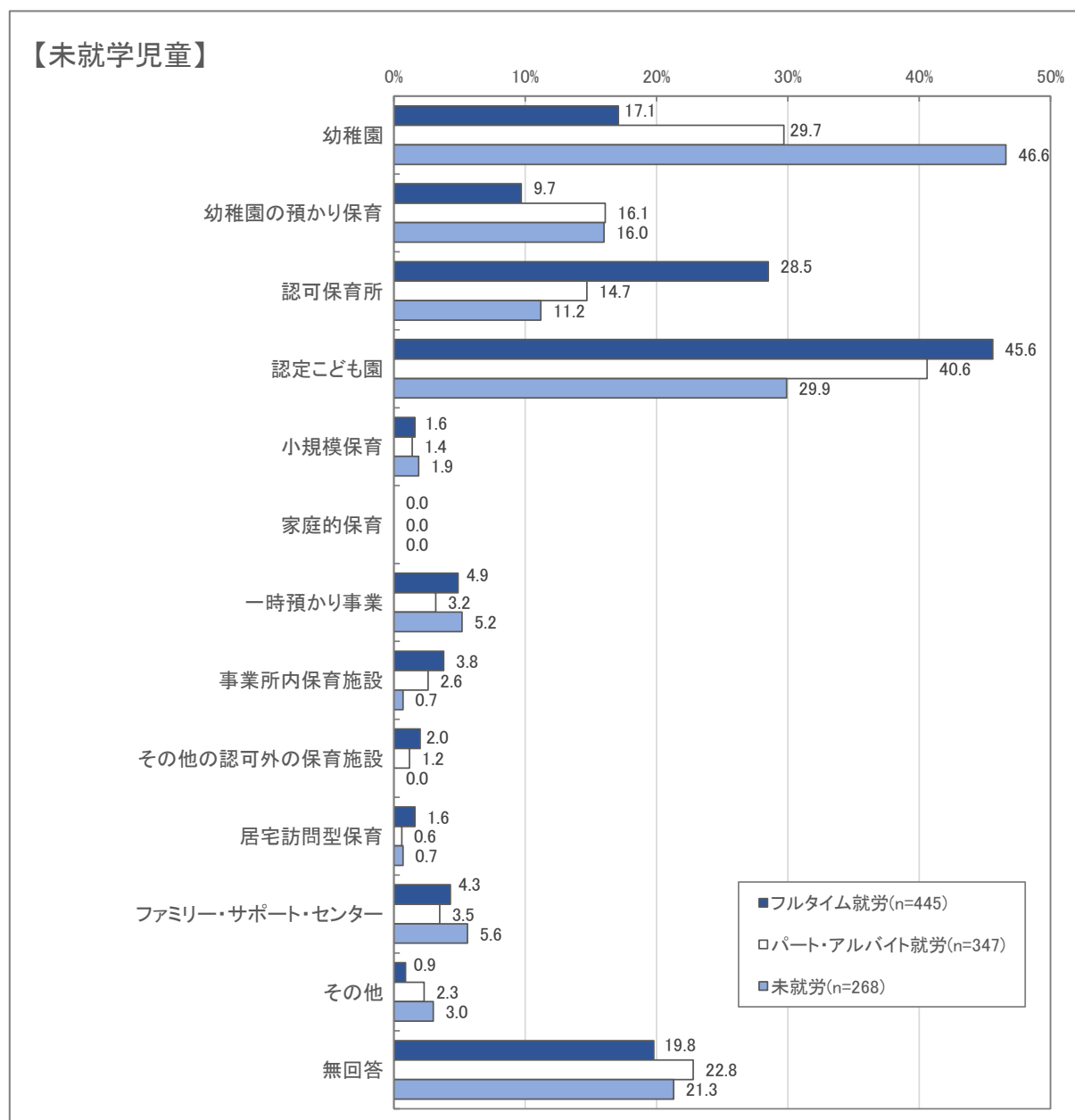
(3) 平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用希望

平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用希望については、現在フルタイム就労している母親では「認定こども園」が4割台半ばで最も多く、次いで「認可保育所」が3割弱、「幼稚園」が2割弱となっています。

パート・アルバイト就労では「認定こども園」が約4割で最も多く、次いで「幼稚園」が3割弱、「幼稚園の預かり保育」が1割台半ばとなっています。

未就労では「幼稚園」が4割台半ばで最も多くなっています。

母親の就労状況別、平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用希望（複数回答）

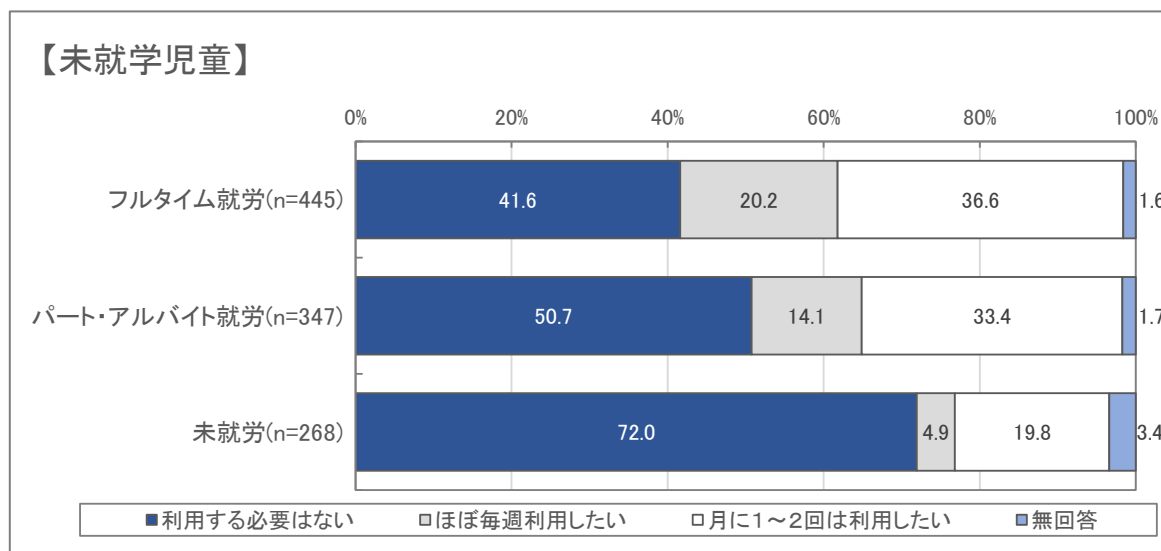


(4) 平日の定期的な教育・保育事業以外の事業の今後の利用希望

①土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望

○現在フルタイム、パート・アルバイト就労している母親では、5割弱～6割弱が“利用したい”（「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合計）と回答しており、利用希望が高くなっています。

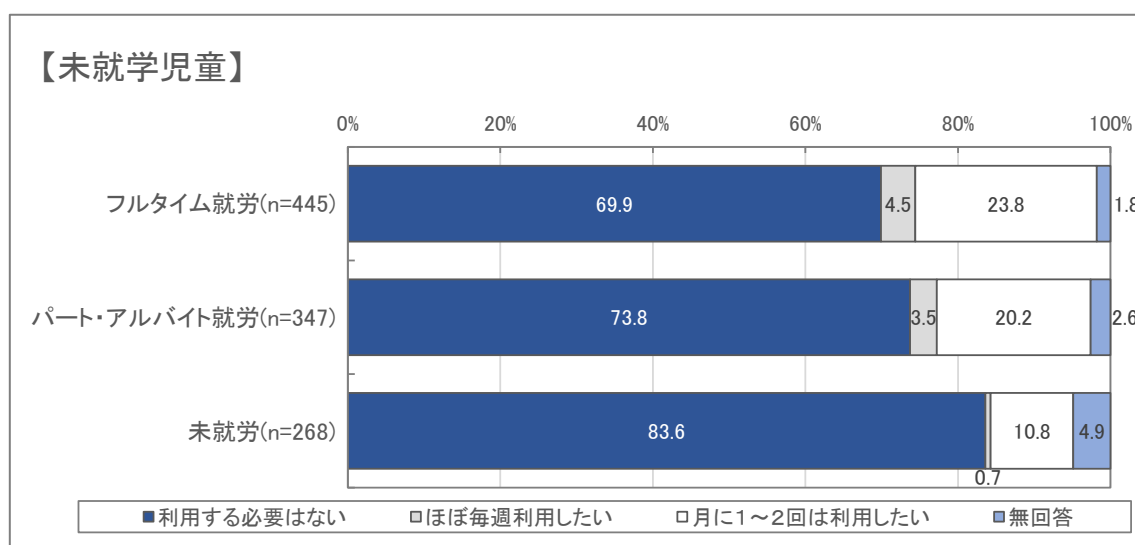
母親の就労状況別、土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望（単数回答）



②日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

○現在フルタイム、パート・アルバイト就労、未就労の母親で「利用する必要はない」が約7割～7割強を占めており、土曜日に比べると利用希望は低いものの、現在フルタイム就労している母親では3割弱、パート・アルバイト就労している母親では2割台が“利用したい”（「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合計）と回答しています。

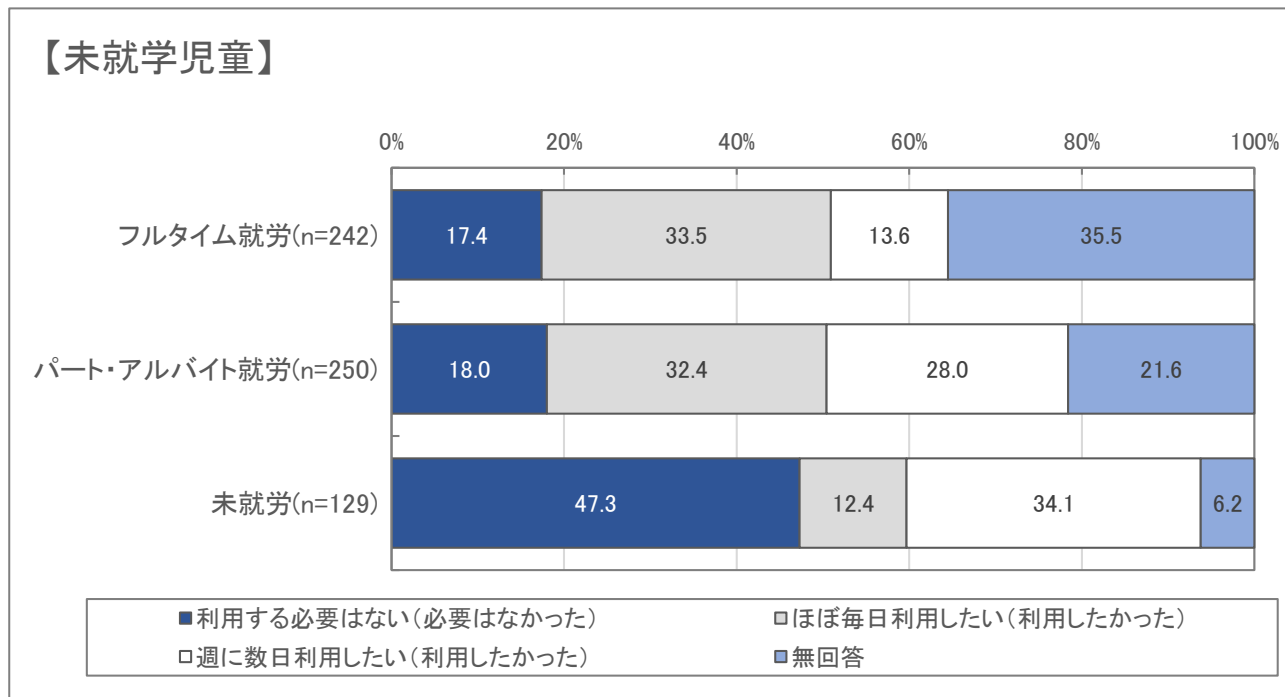
母親の就労状況別、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望（単数回答）



③長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

○現在フルタイム就労している母親では約 5 割弱、パート・アルバイト就労している母親では約 6 割が“利用したい”（「ほぼ毎日利用したい（利用したかった）」と「週に数日利用したい（利用したかった）」の合計）と回答しています。

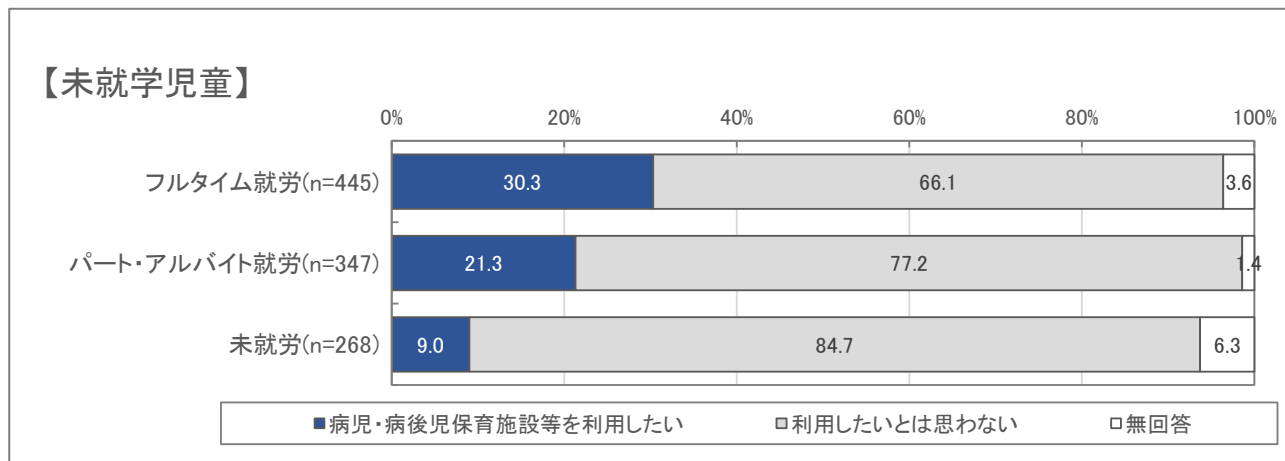
母親の就労状況別、長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望（単数回答）



④病児・病後児のための保育施設等の利用希望

○子どもが病気などで普段利用している教育・保育事業が利用できない場合等における、病児・病後児のための保育施設の利用希望者の割合は、現在フルタイム、パート・アルバイト就労している母親の 2 割強～約 3 割、未就労では 1 割弱と、利用希望が高くなっています。

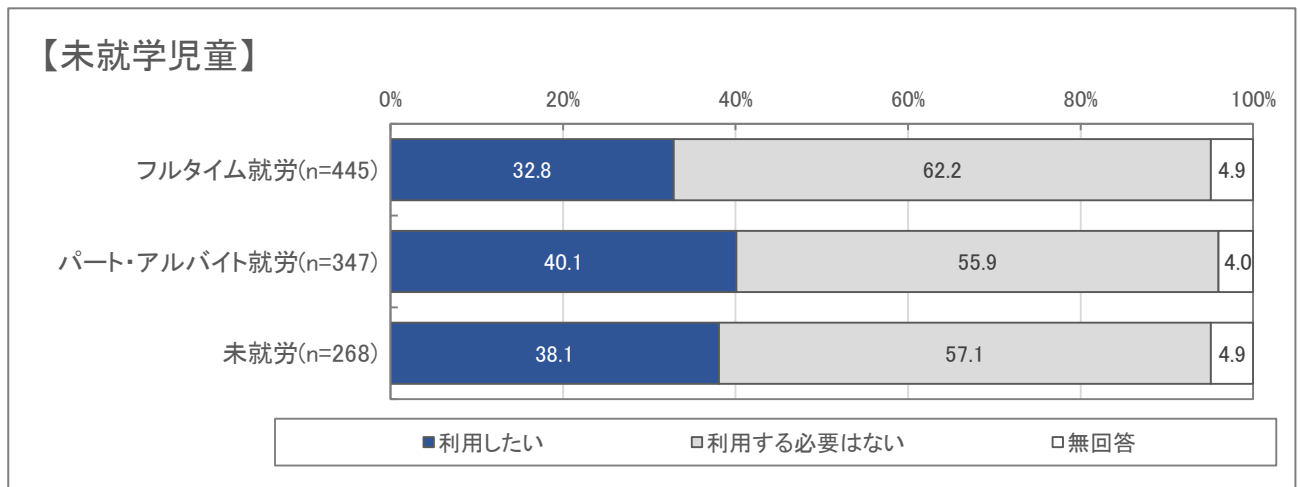
母親の就労状況別、病児・病後児のための保育施設等の利用希望（単数回答）



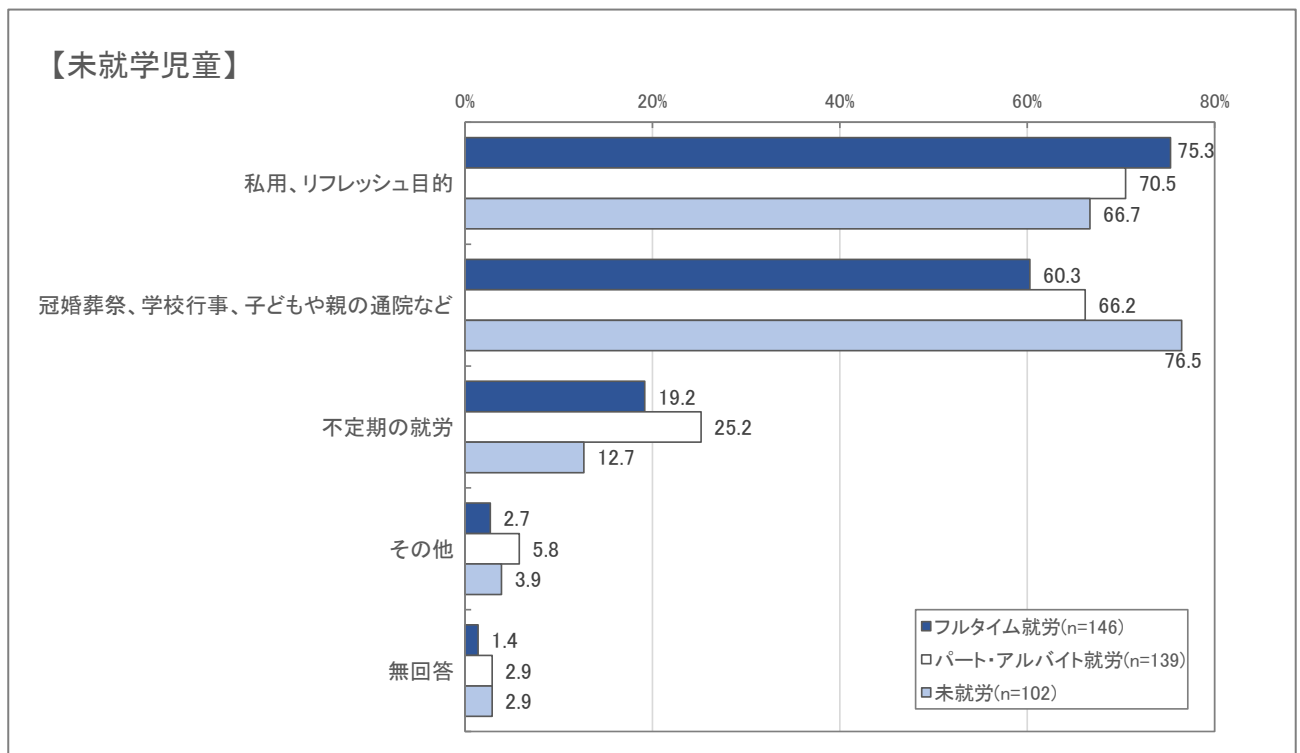
⑤不定期の教育・保育事業の利用希望

○すべての区分で3割強～約4割が「利用したい」と回答しています。

母親の就労状況別、不定期の教育・保育事業の利用希望（単数回答）



母親の就労状況別、不定期の事業を利用したい理由（複数回答）



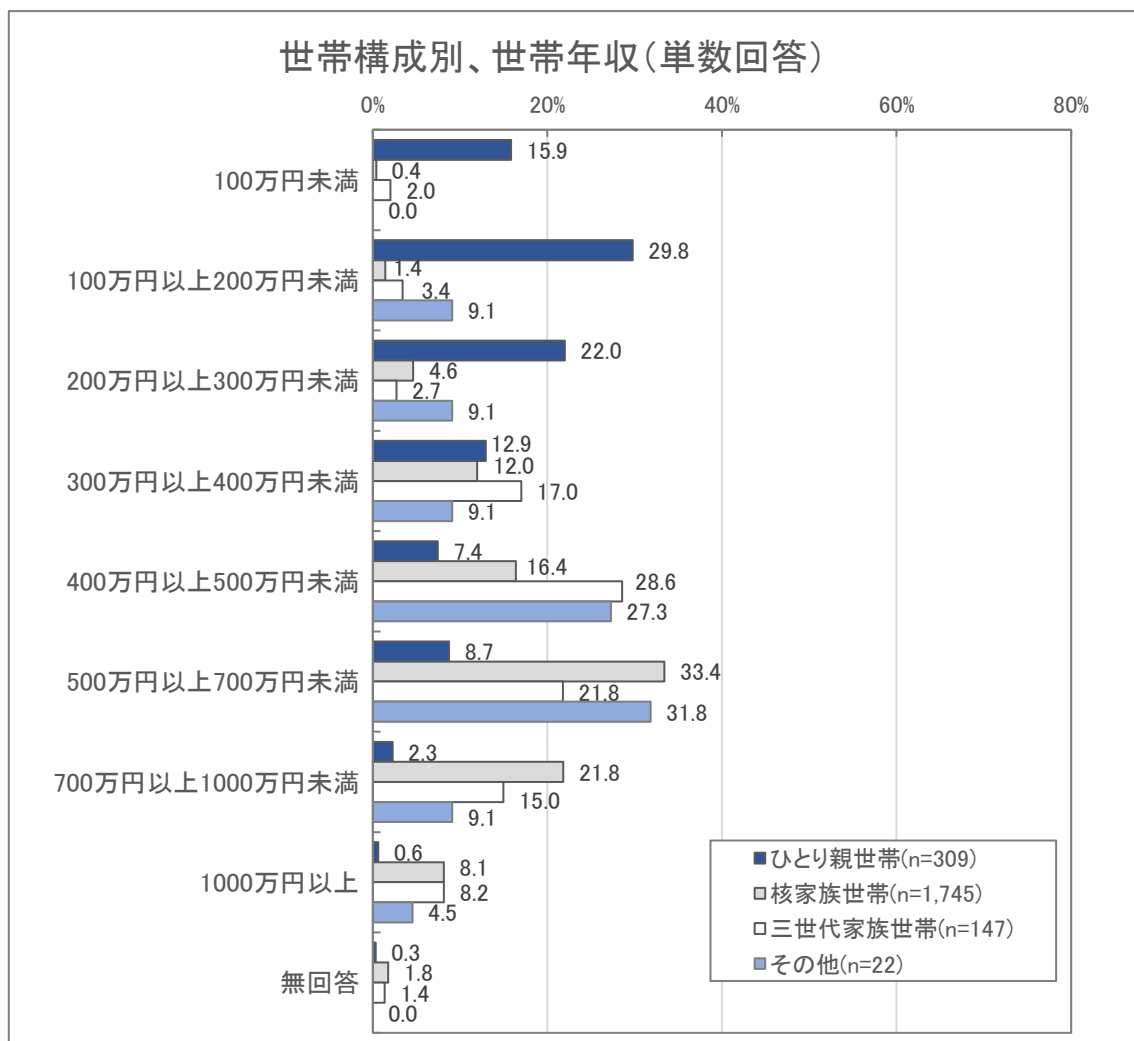
3.2 世帯構成別集計

(1) 世帯年収

○核家族世帯では「500 万円以上 700 万円未満」が 3 割強、三世代家族世帯では「400 万円以上 500 万円未満」が 3 割弱で最も多くなっています。

○ひとり親世帯では「100 万円以上 200 万円未満」が約 3 割で最も多く、次いで「200 万円以上 300 万円未満」が 2 割強となっています。

世帯構成別、世帯年収（単数回答）

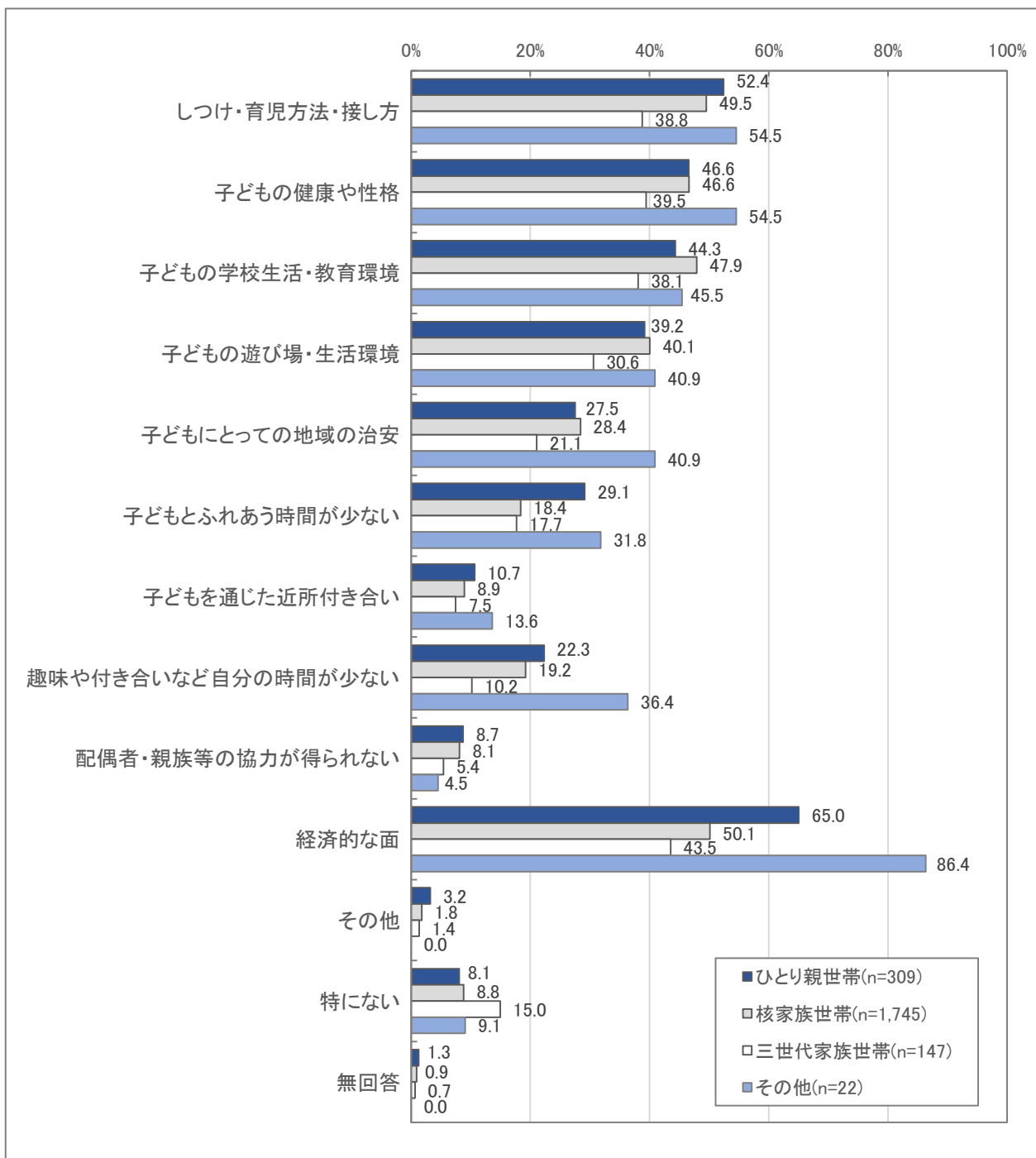


(2) 子育てをする中で、不安に思っていること、困っていること

○ひとり親世帯では「経済的な面」が6割台半ばで最も多く、次いで「しつけ・育児方法・接し方」が5割強となっています。

○三世代家族世帯では「経済的な面」が4割台半ばで最も多く、次いで「子どもの健康や性格」が約4割となっています。

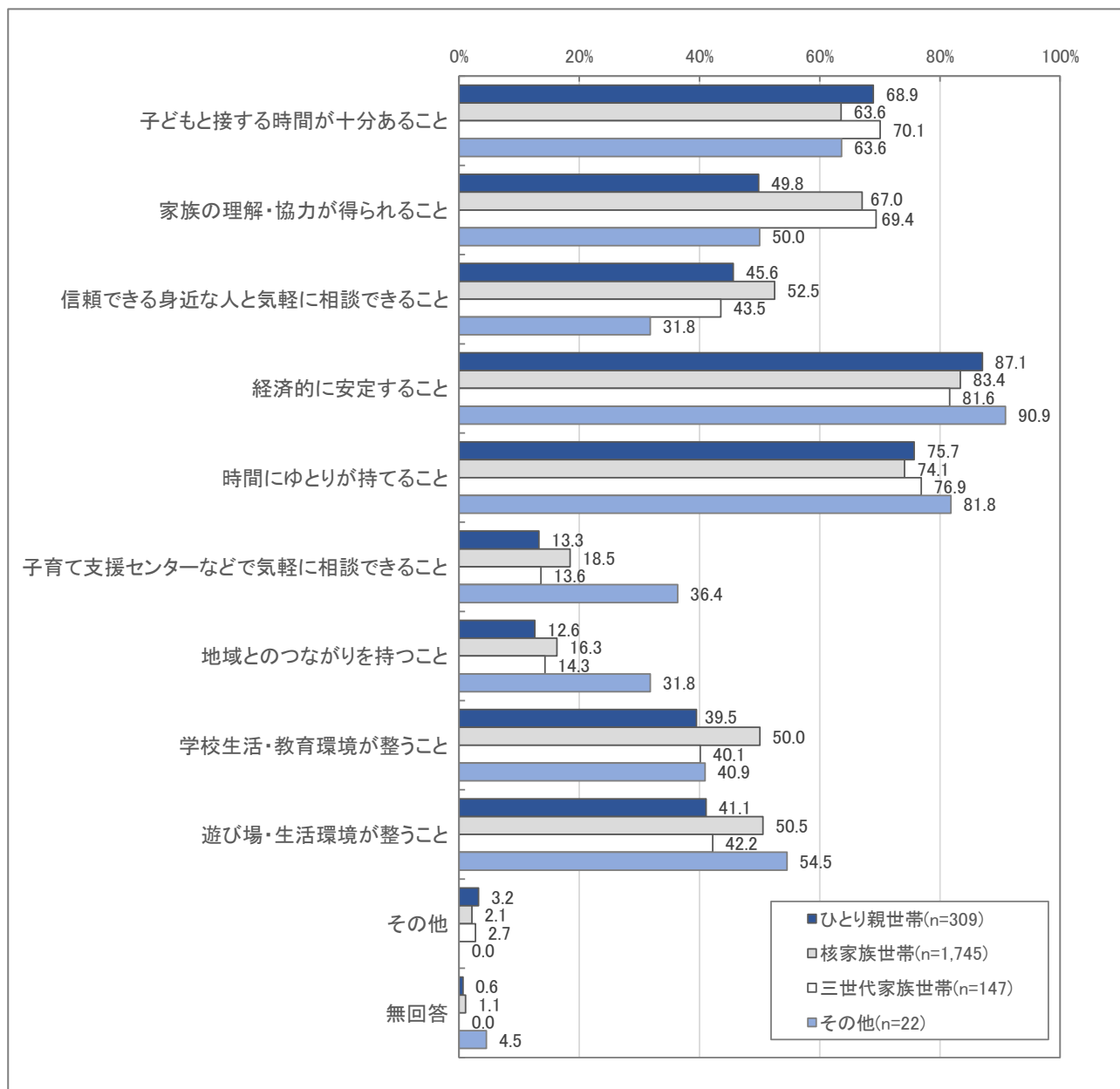
世帯構成別、子育てをする中で、不安に思っていること、困っていること（複数回答）



(3) 子育てに関する不安や悩みを解消するために重要だと思うこと

○全ての世帯において「経済的に安定すること」が8割強～約9割で最も多く、特にひとり親世帯は、その割合が多くなっています。

世帯構成別、子育てに関する不安や悩みを解消するために重要だと思うこと（複数回答）

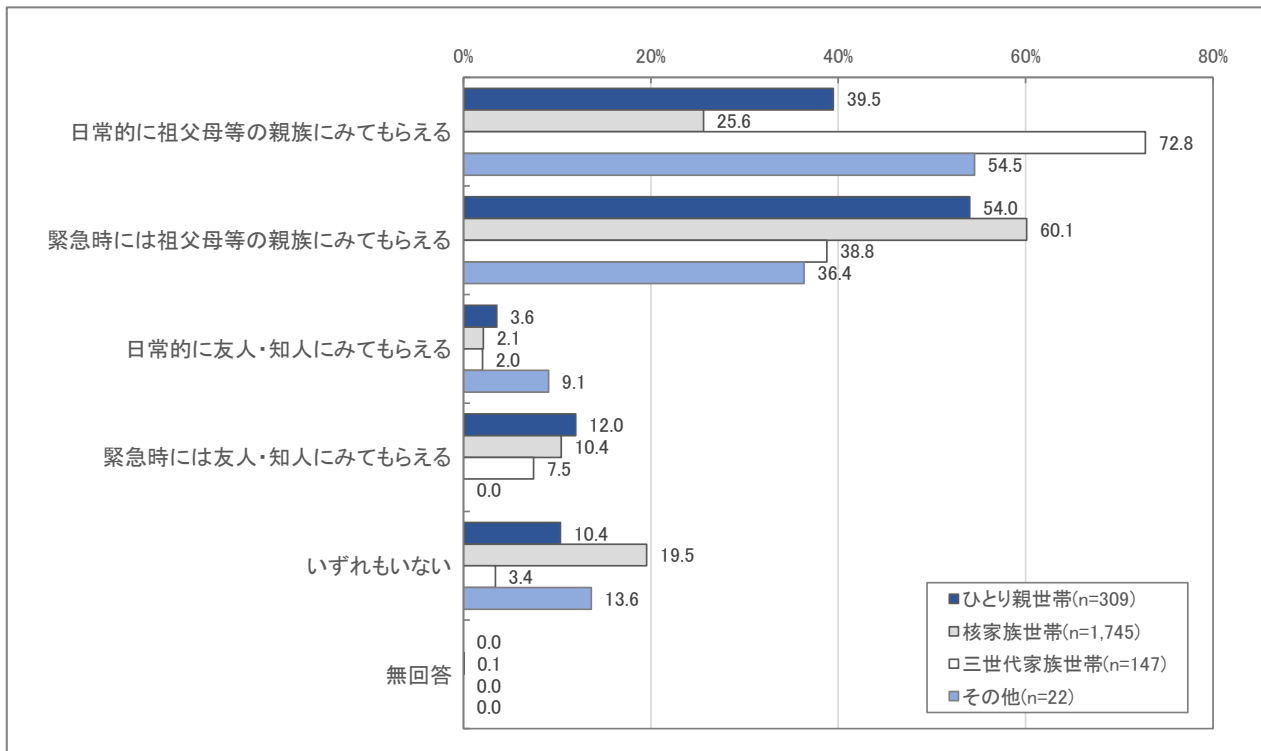


(4) 日頃、子どもをみてもらえる親戚・知人の有無

○ひとり親世帯では、「緊急時には祖父母等の親族にみてもらえる」が5割台半ば、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が約4割となっています。

○日ごろ子どもをみてもらえる親族・知人が「いずれもない」との回答は、核家族世帯では約2割、ひとり親世帯は約1割となっています。

世帯構成別、日頃、子どもをみてもらえる親戚・知人の有無

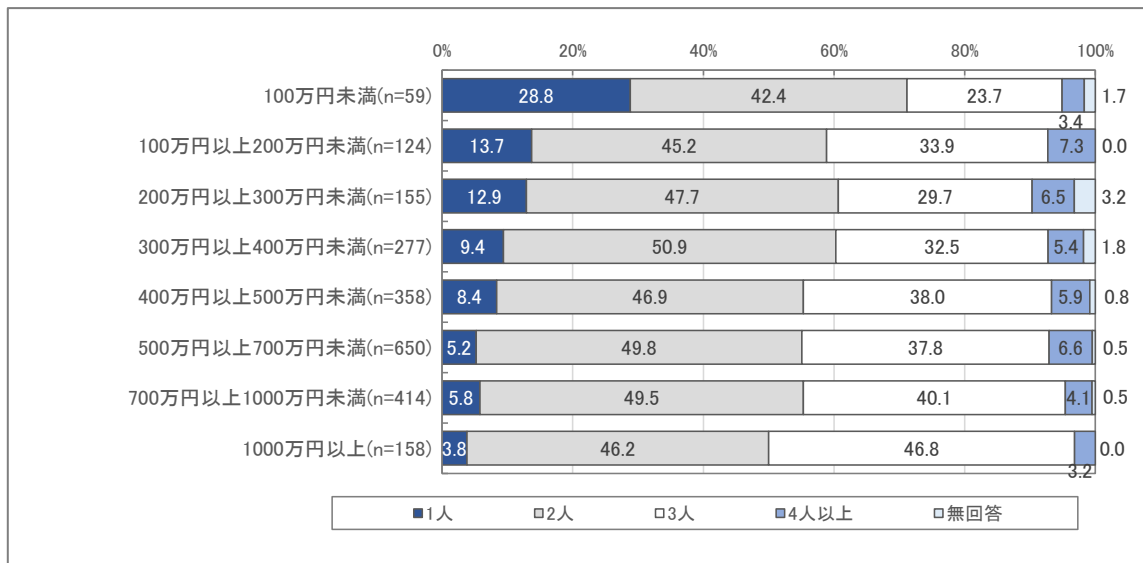


3.3 世帯年収別集計

(1) 理想とする子どもの人数とその実現の見込み

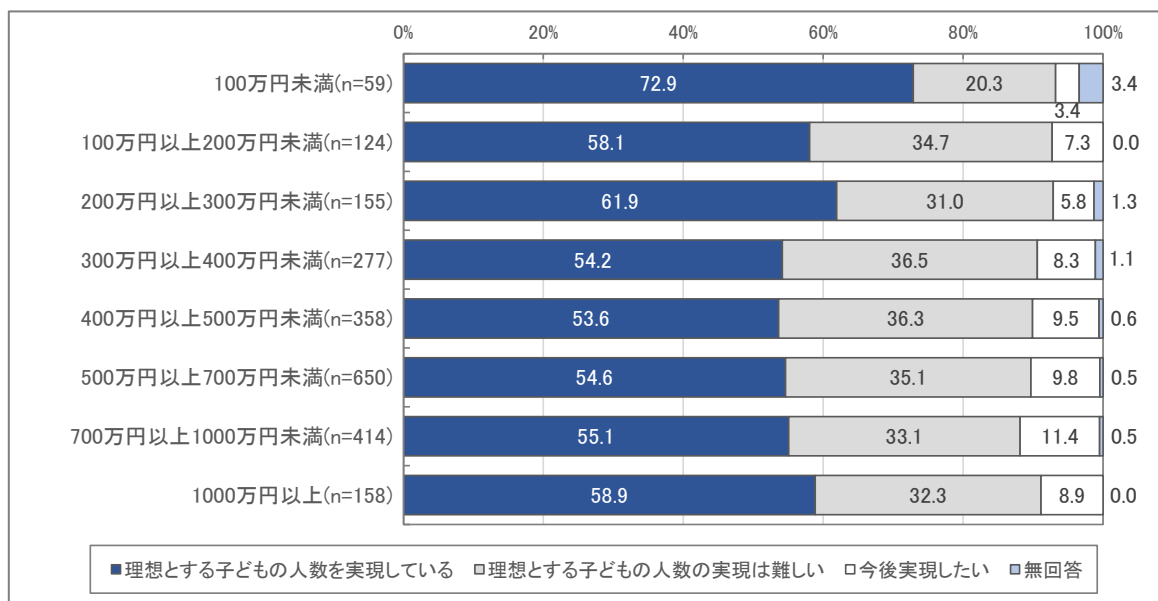
- 世帯年収別に理想とする子どもの人数をみると、世帯年収の高い区分では「3人」という回答の割合が多くなっています。
- 「1人」という回答については、100万円未満では3割強、100万円以上200万円未満では1割強と他の世帯年収区分に比べて多くなっています。
- 理想の子どもの人数が「1人」とする世帯は、世帯年収が低い区分で多くなる傾向がみられます。

世帯年収別、理想とする子どもの人数（単数回答）



- 理想とする子どもの人数の実現の見込みについては、「理想とする子どもの人数を実現している」が5割台半ば～7割強で最も多くなっており、100万円未満が一番高く7割強となっています。

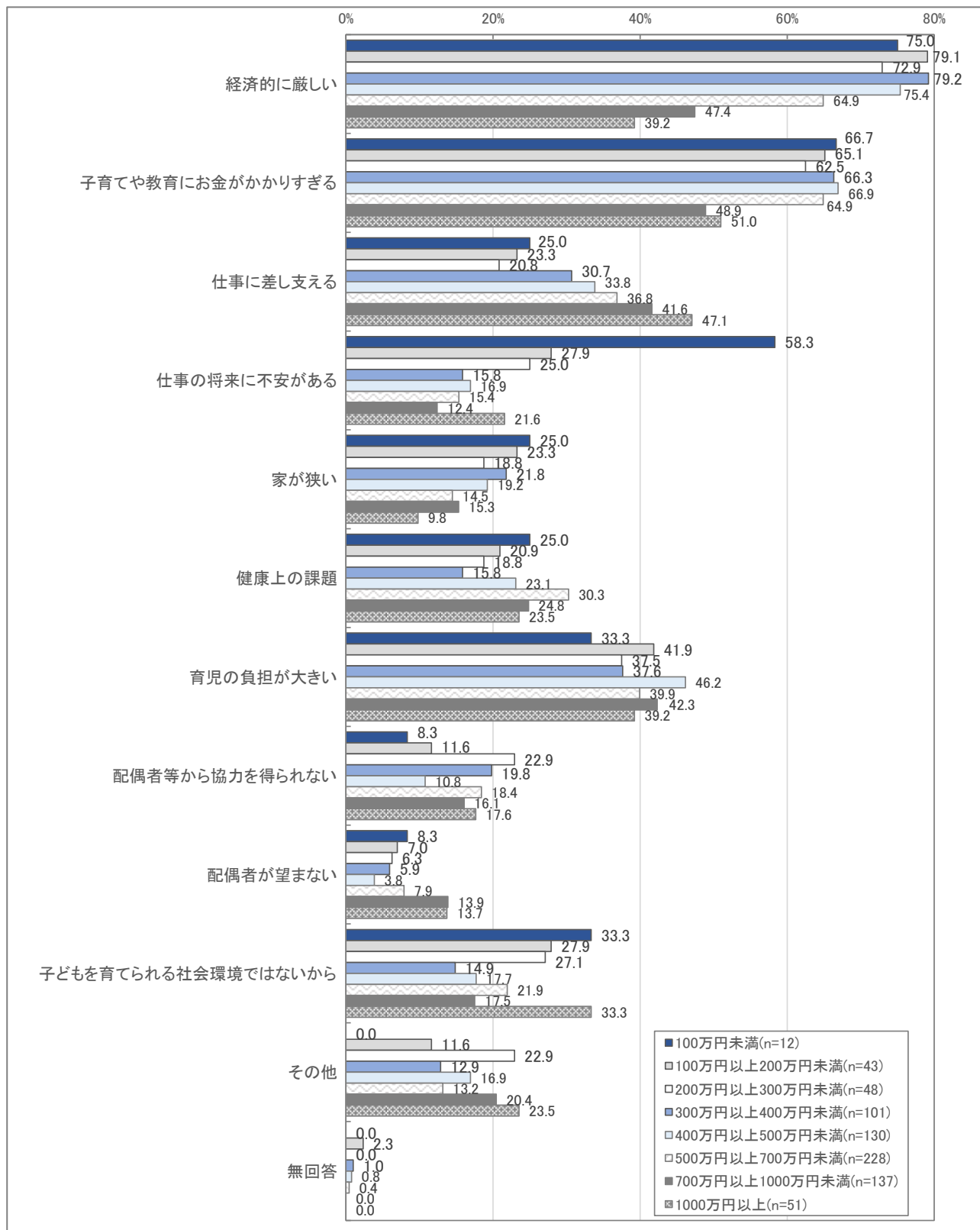
世帯年収別、理想とする子どもの人数の実現の見込み（単数回答）



○理想とする子どもの人数の実現が難しい理由については、500 万円未満で「経済的に厳しい」が8割弱で最も多くなっています。

○700 万円未満では「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が6割強～6割台半ばと多くなっています。

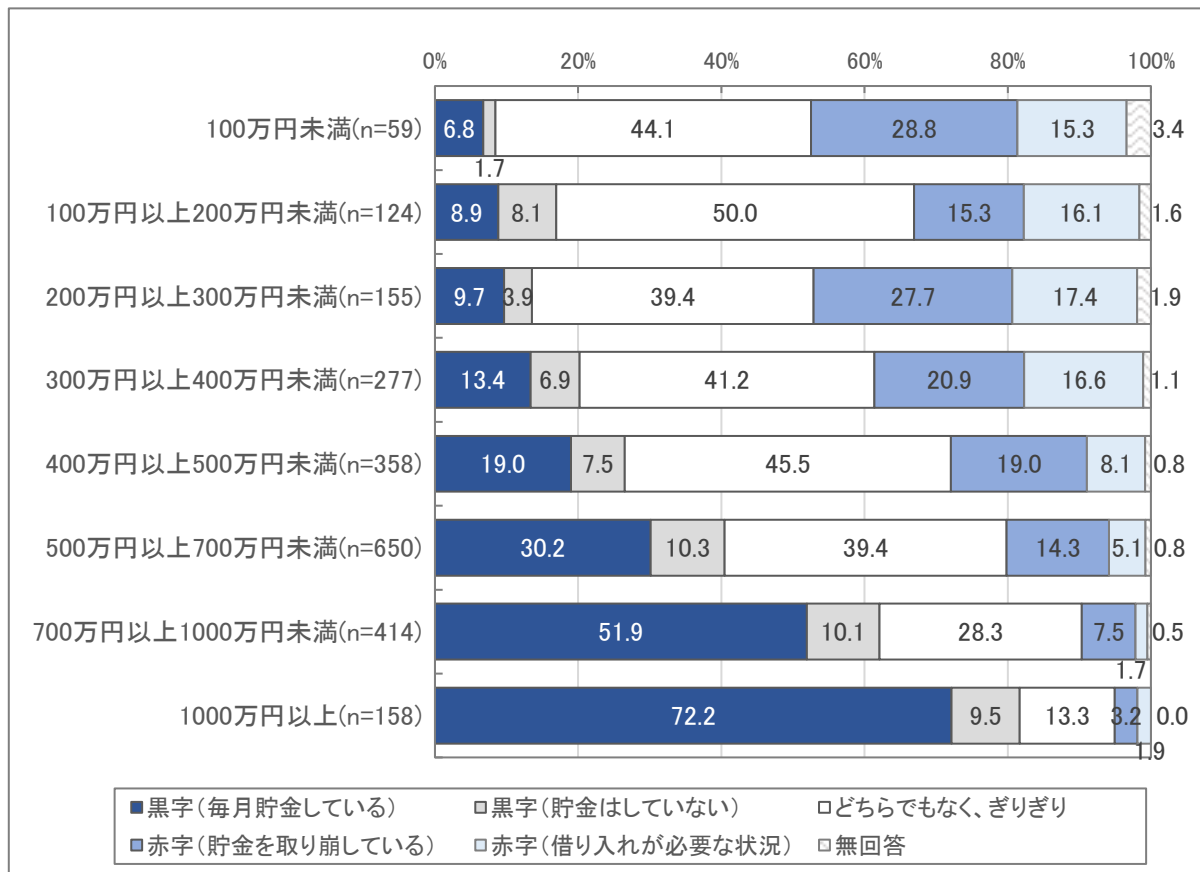
世帯年収別、理想とする子どもの人数の実現が難しい理由（複数回答）



(2) 普段の家計の状況

○ “黒字”（「黒字（毎月貯金をしている）」と「黒字（貯金はしていない）」の合計）は年収が低いほど少ない傾向にあり、300 万円未満では 1 割以下となっています。

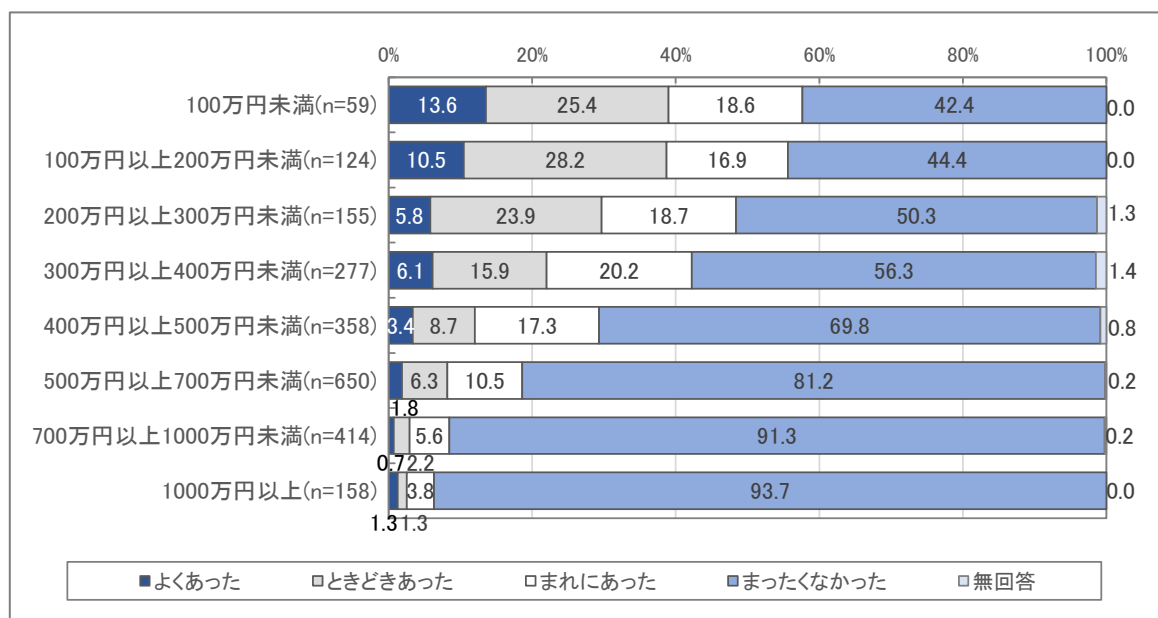
世帯年収別、普段の家計の状況（単数回答）



(3) 経済的な理由で食料を買えなかった経験等の有無

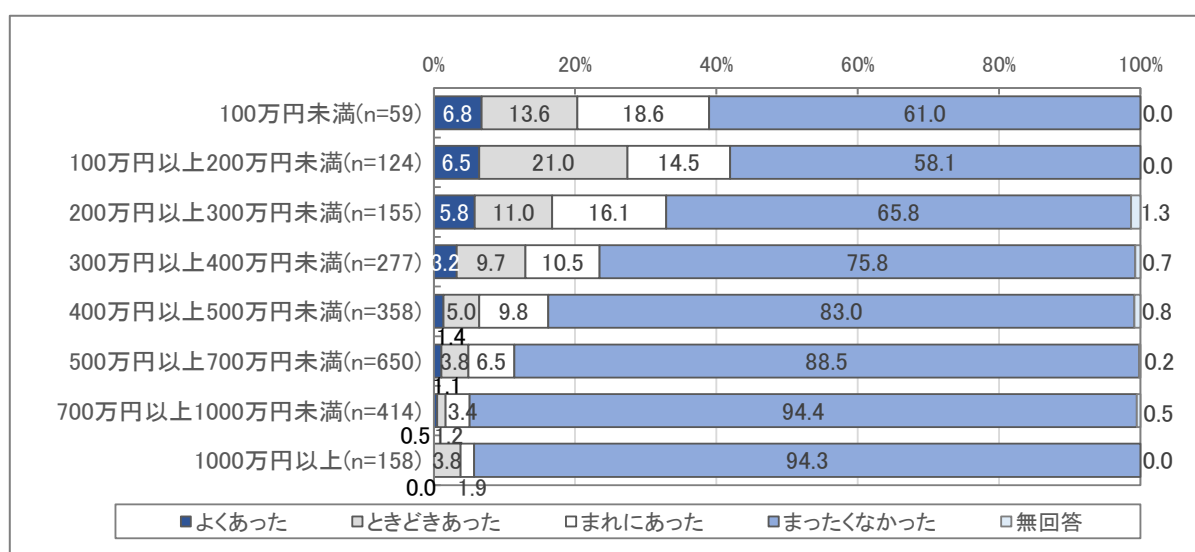
○経済的な理由で食料を買えなかった経験の有無については、全体的に「まったくなかった」が多くなっていますが、年収区分が低くなるに従い、“あった”（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）という回答の割合が多くなり、100万円未満では6割弱、100万円以上200万円未満では5割台半ばとなっています。

世帯年収別、経済的な理由で食料を買えなかった経験の有無（単数回答）



○経済的な理由で暖房が使えなかった経験の有無についても同様に、全体的に「まったくなかった」が多くなっていますが、年収が低くなるに従い、“あった”（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）という回答の割合が多くなり、100万円未満では約4割、100万円以上200万円未満では4割台となっています。

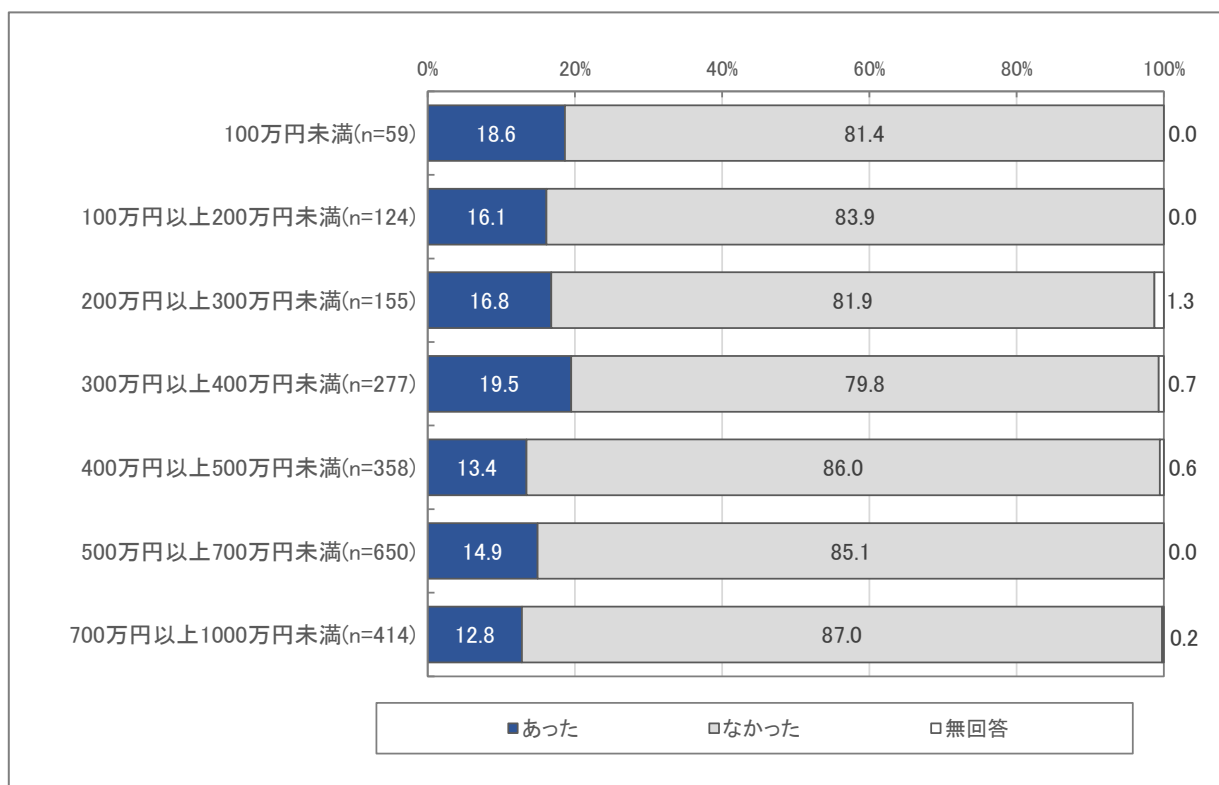
世帯年収別、経済的な理由で暖房が使えなかった経験の有無（単数回答）



(4) 子どもを病院等で受診させられなかった経験の有無及びその理由

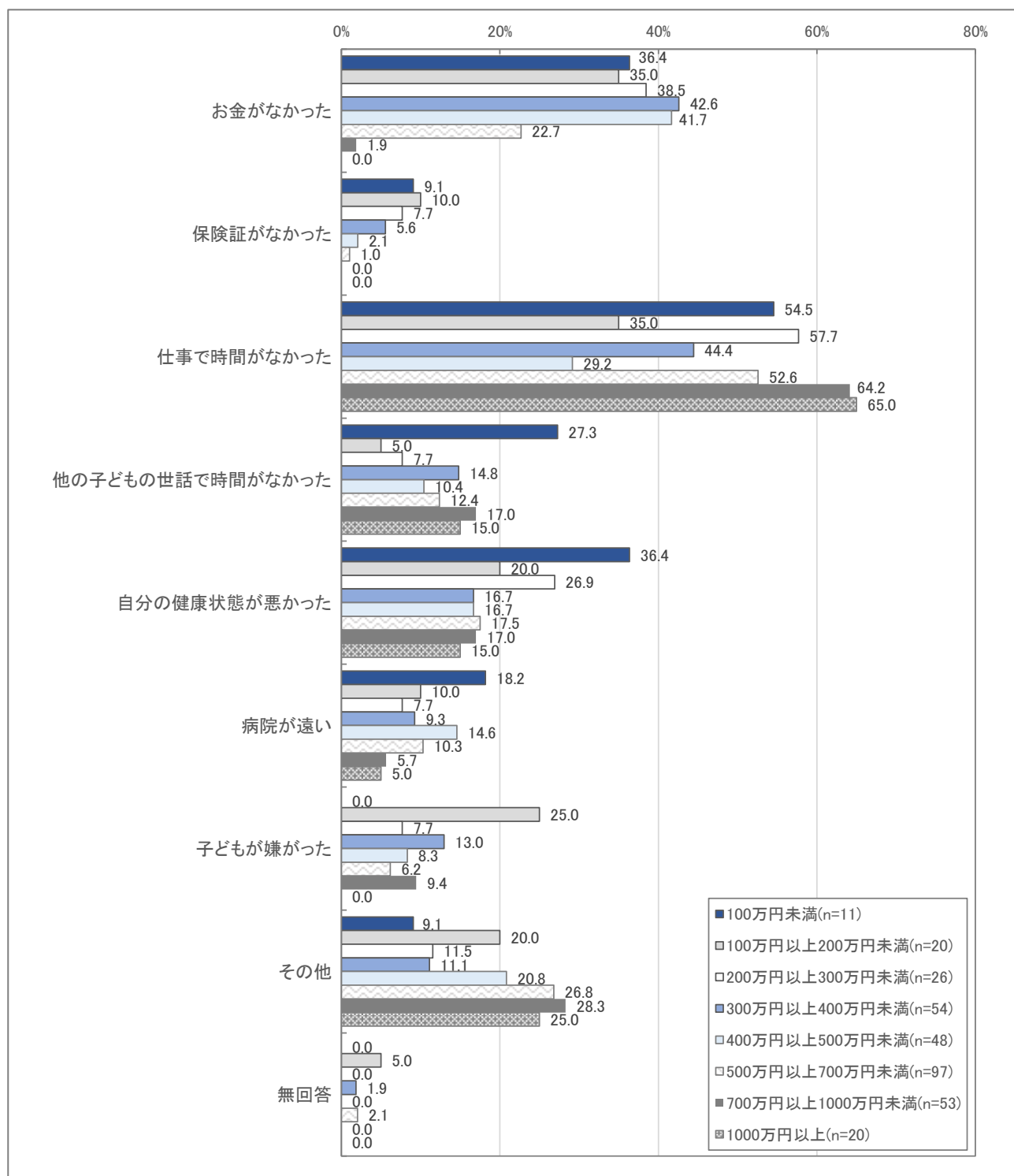
○子どもを病院等で受診させられなかった経験の有無については、「あった」が1割強～2割弱となっています

世帯年収別、子どもを病院等で受診させられなかった経験の有無（単数回答）



○子どもを受診させられなかった理由については、全体として「仕事で時間がなかった」が最も多くなっています。

世帯年収別、子どもを受診させられなかった理由（複数回答）

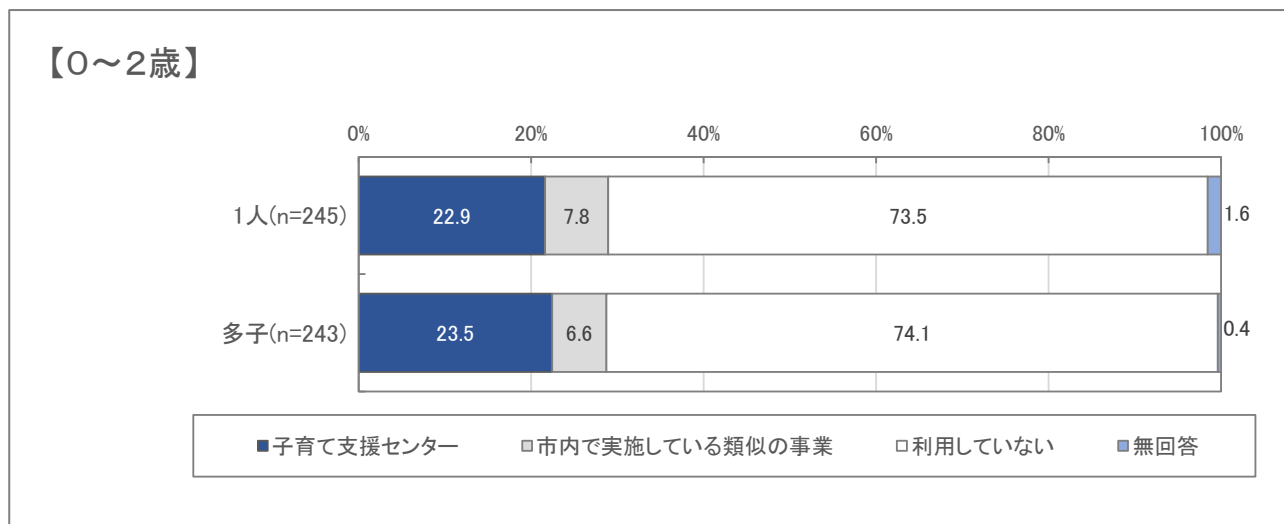


3.4 子どもの人数別集計

(1) 地域子育て支援拠点事業等の利用状況

○地域子育て支援拠点事業等は、本調査の結果（問26）から、利用者の多くが0～2歳であり、1人と多子ではあまり差のない結果となっています。

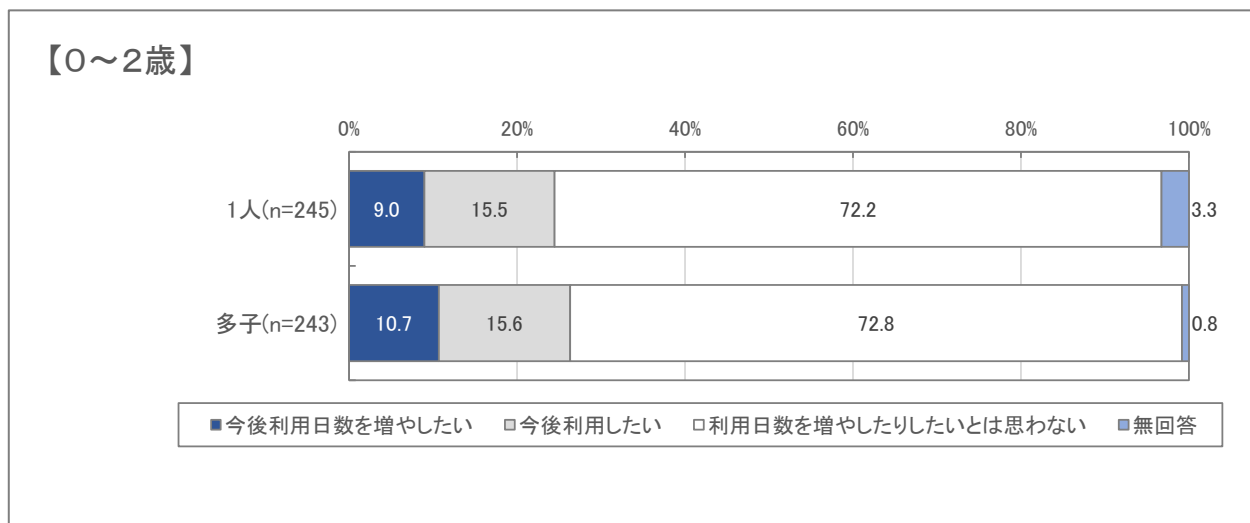
子どもの人数別、地域子育て支援拠点事業等の利用状況（単数回答）



(2) 「子育て支援センター」の今後の利用希望

○「子育て支援センター」の今後の利用希望については、0～2歳の2割台半ばが“利用したい”（「今後利用日数を増やしたい」と「今後利用したい」の合計）と回答しています。

子どもの人数別、「子育て支援センター」の今後の利用希望（単数回答）



4 まとめ

4.1 子どもと家族の状況や子育て環境

- 日常的に子育てに関わっている人・施設では「父母ともに」割合が6割台半ば～7割台半ばとなっており、次いで「主に母親」が3割弱～3割台半ばとなっています。(P9)
- ひとり親家庭は2割弱となっています。(P8)
- 日頃子どもをみてもらえる親族・知人が「いずれもない」という回答は1割台半ば～2割弱となっています。(P11)

子育てに関わっているのは、父母以外では、日常的に祖父母等の親族にみてもらえる保護者が多く、また、多くの方が子育てをする上での相談先・場所があるとしています。

4.2 保護者の就労状況、子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

- 母親の就労状況について、0～2歳では「就労している（フルタイム）」と「就労している（パート・アルバイト）」を合わせると約5割となっています。（P13）
- 3歳以上では「就労している（パート・アルバイト）」が3割台半ば～4割台半ばで最も多く、次いで「就労している（フルタイム）」が3割台となっており、6歳以上については「就労している（フルタイム）」と「就労している（パート・アルバイト）」を合わせると8割弱となっています。（P13）
- 現在就労していない母親については、5歳以下では「1年より先で子どもの成長後に就労したい」が4割弱～4割強で最も多くなっています。（P17）
- 6歳以上では「子育てや家事などに専念したい」が4割弱～約4割で最も多くなっている一方、5歳以下に比べ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が多くなっています。（P17）
- 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況は、3～5歳では、「認定こども園」が5割で最も多く、次いで「幼稚園」が約3割、「認可保育所」が1割台半ばとなっています。0～2歳では「利用していない、利用したことがない」が3割強で最も多くなっており、次いで「認定こども園」が3割弱、「認可保育所」が1割台半ばとなっています。（P23）
- 定期的に利用している教育・保育の事業と今後利用したい教育・保育の事業を比較すると、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」「認可保育所」「一時預かり事業」「ファミリー・サポート・センター」で利用したい割合が増加しています。（P29）
- 利用している（利用したことがある）中での問題・課題については、「料金」が約2割～4割台半ばで最も多くなっています。（P24）
- 「こども誰でも通園制度」の利用意向については、「希望する」が5割となっています。また、利用したい日数は、「週5日」が4割台半ばとなっています。（P26）
- 土曜日、日曜日・祝日の利用希望では、土曜日は、3～5歳、0～2歳とも「利用する必要はない」が5割強で最も多くなっていますが、“利用したい”（「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合計）も4割台半ばとなっています。（P37）日曜日・祝日は、「利用する必要はない」が7割台半ばで最も多くなっています。（P38）
- 幼稚園利用者の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望については、3～5歳、0～2歳とも無回答を除いて「ほぼ毎日利用したい（利用したかった）」が2割台半ば～約3割で多くなっており、“利用したい”（「ほぼ毎日利用したい（利用したかった）」と「週に数日利用したい（利用したかった）」の合計）は5割弱～5割台半ばを占めています。（P40）

- 病気などで教育・保育事業が利用できなかった場合の対応状況については、「母親が仕事を休んだ」が5割強～7割台半ば、「親族・知人に子どもをみてもらった」「父親が仕事を休んだ」が2割弱～3割強で多くなっています。また、9～11歳では「仕方なく子どもだけで留守番させた」が2割弱と他の年齢区分に比べて多くなっています。(P42)

- 病児・病後児のための保育施設等の利用希望は、「利用したいとは思わない」が7割台半ば～9割強と多くなっているものの、5歳以下では「できれば病児・病後児保育施設等を利用したかった」が2割台となっているなど、一定数の利用希望がみられます。(P44)
- 病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由は「親が休んで対応する」が6割台半ば～約7割、「親族が看てくれる」が2割台半ば～3割強となっています。(P45)

- 不定期の教育・保育事業の利用については、「利用していない」が7割台半ば～9割台半ばで最も多くなっていますが、3～5歳については、「幼稚園の預かり保育（不定期の利用のみ）」について約2割の利用があります。「幼稚園の預かり保育（不定期の利用のみ）」の年間の利用日数については、未就学児童で「10日以上」が5割強、就学児童では6割と最も多くなっています。(P47)

- 私用・通院・不定期就労等での不定期の教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」が多くなっていますが、3～5歳は4割弱、0～2歳は3割強が「利用したい」と回答しています。「利用したい」と回答した人の利用目的については、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が5割弱～7割弱、「私用、リフレッシュ目的」が6割弱～約8割で多くなっています。(P48)

- 泊りがけで家族以外に預けることの希望の有無については、「希望しない」が9割台で最も多くなっていますが、年齢の低下とともに、「希望する」割合が増えている傾向がみられます。(P50)
- 泊りがけで預けることを希望する場合の利用目的については、0～2歳では「保護者や家族の病気」が約7割と最も多く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」が6割弱となっています。3～5歳では「保護者や家族の育児疲れ・不安」が6割台と最も多く、次いで「保護者や家族の病気」が4割台半ばとなっています。就学児童の年代では、「保護者や家族の病気」「保護者や家族の育児疲れ・不安」がいずれも5割強から6割台半ばとなっています。(P51)

- 地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用していない」が7割台半ば～9割強で最も多くなっていますが、0～2歳では、「子育て支援センター」が2割強、「その他市内で実施している類似の事業」が1割弱となっています。利用している人の月当たりの利用回数については、子育て支援センターでは「月に1回程度」が3割弱で最も多く、次いで「月に2回程度」が2割強となっています。(P52)

- 釧路市の子育て支援に関する事業の満足度やその理由については、「満足」との回答は、6～11歳では「乳児家庭全戸訪問事業」「妊婦健康診査」「乳幼児健診事業」が2割台半ば、3～5歳児では「乳児家庭全戸訪問事業」が約3割と多くなっています。(P54)

○各事業の認知度については、「養育支援訪問事業」「子育て短期支援事業」で「知らなかった」の割合が特に多くなっています。(P54)

○今後の利用希望については、0～2歳で「地域子育て支援拠点事業」「妊婦健康診査」「乳児家庭全戸訪問事業」等、14項目中8項目で「利用したい」が5割を超えています。(P56)

○放課後の過ごし方の希望をみると、3歳以上では、「自宅」が約7割～8割強で最も多く、次いで「習い事」が4割強となっています。0～2歳では、「自宅」が6割台半ばで最も多く、次いで「習い事」「放課後児童クラブ」が4割台半ば～5割強となっています。(P59)

○放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望をみると、0～2歳以外では「1～3年生の間は利用したい」が5割台半ばと多くなっています。0～2歳では「1～6年生において利用したい」が6割弱で多く、他の年代と比較して6年間利用したいと検討している傾向がみられます。(P63)

○土曜日については、すべての年齢区分において「利用する必要はない」が最も多いものの、3～5歳については「1～3年生の間は利用したい」が3割弱、0～2歳については「1～6年生において利用したい」が2割台半ばで、6歳以上に比べて多くなっています。(P64)

○長期休暇期間中は平日と同様に利用希望は多く、0～2歳以外では「1～3年生の間は利用したい」と「1～6年生において利用したい」を合わせて約9割～9割台半ばと多くなっています。(P67)

母親の就労状況をみると、週5日働いている方が多く、教育・保育事業を利用できる時間帯や場所等の利便性を求める方もみられます。

また、釧路市の子育て支援に関する事業の一部について、認知度が低い傾向がみられることから、事業内容や利用方法についての周知を図る必要性がうかがえます。

4.3 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

- 育児休業の取得状況をみると、母親では「取得した（取得中である）」が5割弱であるのに対し、父親では「取得していない」が8割を占め、父親のほとんどは育児休業を取得していない結果となっています。（P72）
- 母親の育児休業から職場復帰した際の実際の取得期間と希望する取得期間については、実際、希望とも「子どもが2歳になる前まで」が4割弱～6割弱で最も多くなっています。（P75）
- 育児休業から職場復帰した際の実際と希望が異なる母親の、希望より早く職場復帰した理由については「経済的な理由のため」「職場の都合」が3割強となっています。（P76）
- 育児休業を取得した（取得中である）母親の短時間勤務制度の利用有無については、「短時間勤務制度を利用しなかった（しない）」が5割強を占め、「短時間勤務制度を利用した（する）」は4割台半ばとなっています。職場復帰時に「短時間勤務制度を利用しなかった（利用しない）」理由をみると、「給与が減額され経済的に苦しくなる」が4割台半ばで最も多く、次いで「取りにくい雰囲気があった」が約3割、「仕事が忙しかった」が2割台半ばとなっており、経済的理由と職場の子育て支援環境によるものが多くなっています。（P77）

母親においては育児休業を取得している方が多いものの、育児休業の期間においては、希望どおりの期間を取得できていない方が多く、その理由として、「経済的な理由」や「職場の都合」が多くなっています。就業している親にとって、育児と仕事を両立する環境整備の必要性がうかがえます。

4.4 子育てと経済的環境

○理想とする子どもの人数については、「2人」「3人」がそれぞれ3割強～5割強と多くなっていますが、0～2歳では「3人」が3割強であるのに対し、「2人」が5割を超えています。(P79)

○理想とする子どもの人数の実現の見込みについて、「理想とする子どもの人数を実現している」が4割強～6割台半ばと最も多くなっており、5歳以上になると「理想とする子どもの人数の実現は難しい」が3割台半ばとなっています。(P79)

○理想とする子どもの人数の実現が難しい理由としては、「経済的に厳しい」が6割弱～8割弱、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が5割台半ば～6割台半ばと多くなっています。(P80)

○子育てをする中で不安に思っていること、困っていることをみると、「経済的な面」が4割台半ば～約6割、「しつけ・育児方法・接し方」が4割強～5割台半ば、次いで「子どもの健康や性格」が4割強～約5割、「子どもの学校生活・教育環境」が3割台半ば～5割強などとなっています。(P81)

○釧路市の地域の環境や子育て支援策として特に期待することをみると、「子育てに関する経済的支援の充実」が約6割～6割台半ば、「子どもが安心して遊べる公園等の整備」が4割台半ば～5割台半ば、「職場環境の整備に向けた事業所等への働きかけ」が4割弱～4割強で多くなっています。(P87)

○世帯構成別の世帯年収をみると、核家族世帯では「500万円以上700万円未満」が3割強、三世代家族世帯では「400万円以上500万円未満」が3割弱で最も多くなっています。

○ひとり親世帯では「100万円以上200万円未満」が約3割で最も多く、次いで「200万円以上300万円未満」が2割強となっています。(P98)

子育てや教育にお金がかかりすぎると感じ、子どもを産み育てるための経済的支援の充実や、しつけ、育児方法、接し方などにも不安を感じており、経済的な部分以外でも子育てへのサポートの必要性がうかがえます。